

第44回 市政世論調査

(平成29年度)

政令指定都市・区政移行

10周年



新潟市

< 目 次 >

I 調査概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の項目	3
3. 調査の設計	3
4. 集計・分析にあたって	3
5. 回収結果	4
6. 区（行政区）の範囲	4
7. 回答者の特性	6
8. 回答者の特性（地区別集計）	7
II 調査結果	9
1. 都市緑化、身近な公園について	11
（1）今後、増やしたり、守ったりすべき緑について	11
（2）市街地内での緑の量について	15
（3）身近な公園の利用状況	18
（4）身近な公園の利用内容	20
（5）今後、身近な公園で必要な機能	23
2. 健康寿命について	27
（1）健康寿命という言葉の認知状況	27
（2）健康でない期間が長いことの認知状況	29
（3）生活習慣病の治療の有無	31
（4）健診受診の有無	33
（5）健診を受けた機会	35
（6）健診を受けたきっかけ	38
（7）健診を受けなかった理由	41
（8）健診を受けていない期間	45
3. 生涯を通じた学習について	47
（1）行っている生涯学習活動	47
（2）生涯学習活動を行う目的	51
（3）生涯学習活動を行う方法	56
（4）生涯学習に関する情報の入手方法	60
（5）生涯学習活動で身につけた知識について	65
（6）生涯学習で学んだ知識を生かすために、市が力を入れるべきこと	69
（7）充実してほしい学習の場や学習方法	73
（8）行ってみたい生涯学習活動	77

4. 移動しやすいまちづくりについて	81
(1) 自動車に頼らなくても移動しやすいか	81
(2) 移動する際の交通手段の満足度	84
(3) 歩行空間に対する満足度	90
(4) 自転車に関する取り組みに対する満足度	94
(5) 「移動しやすいまち」を実感するために必要なこと	99
(6) 「まち歩き」に関する現状の満足度	104
5. 市政全般と区政について	107
(1) 新潟市として良くなっているもの	107
(2) 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの	115
(3) 区として良くなっているもの	123
(4) 区として今後もっと力を入れてほしいもの	131
6. 市の取り組みに対する感想・満足度	139
(1) 市の取り組みに対する感想	139
(2) 市の取り組みに対する満足度	161
Ⅲ 調査票様式	183

I 調 査 概 要

1. 調査の目的

この調査は、市民生活の現状、市民の市政に対する要望、意識、関心度などを把握し、今後の市政運営の基礎資料を得る目的で実施する。

2. 調査の項目

- | | |
|---------------------|---------|
| (1) 対象者属性 | 本質問 5 問 |
| (2) 都市緑化、身近な公園について | 本質問 5 問 |
| (3) 健康寿命について | 本質問 8 問 |
| (4) 生涯を通じた学習について | 本質問 8 問 |
| (5) 移動しやすいまちづくりについて | 本質問 7 問 |
| (6) 市政全般と区政について | 本質問 1 問 |
| (7) 市の取り組みに対する感想 | 本質問 1 問 |

3. 調査の設計

- (1) 調査地域：新潟市全域
- (2) 調査対象：平成 29 年 6 月末現在の住民基本台帳に登録されている 18 歳以上の市民
- (3) 標本数：4,000 人
- (4) 抽出方法：層化二段系統抽出法（電子計算機マスターファイルからの等間隔抽出）
- (5) 調査方法：郵送法（調査票の配付、回収とも）
- (6) 調査期間：平成 29 年 7 月 21 日～8 月 7 日

4. 集計・分析にあたって

- (1) 図表中の「n」とは回答者総数（または該当者質問での該当者数）のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2) 数値（%）は単位未満を四捨五入してあるので、総数と内訳の計が一致しないこともある。
- (3) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。

5. 回収結果

(1) 区（行政区）について

新潟市は平成19年4月の政令指定都市移行にともない8つの区（行政区）を設置している。

今回の調査では、対象者の居住地を8つの「区（行政区）」（次頁区分図参照）に分け、集計・分析を行った。

(2) 回収結果

	母集団 (人)	母集団 構成比	標本数 (人)	有効 回収数	有効 回収率
市全体	673,405	100.0%	4,000	1,801	45.0%
北区	63,439	9.4%	376	162	43.1%
東区	116,340	17.3%	691	304	44.0%
中央区	149,498	22.2%	888	414	46.6%
江南区	57,829	8.6%	344	151	43.9%
秋葉区	65,309	9.7%	388	165	42.5%
南区	38,773	5.8%	230	94	40.9%
西区	132,203	19.6%	785	364	46.4%
西蒲区	50,014	7.4%	298	126	42.3%
区名無回答				21	

6. 区（行政区）の範囲

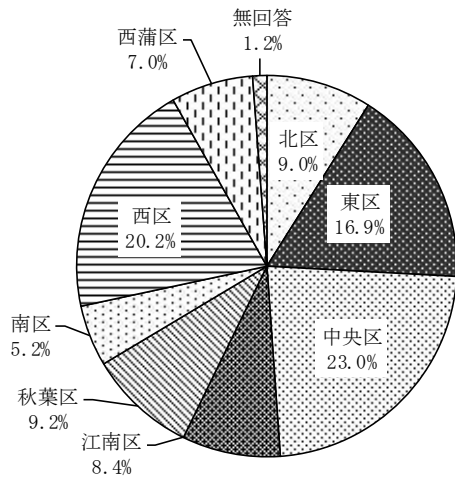
次頁区分図参照。

<区分图>

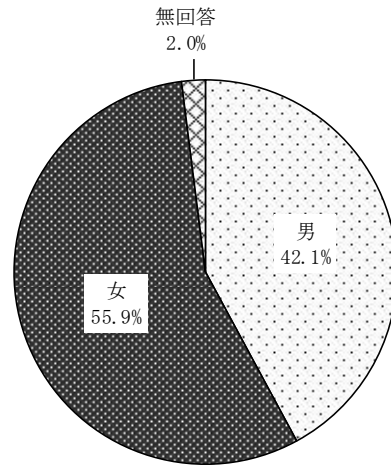


7. 回答者の特性

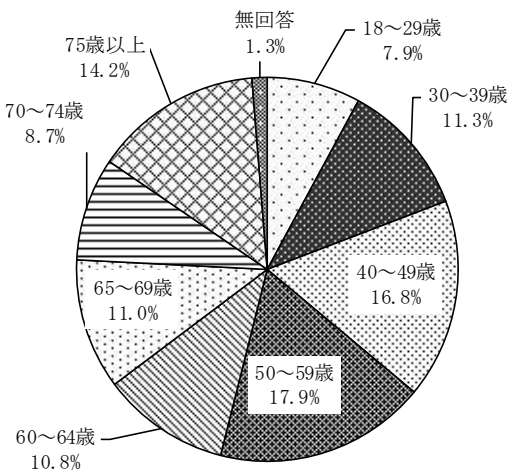
◆地区別



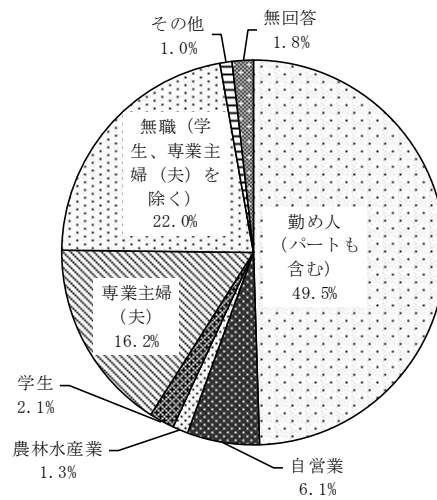
◆性別



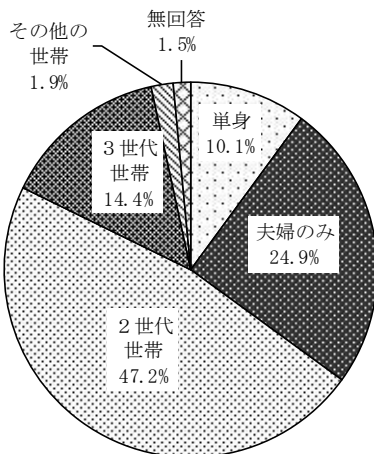
◆年齢別



◆職業別

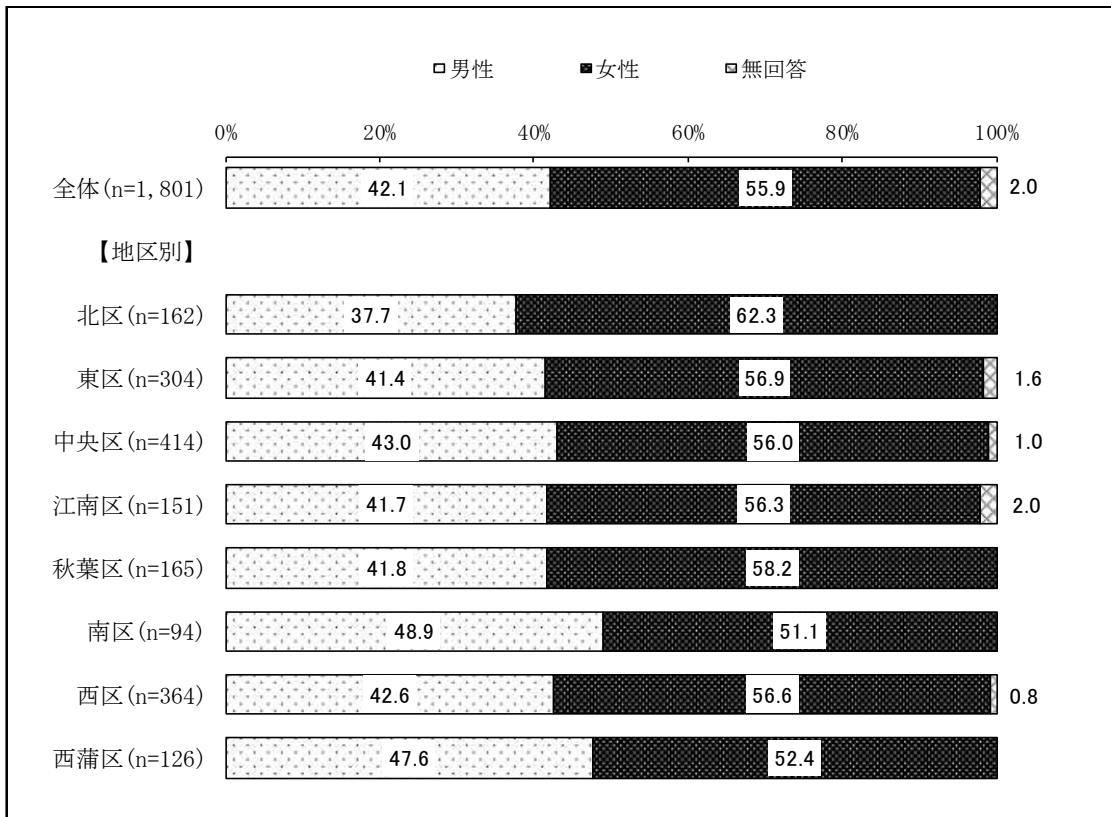


◆世帯構成別

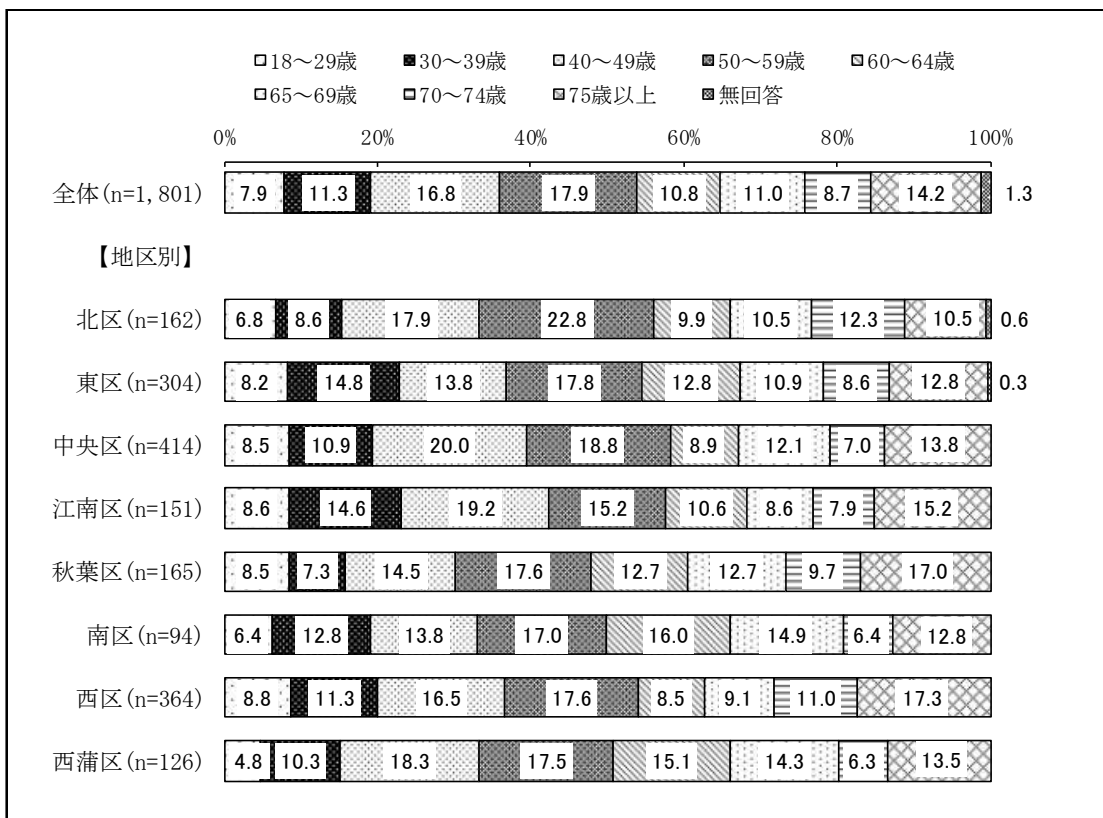


8. 回答者の特性（地区別集計）

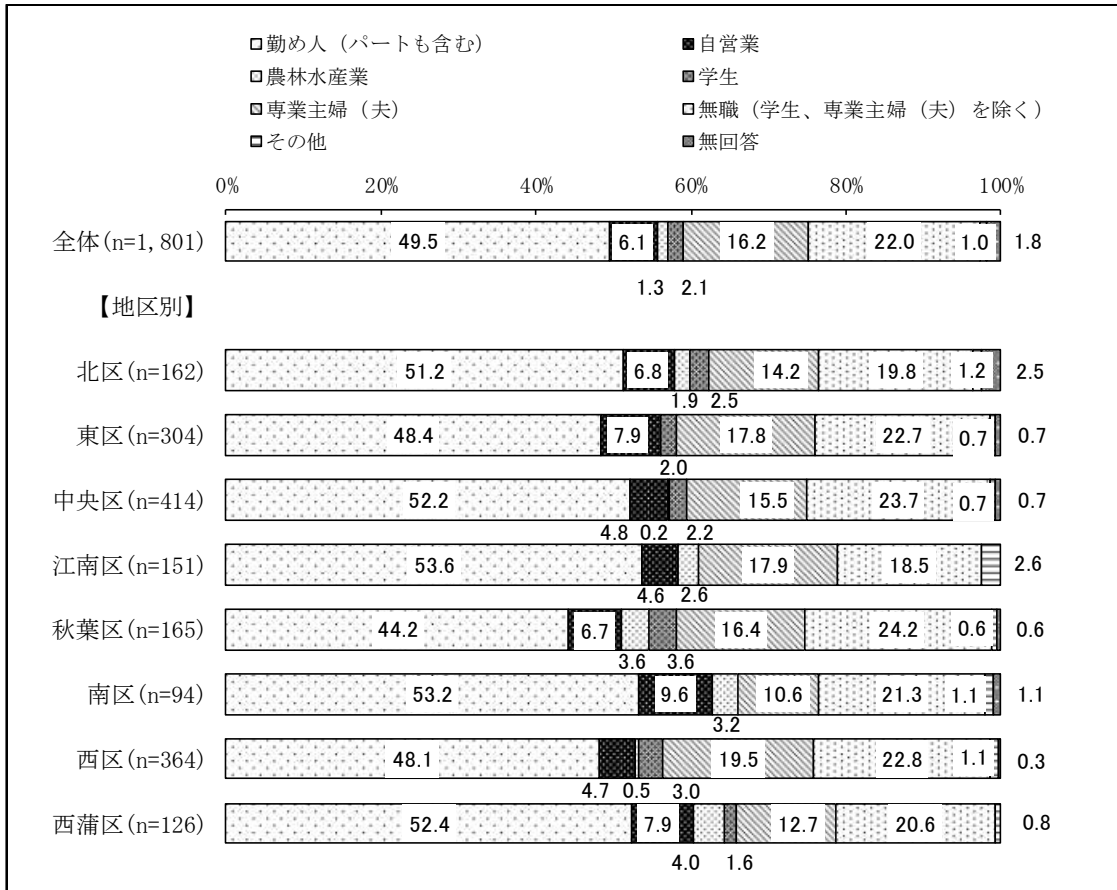
【性別】



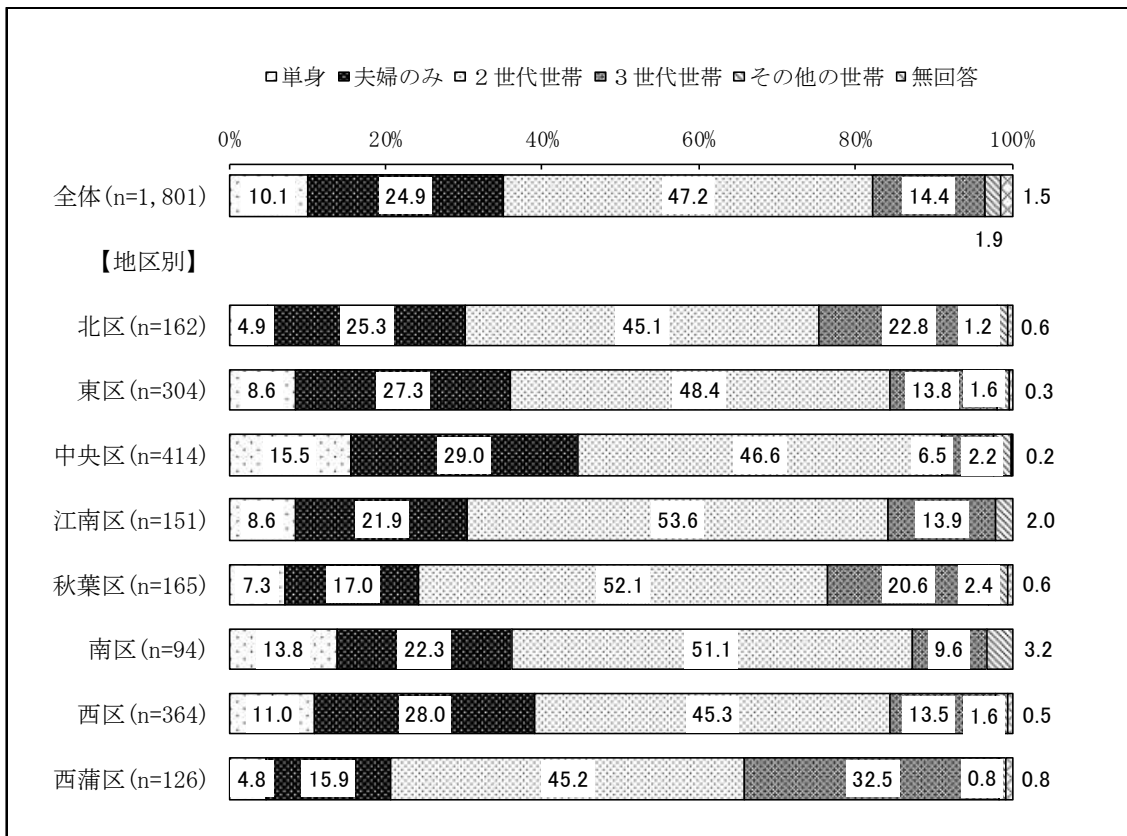
【年齢別】



【職業別】



【世帯構成別】

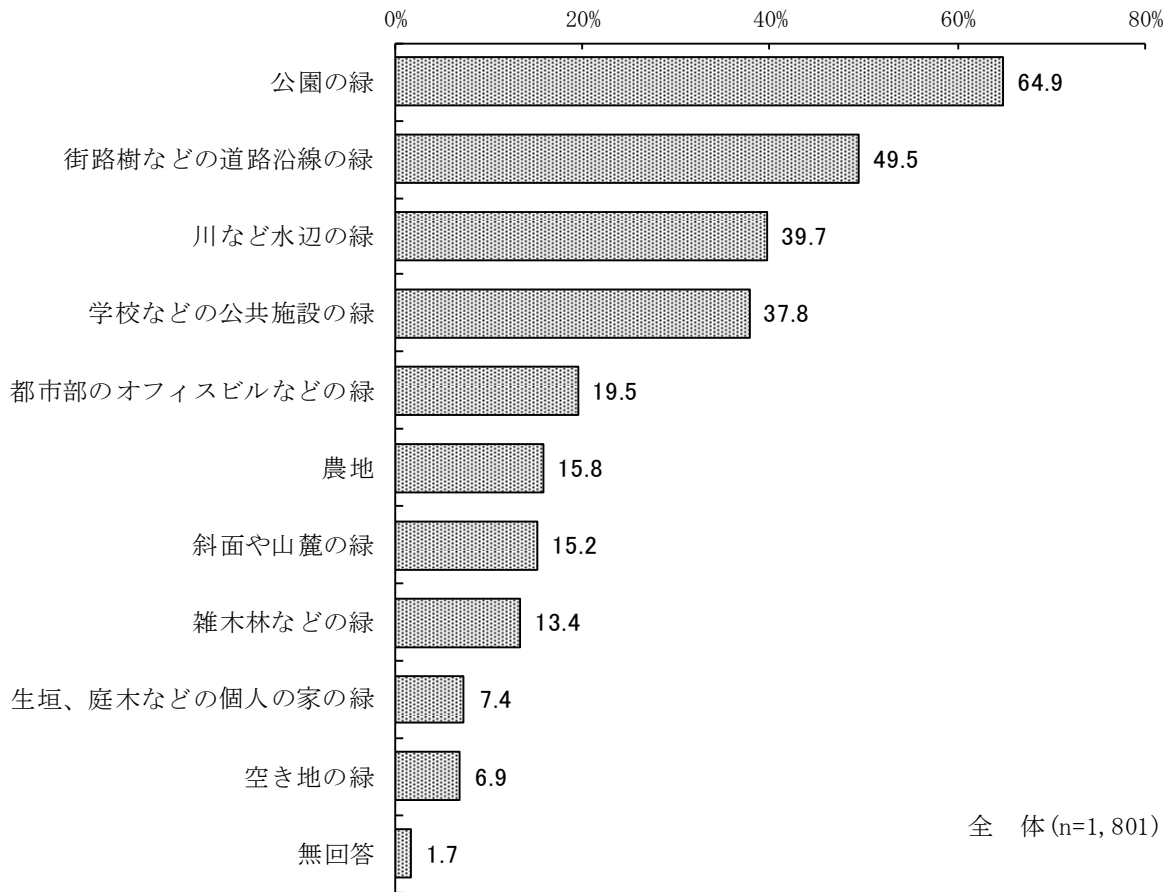


Ⅱ 調 査 結 果

1. 都市緑化、身近な公園について

(1) 今後、増やしたり、守ったりすべき緑について

問1 身近にある緑において今後、増やしたり、守ったりすべき緑は何でしょうか。
(〇は3つまで)



—— 「公園の緑」を増やしたり、守ったりすべきとの意見が最も多い ——

【全体結果】

今後、増やしたり、守ったりすべき緑（複数回答）については、「公園の緑」（64.9%）の割合が最も高い。以下「街路樹などの道路沿線の緑」（49.5%）が約5割、「川など水辺の緑」（39.7%）と「学校などの公共施設の緑」（37.8%）が3割台で続いている。

【属性別結果】（図 1-1 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「公園の緑」については、西蒲区（71.4%）の割合が高くなっている。

② 性別

「川など水辺の緑」の割合は、男性（45.5%）の方が女性（35.8%）よりも高くなっている。

③ 年齢別

「街路樹などの道路沿線の緑」の割合は、年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、60歳以上では5割台となっている。

また、「川など水辺の緑」と「農地」の割合は18～29歳（それぞれ52.1%、28.2%）が高く、「学校などの公共施設の緑」は30代（42.6%）が、「斜面や山麓の緑」は40代（21.8%）が、他年齢層よりも高くなっている。

図1-1 今後、増やしたり、守ったりすべき緑について（地区別／性別／年齢別） 1/2

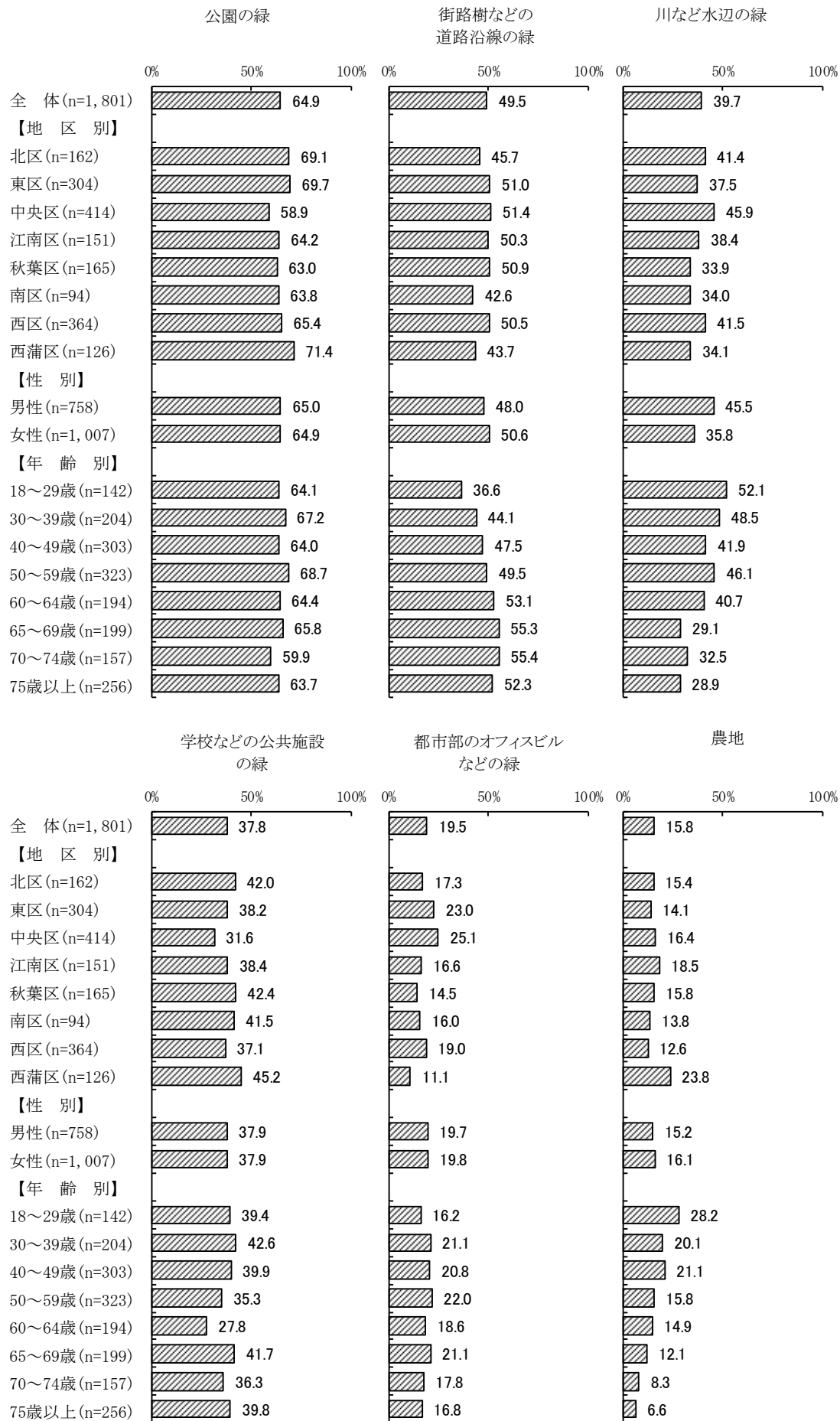
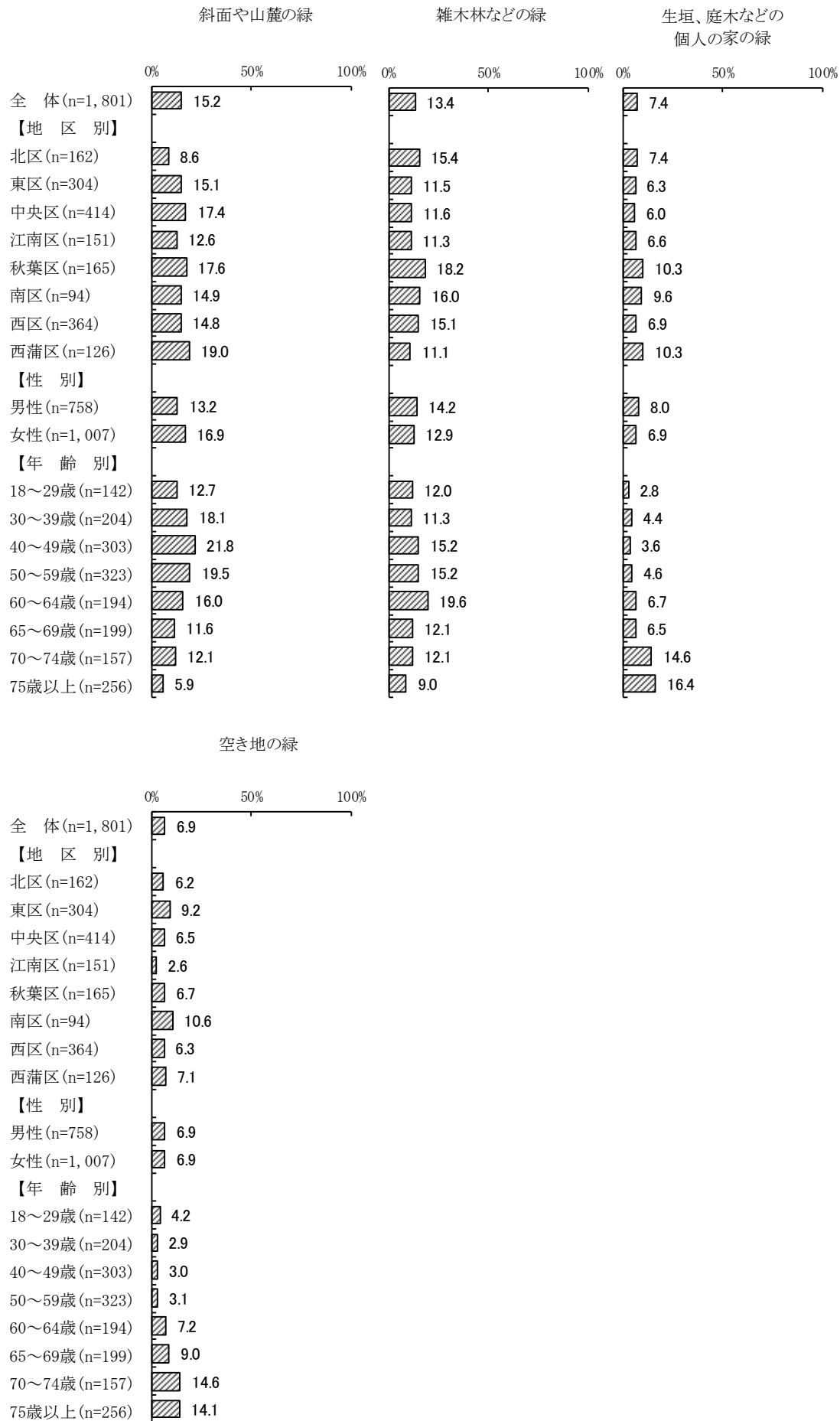
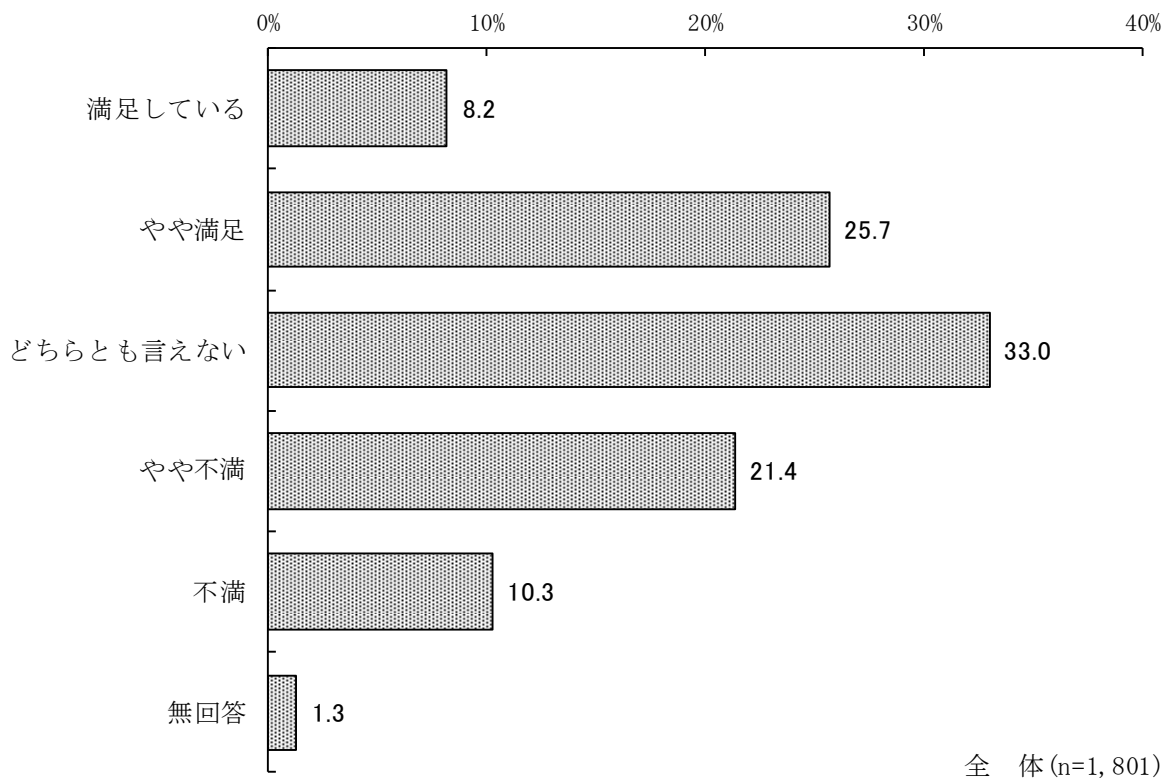


図1-1 今後、増やしたり、守ったりすべき緑について（地区別／性別／年齢別） 2/2



(2) 市街地内での緑の量について

問2 あなたは、新潟市の「市街地内（まとまった農地がない場所）」での緑の量について次のうちどのように感じていますか。
ここでの緑とは、問1の回答項目のような緑について伺っております。
(〇は1つだけ)



市街地内での緑の量について『満足』が3割を超えている

【全体結果】

市街地内での緑の量については、「満足している」(8.2%)、「やや満足」(25.7%)で両者を合計した『満足』計が3割台(33.9%)である。一方、「やや不満」(21.4%)と「不満」(10.3%)を合計した『不満』計も3割台(31.7%)である。

さらに、「どちらともいえない」も3割台(33.0%)でみられる。

【属性別結果】（図 1-2 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「どちらとも言えない」については、北区（44.4%）の割合が最も高くなっている。

また、『満足』計の割合は江南区（37.7%）と秋葉区（37.0%）が高く、3割台となっている。一方、『不満』計の割合は、中央区（37.7%）が3割台と高くなっている。

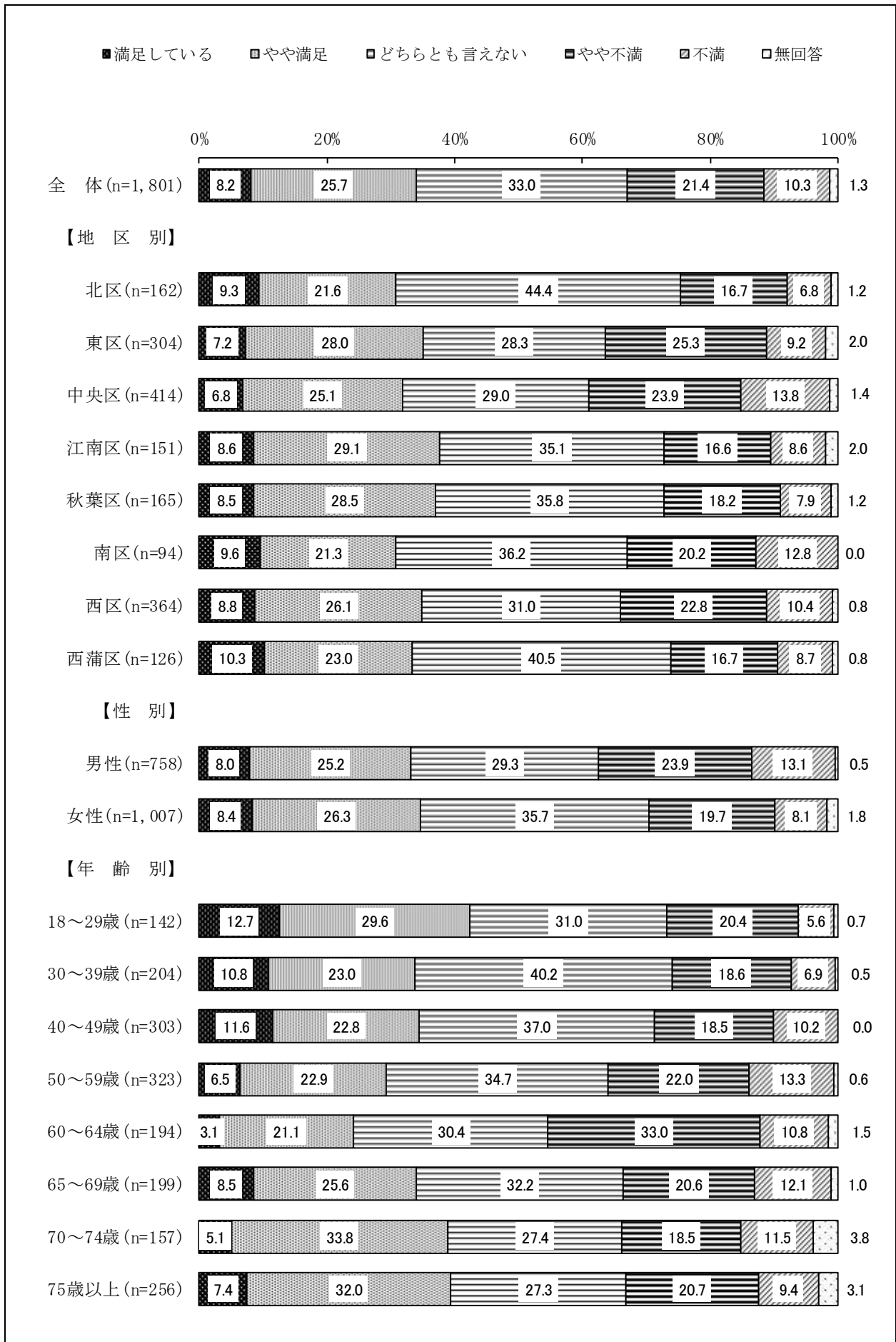
② 性別

『不満』計の割合は、男性（37.0%）の方が女性（27.8%）よりも高くなっている。

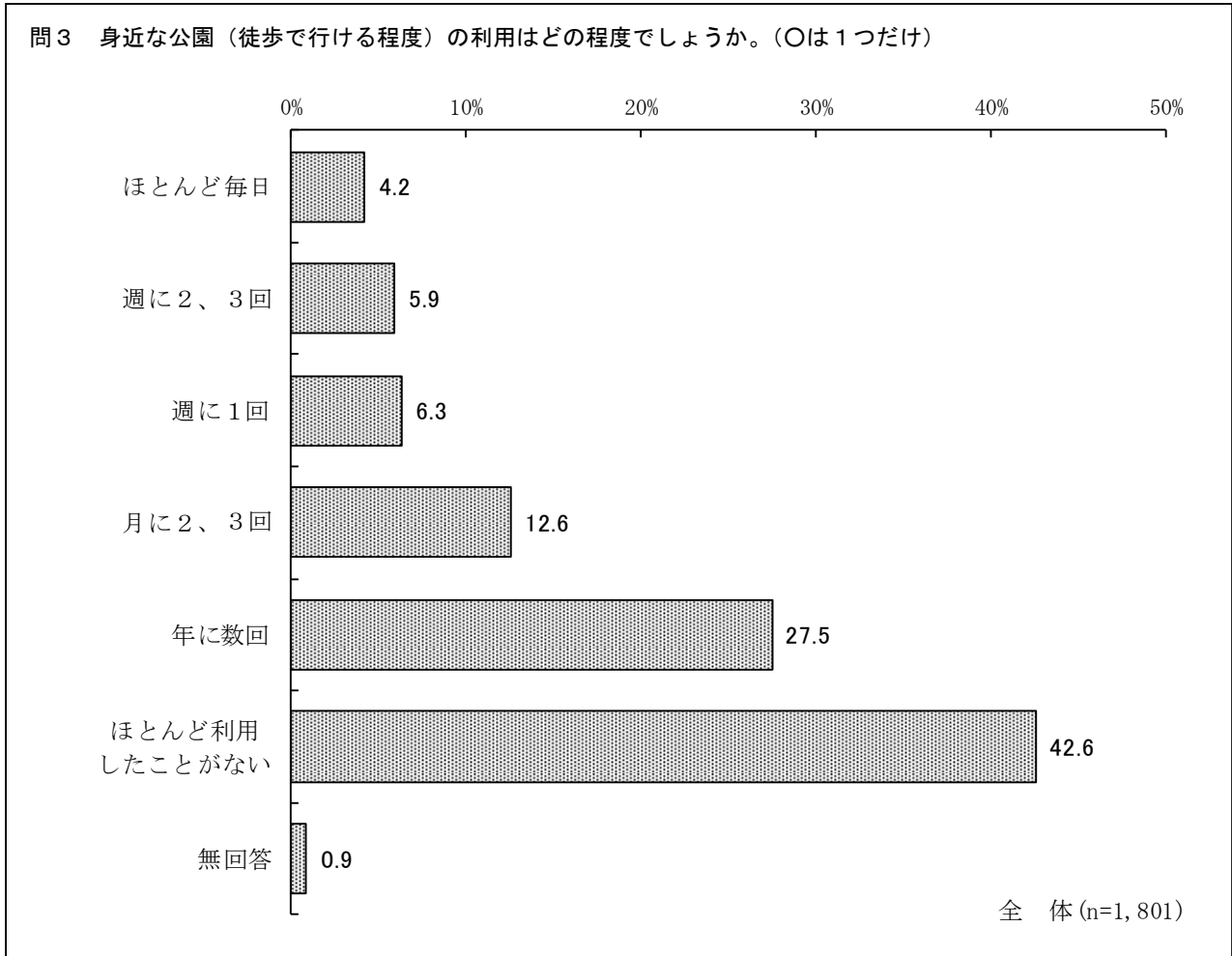
③ 年齢別

『満足』計の割合は、18～29歳（42.3%）が最も高く、4割を超えている。「どちらとも言えない」の割合は、30代（40.2%）が最も高くなっている。『不満』計の割合は、60～64歳（43.8%）が最も高く、4割を超えている。

図1-2 市街地内での緑の量について（地区別／性別／年齢別）



(3) 身近な公園の利用状況



「ほとんど利用したことがない」が最も多い

【全体結果】

身近な公園の利用状況については、「ほとんど利用したことがない」(42.6%)が最も多い。以下、「年に数回」(27.5%)、「月に2、3回」(12.6%)、「週に1回」(6.3%)、「週に2、3回」(5.9%)、「ほとんど毎日」(4.2%)となっている。

【属性別結果】(図1-3参照)

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「ほとんど利用したことがない」については、南区(56.4%)の割合が最も高くなっている。

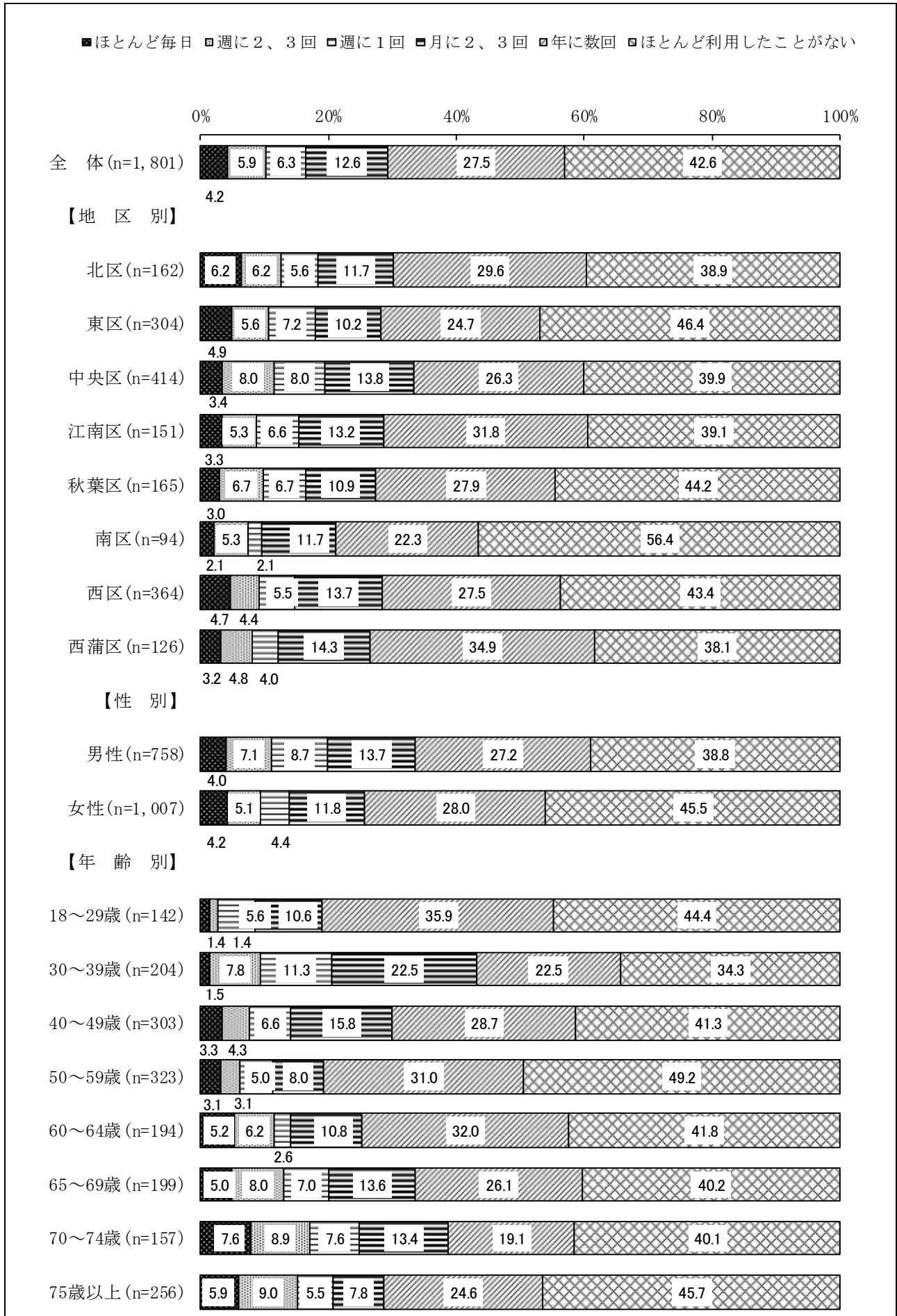
② 性別

「ほとんど利用したことがない」の割合は、女性(45.5%)の方が男性(38.8%)よりも高くなっている。

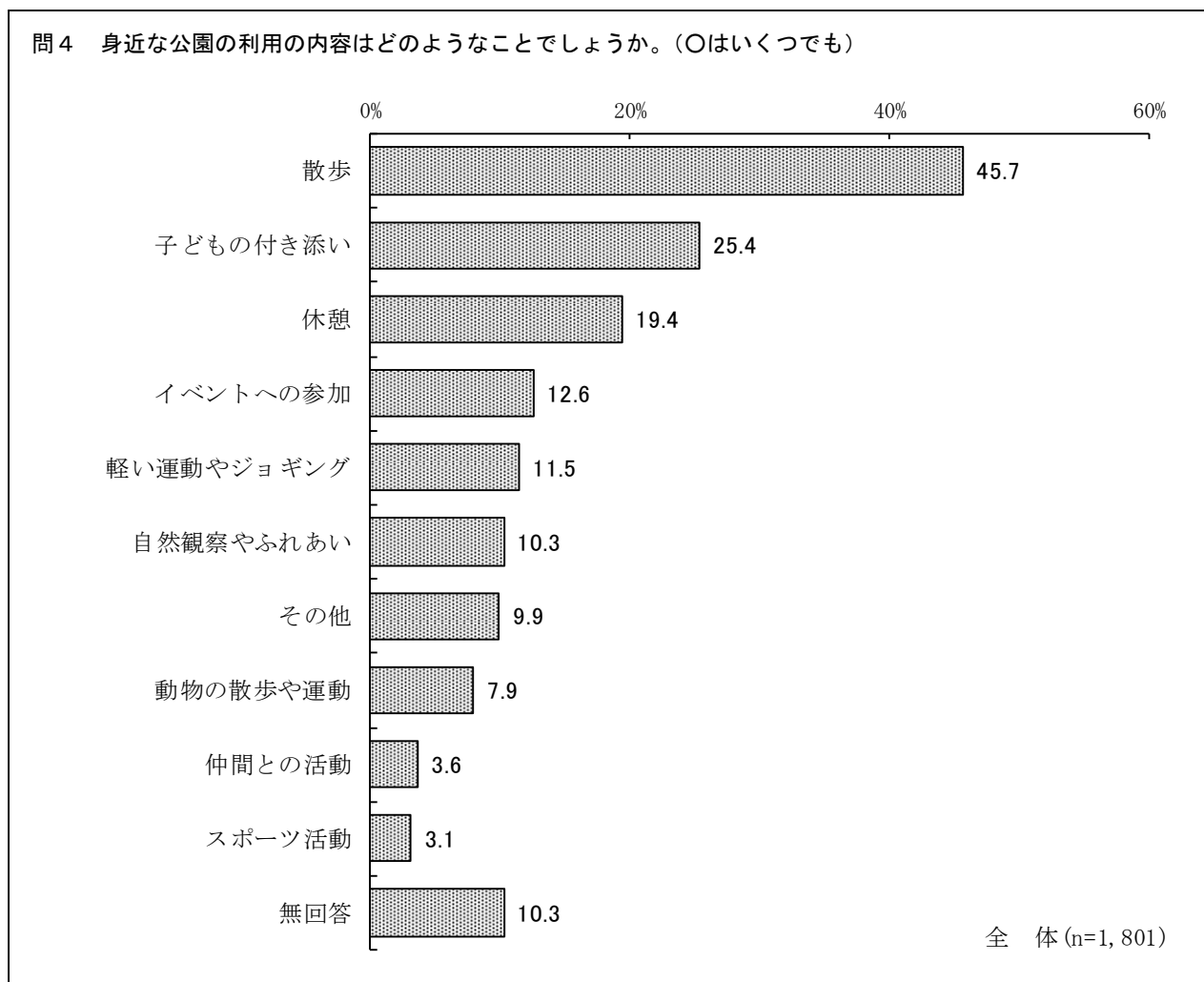
③ 年齢別

「ほとんど利用したことがない」の割合は、50代(49.2%)では約5割を占めている。「年に数回」の割合は、18~29歳(35.9%)が最も高くなっている。

図1-3 身近な公園の利用状況（地区別／性別／年齢別）



(4) 身近な公園の利用内容



「散歩」で利用する人が最も多い

【全体結果】

身近な公園の利用内容については、「散歩」(45.7%)の割合が最も高い。以下、「子どもの付き添い」(25.4%)が2割台、「休憩」(19.4%)、「イベントへの参加」(12.6%)、「軽い運動やジョギング」(11.5%)、「自然観察やふれあい」(10.3%)が1割台で続いている。

【属性別結果】(図1-4参照)

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「散歩」については、中央区(54.3%)の割合が最も高く、東区(40.5%)の割合が最も低くなっている。

② 性別

「休憩」の割合は、男性(23.4%)の方が女性(16.8%)よりも高くなっている。

③ 年齢別

「散歩」の割合は、18~29歳(54.2%)、65歳~69歳(51.8%)と75歳以上(53.1%)で5割台と高く、40代(37.0%)で低くなっている。

「子どもの付き添い」の割合は、30代(52.5%)が最も高く、5割台となっている。

図1-4 身近な公園の利用内容（地区別／性別／年齢別） 1/2

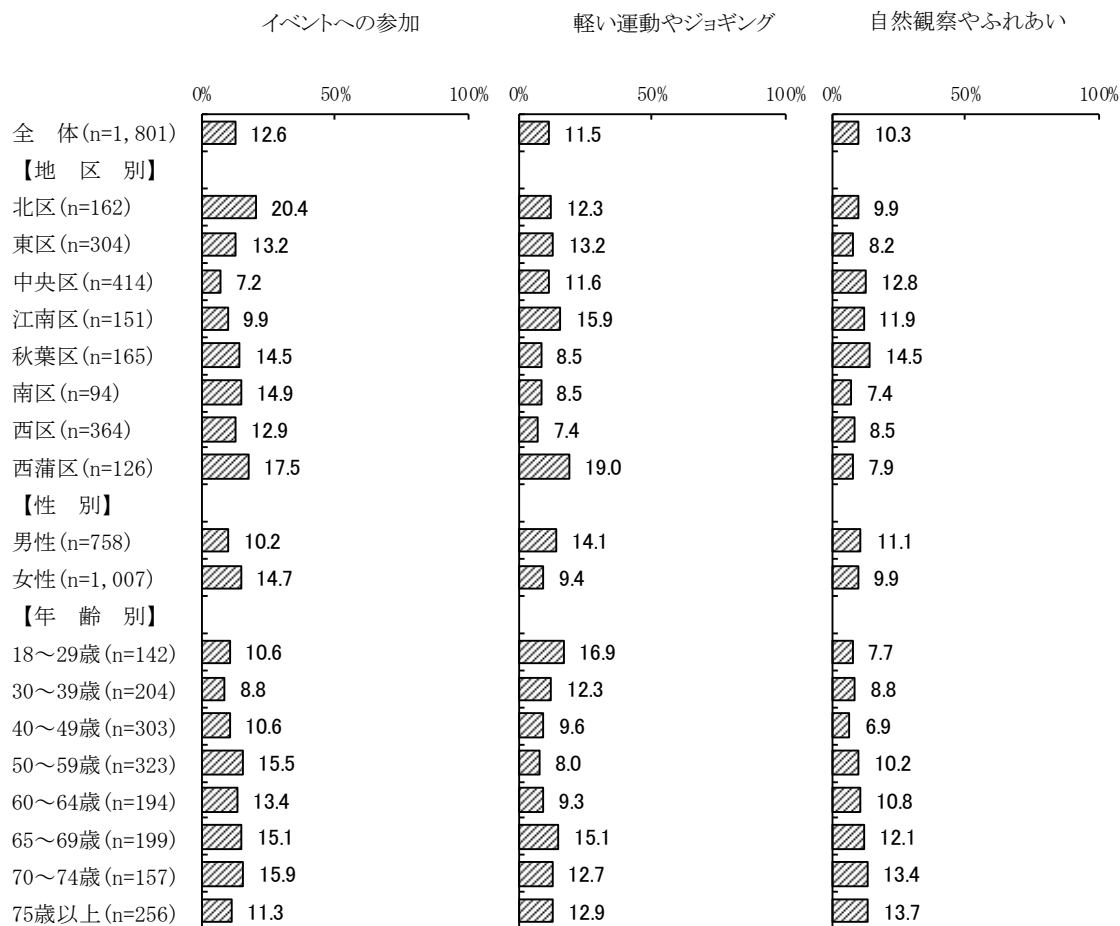
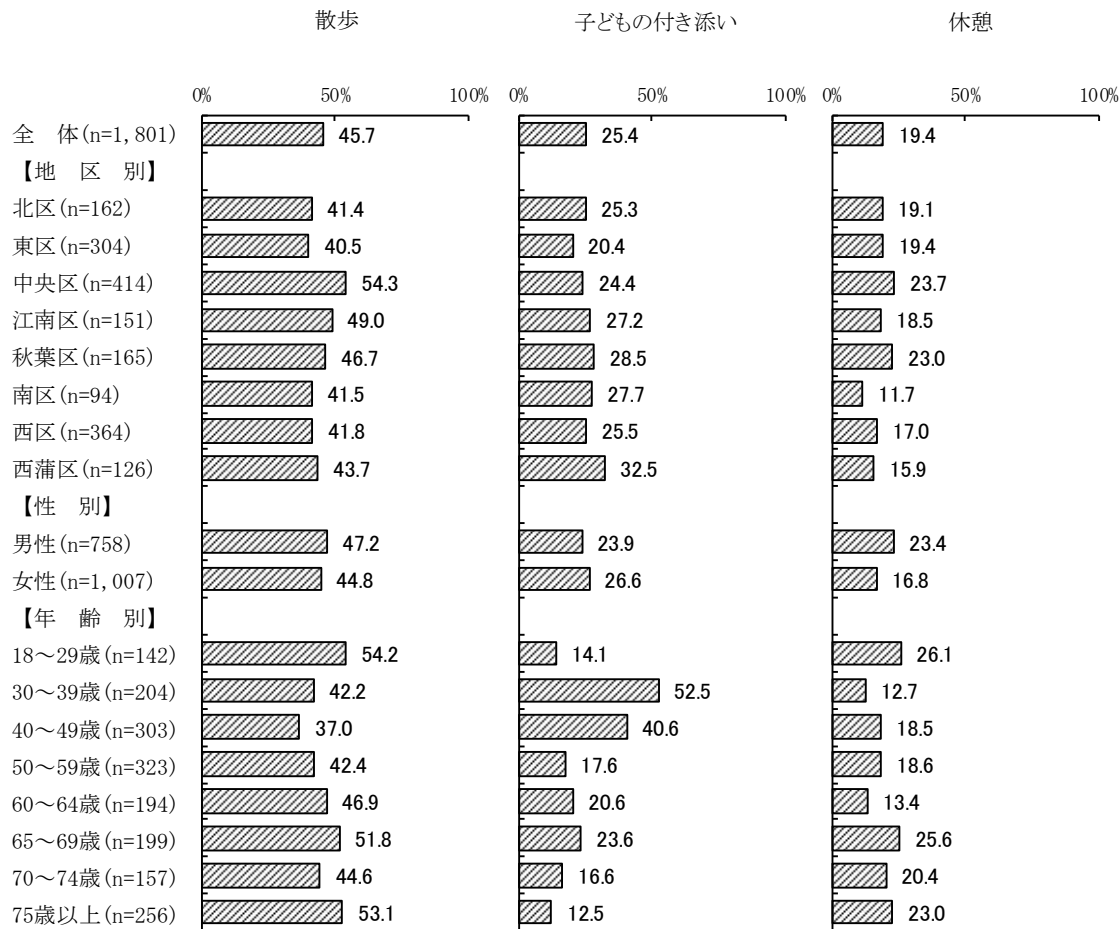
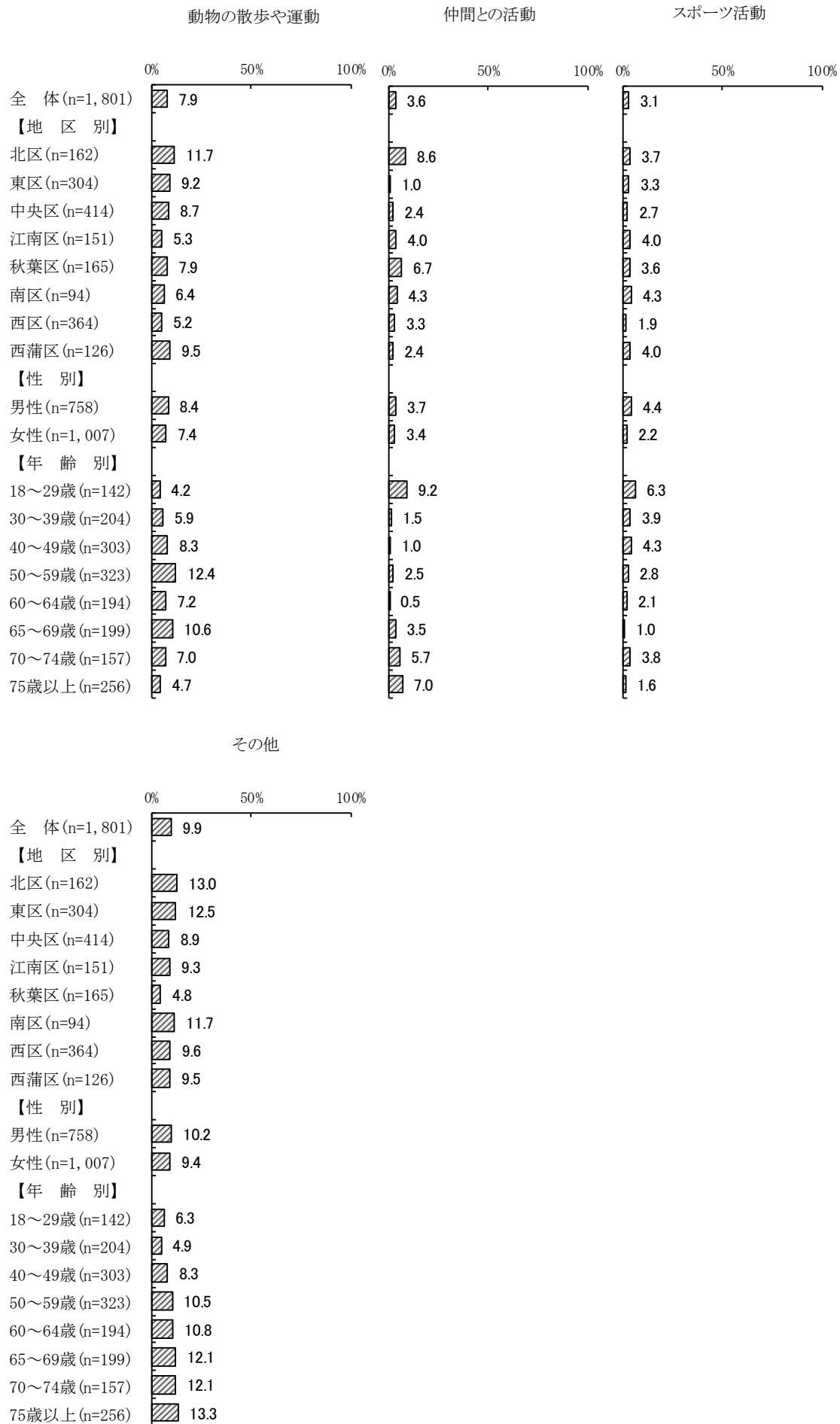
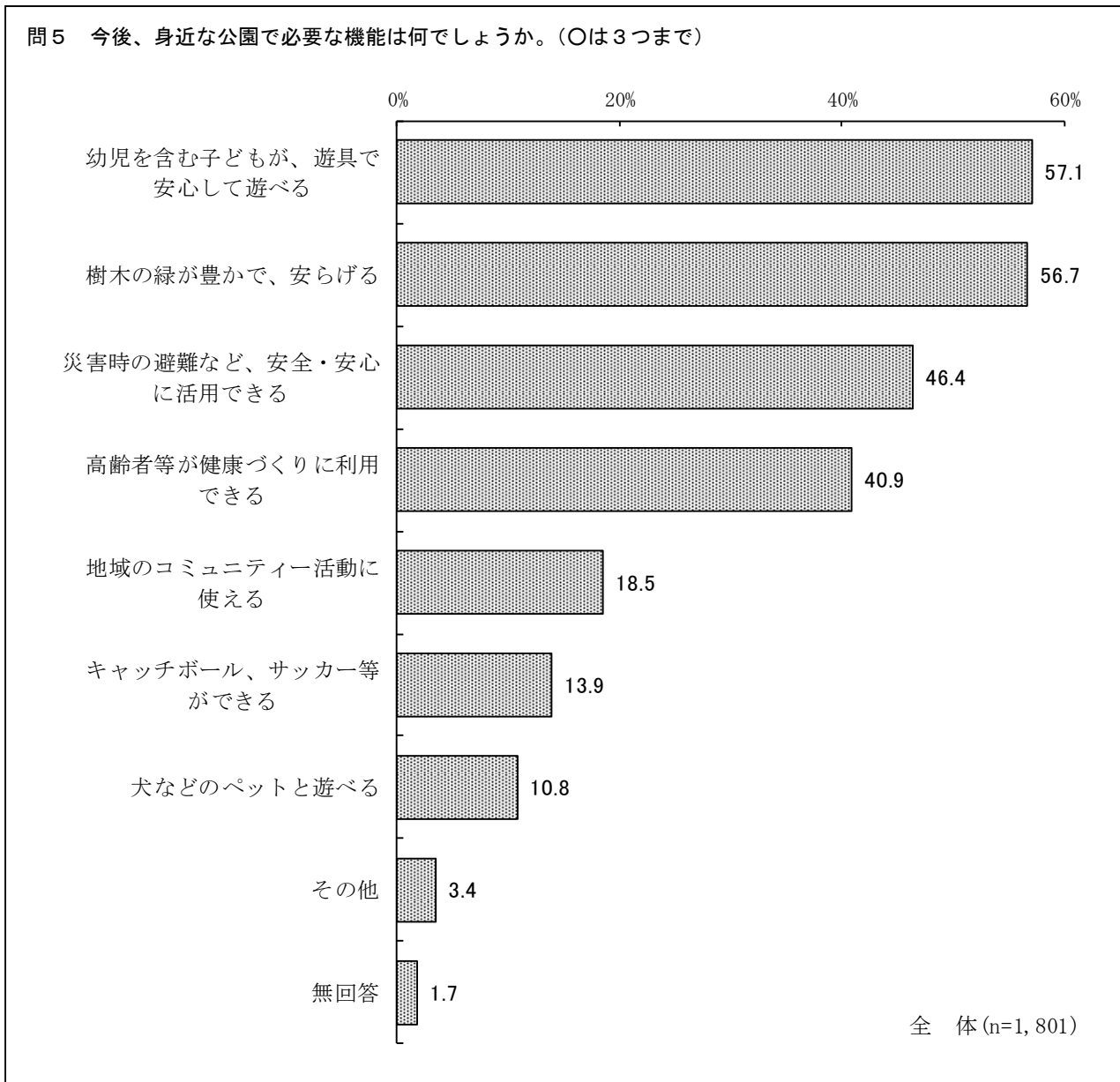


図1-4 身近な公園の利用内容（地区別／性別／年齢別） 2/2



(5) 今後、身近な公園で必要な機能



— 「幼児を含む子どもが、遊具で安心して遊べる」「樹木の緑が豊かで、安らげる」が5割台 —

【全体結果】

今後、身近な公園で必要な機能については、「幼児を含む子どもが、遊具で安心して遊べる」(57.1%)の割合が最も高く、「樹木の緑が豊かで、安らげる」(56.7%)が僅差で続く。以下、「災害時の避難など、安全・安心に活用できる」(46.4%)、「高齢者等が健康づくりに利用できる」(40.9%)が続いている。

【属性別結果】（図 1-5 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「幼児を含む子どもが、遊具で安心して遊べる」については、北区（62.3%）、西蒲区（62.7%）、西区（61.5%）の割合が高く、6割を超えている。

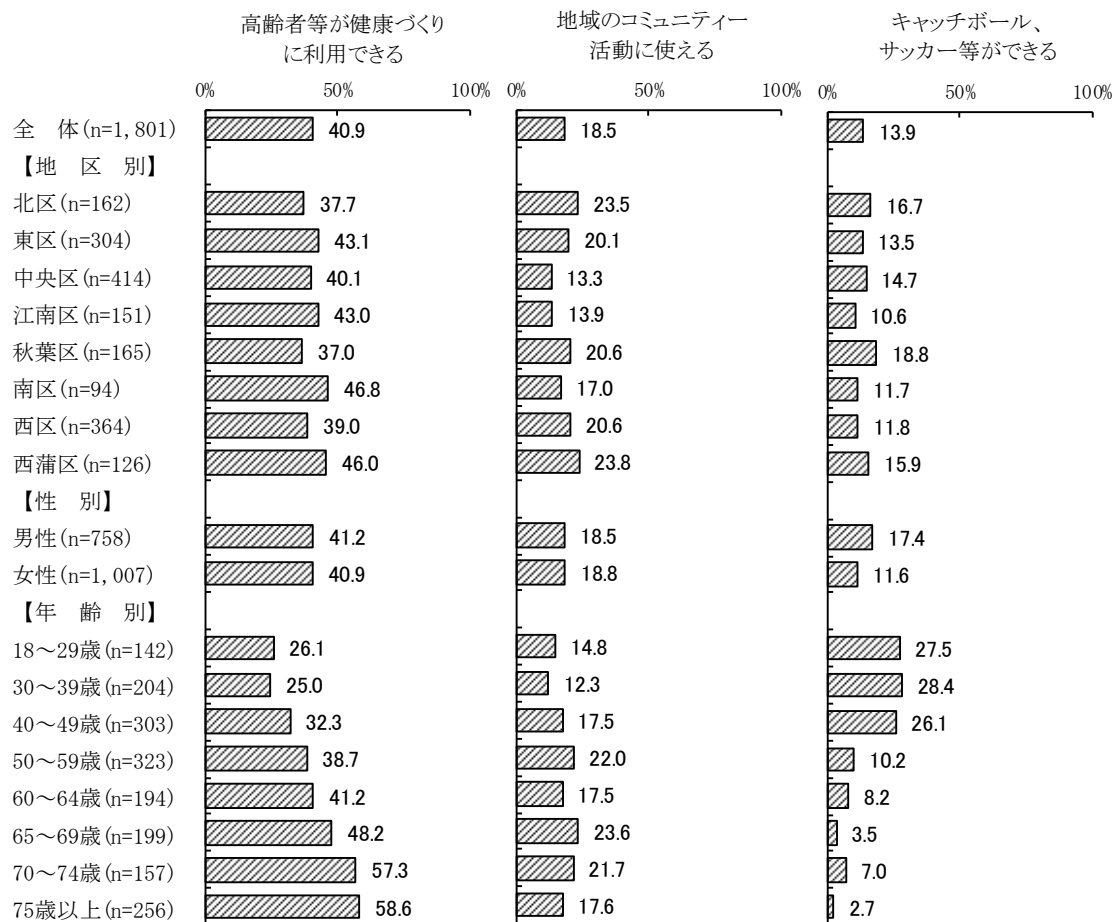
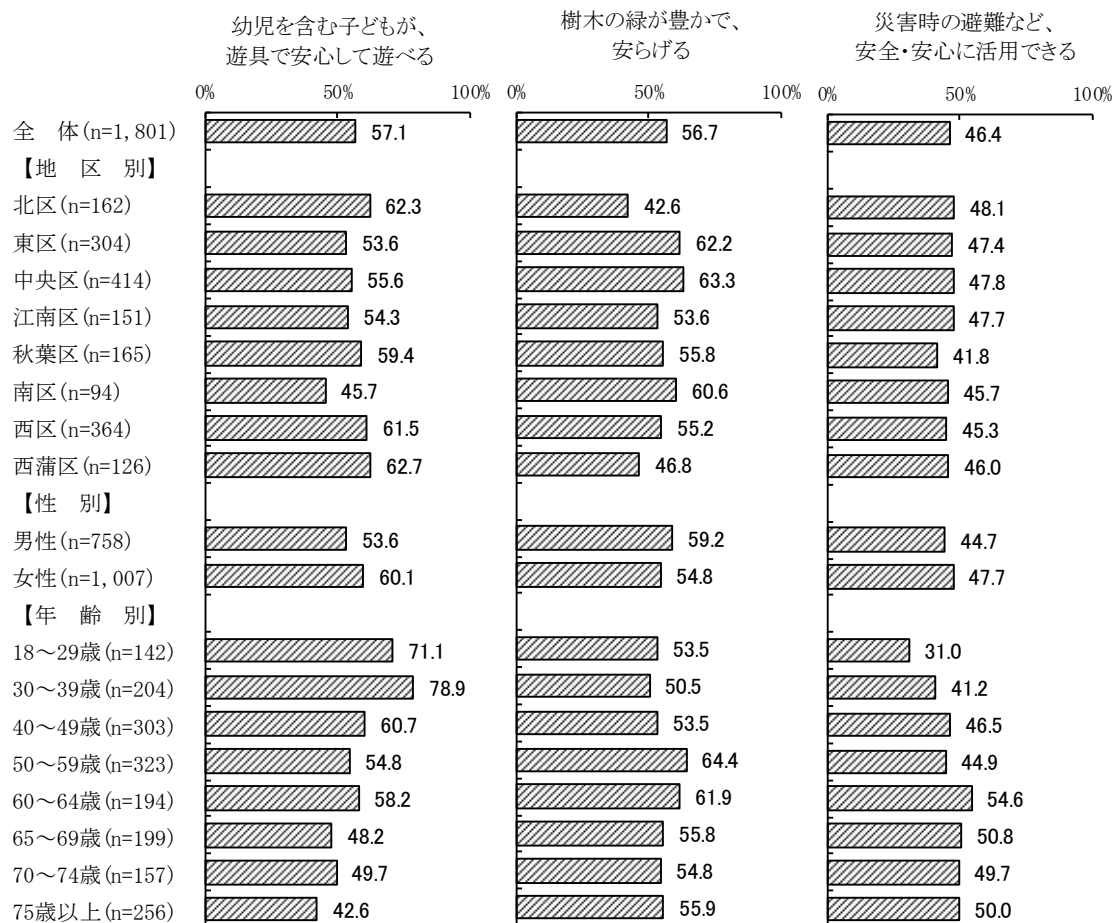
② 性別

「幼児を含む子どもが、遊具で安心して遊べる」の割合は、女性（60.1%）の方が男性（53.6%）よりも高くなっている。

③ 年齢別

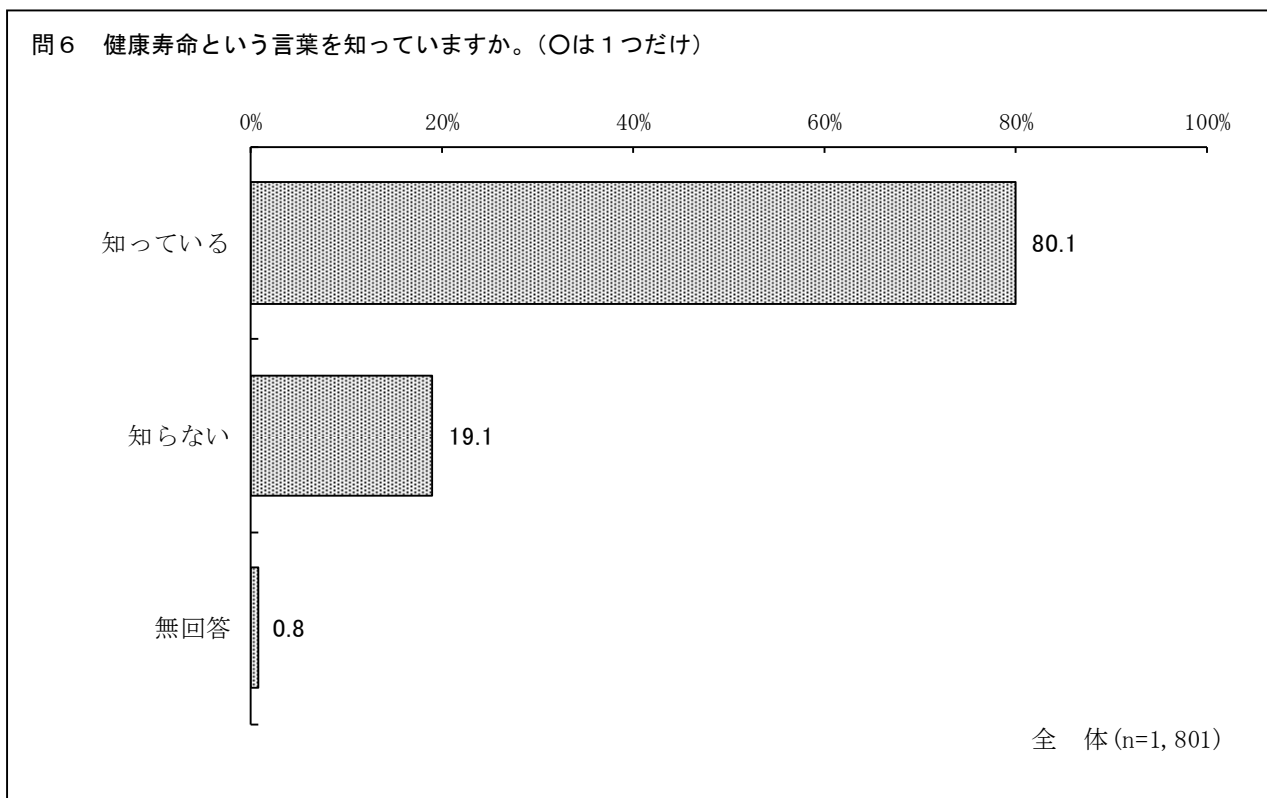
「幼児を含む子どもが、遊具で安心して遊べる」「キャッチボール、サッカー等ができる」は30代（それぞれ78.9%、28.4%）と18～29歳（それぞれ71.1%、27.5%）の割合が、それぞれ高くなっている。また、「高齢者等が健康づくりに利用できる」は年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、70歳以上では5割台となっている。

図1-5 今後、身近な公園で必要な機能について（地区別／性別／年齢別） 1/2



2. 健康寿命について

(1) 健康寿命という言葉の認知状況



健康寿命という言葉を知っているが約8割

【全体結果】

健康寿命という言葉を知っている「知っている」(80.1%)の割合が約8割を占めている。

【属性別結果】(図2-1参照)

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「知っている」については、中央区(82.6%)の割合が最も高くなっている。また、「知らない」は西蒲区(25.4%)で高く、全体の約4分の1を占めている。

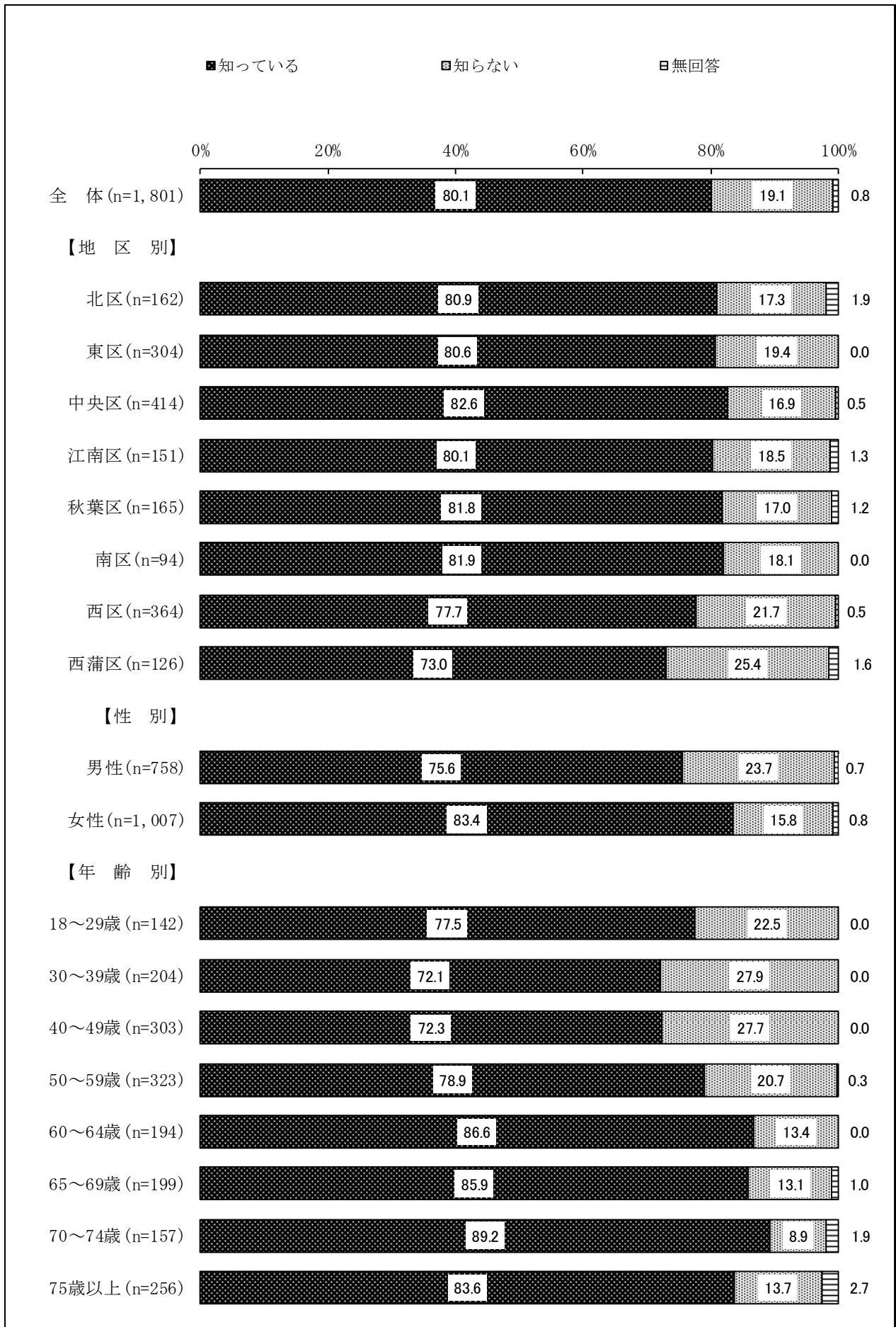
② 性別

「知っている」の割合は、女性(83.4%)の方が男性(75.6%)よりも高くなっている。

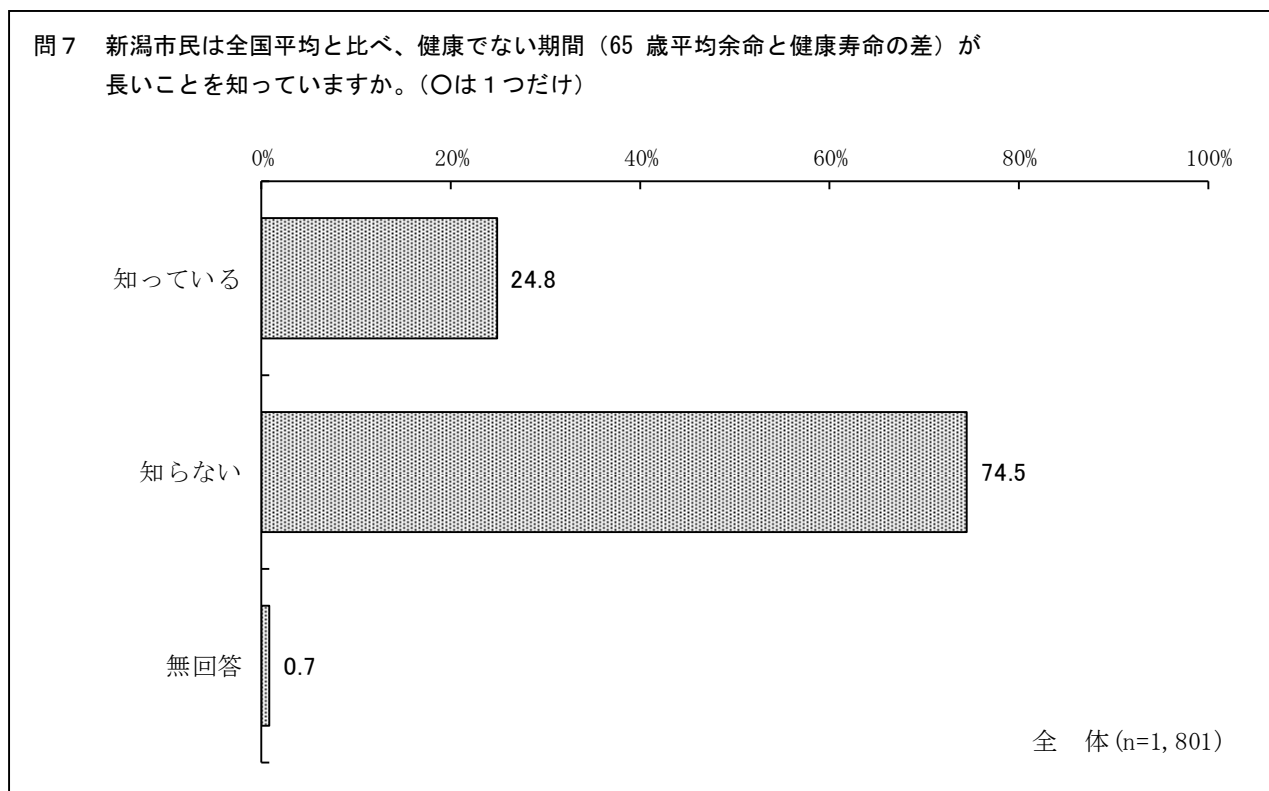
③ 年齢別

「知っている」の割合は、70~74歳(89.2%)が最も高く、約9割となっている。

図 2 - 1 健康寿命という言葉の認知状況（地区別／性別／年齢別）



(2) 健康でない期間が長いことの認知状況



————— 健康でない期間が長いことを「知らない」が全体の4分の3 —————

【全体結果】

新潟市民が全国平均と比べて健康でない期間が長いことを、「知らない」(74.5%)の割合が、全体の4分の3を占めている。

【属性別結果】(図2-2参照)

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「知らない」については、西区(78.3%)の割合が最も高くなっている。また、「知っている」は秋葉区(30.3%)で高く、約3割を占めている。

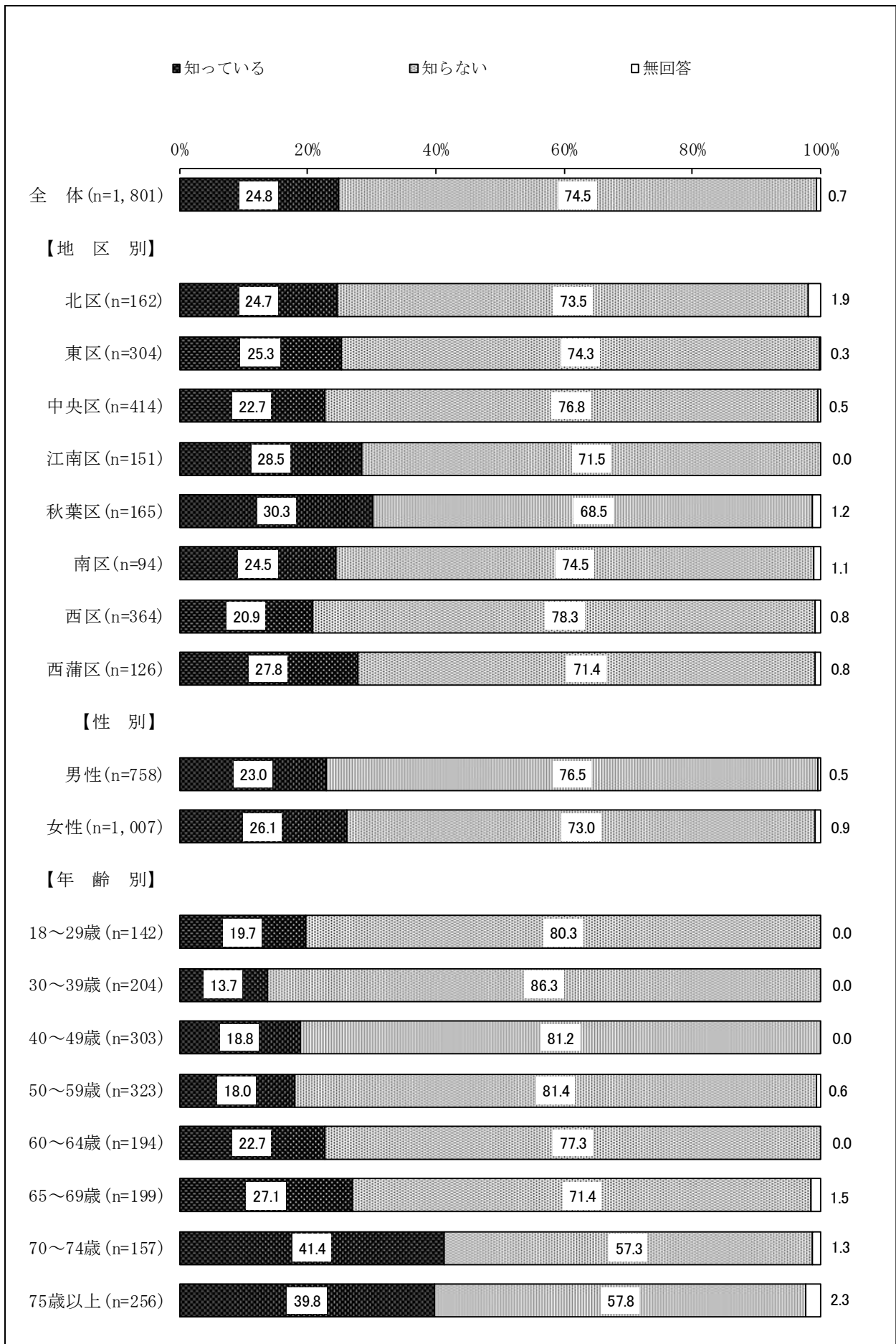
② 性別

「知らない」の割合は、男性(76.5%)の方が女性(73.0%)よりもやや高くなっている。一方、「知っている」の割合は、女性(26.1%)の方が男性(23.0%)よりもやや高くなっている。

③ 年齢別

「知らない」の割合は、30代(86.3%)が高くなっている。一方、「知っている」の割合は、70歳以上で高く、4割前後を占めている。

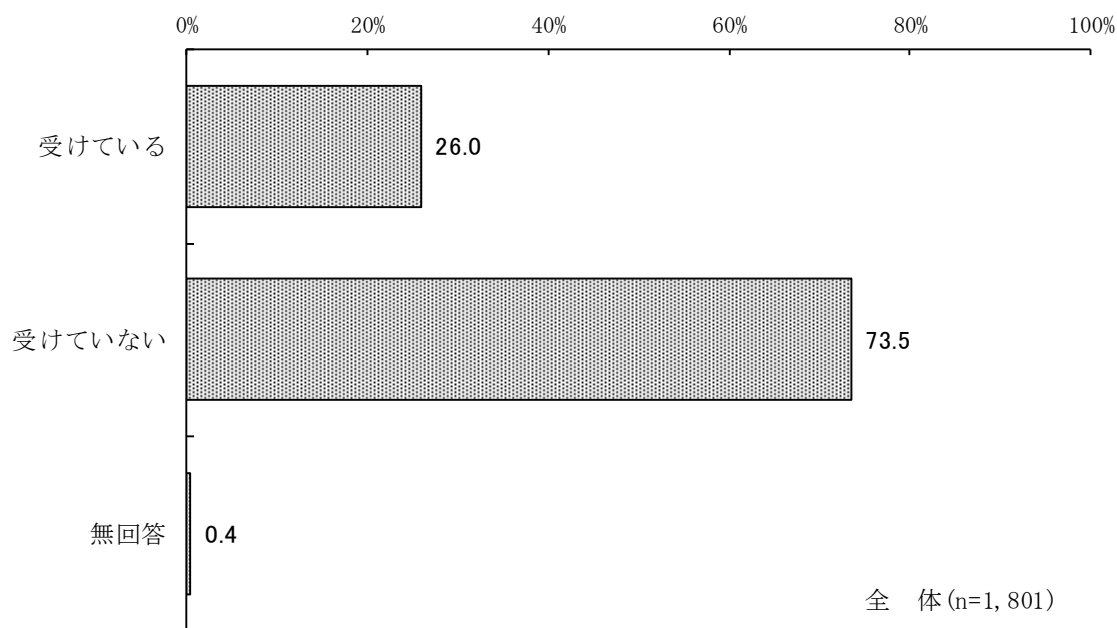
図 2-2 健康でない期間が長いことの認知状況（地区別／性別／年齢別）



(3) 生活習慣病の治療の有無

問8 現在、生活習慣病（脳梗塞、心筋梗塞、高血圧症、糖尿病など）で治療を受けていますか。

（○は1つだけ）



——— 生活習慣病の治療を「受けていない」が7割を超えている ———

【全体結果】

現在、生活習慣病の治療を、「受けていない」（73.5%）の割合が最も高く、7割を超えている。

【属性別結果】（図2-3参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「受けていない」については、東区（77.3%）の割合が最も高くなっている。また、「受けている」の割合は南区（31.9%）で高くなっている。

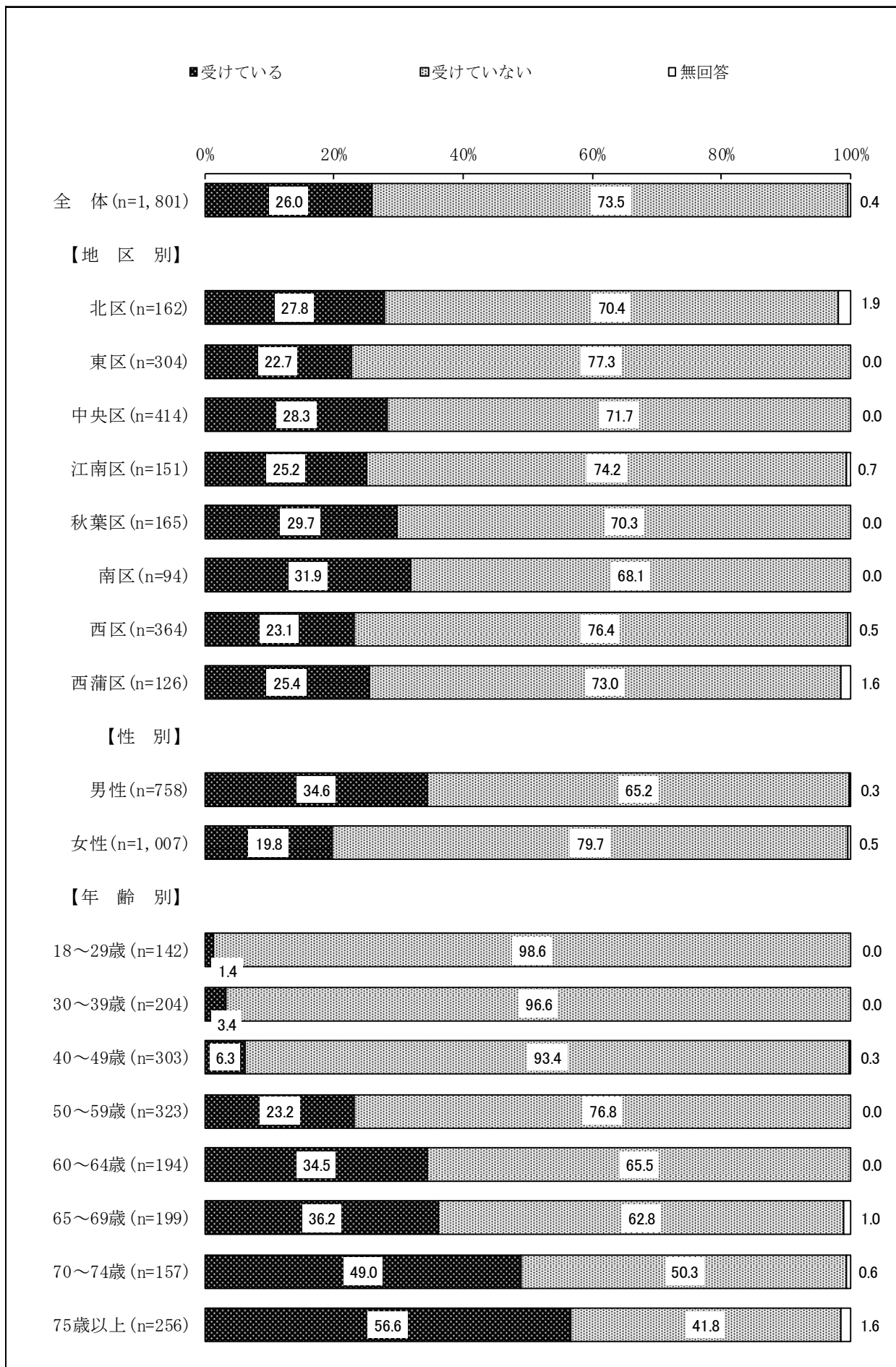
② 性別

「受けていない」の割合は、女性（79.7%）の方が男性（65.2%）よりも高くなっている。一方、「受けている」の割合は、男性（34.6%）の方が女性（19.8%）よりも高くなっている。

③ 年齢別

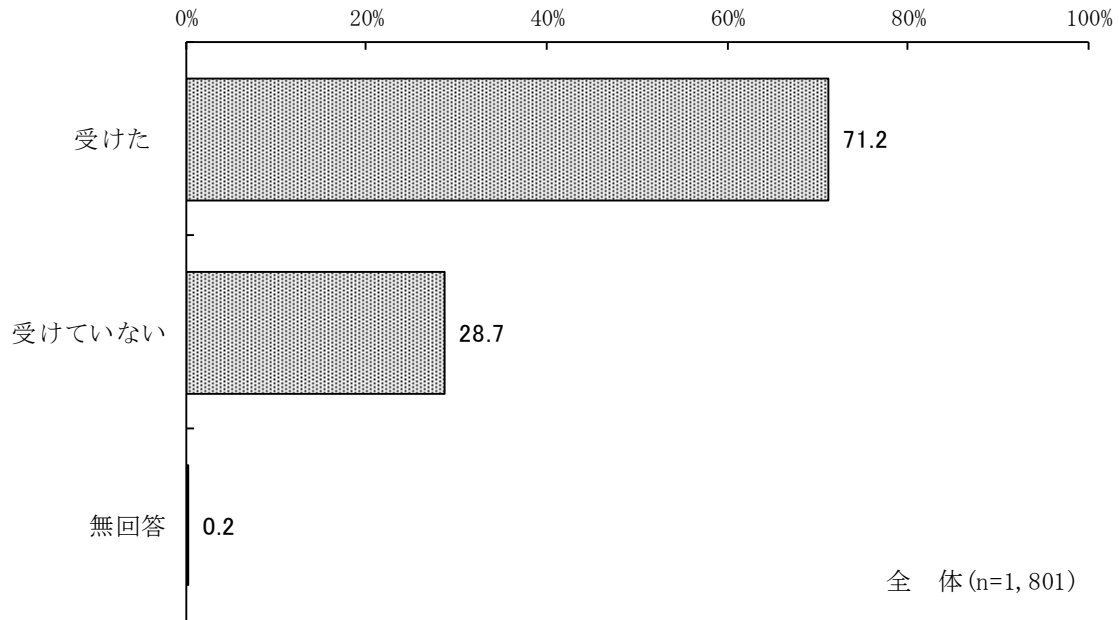
「受けている」の割合は、年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、75歳以上では半数以上となっている。

図 2-3 生活習慣病の治療の有無（地区別／性別／年齢別）



(4) 健診受診の有無

問9 あなたは、平成28年度中に健診（健康診断、人間ドック等）を受けましたか。（○は1つだけ）
（注：次のようなものは健診には含まれません。がんのみの検診、妊産婦検診、歯の健康診査、病院や診療所で行う診療としての検査）



平成28年度中に健診を「受けた」が最も多い

【全体結果】

平成28年度中に健診を、「受けた」(71.2%)の割合が最も高く、7割を超えている。

【属性別結果】(図2-3参照)

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「受けた」については、北区と西蒲区（それぞれ74.7%、74.6%）で高く、全体の約4分の3を占めている。また、「受けていない」の割合は東区（30.6%）で高く、約3割を占めている。

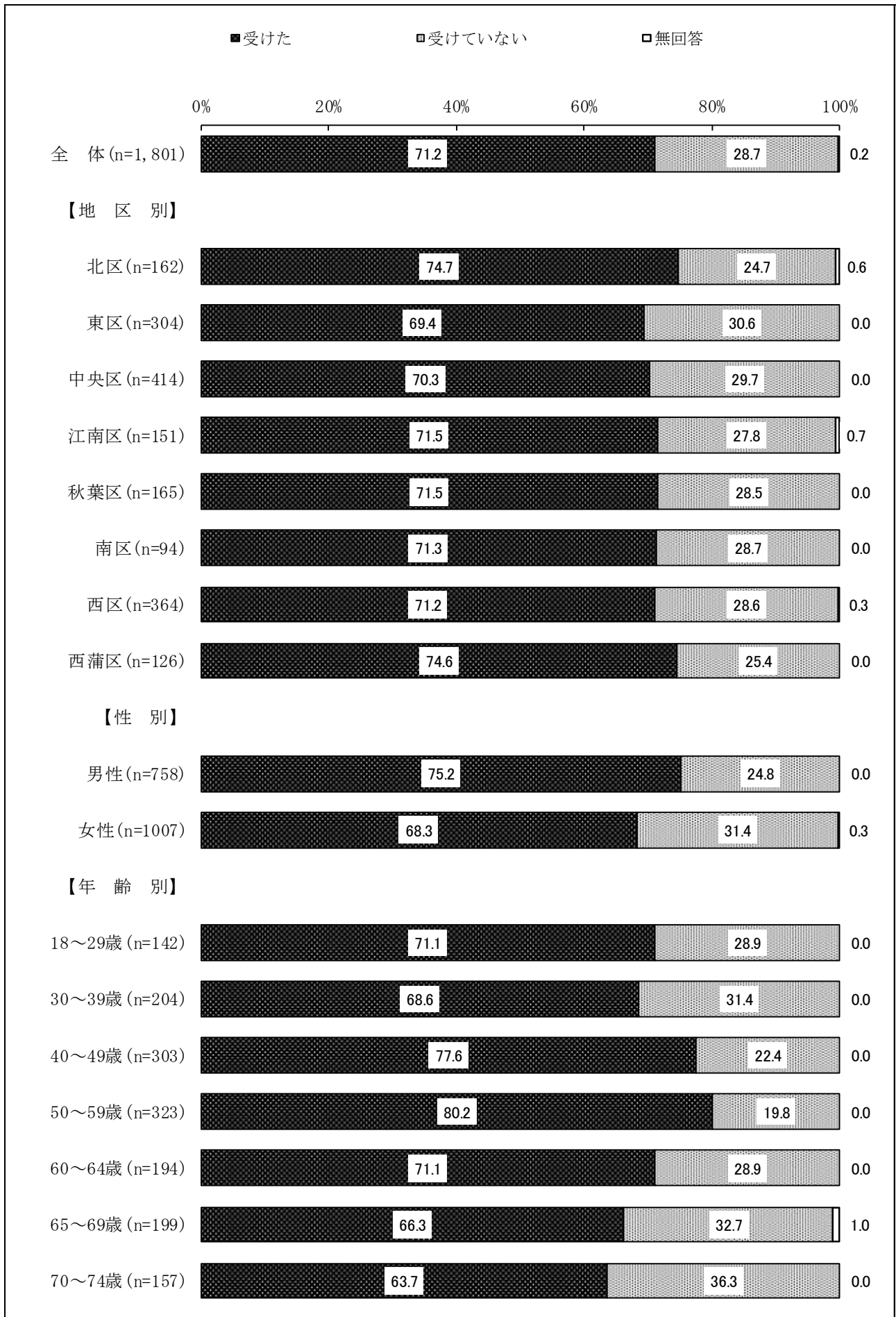
② 性別

「受けた」の割合は、男性（75.2%）の方が女性（68.3%）よりも高くなっている。一方、「受けていない」の割合は、女性（31.4%）の方が男性（24.8%）よりも高くなっている。

③ 年齢別

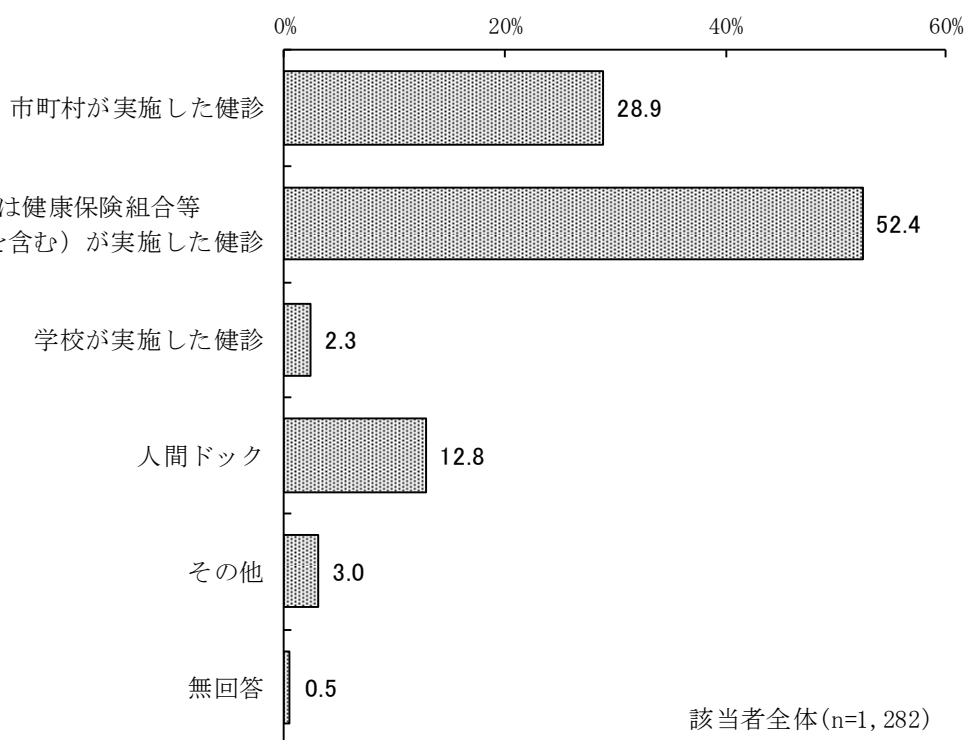
「受けた」の割合は、50代（80.2%）で高く、約8割を占めている。

図 2-4 健診受診の有無（地区別／性別／年齢別）



(5) 健診を受けた機会

(問9で「1」(受けた)と答えた方は問10へ、問9で「2」(受けていない)と答えた方は問12へ)
問10 どのような機会に健診を受けましたか。(〇は1つだけ)



「勤め先または健康保険組合等が実施した健診」が半数以上

問9で「1」(受けた)を回答した1,282人への質問である。

【全体結果】

健診を受けた機会については、「勤め先または健康保険組合等(家族の勤め先を含む)が実施した健診」(52.4%)の割合が最も高くなっている。以下、「市町村が実施した健診」(28.9%)が2割台、「人間ドック」(12.8%)が1割台で続いている。

【属性別結果】（図 2-5 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「勤め先または健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した健診」については、南区（62.7%）の割合が最も高く、6割を超えている。

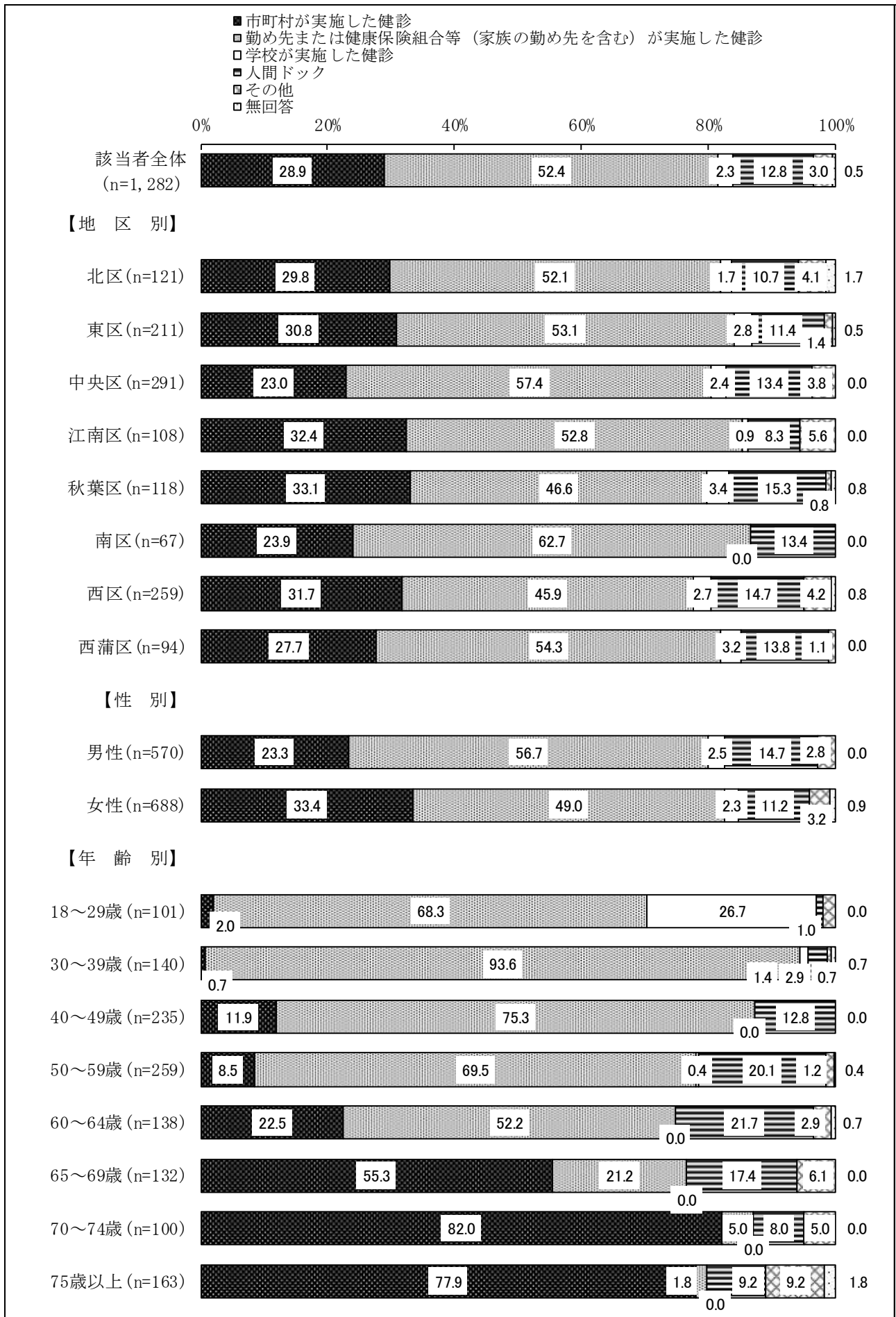
② 性別

「勤め先または健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した健診」の割合は、男性（56.7%）の方が女性（49.0%）よりも高くなっている。また、「市町村が実施した健診」の割合は、女性（33.4%）の方が男性（23.3%）よりも高くなっている。

③ 年齢別

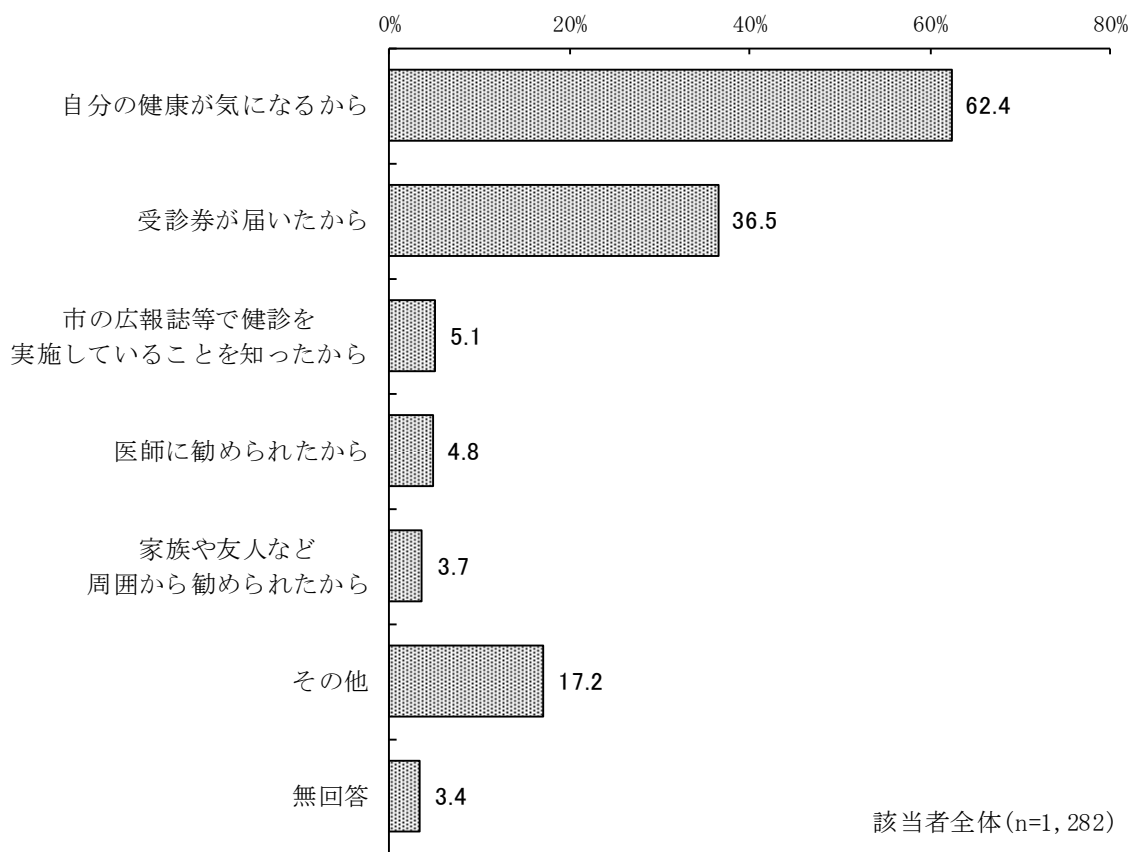
「学校が実施した健診」は18～29歳（26.7%）が、「勤め先または健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した健診」は30代（93.6%）が、それぞれ高く、他年齢層を大きく上回っている。「市町村が実施した健診」は年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、70歳以上では8割前後を占めている。

図 2-5 健診を受けた機会（地区別／性別／年齢別）



(6) 健診を受けたきっかけ

(問9で「1」(受けた)と答えた方は問10へ、問9で「2」(受けていない)と答えた方は問12へ)
問11 健診を受けたきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)



「自分の健康が気になるから」が最も多い

問9で「1」(受けた)を回答した1,282人への質問である。

【全体結果】

健診を受けたきっかけについては、「自分の健康が気になるから」(62.4%)の割合が最も高く、6割を超えている。これに「受診券が届いたから」(36.5%)が続いている。

【属性別結果】（図 2-6 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「自分の健康が気になるから」については、南区（65.7%）と北区（65.3%）の割合がやや高くなっている。

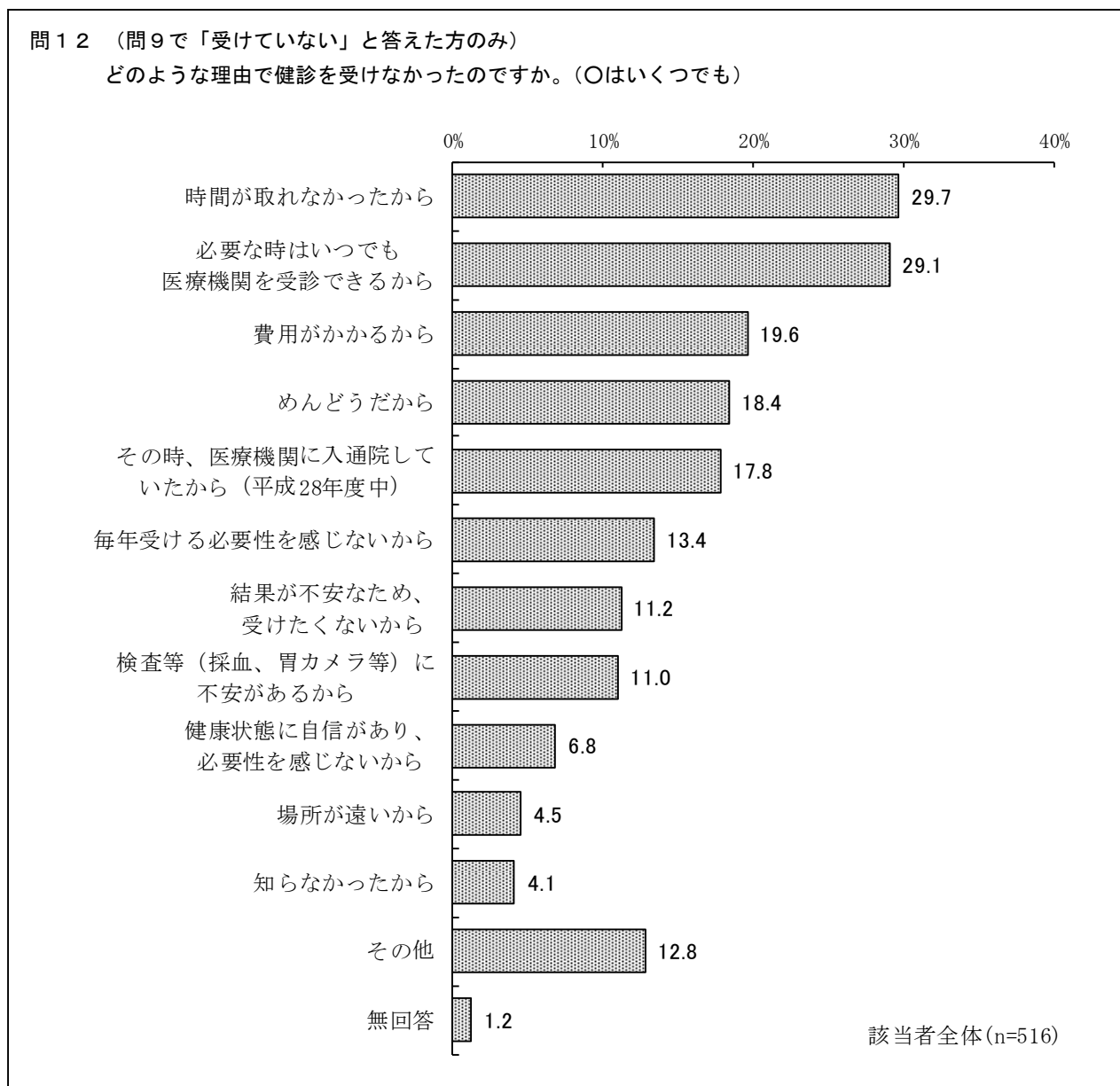
② 性別

「受診券が届いたから」の割合は、女性（42.0%）の方が男性（30.0%）よりも高くなっている。

③ 年齢別

「自分の健康が気になるから」は年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、70～74歳（78.0%）が最も高くなっている。また、「受診券が届いたから」は70～74歳（54.0%）の割合も高く、半数以上となっている。「市の広報誌等で健診を実施していることを知ったから」「医師に勧められたから」は75歳以上（それぞれ19.0%、16.0%）が高く、他年齢層を上回っている。

(7) 健診を受けなかった理由



—— 「時間が取れなかったから」「いつでも受診できるから」が約3割 ——

問9で「2」(受けていない)を回答した516人への質問である。

【全体結果】

健診を受けなかった理由については、「時間が取れなかったから」(29.7%)の割合が最も高く、「必要な時はいつでも医療機関を受診できるから」(29.1%)が僅差で続いている。以下、「費用がかかるから」(19.6%)、「めんどうだから」(18.4%)、「その時、医療機関に入通院していたから (平成28年度中)」(17.8%)が2割未満となっている。

【属性別結果】（図 2-7 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「時間が取れなかったから」については、秋葉区（38.3%）と北区（37.5%）で高く、4割未満となっている。「必要な時はいつでも医療機関を受診できるから」では秋葉区（42.6%）の割合が高く、4割を超えている。

② 性別

「必要な時はいつでも医療機関を受診できるから」の割合は、女性（31.0%）が男性（26.6%）よりも高くなっている。「その時、医療機関に入通院していたから（平成 28 年度中）」の割合は、男性（21.3%）の方が女性（15.8%）よりも高くなっている。

③ 年齢別

「時間が取れなかったから」「費用がかかる」は 30 代（それぞれ 43.8%、37.5%）と 40 代（それぞれ 42.6%、35.3%）が、「めんどうだから」は 40 代（30.9%）が、「必要な時はいつでも医療機関を受診できるから」は 60～64 歳（41.1%）と 75 歳以上（44.6%）の割合がそれぞれ高く、他年齢層を上回っている。

図 2-7 健診を受けなかった理由（地区別／性別／年齢別） 1/2

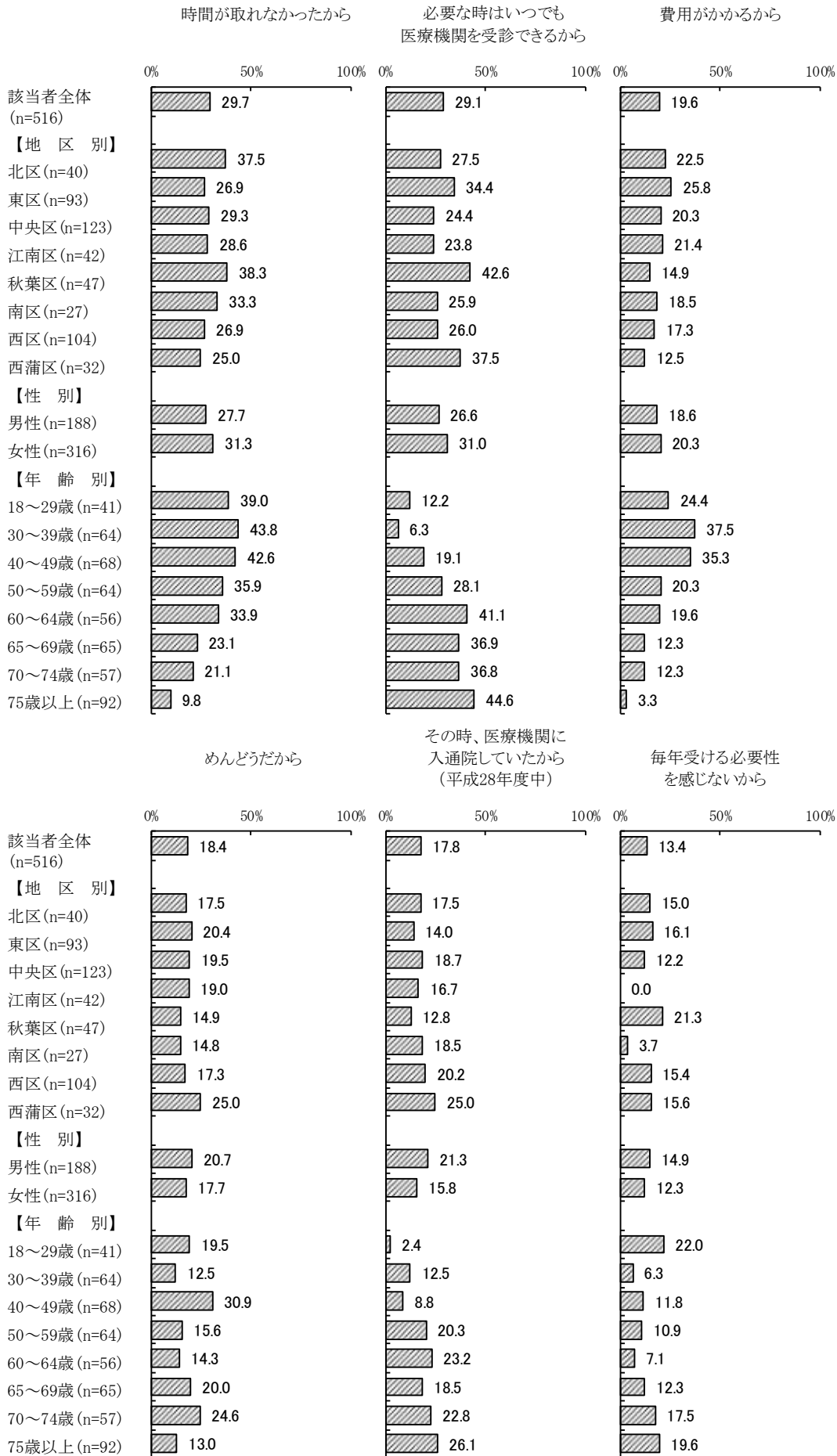
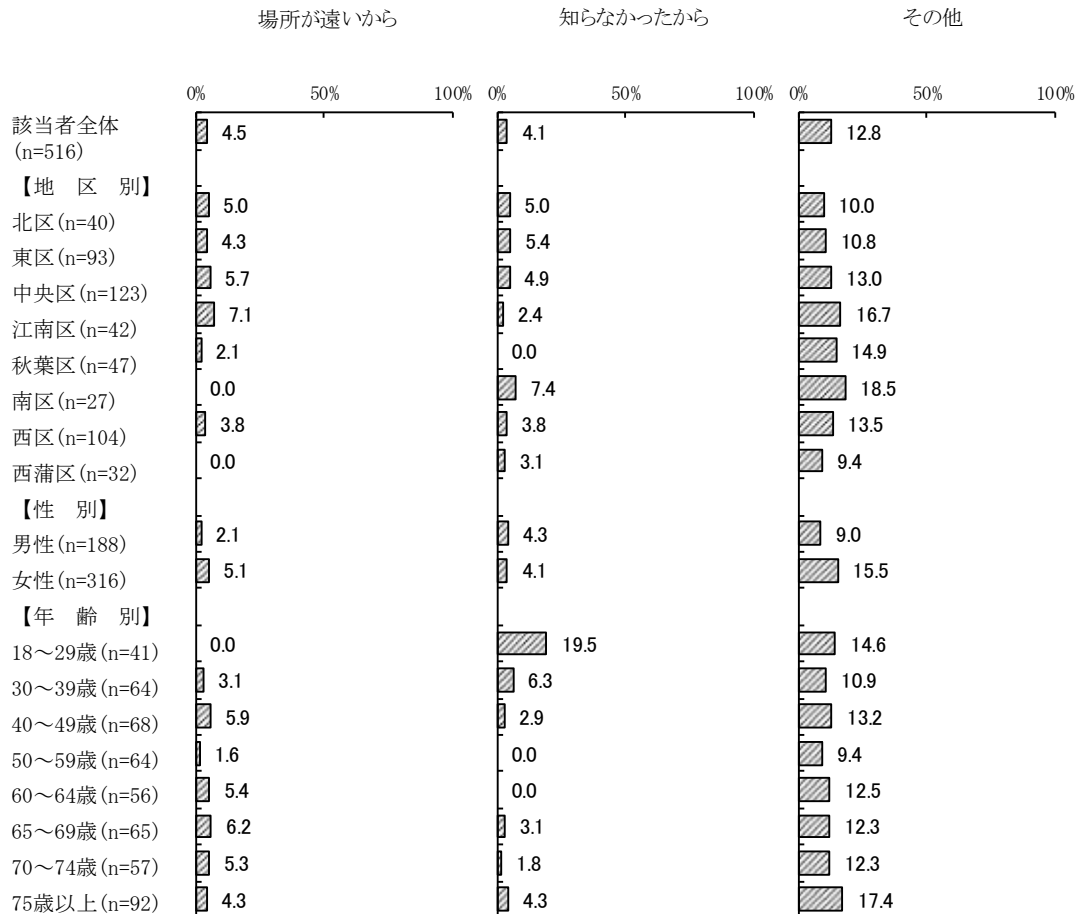
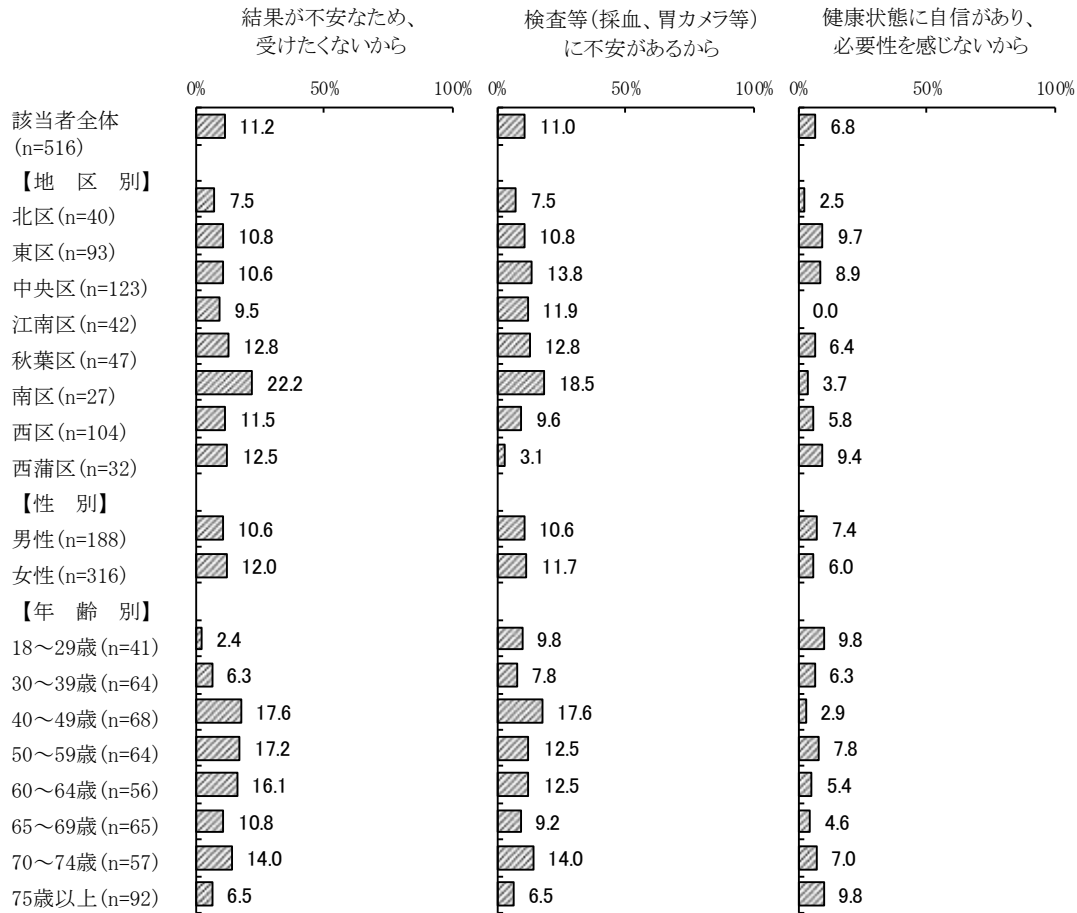
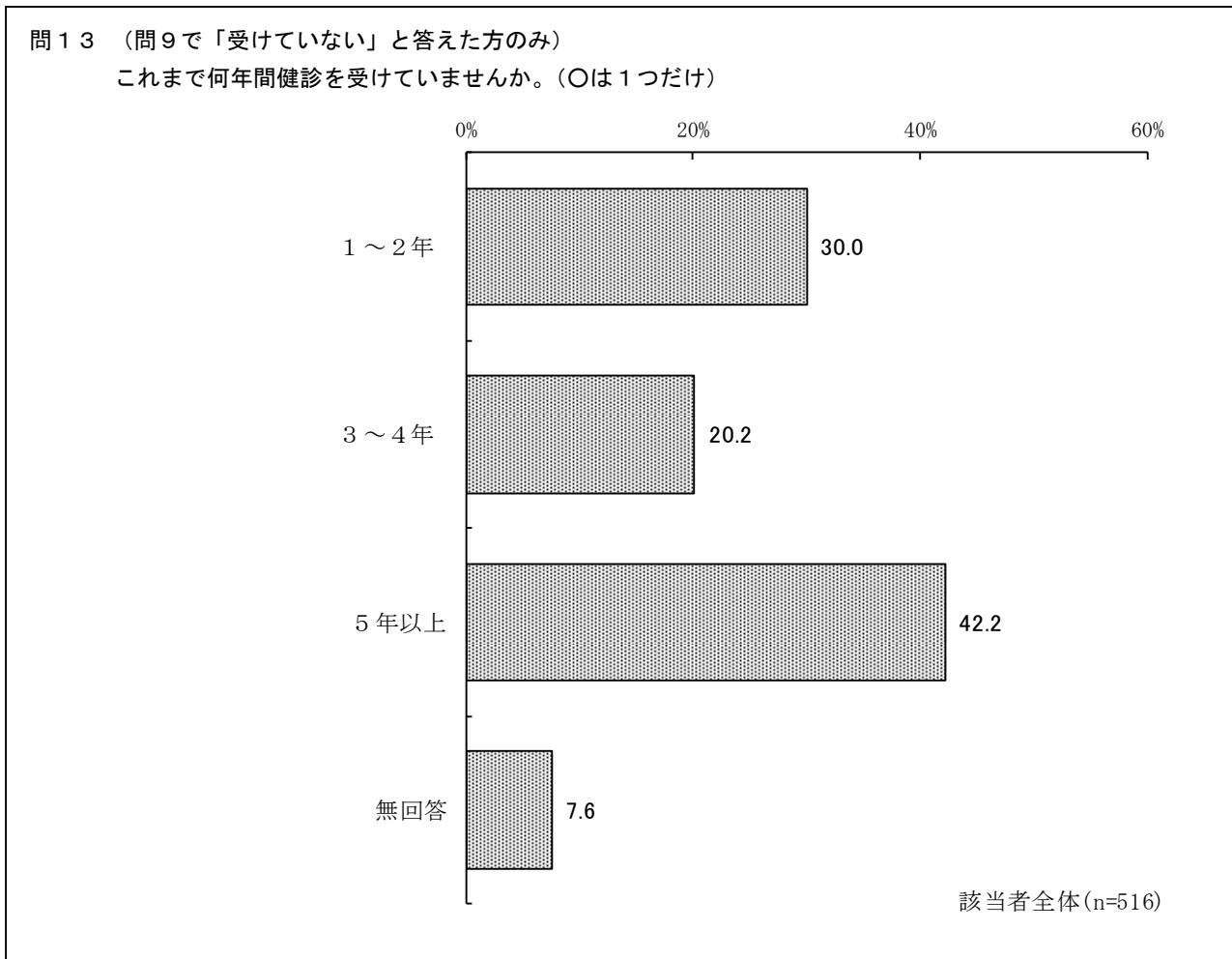


図 2-7 健診を受けなかった理由（地区別／性別／年齢別） 2/2



(8) 健診を受けていない期間



「5年以上」健診を「受けていない」が最も多い

問9で「2」（受けていない）を回答した516人への質問である。

【全体結果】

健診を受けていない期間については、「5年以上」（42.2%）の割合が最も高くなっている。以下、「1～2年」（30.0%）、「3～4年」（20.2%）が続いている。

【属性別結果】（図2-3参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「5年以上」については、東区（50.5%）の割合が最も高く、約5割となっている。また、「1～2年」の割合は西蒲区（37.5%）で高くなっている。

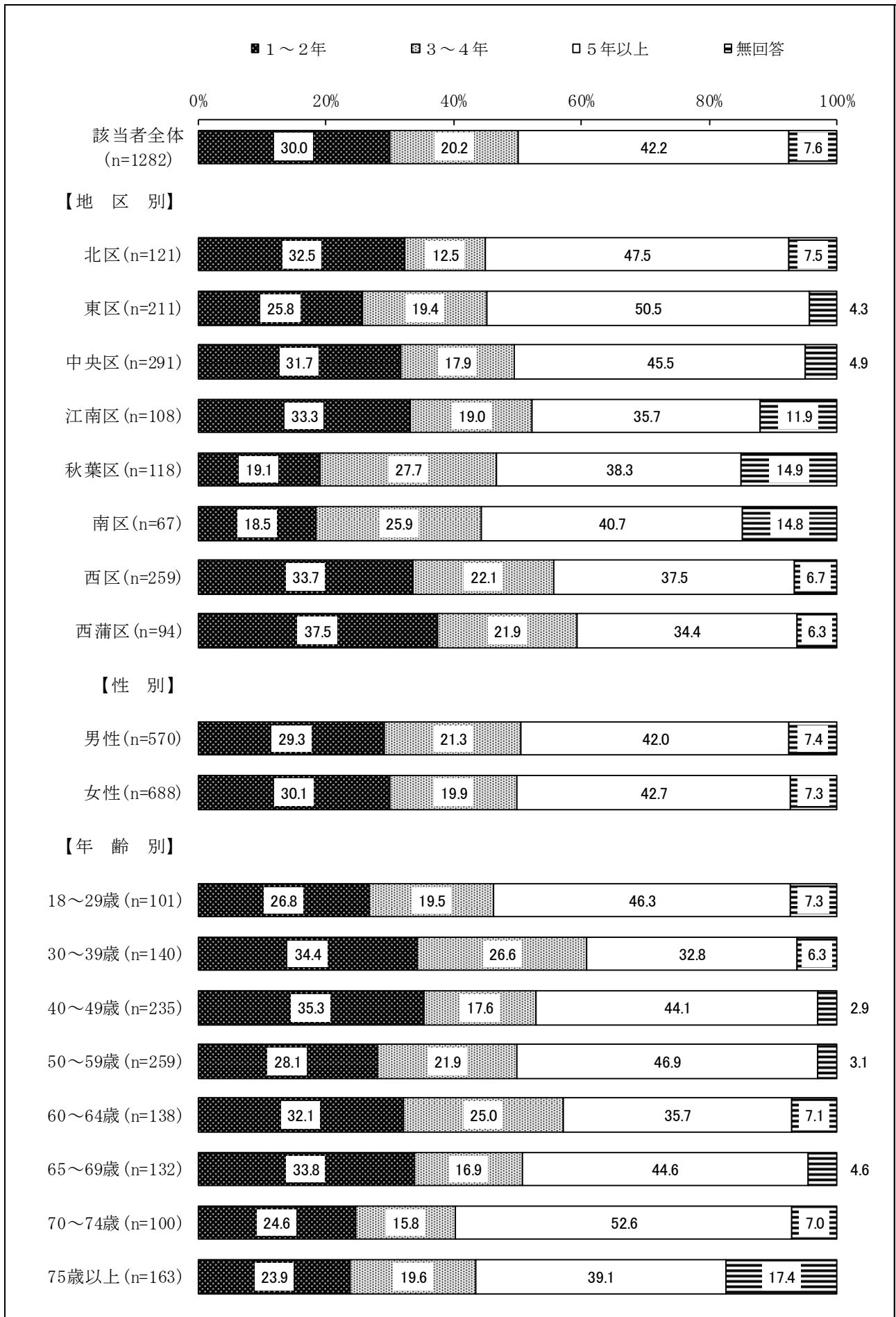
② 性別

性別では、大きな差は見られない。

③ 年齢別

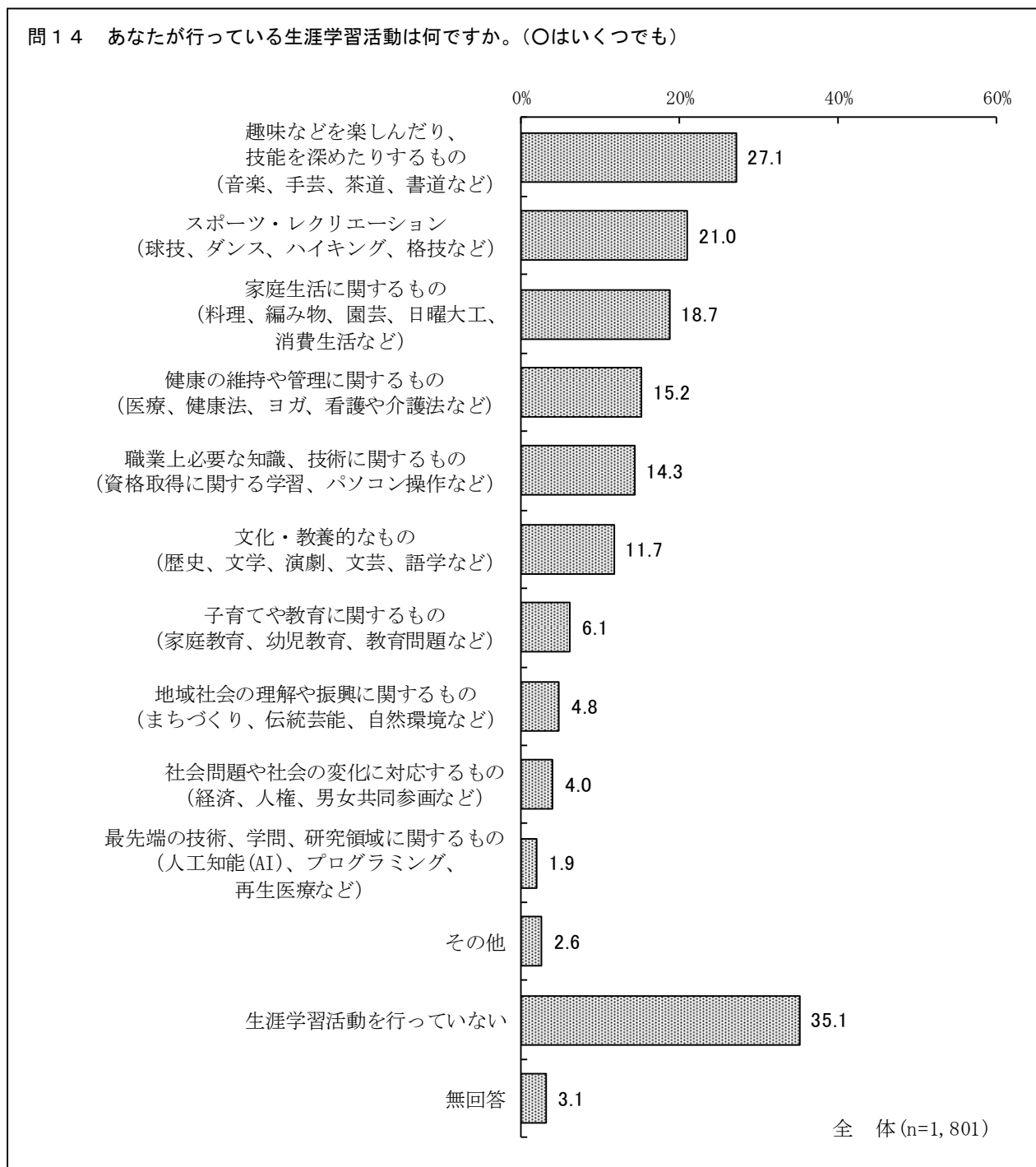
「5年以上」の割合は、70～74歳（52.6%）の割合が最も高くなっている。

図 2-8 健診を受けていない期間（地区別／性別／年齢別）



3. 生涯を通じた学習について

(1) 行っている生涯学習活動



「趣味などを楽しんだり、技能を深めたりするもの」が最も多い

【全体結果】

行っている生涯学習活動については、「趣味などを楽しんだり、技能を深めたりするもの(音楽、手芸、茶道、書道など)」(27.1%)の割合が最も高くなっている。以下、「スポーツ・レクリエーション(球技、ダンス、ハイキング、格技など)」(21.0%)、「家庭生活に関するもの(料理、編み物、園芸、日曜大工、消費生活など)」(18.7%)、「健康の維持や管理に関するもの(医療、健康法、ヨガ、看護や介護法など)」(15.2%)が続いている。

【属性別結果】（図 3-1 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「趣味などを楽しんだり、技能を深めたりするもの（音楽、手芸、茶道、書道など）」については、秋葉区（34.5%）の割合が最も高くなっている。

② 性別

「趣味などを楽しんだり、技能を深めたりするもの（音楽、手芸、茶道、書道など）」、「家庭生活に関するもの（料理、編み物、園芸、日曜大工、消費生活など）」、「健康の維持や管理に関するもの（医療、健康法、ヨガ、看護や介護法など）」の割合は、女性（それぞれ 29.3%、21.6%、19.0%）の方が男性（それぞれ 24.1%、14.5%、9.9%）よりも高くなっている。「スポーツ・レクリエーション（球技、ダンス、ハイキング、格技など）」と「職業上必要な知識、技術に関するもの（資格取得に関する学習、パソコン操作など）」の割合は、男性（それぞれ 26.3%、18.6%）が女性（それぞれ 17.2%、11.4%）よりも高くなっている。

③ 年齢別

「スポーツ・レクリエーション（球技、ダンス、ハイキング、格技など）」は 18～29 歳と 70～74 歳（それぞれ 25.4%、26.1%）が、「職業上必要な知識、技術に関するもの（資格取得に関する学習、パソコン操作など）」は 18～29 歳と 30 代（それぞれ 23.2%、24.0%）が、「子育てや教育に関するもの（家庭教育、幼児教育、教育問題など）」は 30 代（17.6%）が、「家庭生活に関するもの（料理、編み物、園芸、日曜大工、消費生活など）」は 70～74 歳と 75 歳以上（それぞれ 25.5%、24.2%）が、それぞれ他年齢層よりも高くなっている。

一方、「生涯学習活動を行っていない」では 40 代（41.6%）と 60～64 歳（42.3%）の割合が高く、4 割を超えている。

図3-1 行っている生涯学習活動（地区別／性別／年齢別） 1/2

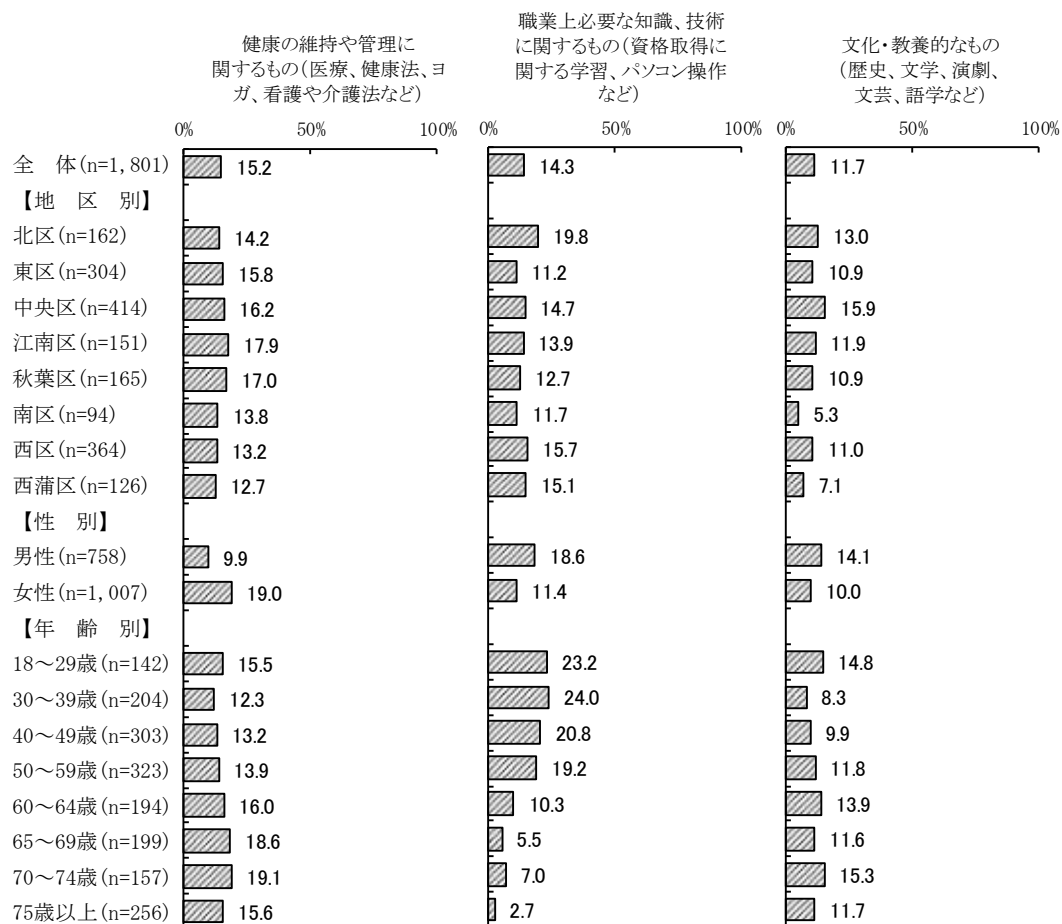
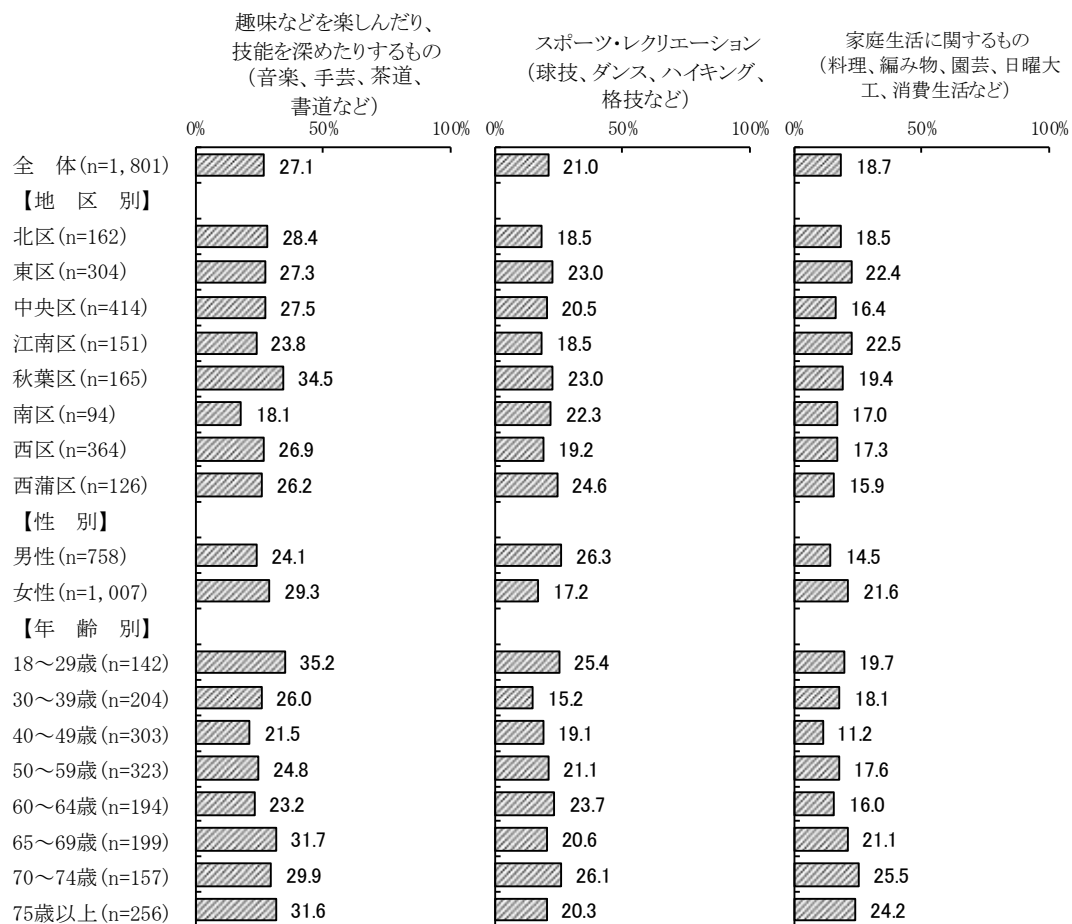
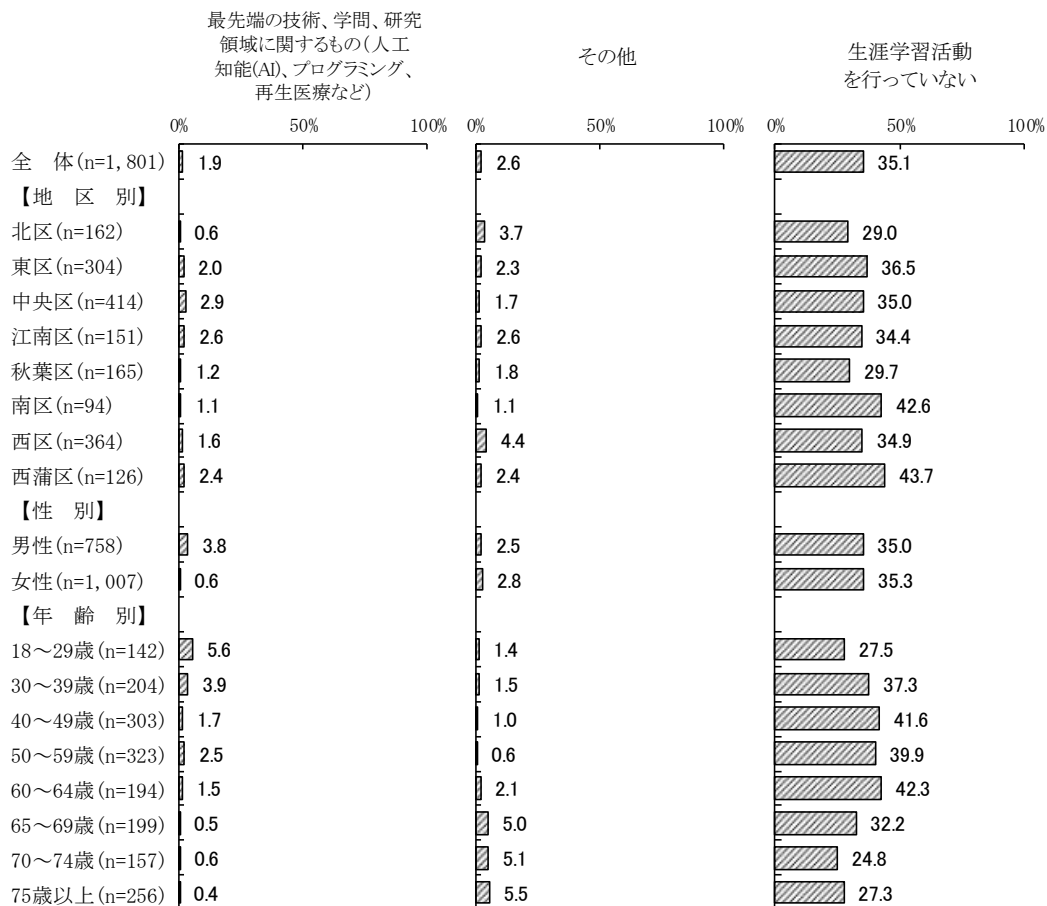
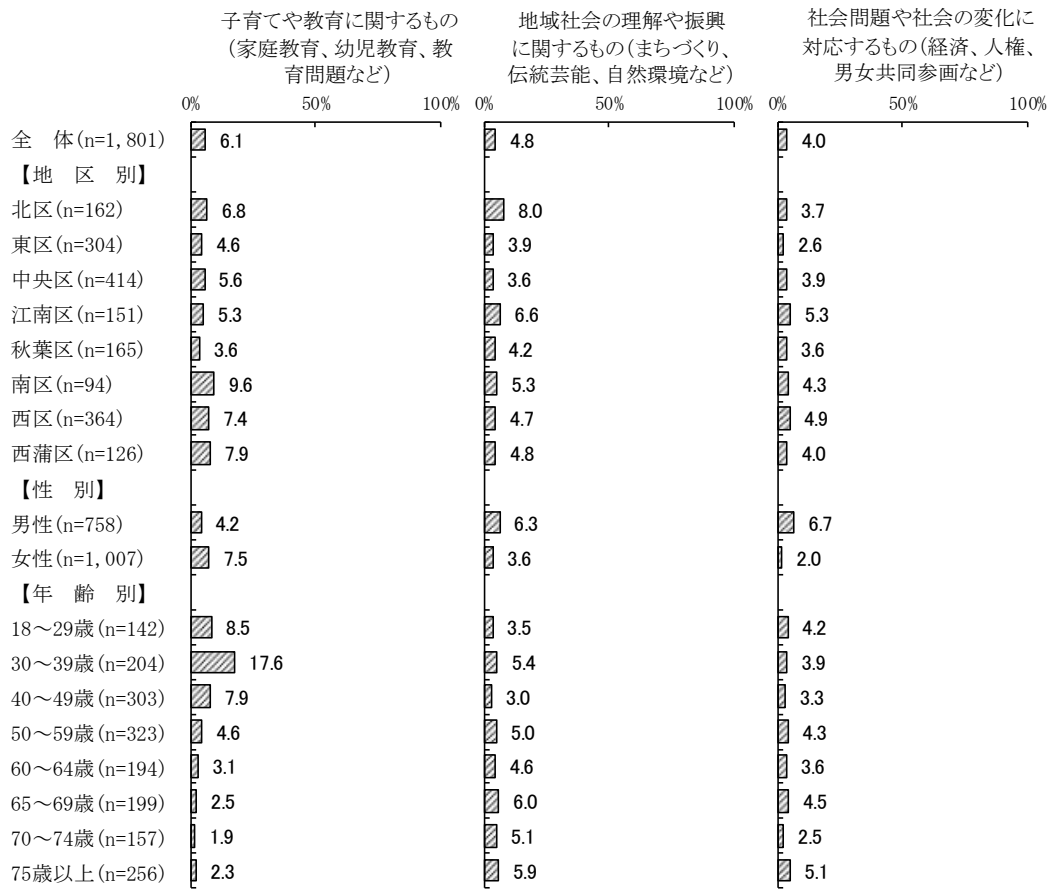
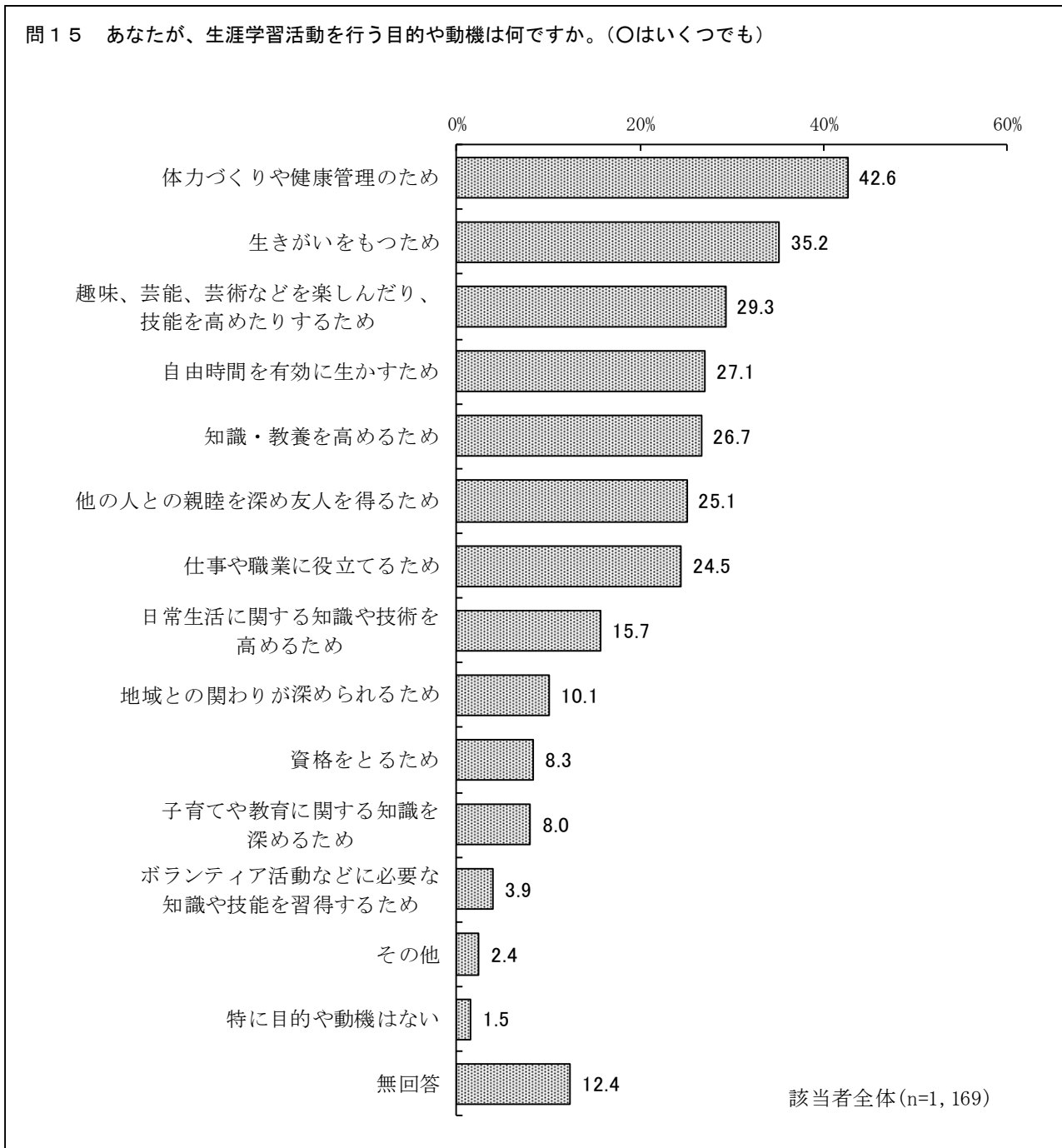


図3-1 行っている生涯学習活動（地区別／性別／年齢別） 2/2



(2) 生涯学習活動を行う目的



「体力づくりや健康管理のため」が最も多い

問14で、いずれかの生涯学習を行っているとは回答した1,169人への質問である。

【全体結果】

生涯学習を行う目的や動機については、「体力づくりや健康管理のため」(42.6%)の割合が最も高い。以下、「生きがいをもつため」(35.2%)が3割台で、「趣味、芸能、芸術などを楽しんだり、技能を高めたりするため」(29.3%)、「自由時間を有効に生かすため」(27.1%)、「知識・教養を高めるため」(26.7%)、「他の人との親睦を深め友人を得るため」(25.1%)、「仕事や職業に役立てるため」(24.5%)が2割台が続いている。

【属性別結果】（図 3-2 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「体力づくりや健康管理のため」については、南区（53.7%）の割合が最も高く、半数以上となっている。

② 性別

「知識・教養を高めるため」と「仕事や職業に役立てるため」の割合は、男性（それぞれ 32.7%、29.6%）の方が女性（それぞれ 22.5%、20.7%）よりも高くなっている。「自由時間を有効に生かすため」、「他の人との親睦を深め友人を得るため」、「子育てや教育に関する知識を深めるため」の割合は、男性（それぞれ 29.4%、28.5%、10.6%）が女性（それぞれ 24.3%、21.3%、4.7%）よりも高くなっている。

③ 年齢別

「自由時間を有効に生かすため」「仕事や職業に役立てるため」「資格をとるため」は 18～29 歳（それぞれ 33.0%、47.6%、20.4%）が、「知識・教養を高めるため」「子育てや教育に関する知識を深めるため」は 30 代（それぞれ 37.5%、26.6%）が、「体力づくりや健康管理のため」は 60～64 歳と 70～74 歳（それぞれ 52.7%、52.5%）が、「生きがいをもつため」は 60～64 歳と 70～74 歳（それぞれ 42.0%、42.4%）が、「趣味、芸能、芸術などを楽しんだり、技能を高めたりするため」は 60～64 歳（35.7%）が、「他の人との親睦を深め友人を得るため」は 65 歳以上が、それぞれ高くなっている。

一方、「特に目的や動機はない」では 30 代（3.9%）の割合がやや高くなっている。

図3-2 生涯学習活動を行う目的（地区別／性別／年齢別） 1/3

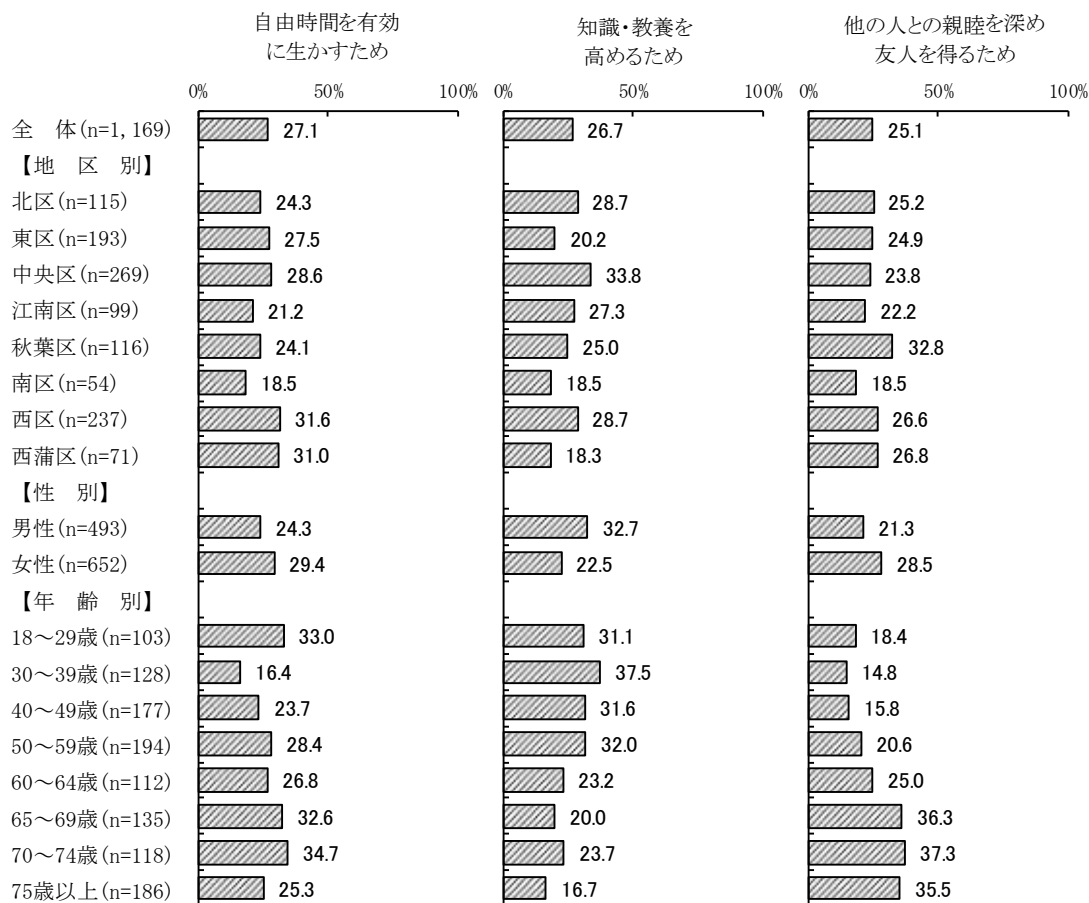
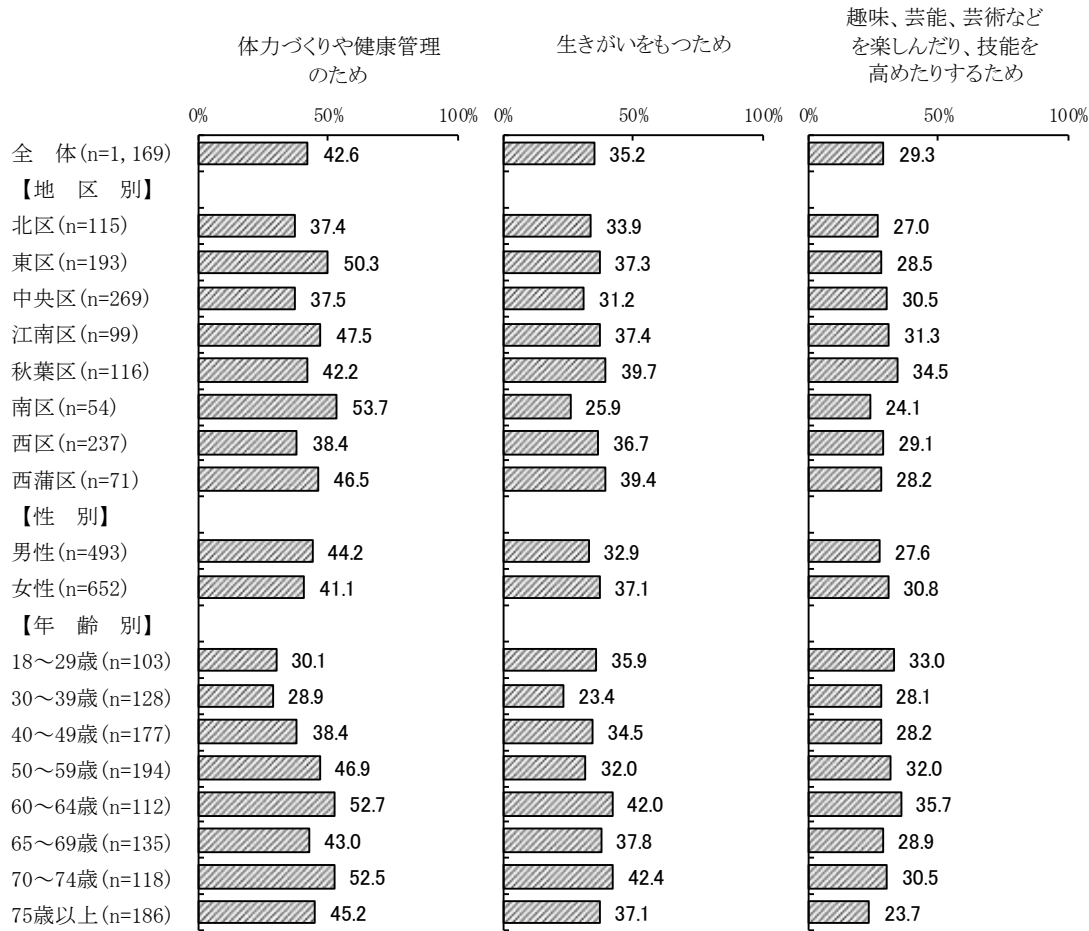


図3-2 生涯学習活動を行う目的（地区別／性別／年齢別） 2/3

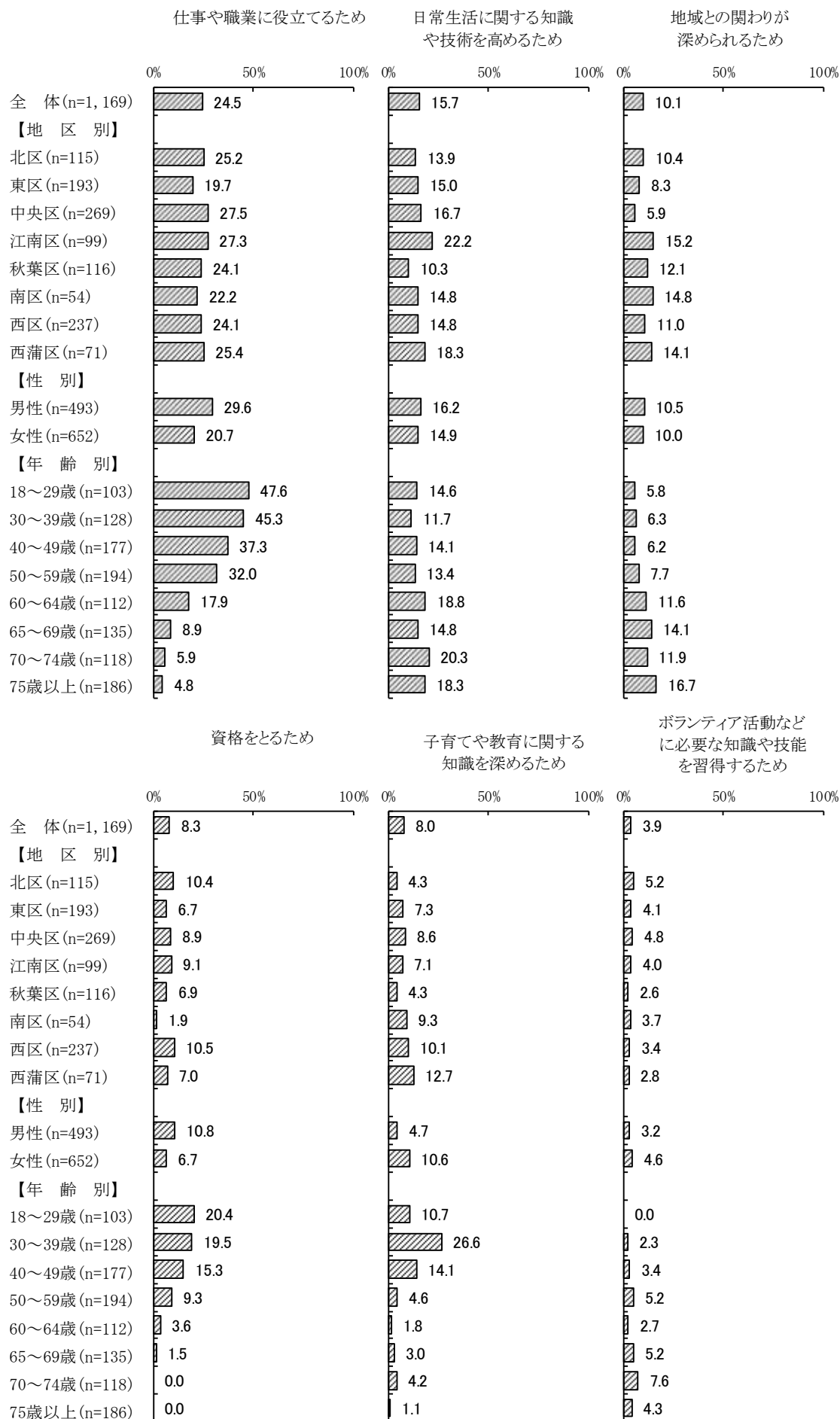
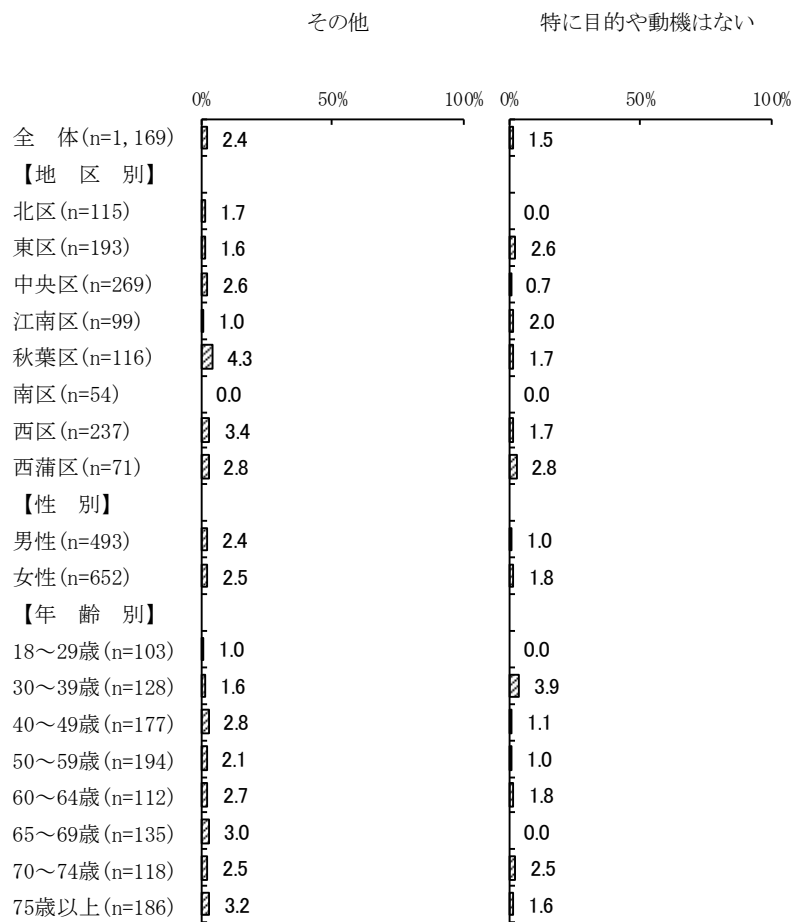
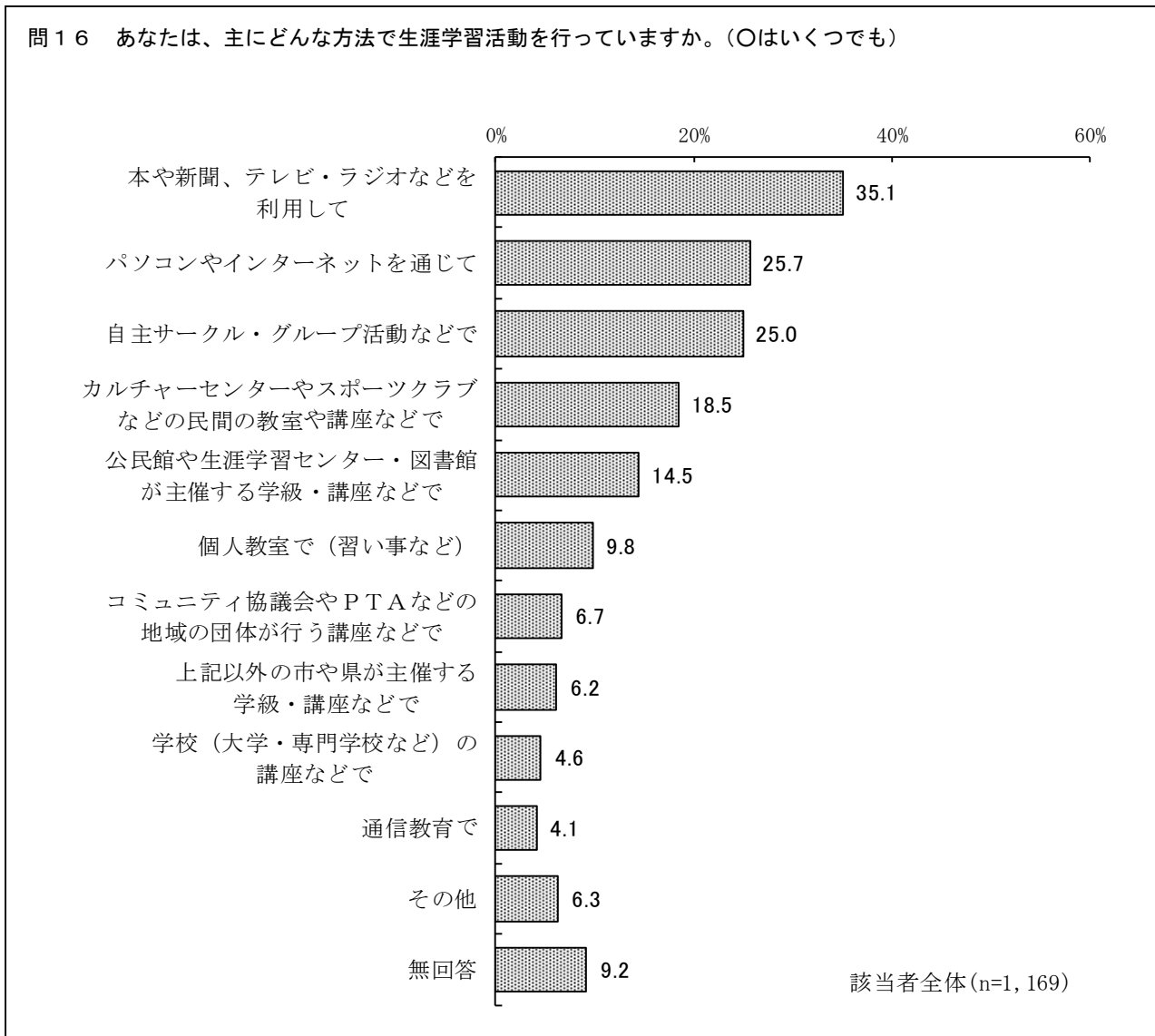


図3-2 生涯学習活動を行う目的（地区別／性別／年齢別） 3/3



(3) 生涯学習活動を行う方法



「本や新聞、テレビ・ラジオなどを利用して」が最も多い

問14で、いずれかの生涯学習を行っているとは回答した1,169人への質問である。

【全体結果】

生涯学習活動を行う方法については、「本や新聞、テレビ・ラジオなどを利用して」(35.1%)の割合が最も高い。以下、「パソコンやインターネットを通じて」(25.7%)、「自主サークル・グループ活動などで」(25.0%)が2割台、「カルチャーセンターやスポーツクラブなどの民間の教室や講座などで」(18.5%)、「公民館や生涯学習センター・図書館が主催する学級・講座などで」(14.5%)が1割台で続いている。

【属性別結果】（図 3-3 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「本や新聞、テレビ・ラジオなどを利用して」については、江南区（38.4%）の割合が最も高くなっている。

② 性別

「本や新聞、テレビ・ラジオなどを利用して」「パソコンやインターネットを通じて」では、男性（それぞれ 40.6%、34.1%）が女性（それぞれ 31.0%、19.8%）を上回っている。「カルチャーセンターやスポーツクラブなどの民間の教室や講座などで」、「公民館や生涯学習センター・図書館が主催する学級・講座などで」、「個人教室で（習い事など）」では、女性（それぞれ 24.2%、17.8%、13.8%）が男性（それぞれ 11.2%、10.3%、4.5%）を上回っている。

③ 年齢別

「学校（大学・専門学校など）の講座などで」は 18～29 歳（19.4%）が、「本や新聞、テレビ・ラジオなどを利用して」「パソコンやインターネットを通じて」は 30 代（それぞれ 39.1%、53.1%）が、「自主サークル・グループ活動などで」「カルチャーセンターやスポーツクラブなどの民間の教室や講座などで」は 60～64 歳（それぞれ 31.3%、30.4%）が、「公民館や生涯学習センター・図書館が主催する学級・講座などで」は 65 歳以上が 2 割台、それぞれ高くなっている。

図3-3 生涯学習活動を行う方法（地区別／性別／年齢別） 1/2

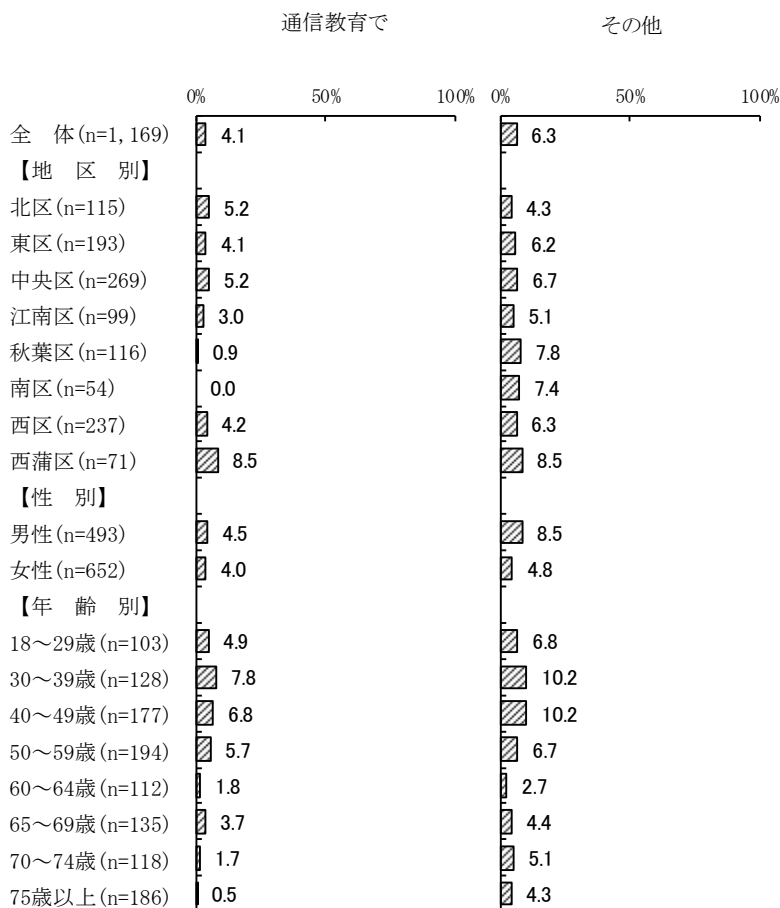
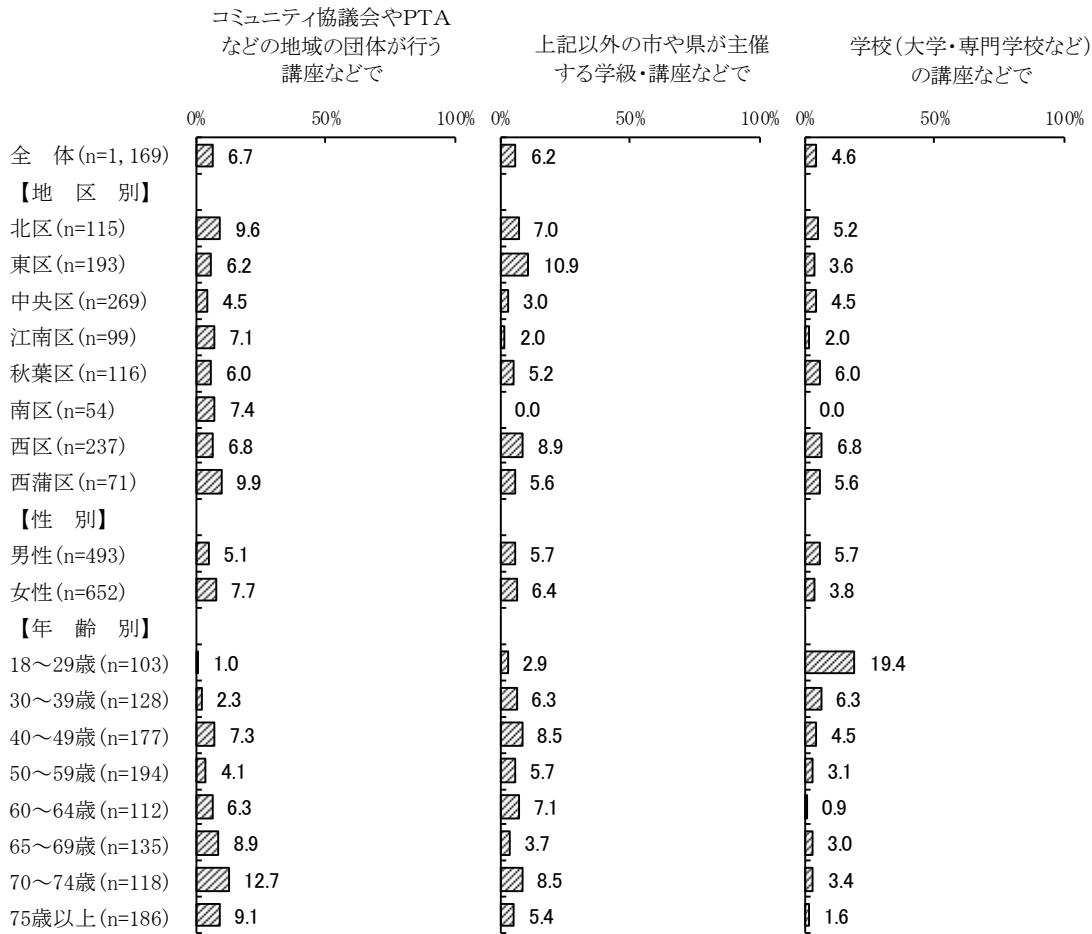
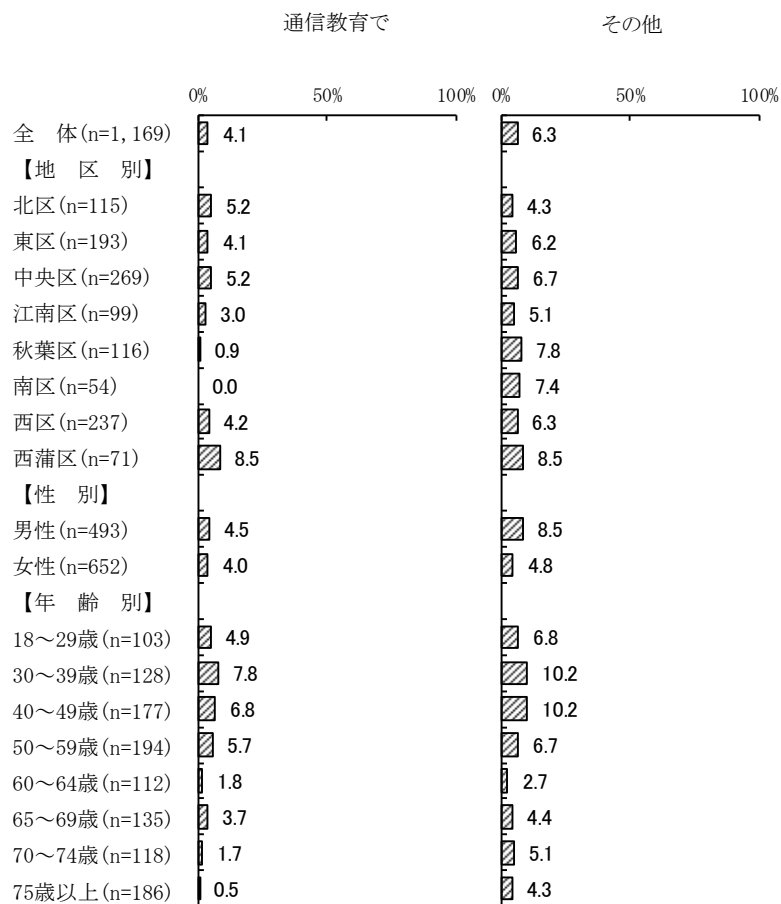
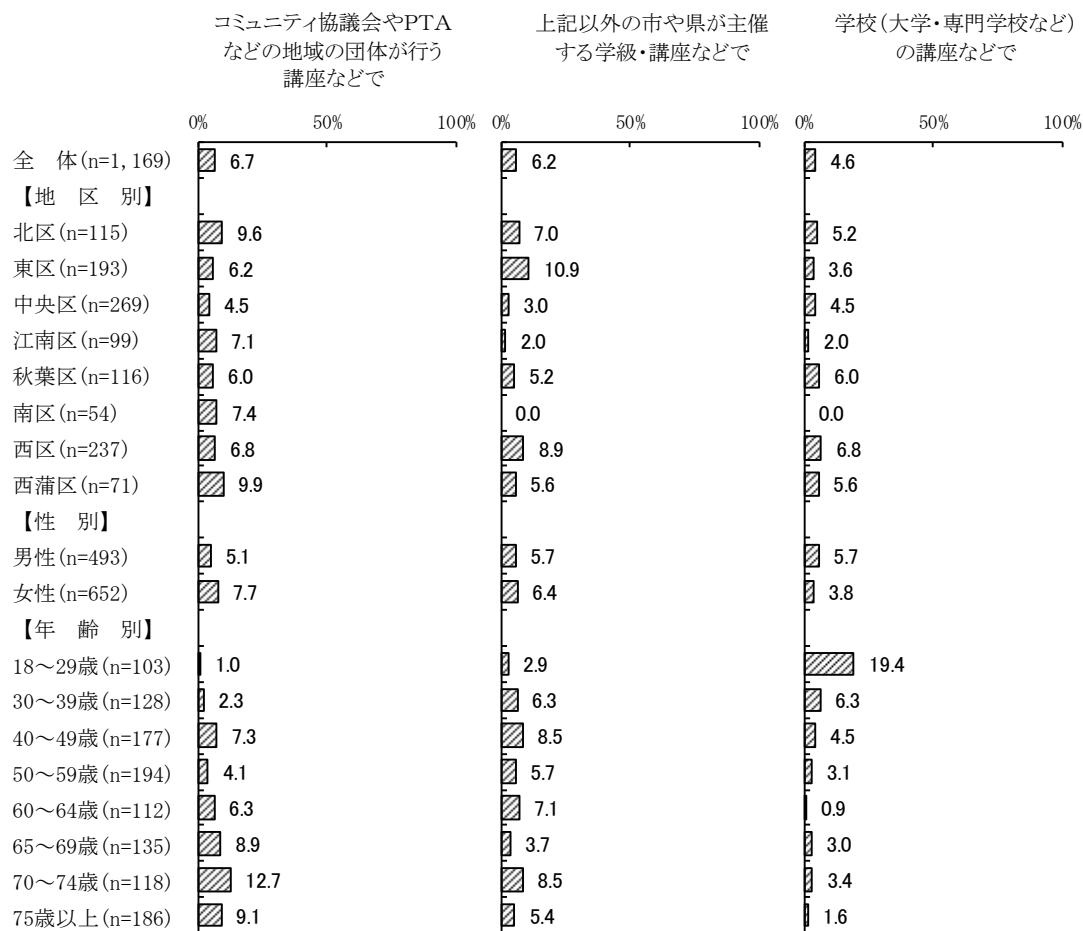
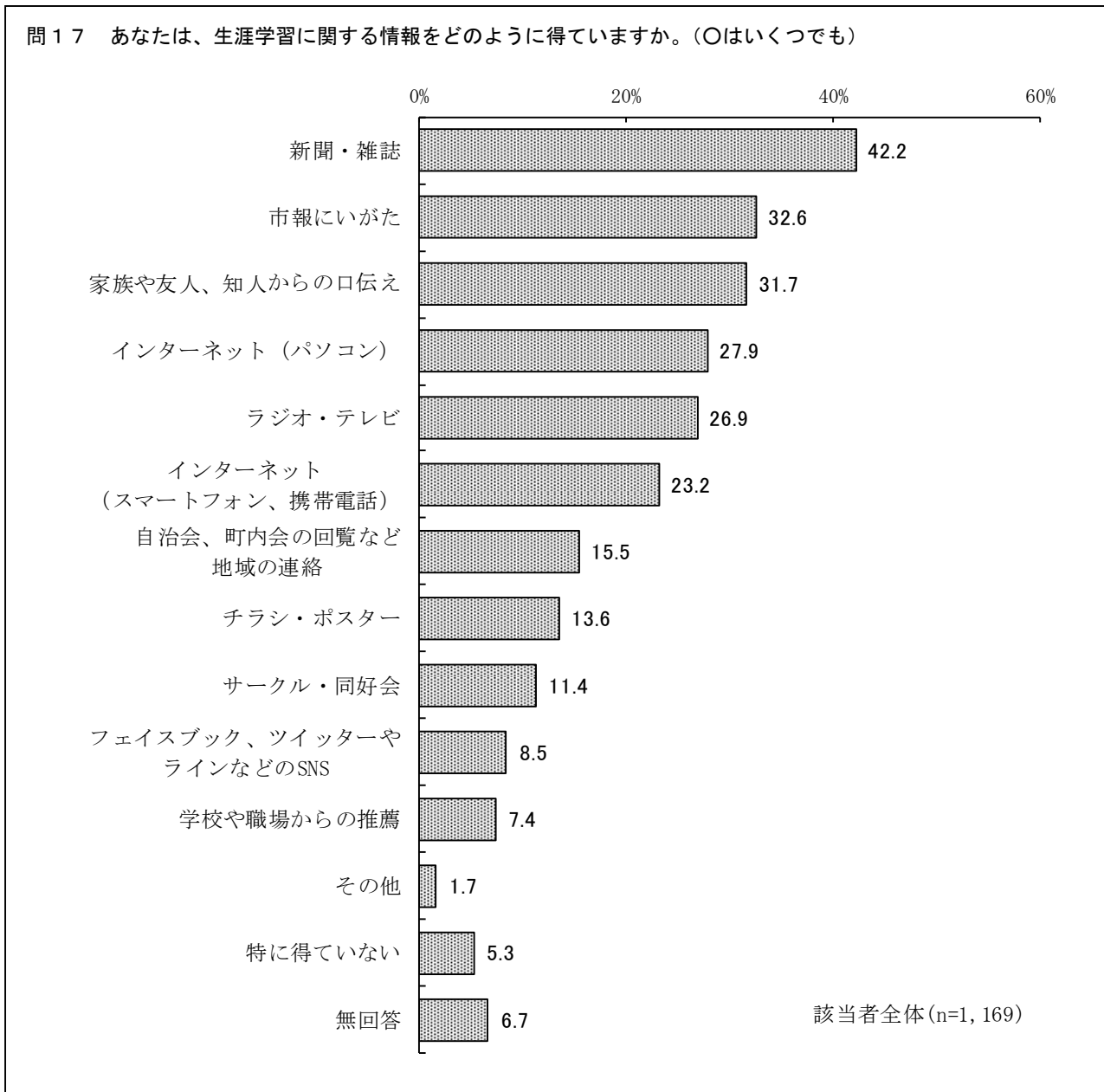


図3-3 生涯学習活動を行う方法（地区別／性別／年齢別） 2/2



(4) 生涯学習に関する情報の入手方法



「新聞・雑誌」と回答が最も多い

問14で、いずれかの生涯学習を行っているとは回答した1,169人への質問である。

【全体結果】

生涯学習に関する情報の入手方法については、「新聞・雑誌」(42.2%)の割合が最も高く、4割を超えている。次いで、「市報にいがた」(32.6%)、「家族や友人、知人からの口伝え」(31.7%)が3割台、「インターネット(パソコン)」(27.9%)、「ラジオ・テレビ」(26.9%)、「インターネット(スマートフォン、携帯電話)」(23.2%)が2割台が続いている。

【属性別結果】（図 3-4 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「新聞・雑誌」については、中央区（45.0%）の割合が最も高くなっている。

② 性別

「市報にいがた」「家族や友人、知人からの口伝え」「チラシ・ポスター」では、女性（それぞれ 39.3%、37.3%、16.6%）が男性（24.1%、24.5%、9.7%）を上回っている。「インターネット（スマートフォン、携帯電話）」では、男性（37.9%）が女性（20.2%）を大きく上回っている。

③ 年齢別

「インターネット（パソコン）」「インターネット（スマートフォン、携帯電話）」は 40 歳以下が高く、また、「フェイスブック、ツイッターやラインなどの SNS」「学校や職場からの推薦」は 30 歳以下が高く、他年齢層を大きく上回っている。一方、「新聞・雑誌」「市報にいがた」「自治会、町内会の回覧など地域の連絡」は 65 歳以上が、他年齢層よりも高くなっている。

一方、「特に得ていない」では 30 代（9.4%）の割合がやや高くなっている。

図3-4 生涯学習に関する情報の入手方法（地区別／性別／年齢別） 1/3

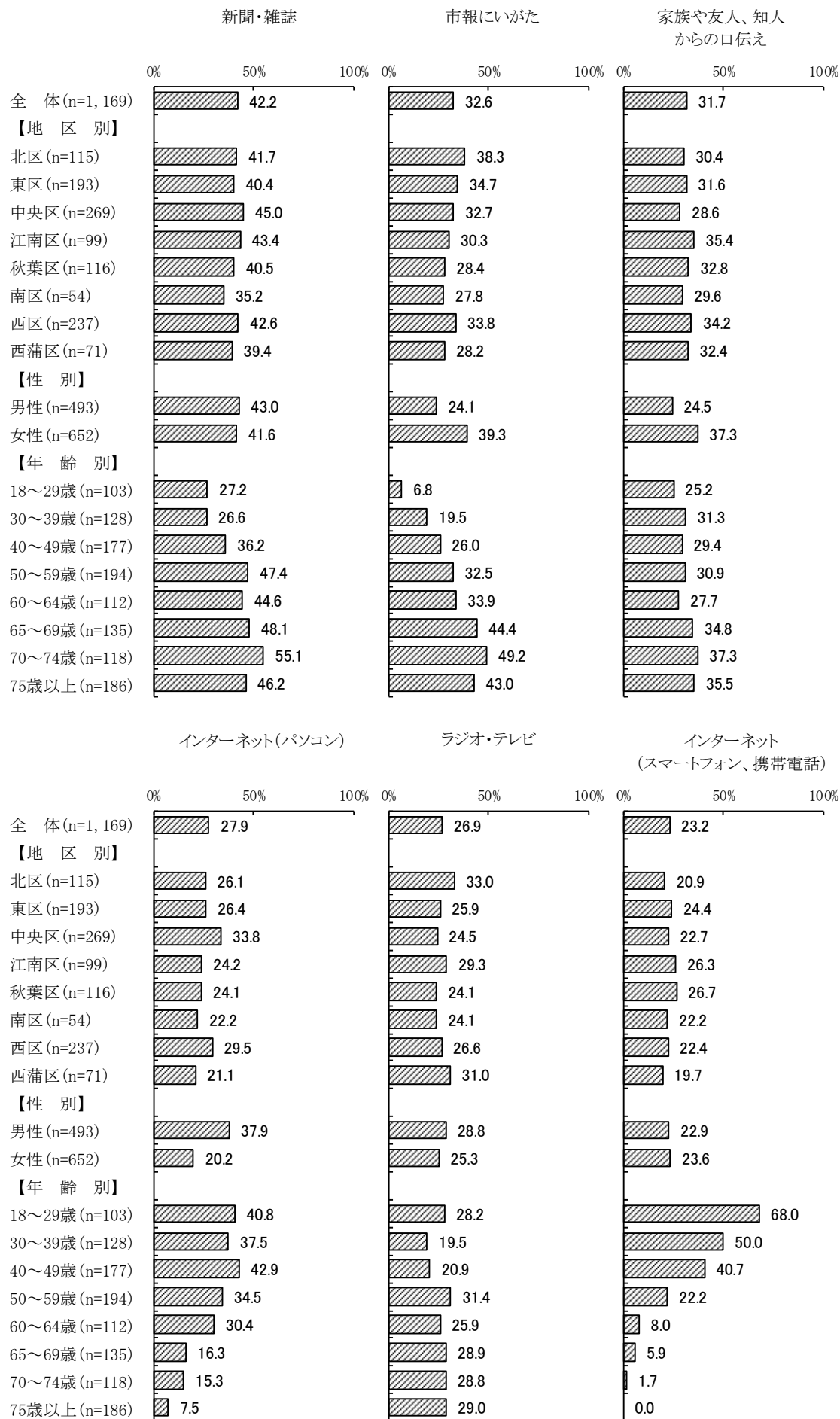
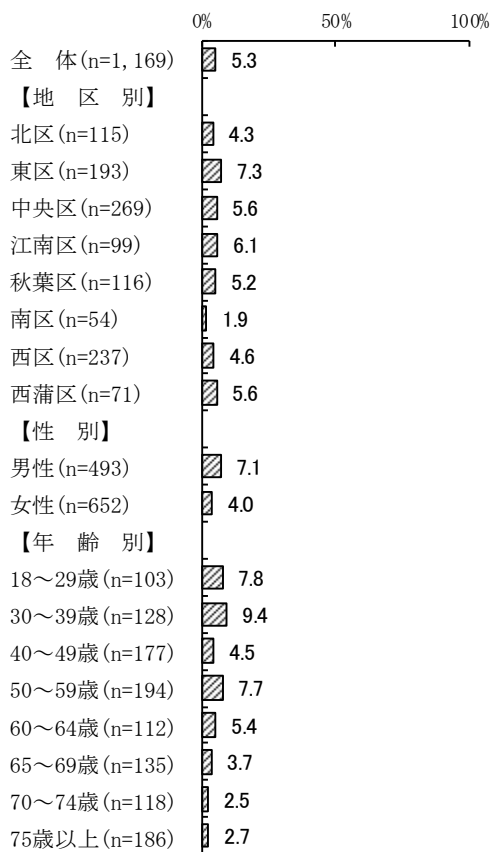


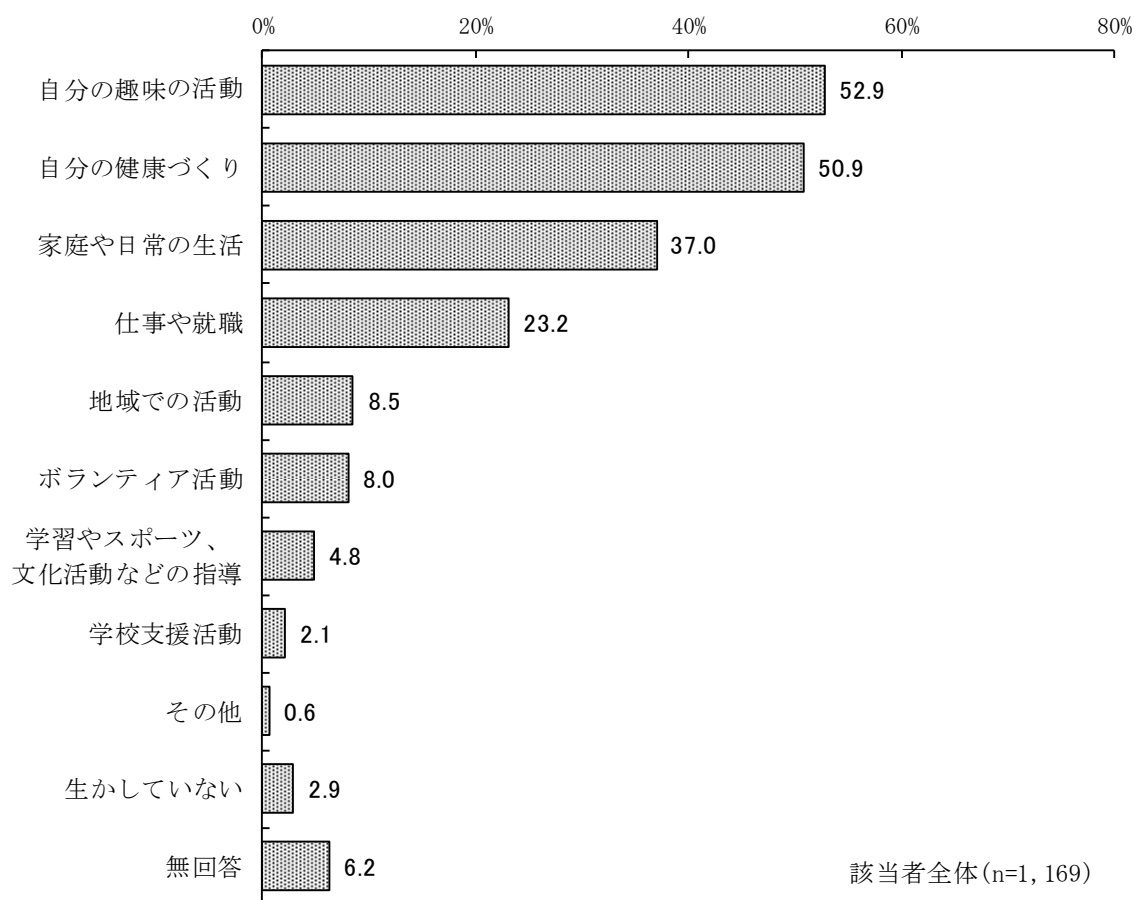
図3-4 生涯学習に関する情報の入手方法（地区別／性別／年齢別） 3/3

特に得ていない



(5) 生涯学習活動で身につけた知識について

問18 あなたは、生涯学習活動で身につけた知識や技能をどのように生かしていますか。
(〇はいくつでも)



— 「自分の趣味の活動」「自分の健康づくり」へ生かしていることが半数以上 —

問14で、いずれかの生涯学習を行っていると回答した1,169人への質問である。

【全体結果】

生涯学習活動で身につけた知識を「自分の趣味の活動」(52.9%)に生かしていることが多く、半数以上となっている。これに「自分の健康づくり」(50.9%)が僅差で続いている。以下、「家庭や日常生活」(37.0%)が3割台、「仕事や就職」(23.2%)が2割台となっている。

【属性別結果】（図 3-5 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「自分の趣味の活動」については、東区（57.5%）の割合が最も高くなっている。また、「自分の健康づくり」では、南区（63.0%）の割合が高く、6割を超えている。

② 性別

「自分の趣味の活動」、「仕事や就職」、「学習やスポーツ、文化活動などの指導」では、いずれも男性（58.4%、28.2%、8.1%）が女性（48.5%、19.6%、2.3%）を上回り、「家庭や日常の生活」と「仕事や就職」では、いずれも女性（53.5%、42.3%）が男性（47.5%、30.2%）を上回っている。

③ 年齢別

「自分の趣味の活動」は18～29歳（68.0%）の割合が最も高く、「仕事や就職」は40代以下が高く、中でも30代（47.7%）では4割台となっている。一方、「自分の健康づくり」の割合は60歳以上が6割を超え、他年齢層を大きく上回っている。

一方、「生かしていない」では30代（5.5%）の割合がやや高くなっている。

図3-5 生涯学習活動で身につけた知識について（地区別／性別／年齢別） 1/2

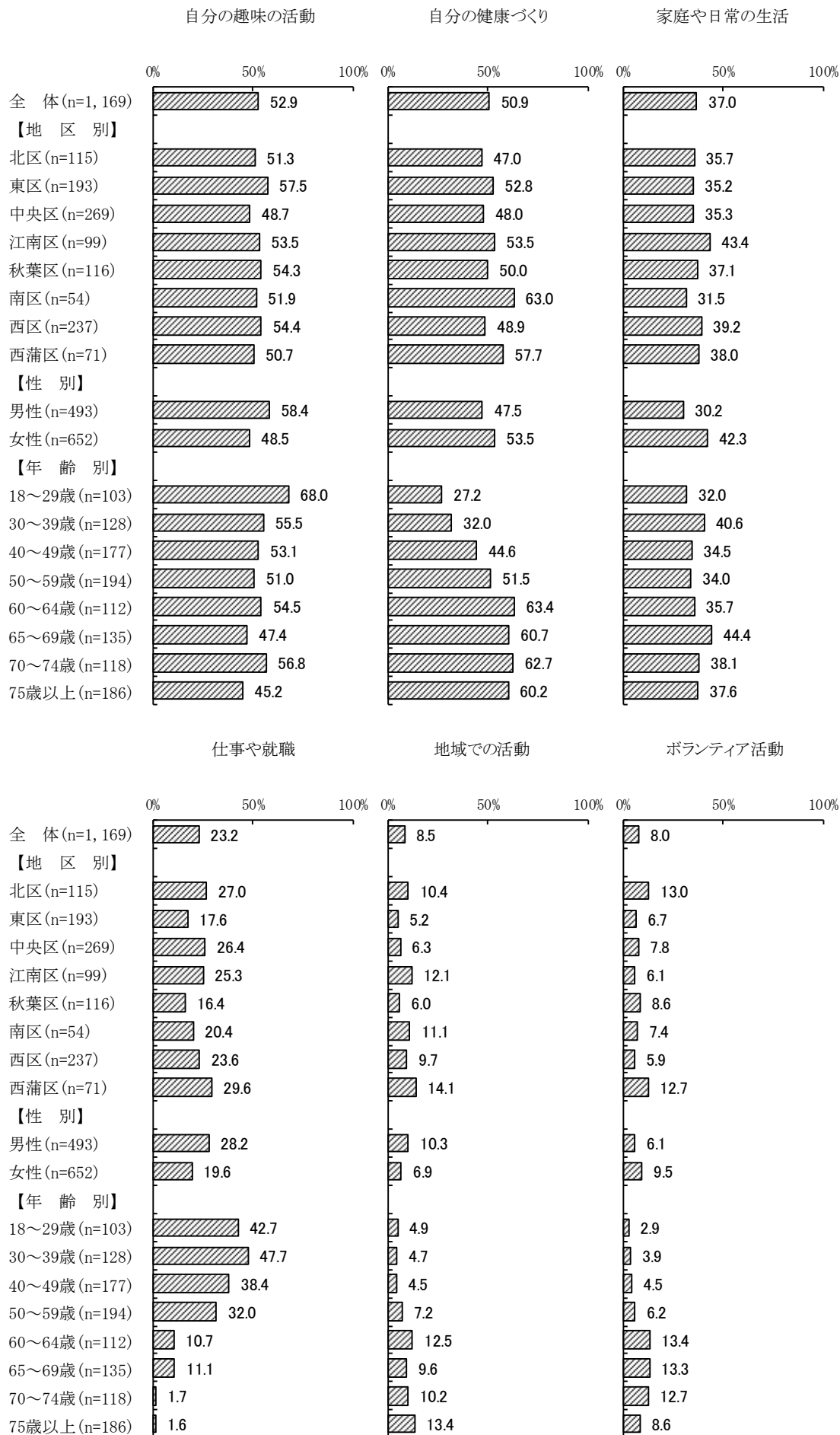
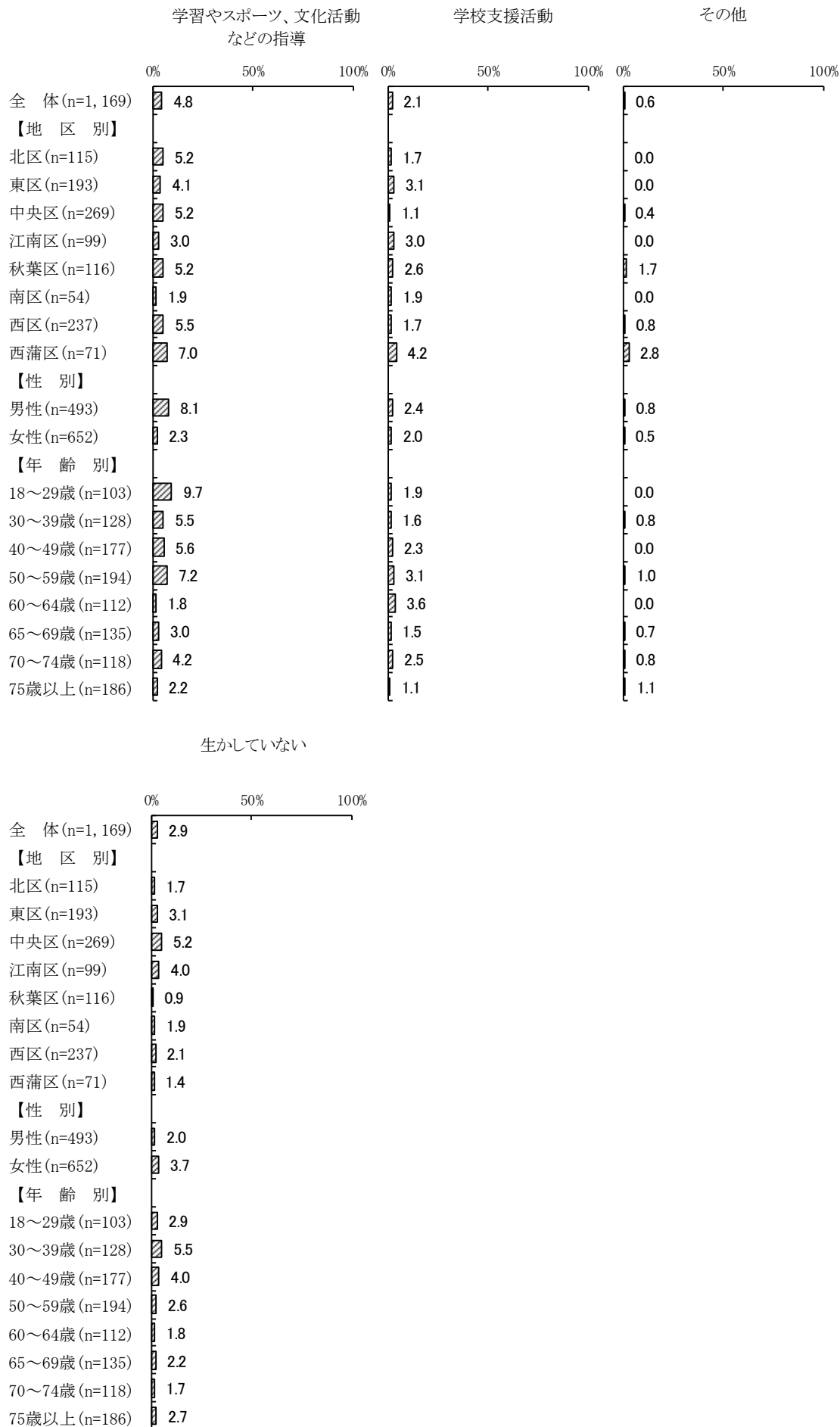
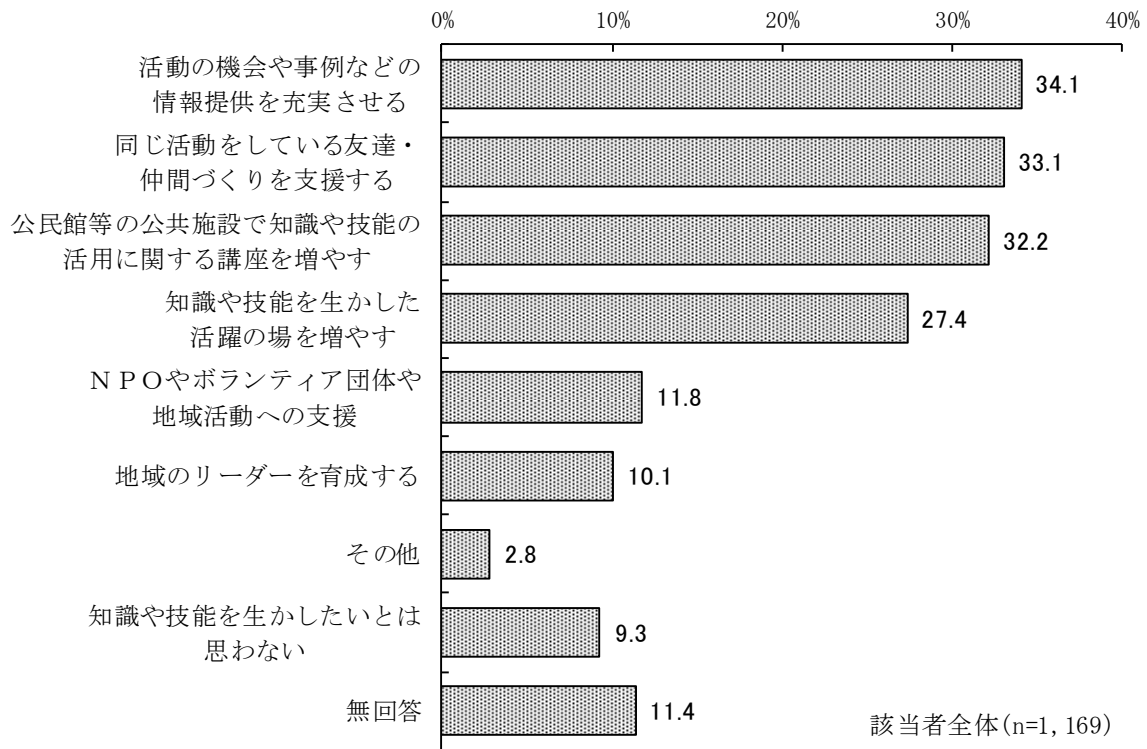


図3-5 生涯学習活動で身につけた知識について（地区別／性別／年齢別） 2/2



(6) 生涯学習で学んだ知識を生かすために、市が力を入れるべきこと

問19 市は、学習成果を生かす循環型生涯学習を推進しており、学習したことや技能を生かす生涯学習ボランティアに関心がある方を対象に、入門講座等を開催しています。あなたがこれまで学んだ知識や技能をボランティア活動・学校支援や地域活動に生かすために、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)



「活動の機会や事例などの情報提供を充実させる」が最も多い

問14で、いずれかの生涯学習を行っているとは回答した1,169人への質問である。

【全体結果】

生涯学習で学んだ知識を生かすために、市が力を入れるべきことについては、「活動の機会や事例などの情報提供を充実させる」(34.1%)の割合が最も高くなっている。以下、「同じ活動をしている友達・仲間づくりを支援する」(33.1%)、「公民館等の公共施設で知識や技能の活用に関する講座を増やす」(32.2%)が3割台、「知識や技能を生かした活躍の場を増やす」(27.4%)が2割台で続いている。

【属性別結果】（図 3-6 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「活動の機会や事例などの情報提供を充実させる」については、中央区（38.7%）の割合が最も高くなっている。

② 性別

「同じ活動をしている友達・仲間づくりを支援する」は男性（37.7%）が女性（29.8%）を上回り、「公民館等の公共施設で知識や技能の活用に関する講座を増やす」では女性（35.9%）が男性（27.4%）を上回っている。

③ 年齢別

「活動の機会や事例などの情報提供を充実させる」は40代以下が高く、4割前後を占めている。「同じ活動をしている友達・仲間づくりを支援する」は30代以下と65～69歳が高く、4割前後を占めている。「知識や技能を生かした活躍の場を増やす」は40代以下が高く、3割台となっている。「公民館等の公共施設で知識や技能の活用に関する講座を増やす」「NPOやボランティア団体や地域活動への支援」は60～64歳（それぞれ41.1%、16.1%）が、「地域のリーダーを育成する」は65～69歳と70～74歳（それぞれ15.6%、15.3%）が、それぞれ高くなっている。

一方、「知識や技能を生かしたいとは思わない」では、60～64歳の割合が最も高くなっている。

図3-6 生涯学習で学んだ知識を生かすために、市が力を入れるべきこと（地区別/性別/年齢別）

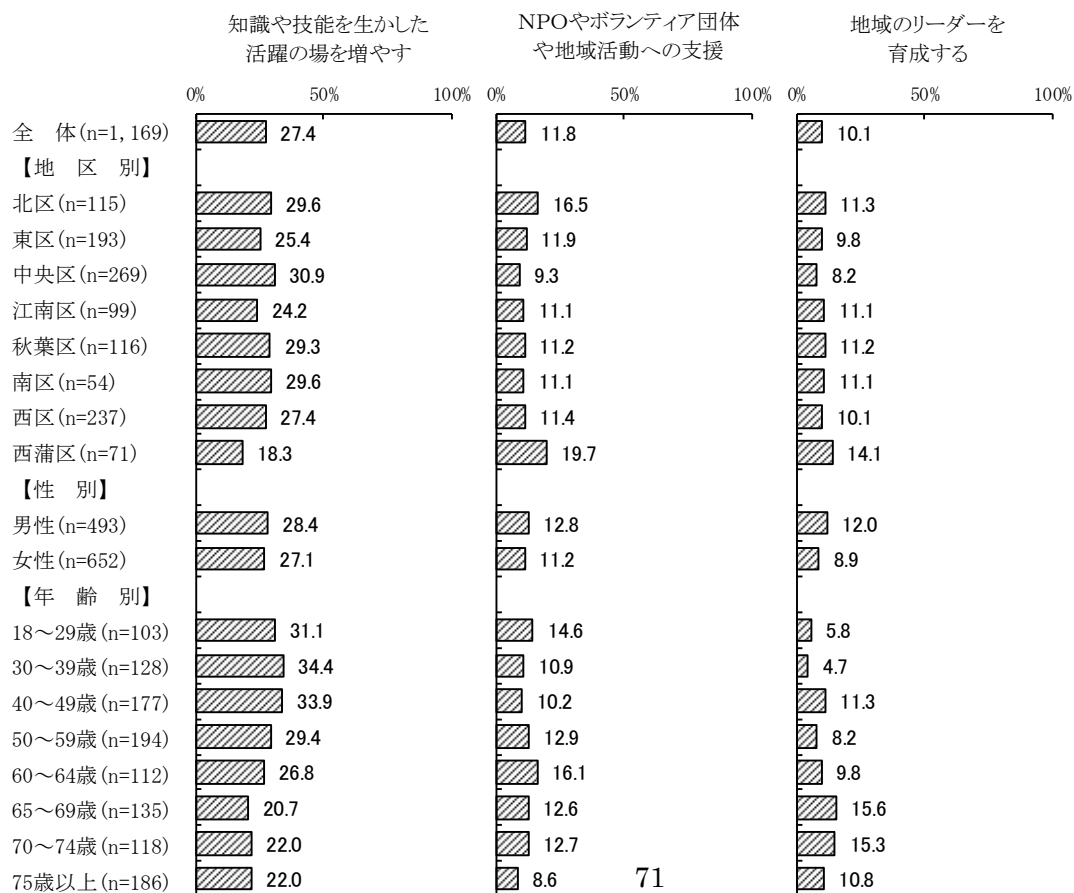
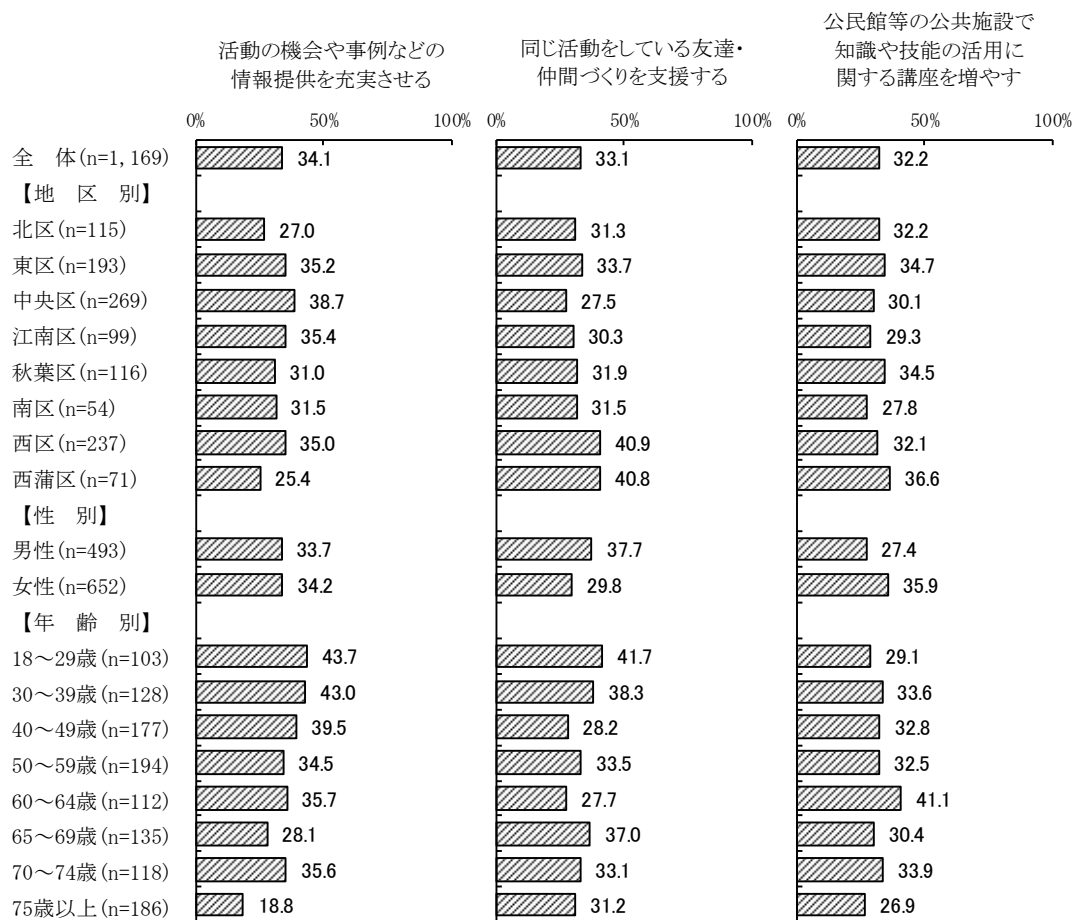
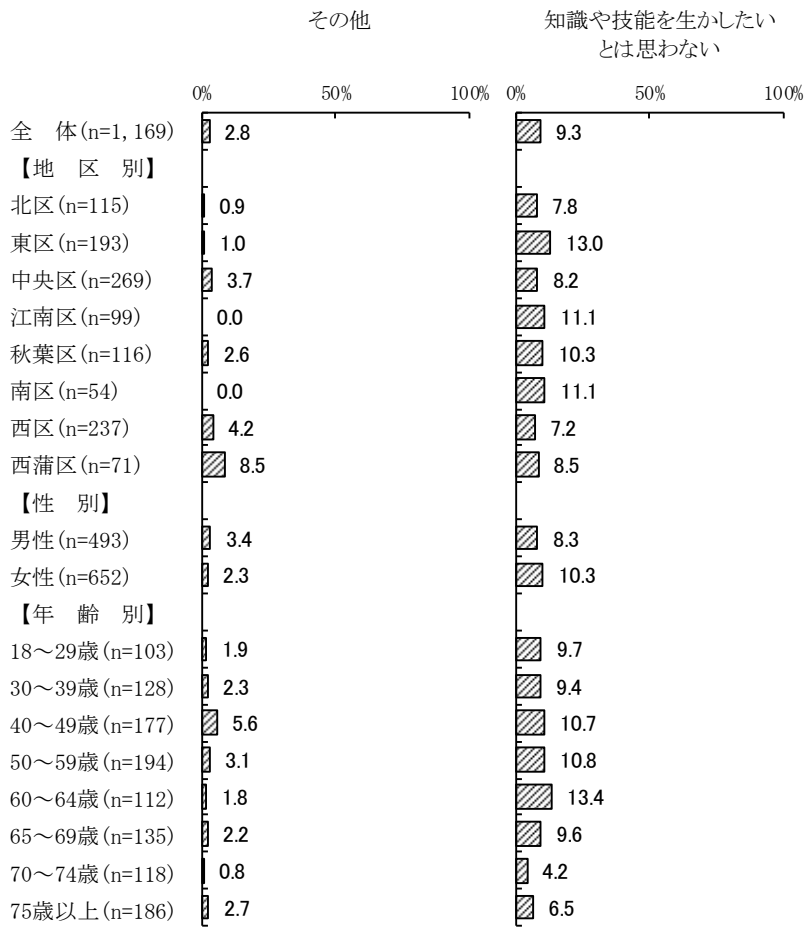


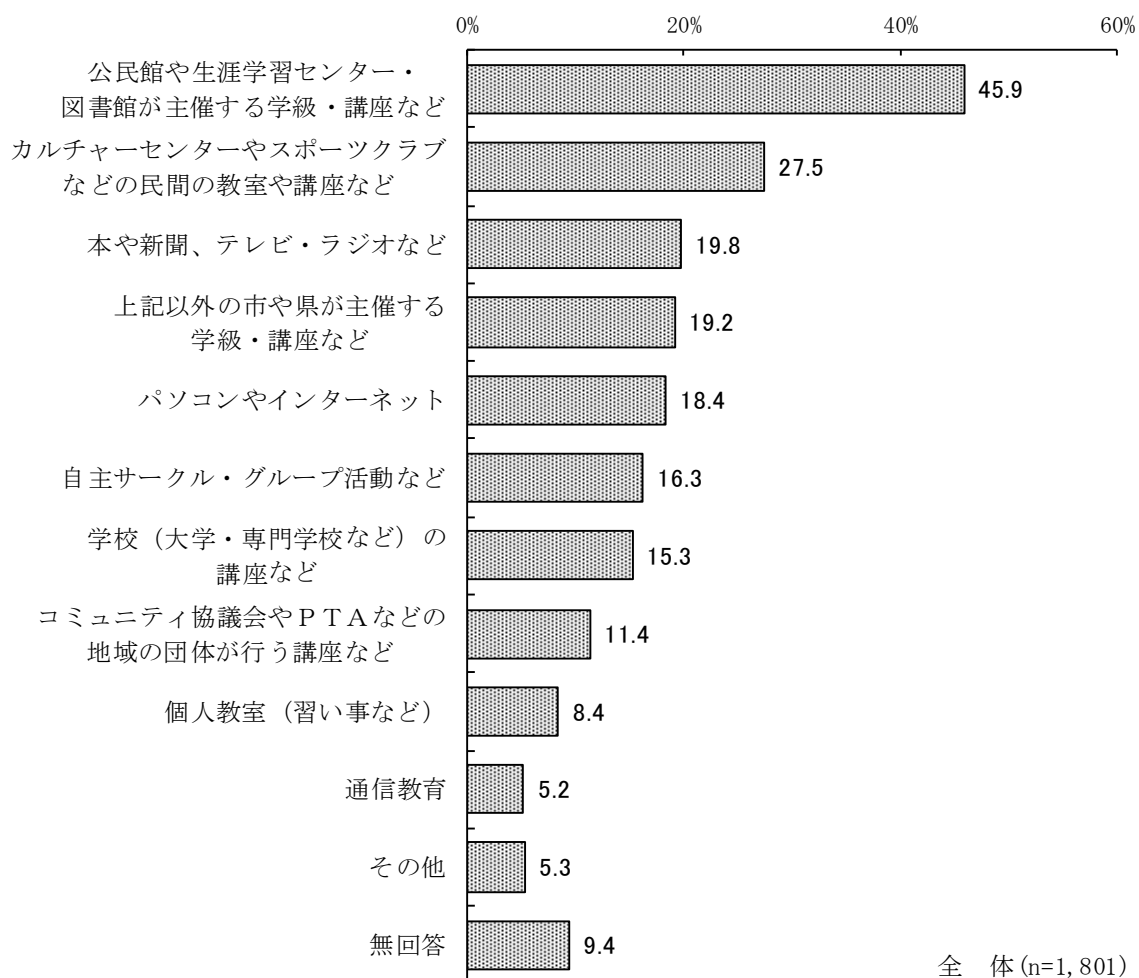
図3-6 生涯学習で学んだ知識を生かすために、市が力を入れるべきこと（地区別／性別／年齢別）



(7) 充実してほしい学習の場や学習方法

問20 新潟市において、どのような学習機会の場や学習方法が充実すればよいと思いますか。

(○はいくつでも)



— 「公民館や生涯学習センター・図書館が主催する学級・講座など」が最も多い —

【全体結果】

新潟市に充実してほしい学習機会の場や学習方法については、「公民館や生涯学習センター・図書館が主催する学級・講座など」(45.9%)の割合が最も高くなっている。以下、「カルチャーセンターやスポーツクラブなどの民間の教室や講座など」(27.5%)が2割台、「本や新聞、テレビ・ラジオなど」(19.8%)、「上記以外の市や県が主催する学級・講座など」(19.2%)、「パソコンやインターネット」(18.4%)、「自主サークル・グループ活動など」(16.3%)、「学校(大学・専門学校など)の講座など」(15.3%)、「コミュニティ協議会やPTAなどの地域の団体が行う講座など」(11.4%)が1割台で続いている。

【属性別結果】（図 3-7 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「公民館や生涯学習センター・図書館が主催する学級・講座など」については、西区（53.6%）の割合が最も高くなっている。

② 性別

「公民館や生涯学習センター・図書館が主催する学級・講座など」「上記以外の市や県が主催する学級・講座など」「個人教室（習い事など）」、いずれも女性が男性を上回っている。

③ 年齢別

「カルチャーセンターやスポーツクラブなどの民間の教室や講座など」「上記以外の市や県が主催する学級・講座など」「パソコンやインターネット」「自主サークル・グループ活動など」「学校（大学・専門学校など）の講座など」は 18～29 歳（それぞれ 38.7%、26.8%、33.1%、20.4%、27.5%）が、「公民館や生涯学習センター・図書館が主催する学級・講座など」は 60～64 歳（54.1%）が、「コミュニティ協議会や P T A などの地域の団体が行う講座など」は 65～69 歳（17.6%）が、「本や新聞、テレビ・ラジオなど」は 70 歳以上が、「個人教室（習い事など）」は 18～29 歳と 75 歳以上（それぞれ 12.7%、12.5%）が、それぞれ高くなっている。

図3-7 充実してほしい学習の場や学習方法（地区別／性別／年齢別） 1/2

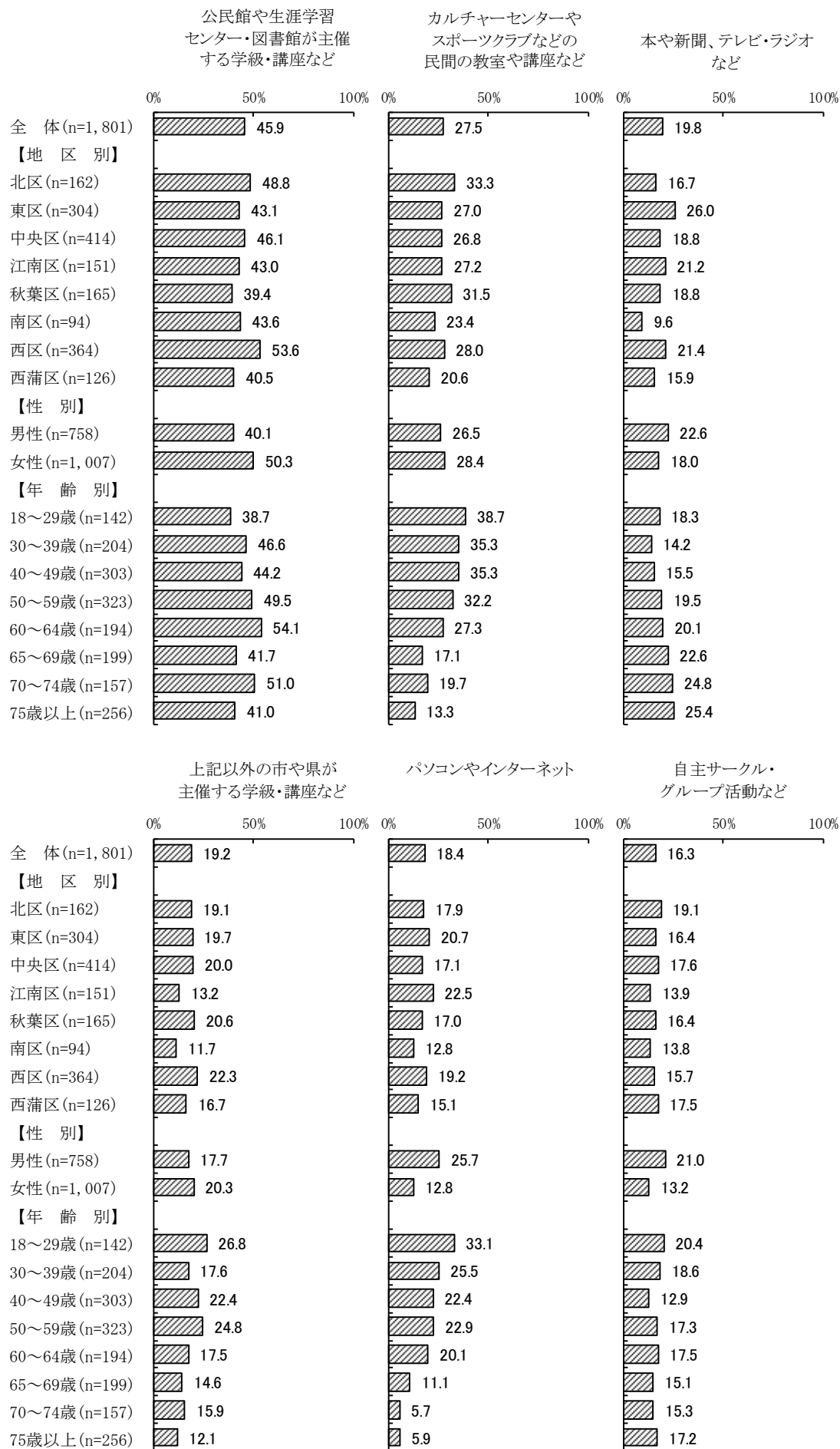
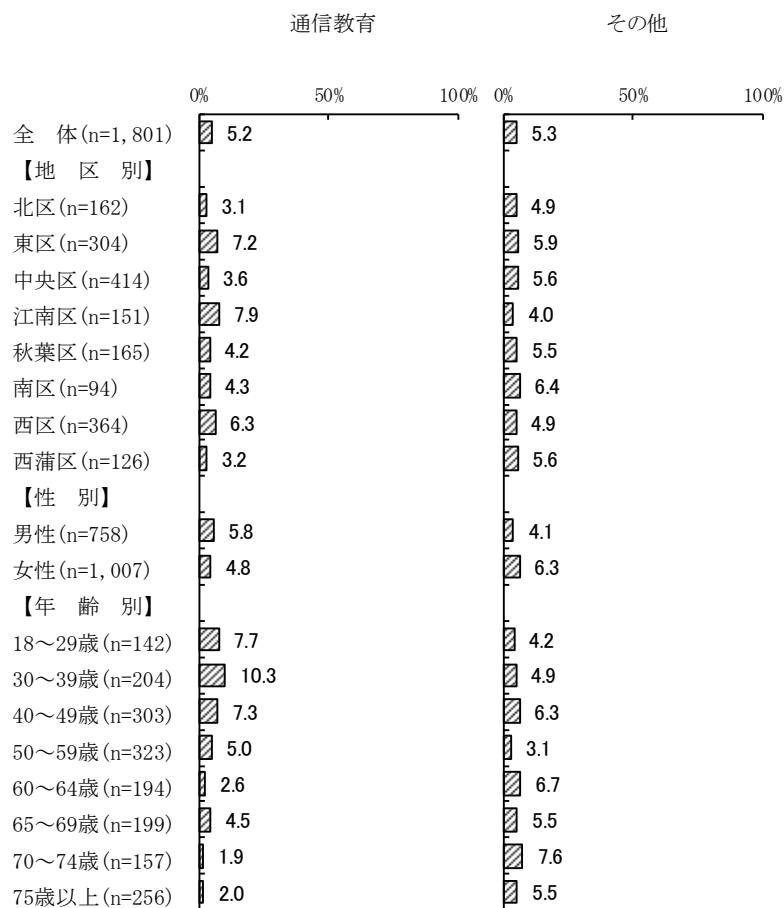
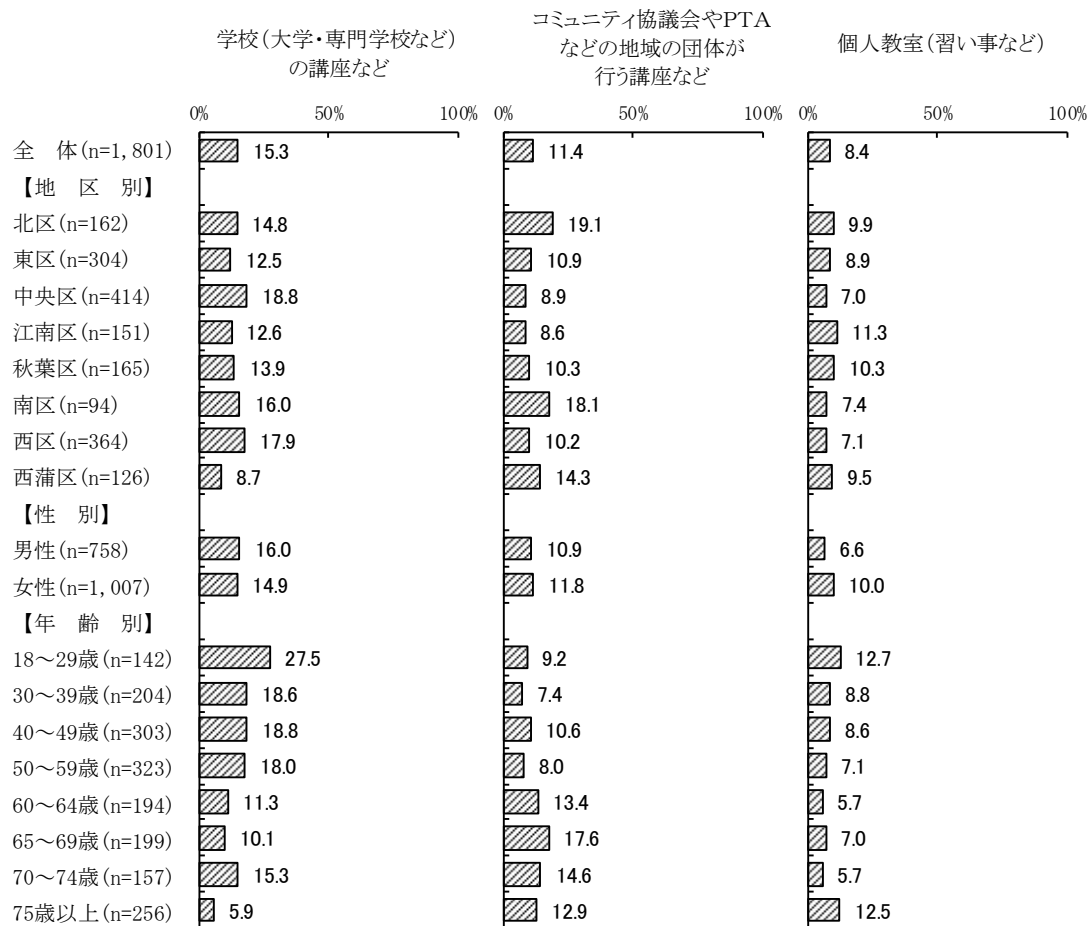
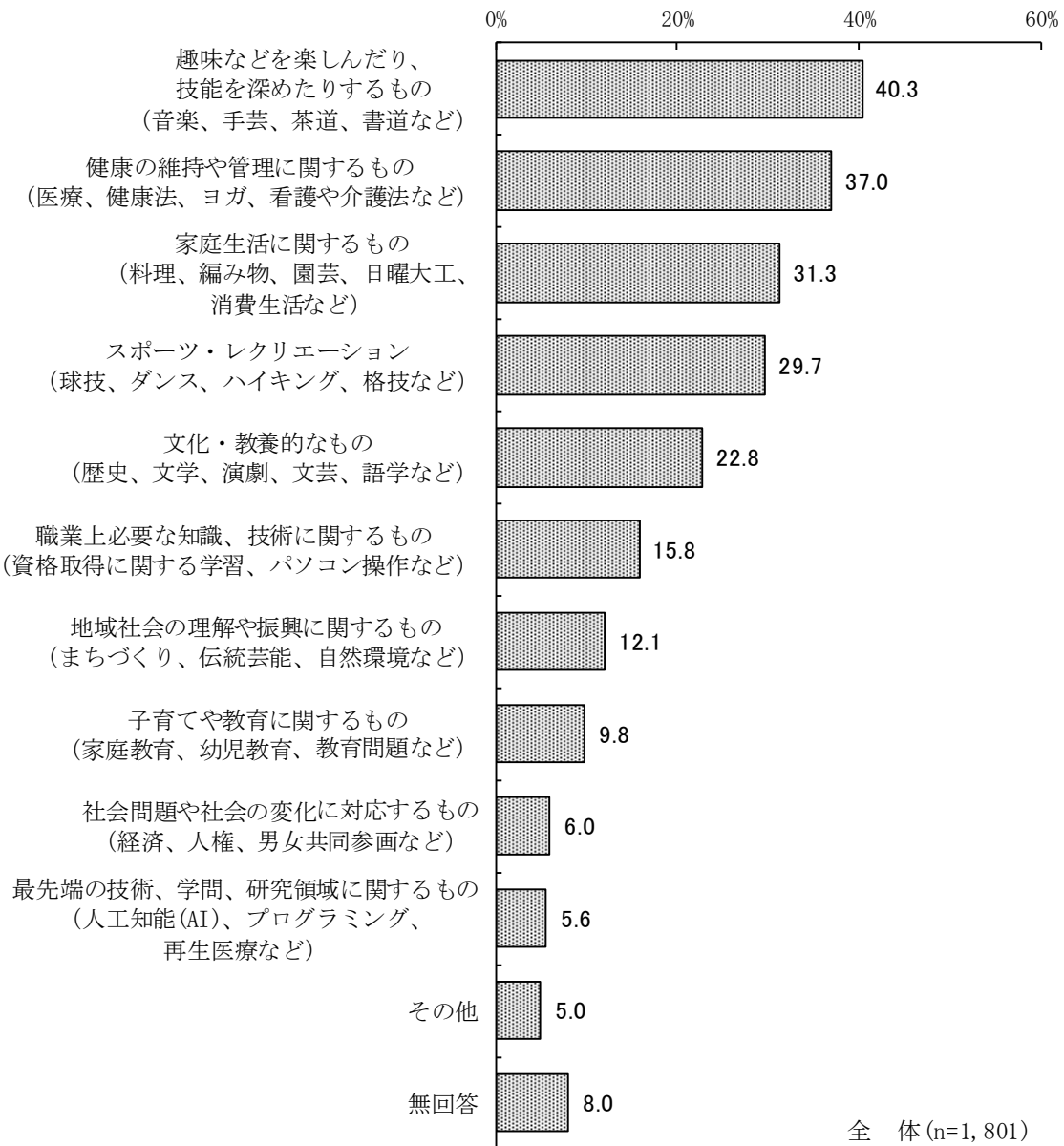


図3-7 充実してほしい学習の場や学習方法（地区別／性別／年齢別） 2/2



(8) 行ってみたい生涯学習活動

問 2 1 あなたが、これから生涯学習活動として行ってみたいと思っていることはありますか。
(○はいくつでも)



「趣味などを楽しんだり、技能を深めたりするもの」が約 4 割

【全体結果】

行ってみたい生涯学習活動については、「趣味などを楽しんだり、技能を深めたりするもの（音楽、手芸、茶道、書道など）」(40.3%)の割合が最も高くなっている。以下、「健康の維持や管理に関するもの（医療、健康法、ヨガ、看護や介護法など）」(37.0%)、「家庭生活に関するもの（料理、編み物、園芸、日曜大工、消費生活など）」(31.3%)が3割台、「スポーツ・レクリエーション（球技、ダンス、ハイキング、格技など）」(29.7%)、「文化・教養的なもの（歴史、文学、演劇、文芸、語学など）」(22.8%)が2割台で続いている。

【属性別結果】(図 3-8 参照)

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「趣味などを楽しんだり、技能を深めたりするもの（音楽、手芸、茶道、書道など）」については、秋葉区（43.6%）の割合が最も高くなっている。

② 性別

「趣味などを楽しんだり、技能を深めたりするもの（音楽、手芸、茶道、書道など）」、「健康の維持や管理に関するもの（医療、健康法、ヨガ、看護や介護法など）」、「家庭生活に関するもの（料理、編み物、園芸、日曜大工、消費生活など）」、「子育てや教育に関するもの（家庭教育、幼児教育、教育問題など）」では、いずれも女性が男性を5ポイント以上上回っている。「スポーツ・レクリエーション（球技、ダンス、ハイキング、格技など）」と「地域社会の理解や振興に関するもの（まちづくり、伝統芸能、自然環境など）」では、いずれも男性が女性を5ポイント以上上回っている。

③ 年齢別

「趣味などを楽しんだり、技能を深めたりするもの（音楽、手芸、茶道、書道など）」「スポーツ・レクリエーション（球技、ダンス、ハイキング、格技など）」「最先端の技術、学問、研究領域に関するもの（人工知能(AI)、プログラミング、再生医療など）」は18～29歳（それぞれ58.5%、46.5%、12.0%）が、「子育てや教育に関するもの（家庭教育、幼児教育、教育問題など）」は30代（26.5%）が、「職業上必要な知識、技術に関するもの（資格取得に関する学習、パソコン操作など）」は40代以下が、「文化・教養的なもの（歴史、文学、演劇、文芸、語学など）」は50代（29.4%）が、「健康の維持や管理に関するもの（医療、健康法、ヨガ、看護や介護法など）」「地域社会の理解や振興に関するもの（まちづくり、伝統芸能、自然環境など）」は65～69歳（それぞれ41.7%、17.1%）が、それぞれ高くなっている。

図3-8 行ってみたい生涯学習活動（地区別／性別／年齢別） 1/2

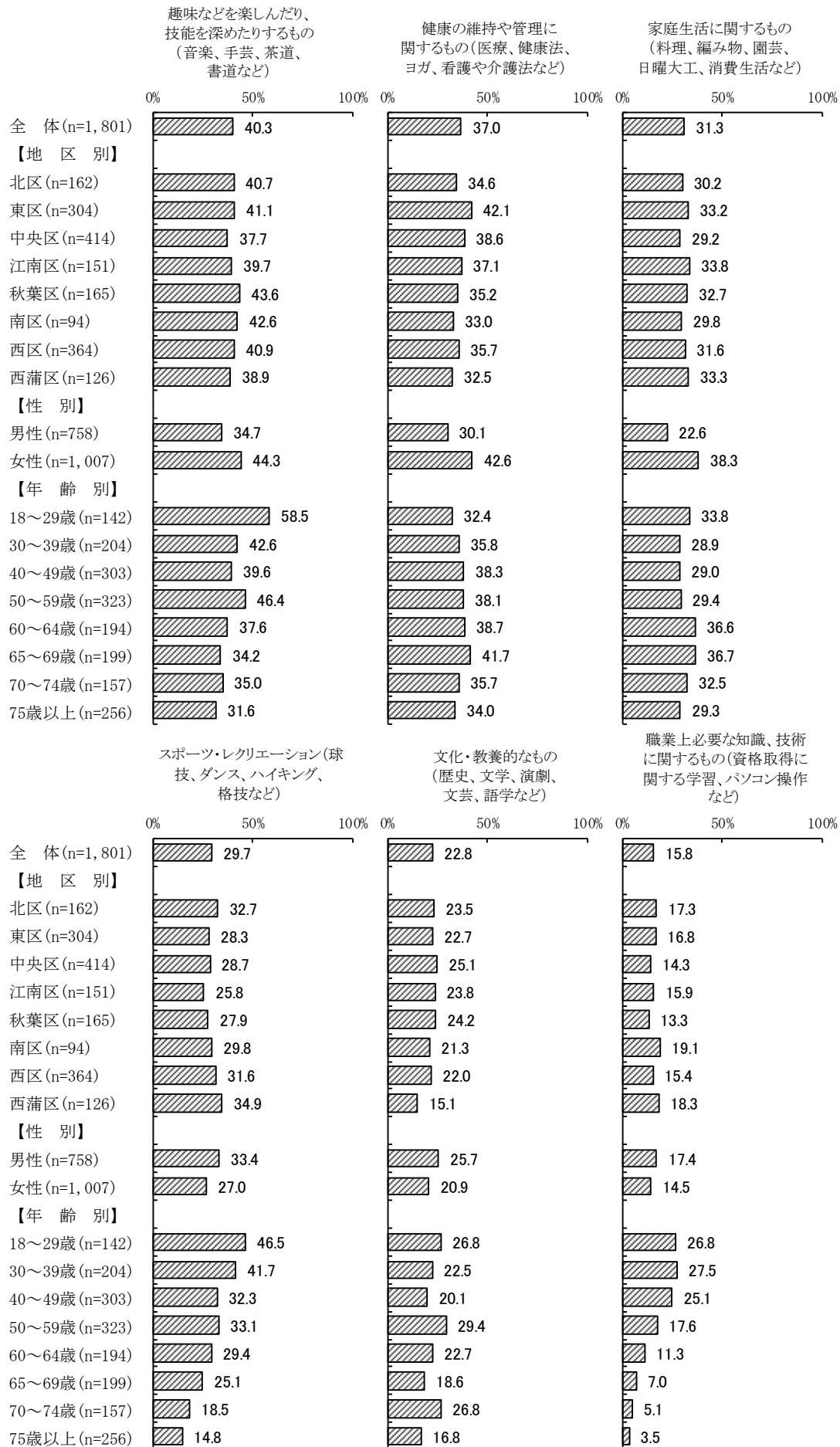
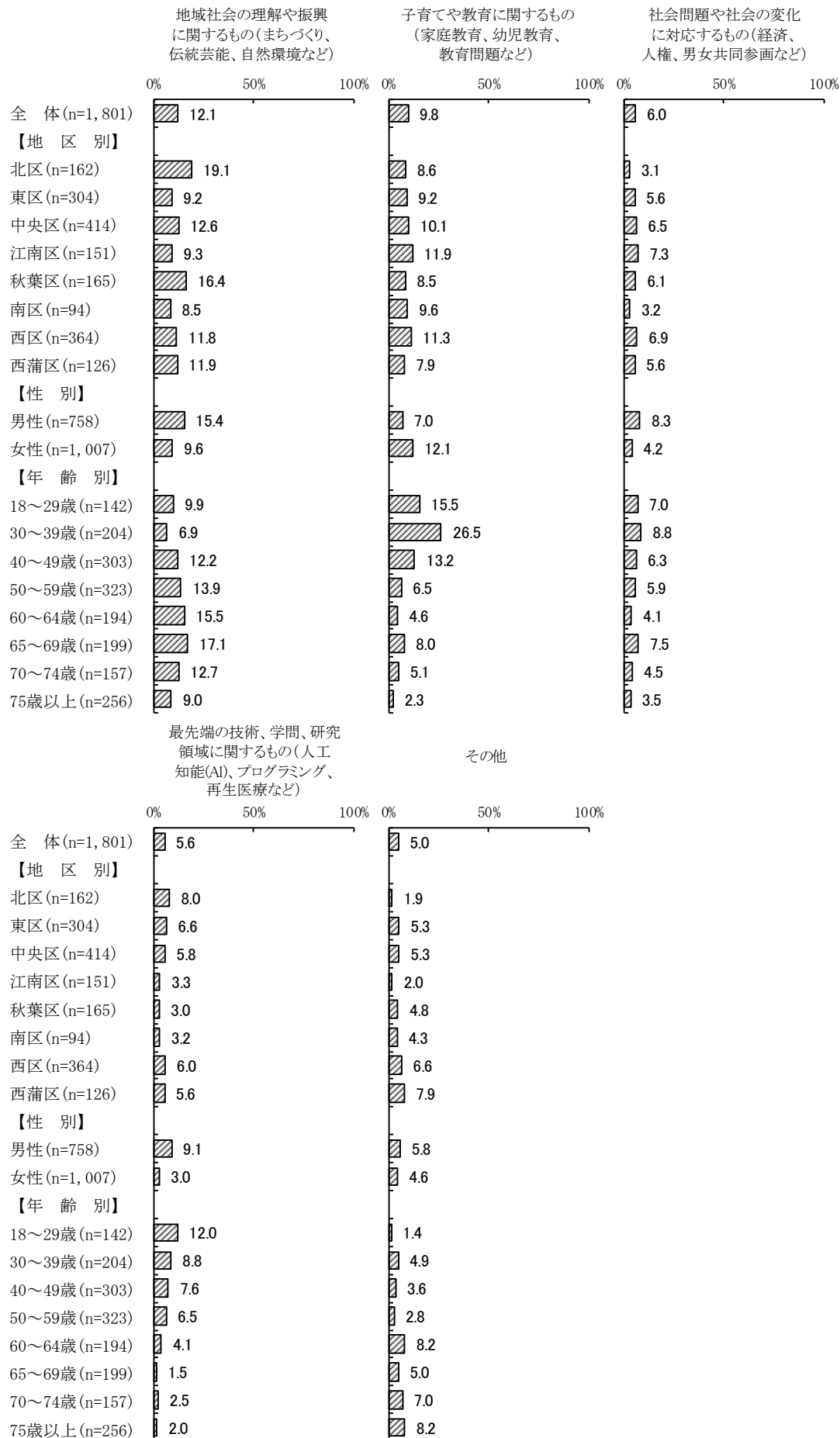
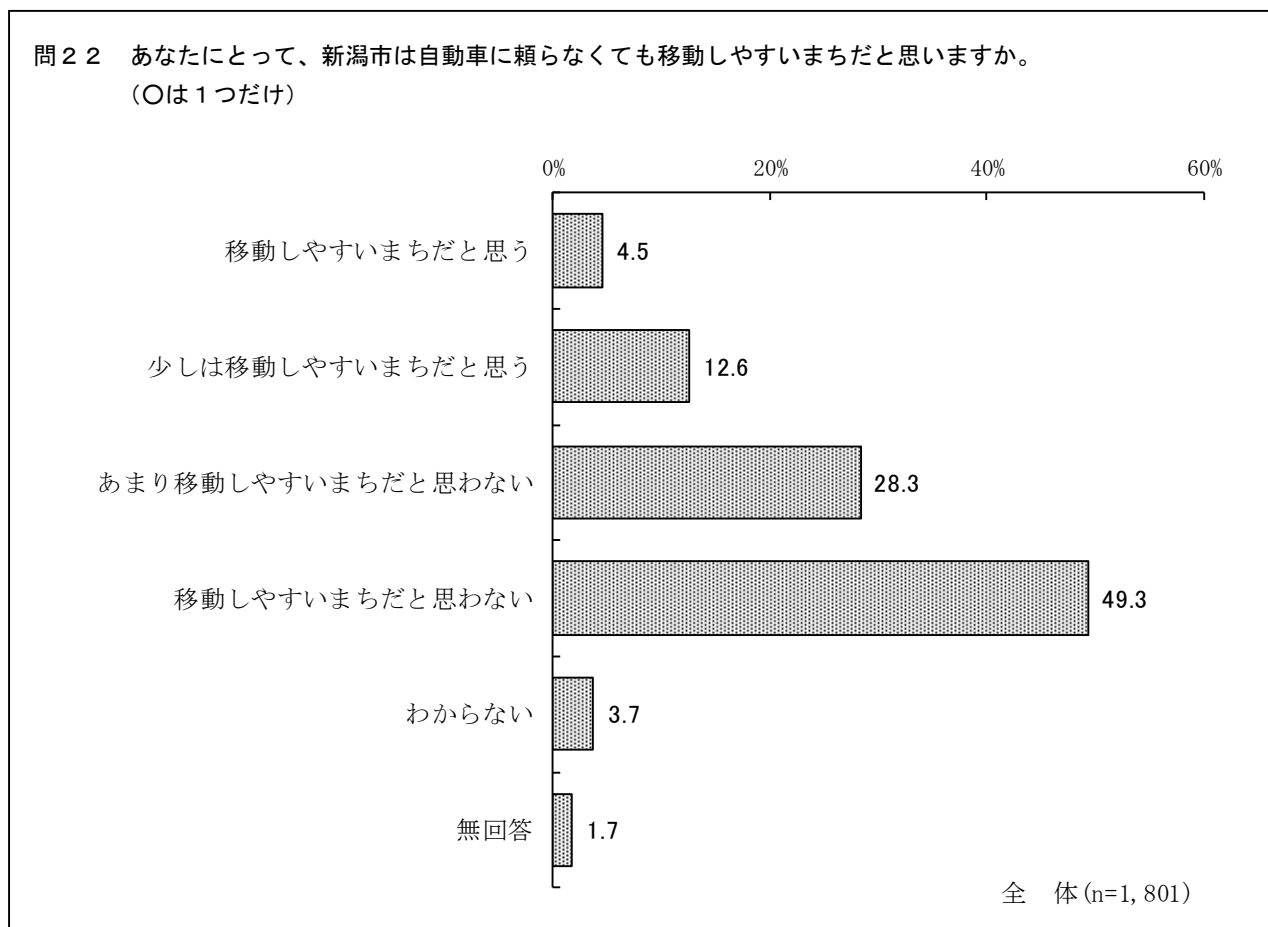


図3-8 行ってみたい生涯学習活動（地区別／性別／年齢別） 2/2



4. 移動しやすいまちづくりについて

(1) 自動車に頼らなくても移動しやすいか



『移動しやすいまちだと思わない』が最も多い

【全体結果】

新潟市は自動車に頼らなくても、「移動しやすいまちだと思わない」の割合が約5割を占めている。「移動しやすいまちだと思わない」(49.3%)と「あまり移動しやすいまちだと思わない」(28.3%)を合わせた『移動しやすいまちだと思わない』と回答した人の割合は、7割台となっている。

一方で、「少しは移動しやすいまちだと思う」(12.6%)と「移動しやすいまちだと思う」(4.5%)を合わせた『移動しやすいまちだと思う』と回答した人の割合は、1割台となっている。

【属性別結果】（図 4-1 参照）

① 地区別

「移動しやすいまちだと思わない」については、南区（64.9%）の割合が最も高くなっている。『移動しやすいまちだと思わない』の割合については、南区（89.4%）、江南区（84.8%）、西蒲区（82.5%）で高く、8割台となっている。一方、『移動しやすいまちだと思う』の割合は、秋葉区（21.3%）で高くなっている。

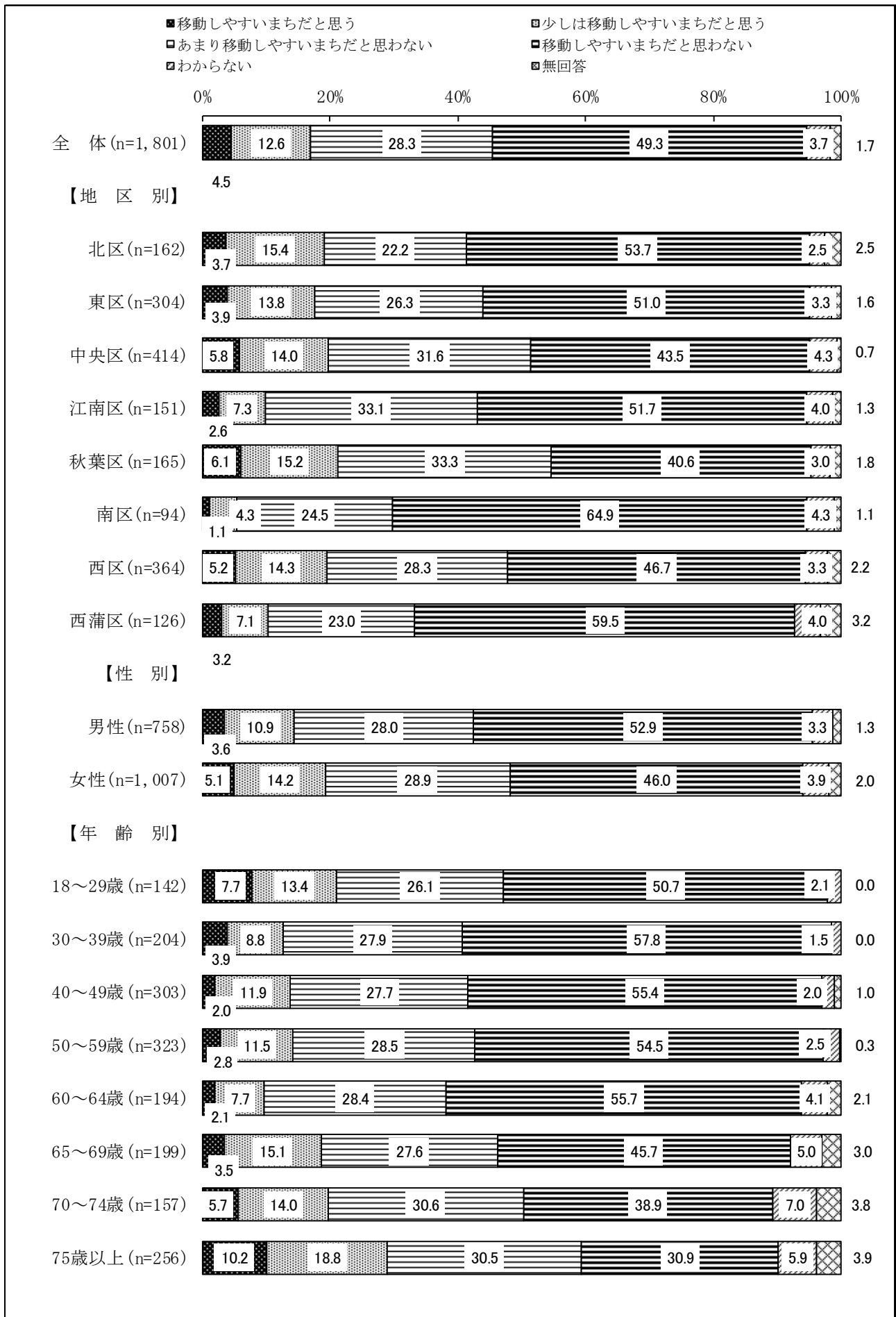
② 性別

「移動しやすいまちだと思わない」では、男性（52.9%）が女性（46.0%）を上回り、『移動しやすいまちだと思わない』の割合についても、男性（80.9%）が女性（74.9%）よりも高くなっている。

③ 年齢別

「移動しやすいまちだと思わない」の割合は、30代（57.8%）の割合が半数以上で高くなっている。『移動しやすいまちだと思わない』の割合は、30～64歳の割合が高く、8割台となっている。

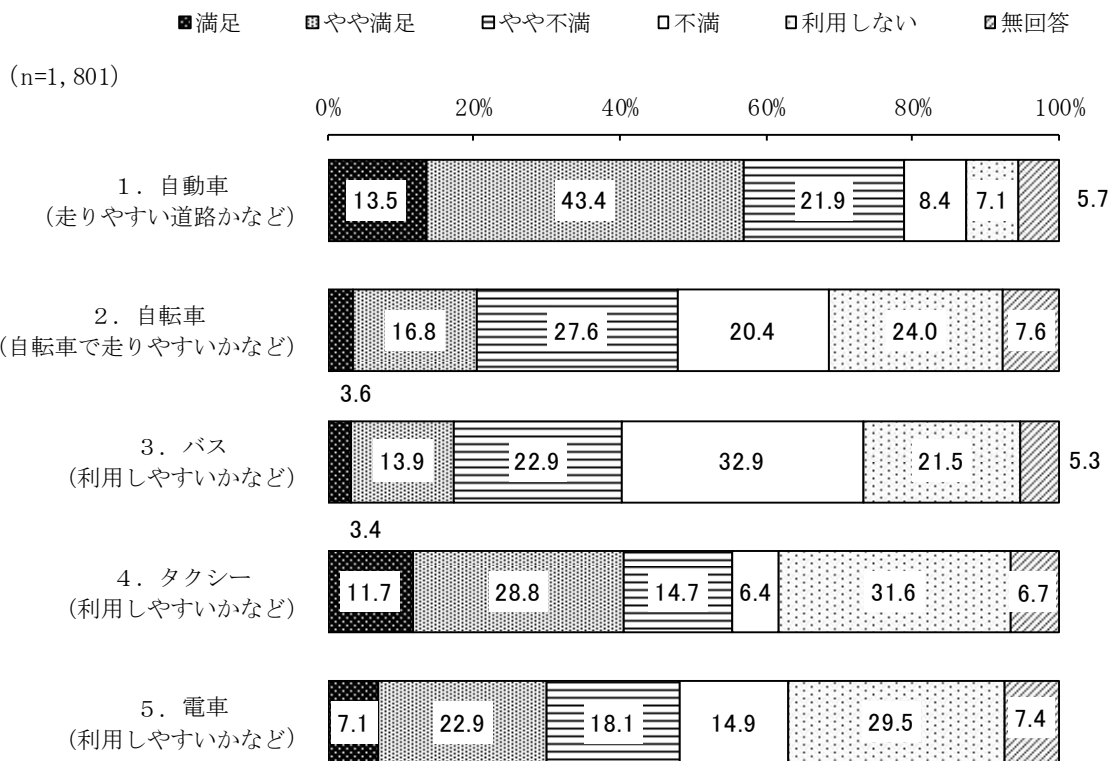
図4-1 自動車に頼らなくても移動しやすいか（地区別／性別／年齢別）



(2) 移動する際の交通手段の満足度

問 2 3 あなたが次の交通手段で市内を移動する際の満足度を教えてください。

(○はそれぞれ1つずつ)



交通手段の満足度が最も高いのは『自動車』

【全体結果】

移動する際の交通手段の満足度をみると、『満足』（「満足」と「やや満足」の合計）の割合が最も高いのは【1. 自動車（走りやすい道路かなど）】（56.9%）である。以下、【4. タクシー（利用しやすいかなど）】（40.5%）、【5. 電車（利用しやすいかなど）】（30.0%）、【2. 自転車（自転車で走りやすいかなど）】（20.4%）、【3. バス（利用しやすいかなど）】（17.3%）が続いている。

一方で、『不満』（「不満」と「やや不満」の合計）の割合が最も高いのは【3. バス（利用しやすいかなど）】（55.8%）である。以下、【2. 自転車（自転車で走りやすいかなど）】（48.0%）、【5. 電車（利用しやすいかなど）】（33.0%）、【1. 自動車（走りやすい道路かなど）】（30.3%）、【4. タクシー（利用しやすいかなど）】（21.1%）が続いている。

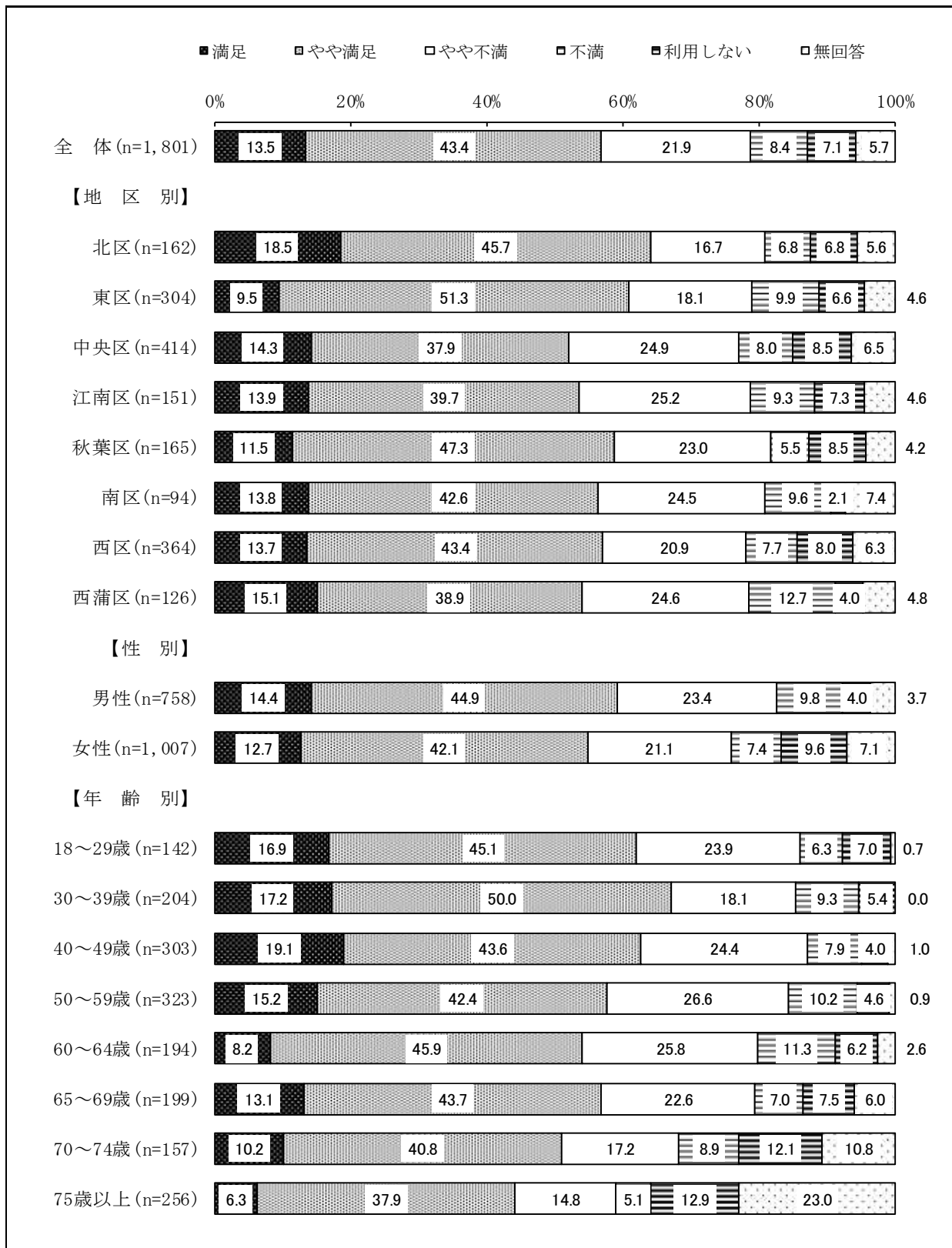
また、「利用しない」の割合が最も高いのは、【4. タクシー（利用しやすいかなど）】（31.6%）となっている。

【属性別結果】

次ページ以降に地区別・性別・年齢別の集計結果をまとめた。

図4-2 現住所についての感想（地区別／性別／年齢別）

1. 自動車（走りやすい道路かなど）

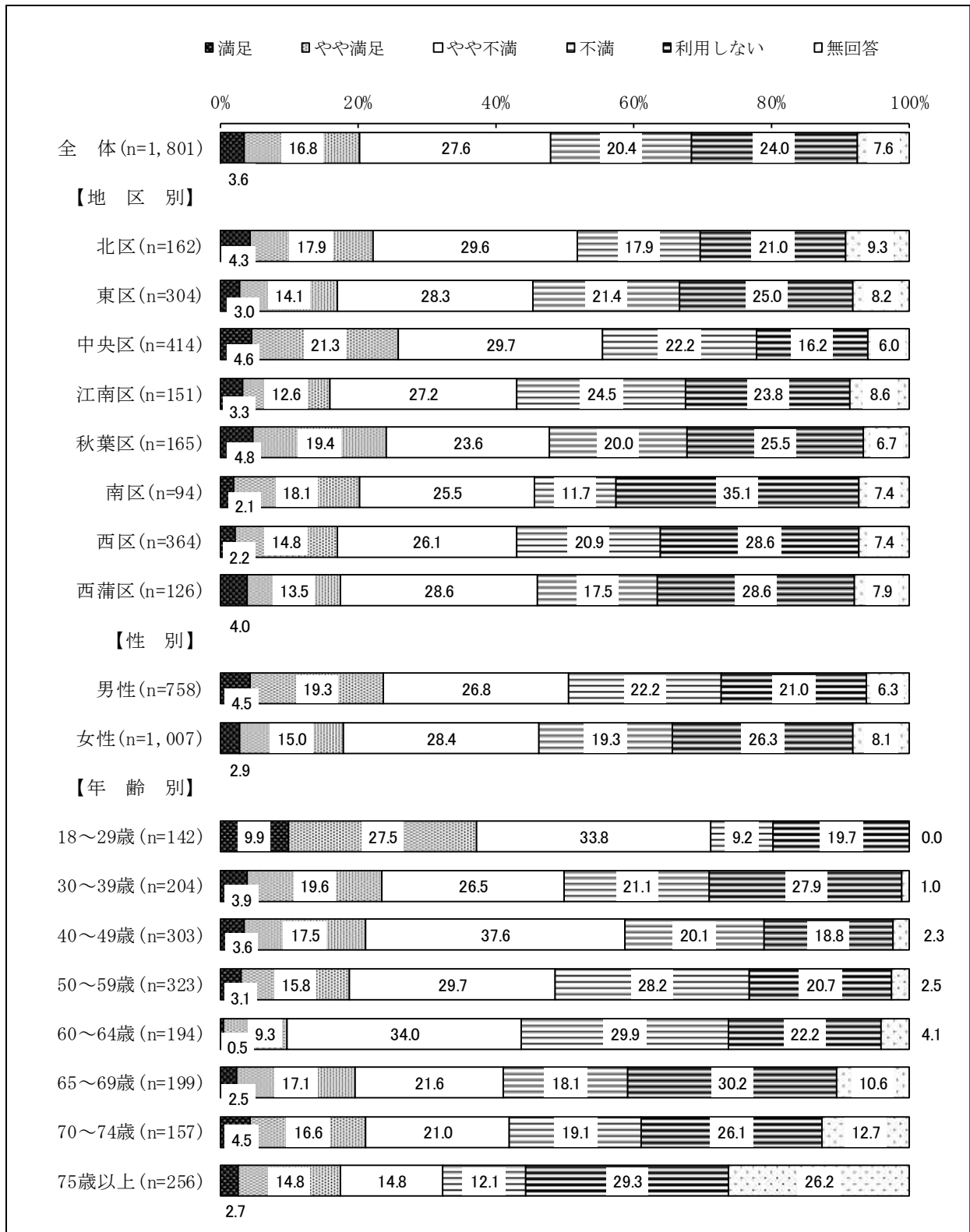


地区別では、『満足』計の割合は、北区（64.2%）が最も高くなっている。一方、『不満』計の割合は、西蒲区（37.3%）が高くなっている。

性別では、『満足』計、『不満』計ともに、男性が女性を上回っている。

年齢別では、『満足』計の割合は、30代（67.2%）が最も高くなっている。

2. 自転車（自転車で走りやすいかなど）

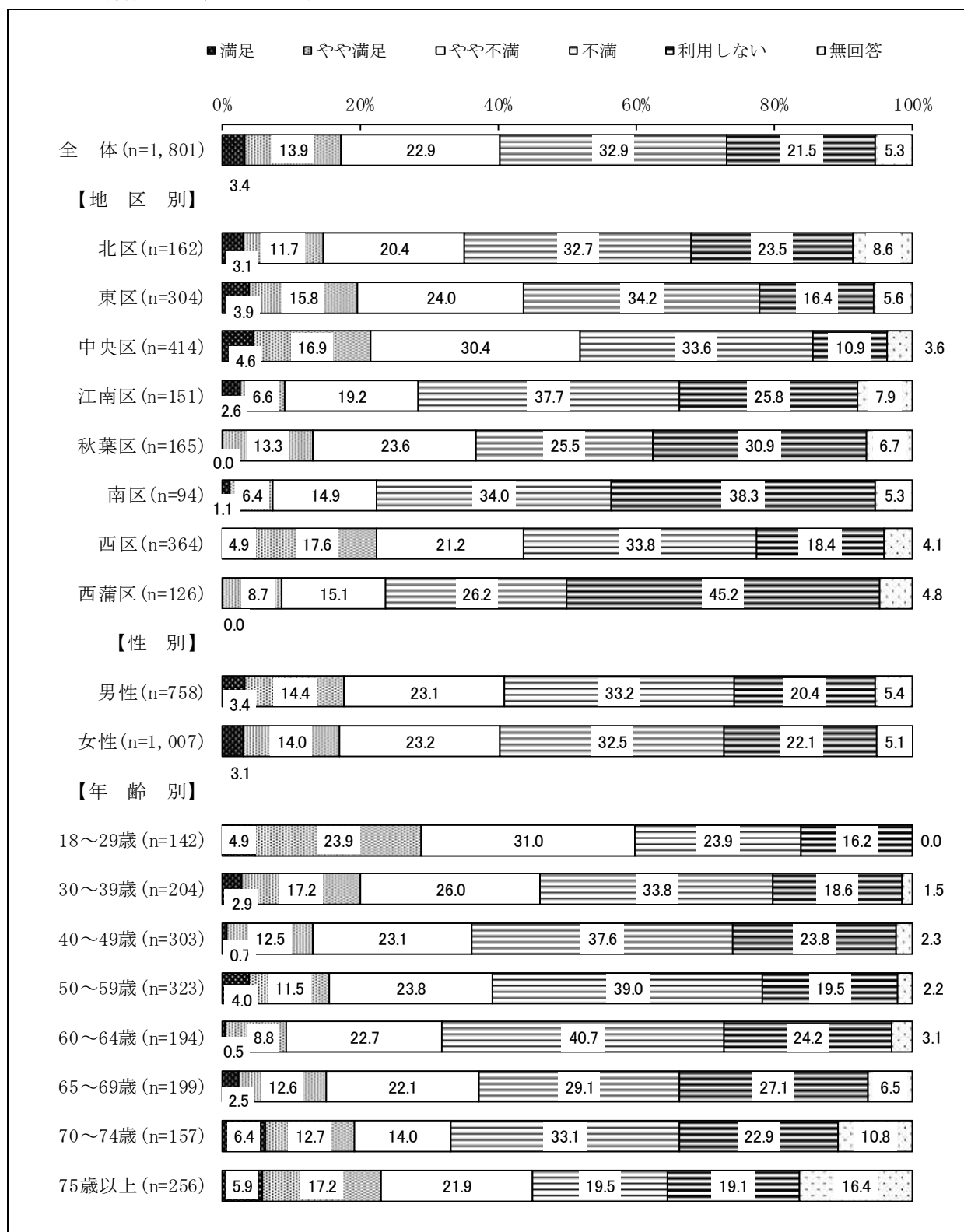


地区別では、『満足』計の割合は、中央区（25.9%）と秋葉区（24.2%）が高く、全体の約4分の1を占めている。一方、『不満』計の割合は、中央区（51.9%）と江南区（51.7%）が高く、半数以上となっている。

性別では、『満足』計の割合は、男性（23.8%）の方が女性（17.9%）よりも高くなっている。

年齢別では、『満足』計の割合は、18～29歳（37.4%）が最も高くなっている。一方、『不満』計の割合は、60～64歳（63.9%）が高くなっている。

3. バス（利用しやすいかなど）

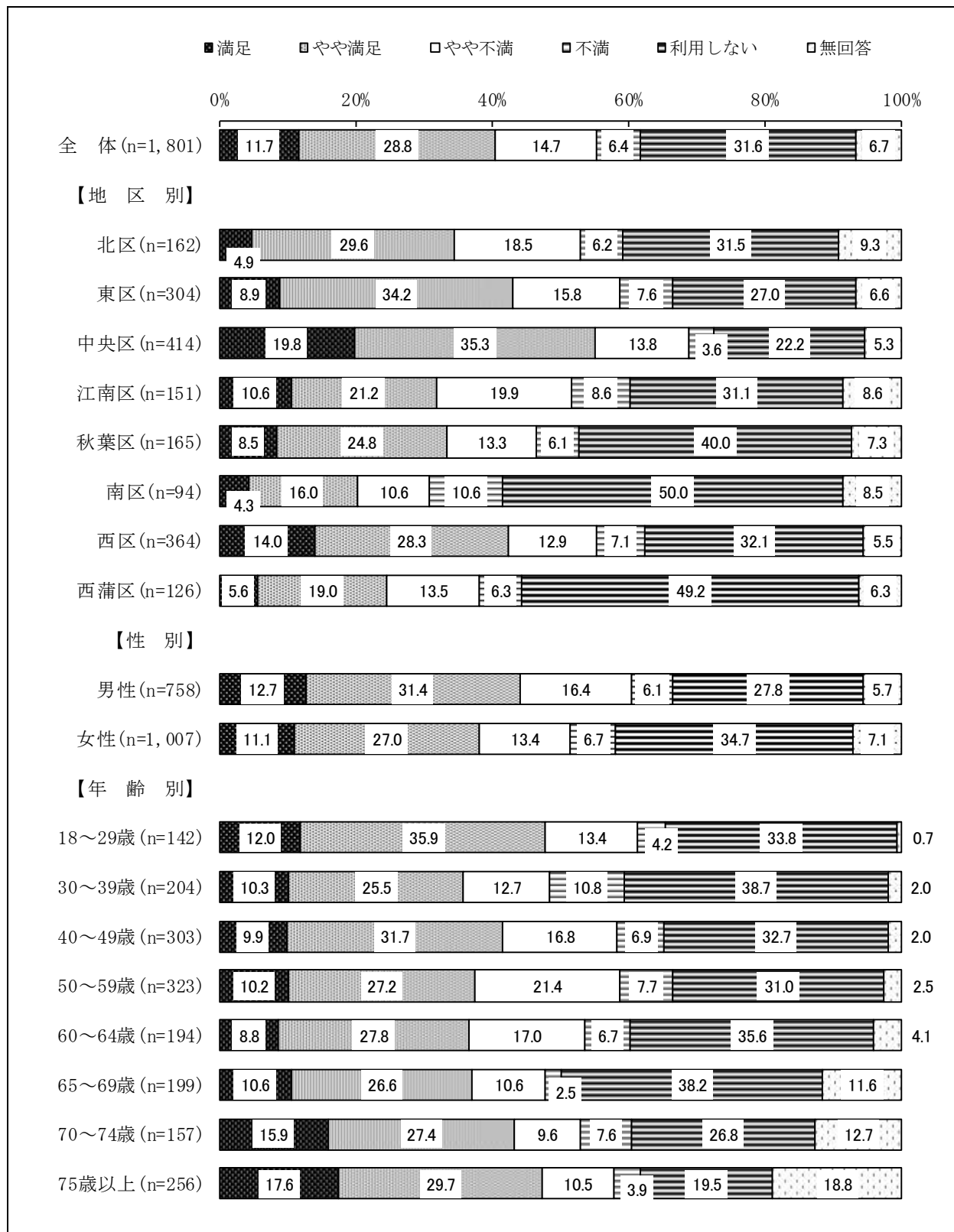


地区別では、『満足』計の割合は、西区（22.5%）と中央区（21.5%）が高く、2割を超えている。一方、『不満』計の割合は、中央区（64.0%）が最も高くなっている。

性別では大きな差はみられない。

年齢別では、『満足』計の割合は、18～29歳（28.8%）が最も高くなっている。一方、『不満』計の割合は、50代（62.8%）と60～64歳（63.4%）が高く、6割を超えている。

4. タクシー（利用しやすいかなど）

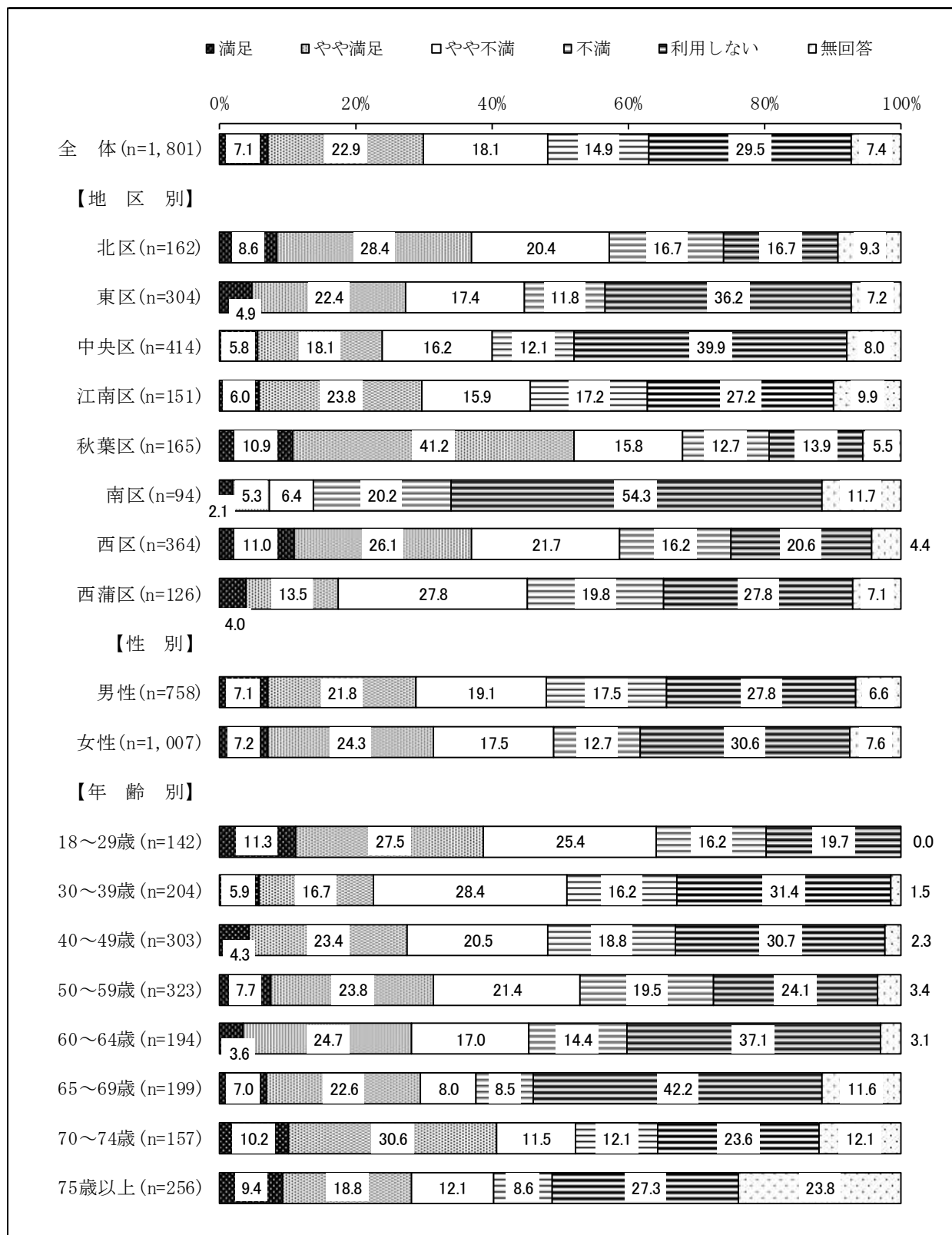


地区別では、『満足』計の割合は、中央区（55.1%）が最も高く、半数以上を占めている。一方、『不満』計の割合は、江南区（28.5%）が最も高くなっている。

性別では、『満足』計の割合は、男性（44.1%）の方が女性（38.1%）よりも高くなっている。

年齢別では、『満足』計の割合は、18～29歳（47.9%）と75歳以上（47.3%）が高く、4割台となっている。一方、『不満』計の割合は、50代（29.1%）が高く、約3割となっている。

5. 電車（利用しやすいかなど）

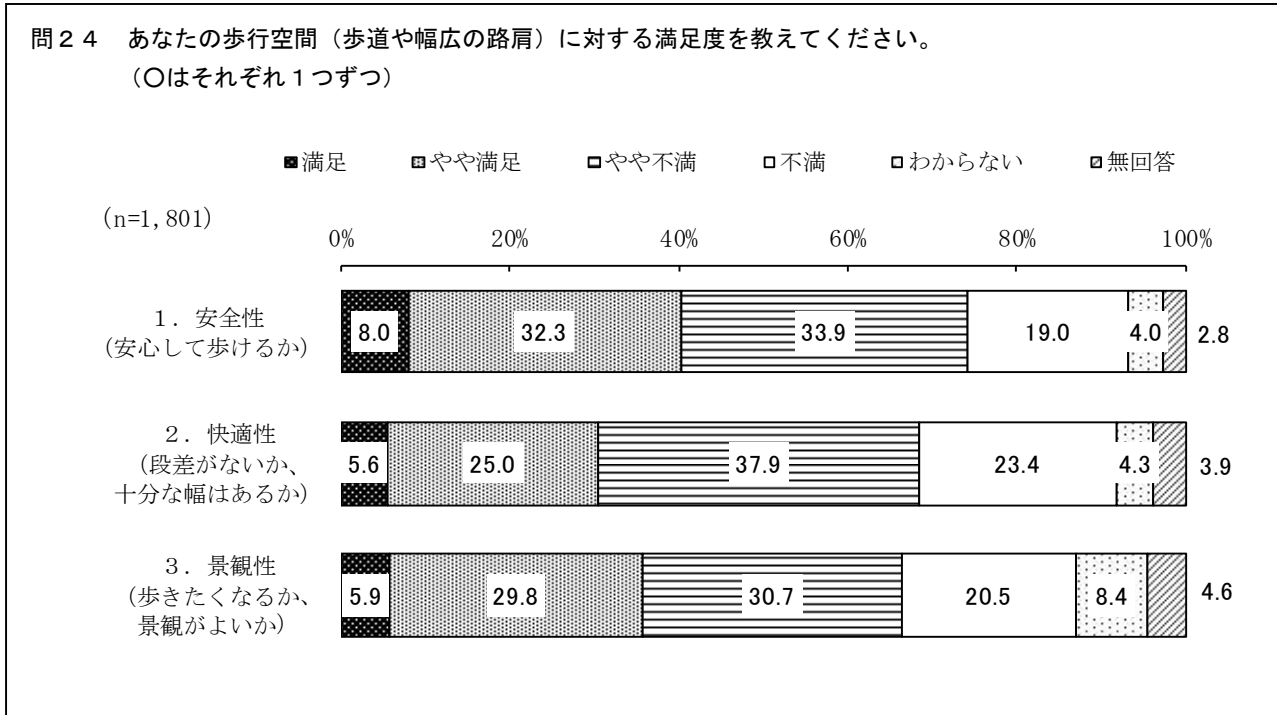


地区別では、『満足』計の割合は、秋葉区（52.1%）が最も高く、半数以上となっている。一方、『不満』計の割合は、西蒲区（47.6%）が最も高くなっている。

性別では、『不満』計の割合は、男性（36.6%）の方が女性（30.2%）よりも高くなっている。

年齢別では、『満足』計の割合は、70～74歳（40.8%）が最も高く、約4割となっている。一方、『不満』計の割合は、30代（44.6%）が最も高くなっている。

(3) 歩行空間に対する満足度



歩行空間に対する満足度が最も高いのは『安全性』

【全体結果】

歩行空間に対する満足度をみると、『満足』（「満足」と「やや満足」の合計）の割合が最も高いのは【1. 安全性（安心して歩けるか）】（40.3%）である。以下、【3. 景観性（歩きたくなるか、景観がよいか）】（35.7%）、【2. 快適性（段差がないか、十分な幅はあるか）】（30.6%）が続いている。

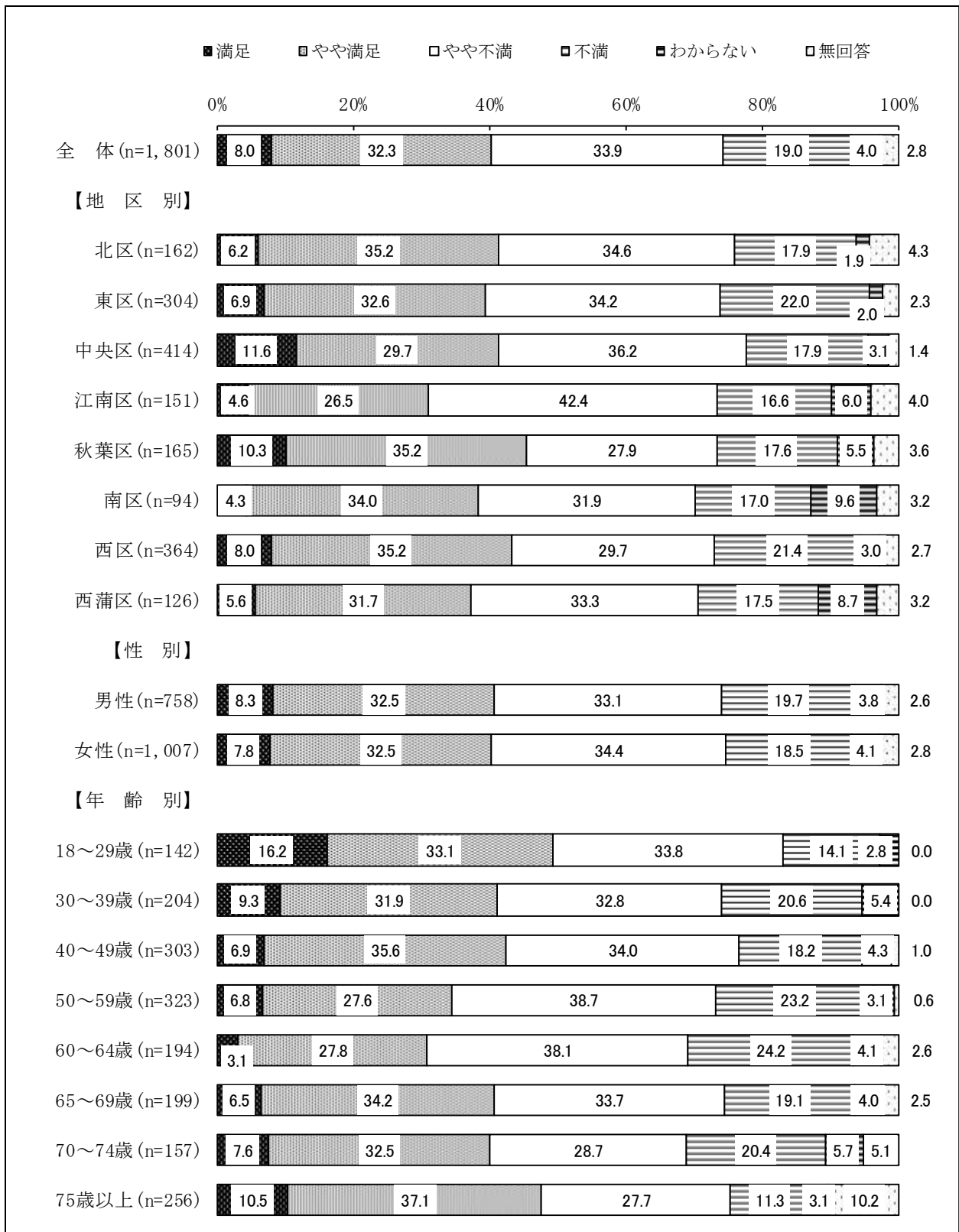
一方で、『不満』（「不満」と「やや不満」の合計）の割合が最も高いのは【2. 快適性（段差がないか、十分な幅はあるか）】（61.3%）で、【1. 安全性（安心して歩けるか）】（52.9%）、【3. 景観性（歩きたくなるか、景観がよいか）】（51.2%）が続いている。

【属性別結果】

次ページ以降に地区別・性別・年齢別の集計結果をまとめた。

図4-3 歩行空間に対する満足度（地区別／性別／年齢別）

1. 安全性（安心して歩けるか）

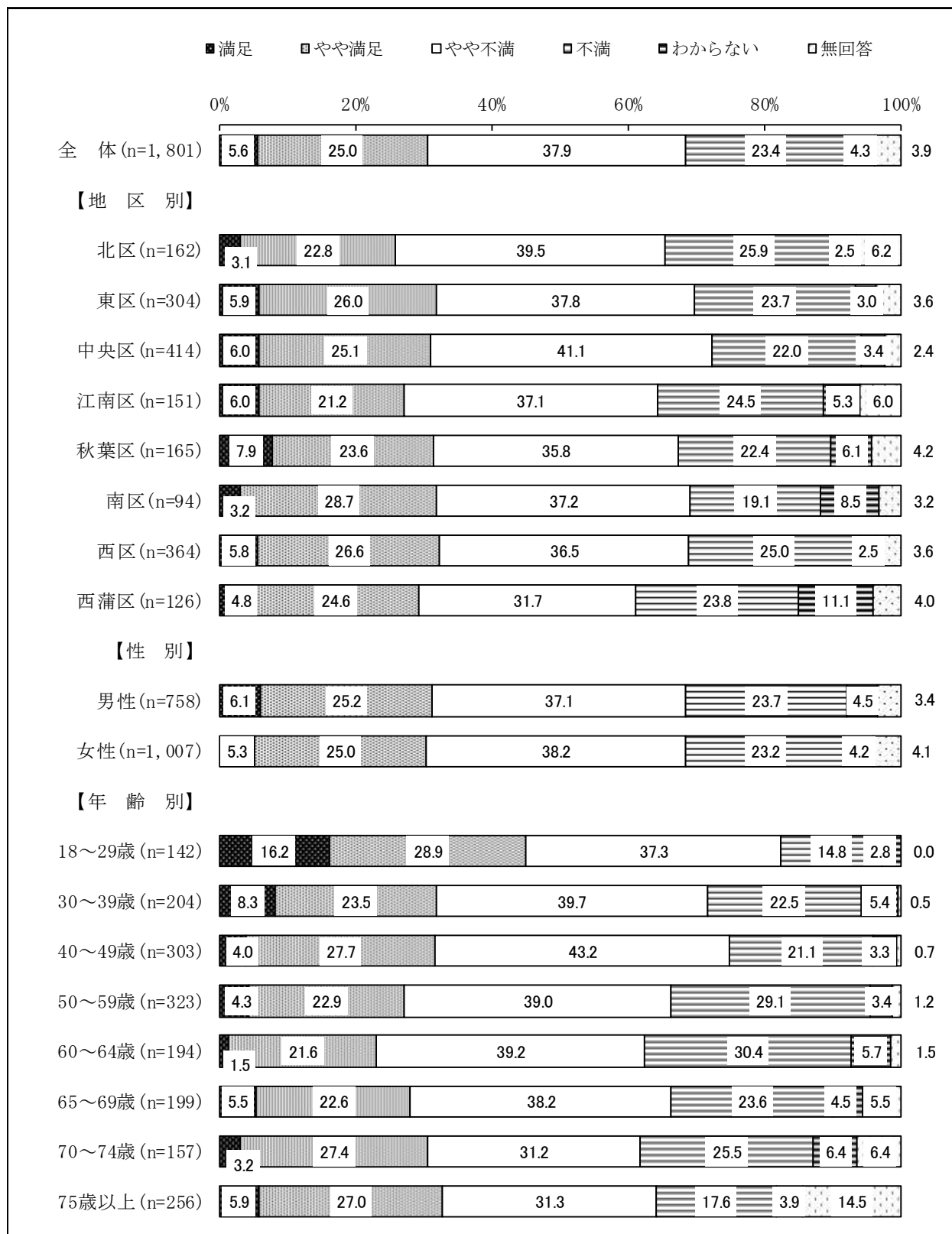


地区別では、『満足』計の割合は、秋葉区（45.5%）が最も高くなっている。一方、『不満』計の割合は、江南区（59.0%）が最も高く、約6割となっている。

性別では大きな差はみられない。

年齢別では、『満足』計の割合は、18～29歳（49.3%）が最も高く、約5割となっている。一方、『不満』計の割合は、50代（61.9%）と60～64歳（62.3%）が高く、6割を超えている。

2. 快適性（段差がないか、十分な幅はあるか）

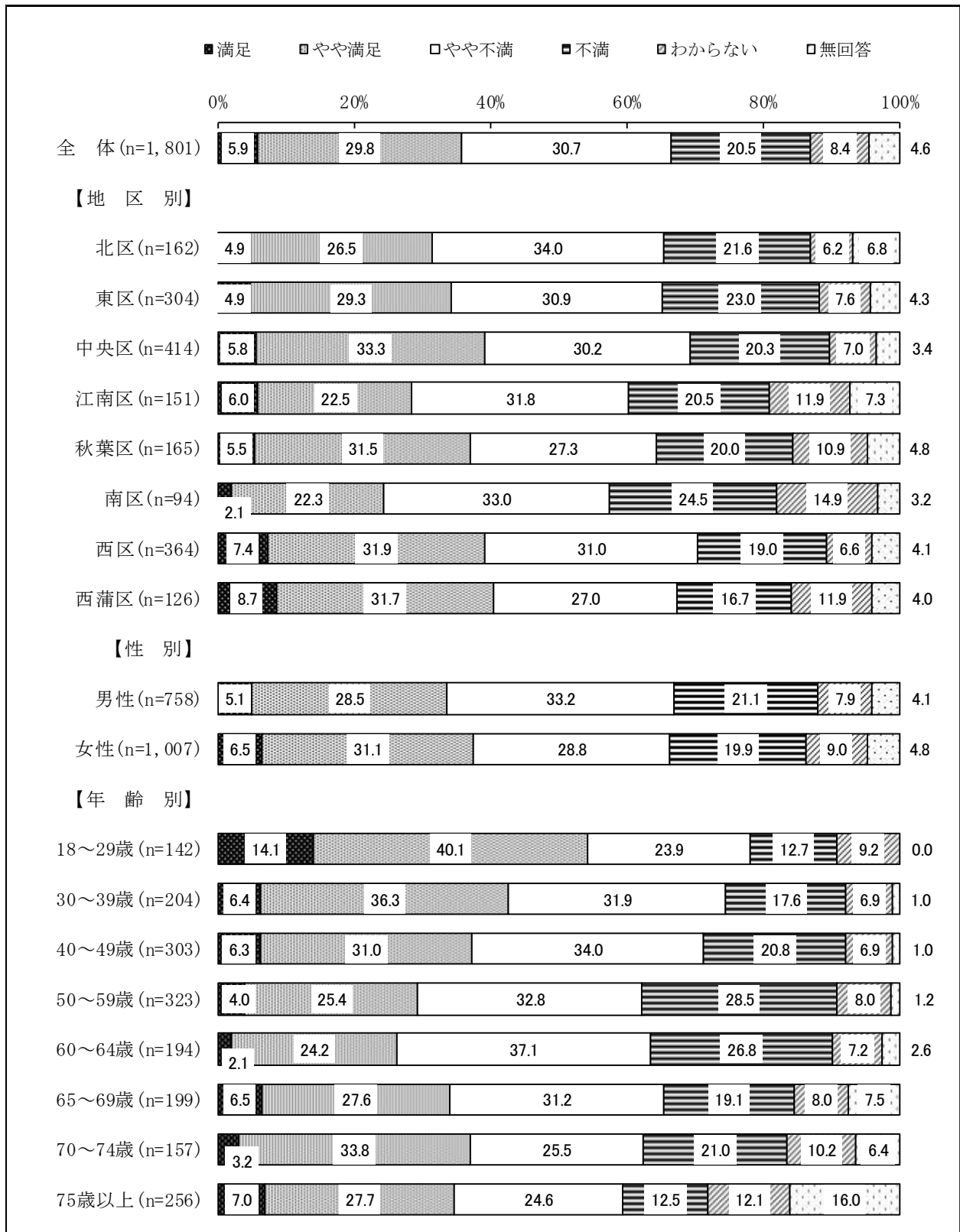


地区別では、『満足』計の割合は、西区（32.4%）が最も高くなっている。一方、『不満』計の割合は、北区（65.4%）が最も高くなっている。

性別では大きな差はみられない。

年齢別では、『満足』計の割合は、18~29歳（45.1%）が最も高くなっている。一方、『不満』計の割合は、50代（68.1%）と60~64歳（69.6%）が高く、7割未満となっている。

3. 景観性（歩きたくなるか、景観がよいか）

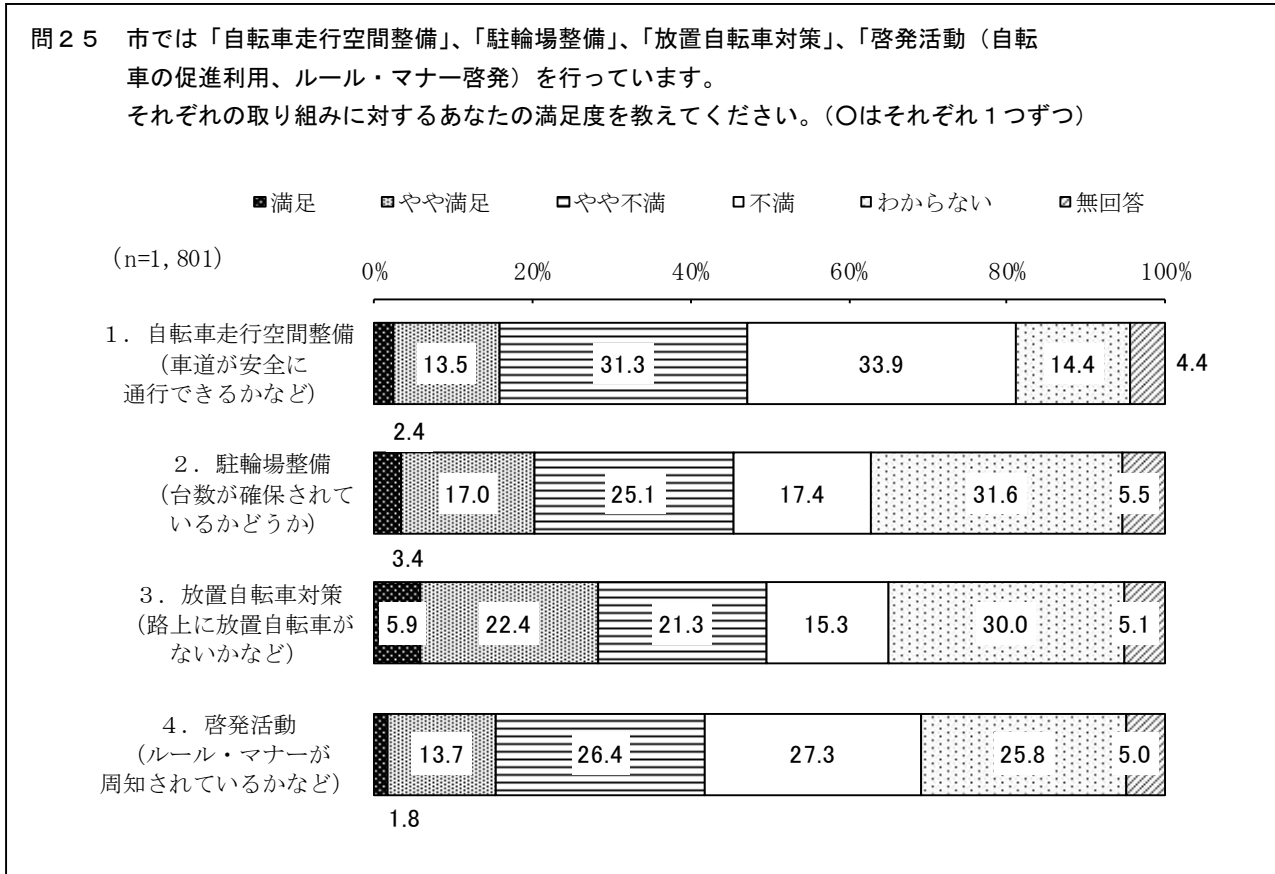


地区別では、『満足』計の割合は、西蒲区（40.4%）が最も高く、約4割となっている。一方、『不満』計の割合は、南区（57.5%）が最も高くとなっている。

性別では、『不満』計の割合は、男性（54.3%）の方が女性（48.7%）よりも高くなっている。

年齢別では、『満足』計の割合は、18~29歳（54.2%）が最も高く、半数以上となっている。一方、『不満』計の割合は、60~64歳（63.9%）と50~59歳（61.3%）が高く、6割を超えている。

(4) 自転車に関する取り組みに対する満足度



—— 自転車に関する取り組みに対する満足度が最も高いのは『放置自転車対策』 ——

【全体結果】

市の自転車に関する取り組みに対する満足度をみると、『満足』（「満足」と「やや満足」の合計）の割合が最も高いのは【3. 放置自転車対策（路上に放置自転車がないかなど）】（28.3%）である。【2. 駐輪場整備（台数が確保されているかどうか）】（20.4%）が続いている。

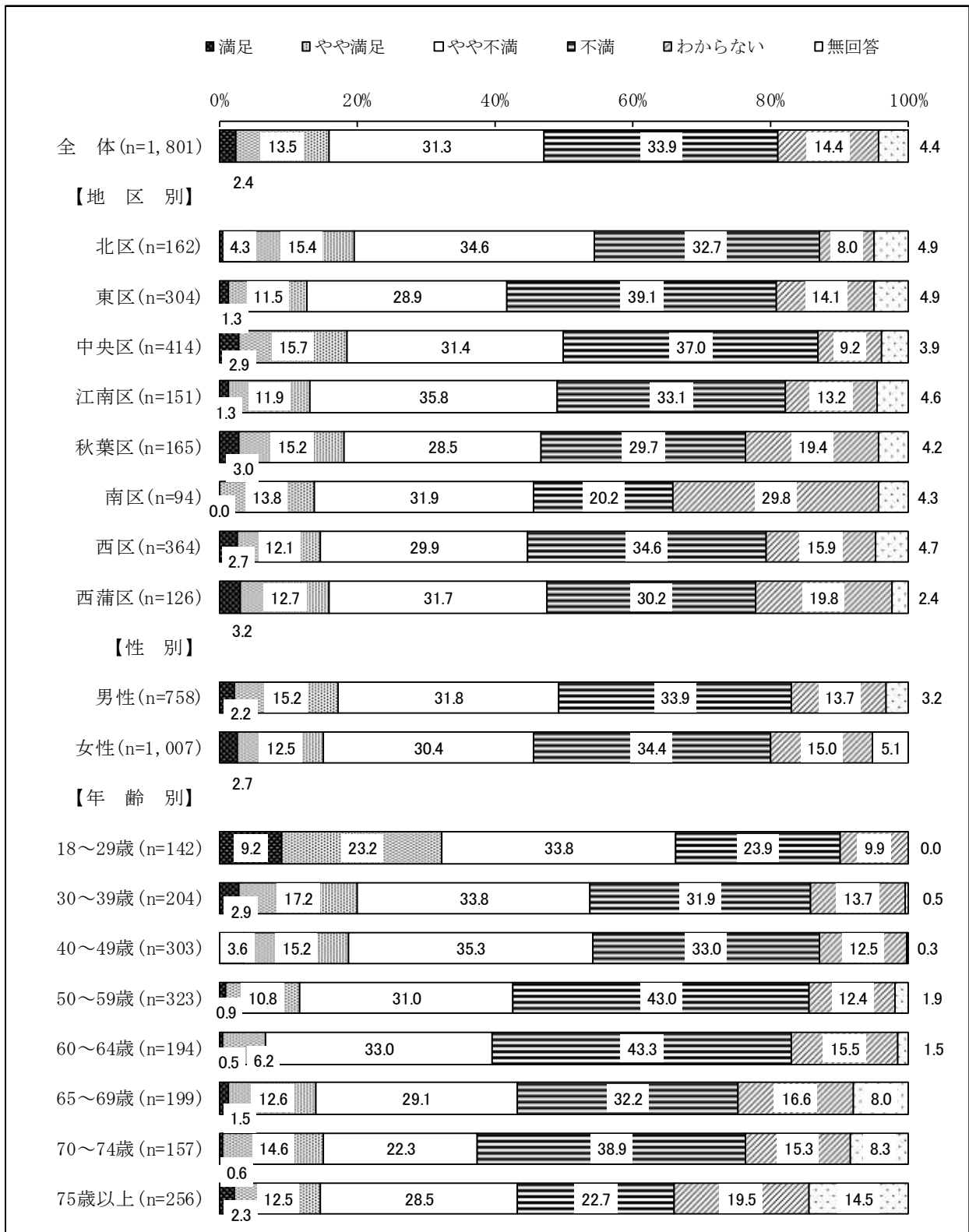
一方で、『不満』（「不満」と「やや不満」の合計）の割合が最も高いのは【1. 自転車走行空間整備（車道が安全に通行できるかなど）】（65.2%）で、【4. 啓発活動（ルール・マナーが周知されているかなど）】（53.7%）が5割台、【2. 駐輪場整備（台数が確保されているかどうか）】（42.5%）が4割台が続いている。

【属性別結果】

次ページ以降に地区別・性別・年齢別の集計結果をまとめた。

図4-4 自転車に関する取り組みに対する満足度（地区別／性別／年齢別）

1. 自転車走行空間整備（車道が安全に通行できるかなど）

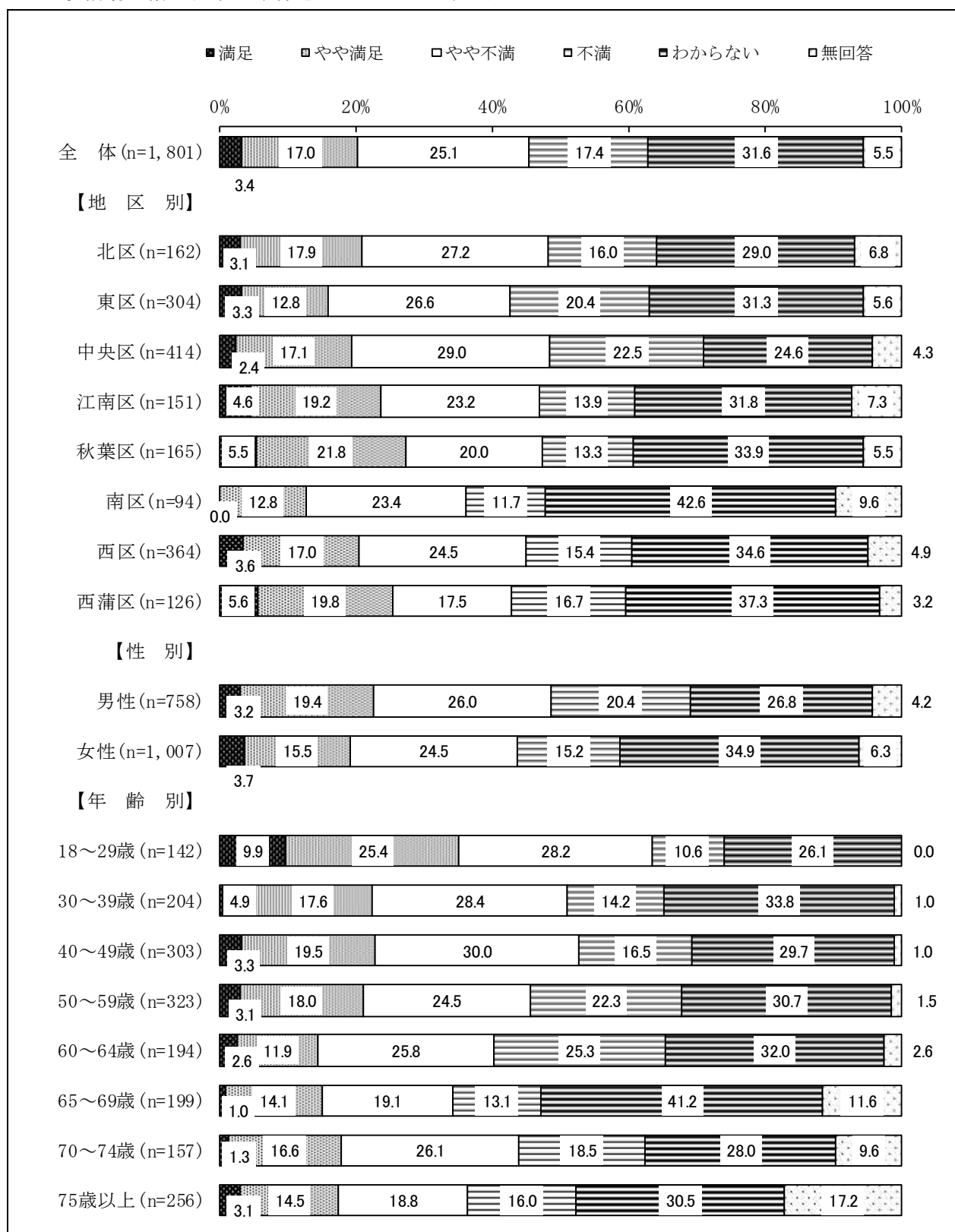


地区別では、『満足』計の割合は、北区（19.7%）、中央区（18.6%）、秋葉区（18.2%）が高く、2割未満となっている。一方、『不満』計の割合は、江南区（68.9%）、中央区（68.4%）、東区（68.0%）、北区（67.3%）が高く、7割未満となっている。

性別では大きな差は見られない。

年齢別では、『満足』計の割合は、18～29歳（32.4%）が最も高く、3割を超えている。一方、『不満』計の割合は、50代（74.0%）と60～64歳（76.3%）が高くなっている。

2. 駐輪場整備（台数が確保されているかどうか）

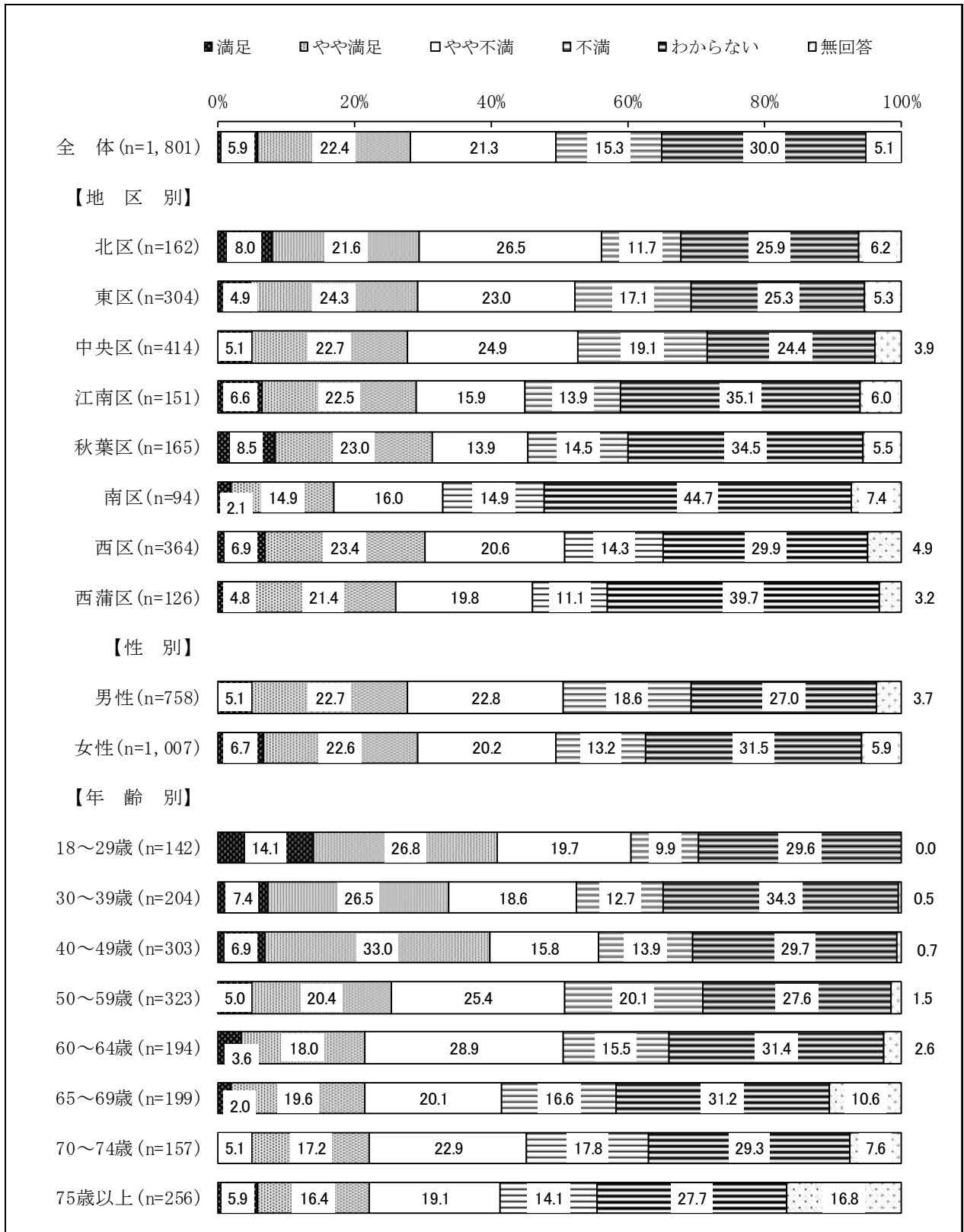


地区別では、『満足』計の割合は、秋葉区（27.3%）が最も高くなっている。一方、『不満』計の割合は、中央区（51.5%）が最も高く、半数以上となっている。

性別では、『不満』計の割合は、男性（46.4%）が女性（39.7%）を上回っている。

年齢別では、『満足』計の割合は、18～29歳（35.3%）が最も高くなっている。一方、『不満』計の割合は、60～64歳（51.1%）が高く、半数以上となっている。

3. 放置自転車対策（路上に放置自転車がないかなど）

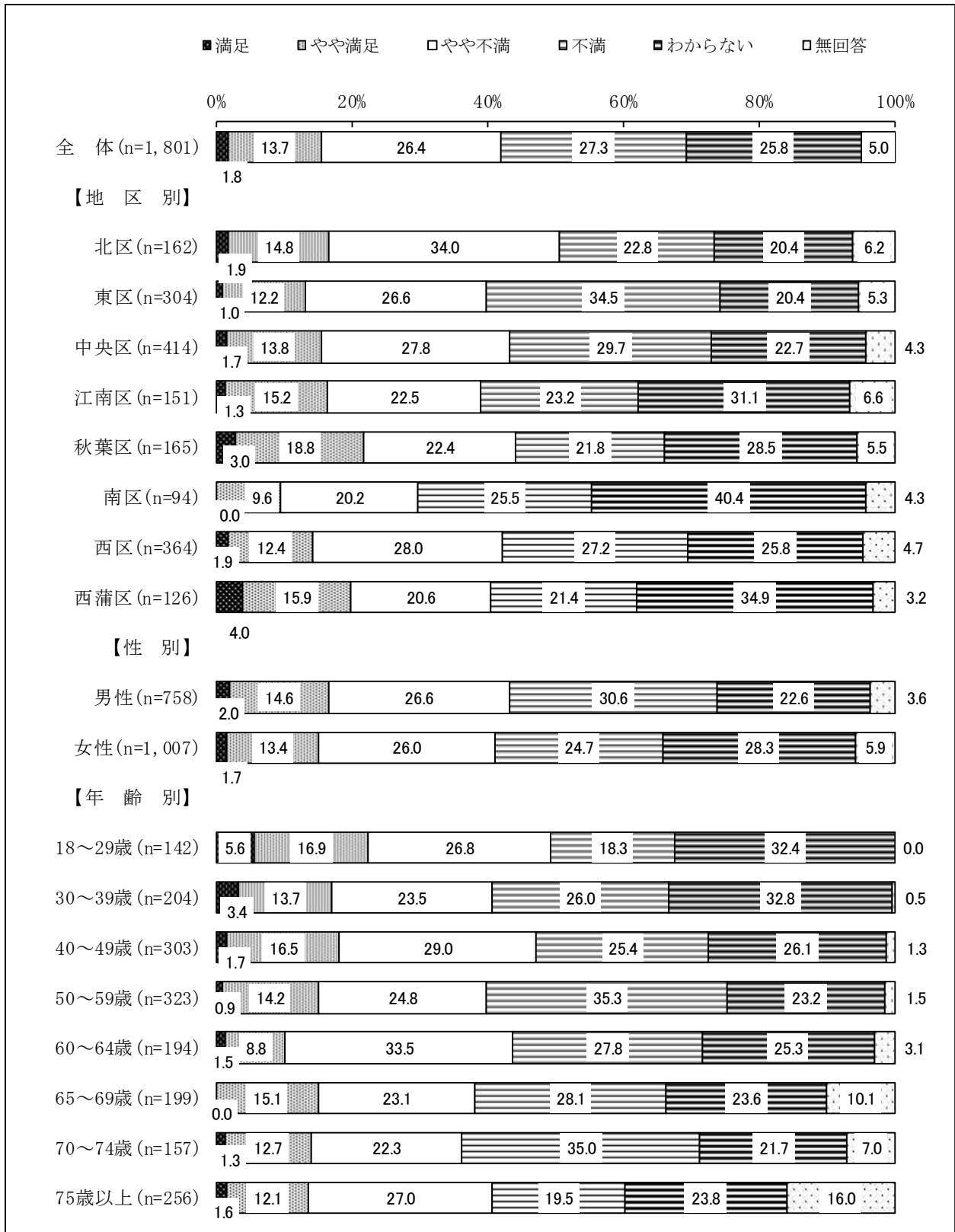


地区別では、『満足』計の割合は、秋葉区（31.5%）と西区（30.3%）が高く、約3割となっている。一方、『不満』計の割合は、中央区（44.0%）が最も高くなっている。

性別では、『不満』計の割合は、男性（41.4%）が女性（33.4%）を上回っている。

年齢別では、『満足』計の割合は、18～29歳（40.9%）が最も高く、約4割となっている。一方、『不満』計の割合は、50代（45.5%）と60～64歳（44.4%）が高く、4割台となっている。

4. 啓発活動（ルール・マナーが周知されているかなど）



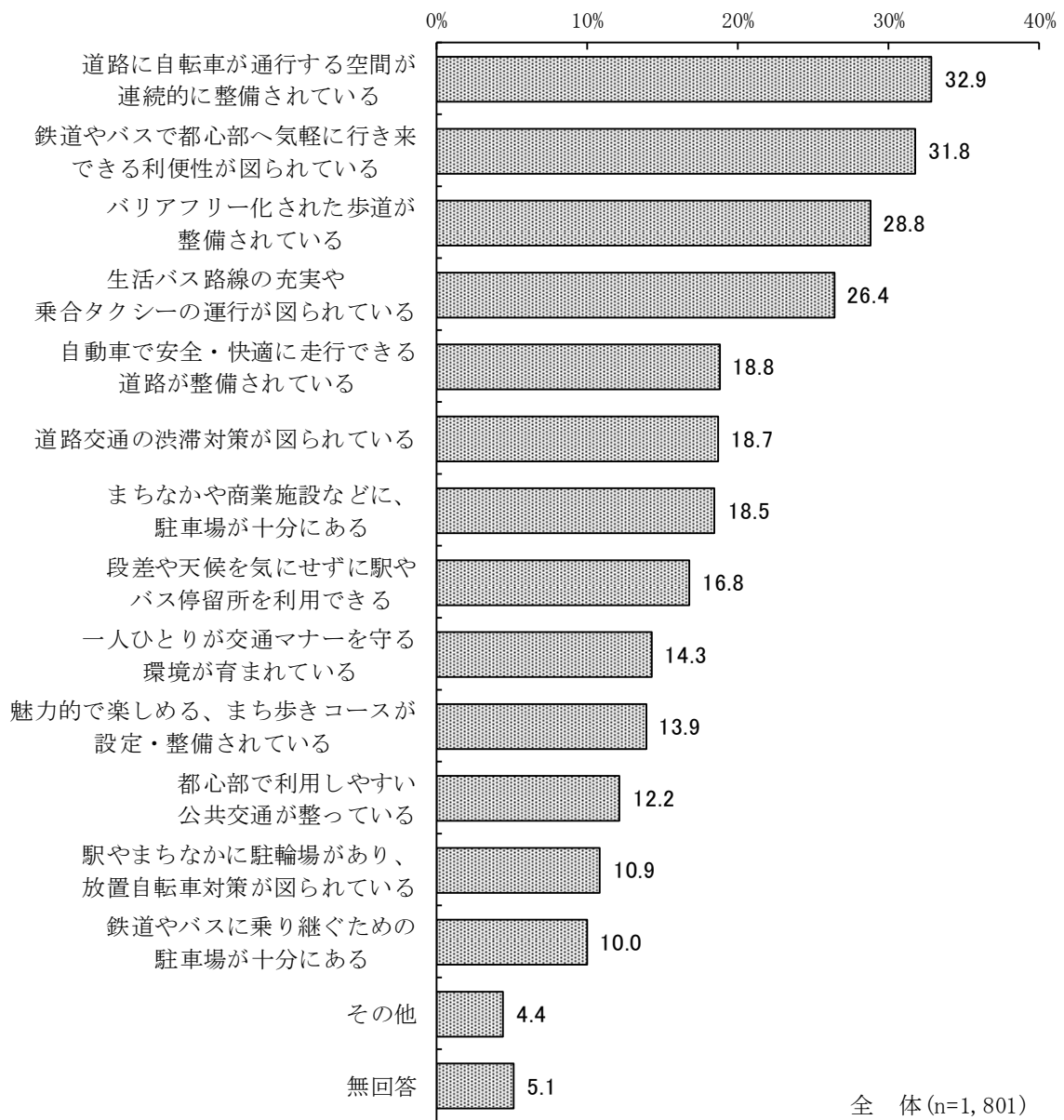
地区別では、『満足』計の割合は、秋葉区（21.8%）が高くなっている。一方、『不満』計の割合は、東区（61.1%）が高く、約6割となっている。

性別では、『不満』計の割合は、男性（57.2%）が女性（50.7%）を上回っている。

年齢別では、『満足』計の割合は、18～29歳（22.5%）が最も高くなっている。一方、『不満』計の割合は、50代（60.1%）と60～64歳（61.3%）が高く、約6割となっている。

(5) 「移動しやすいまち」を実感するために必要なこと

問26 あなたにとって「移動しやすいまち」であると実感できること、また、「移動しやすいまち」を実感するために必要だと思うことは、次のうちどれですか。(〇は3つまで)



—— 「道路に自転車が通行する空間が連続的に整備されている」が最も多い ——

【全体結果】

「移動しやすいまち」を実感するために必要なことについては、「道路に自転車が通行する空間が連続的に整備されている」(32.9%)の割合が最も高く、「鉄道やバスで都心部へ気軽に行き来できる利便性が図られている」(31.8%)が僅差で続いている。以下、「バリアフリー化された歩道が整備されている」(28.8%)、「生活バス路線の充実や乗合タクシーの運行が図られている」(26.4%)が2割台となっている。

【属性別結果】（図 4-5 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「道路に自転車が通行する空間が連続的に整備されている」については、東区（39.5%）と中央区（38.2%）の割合が高くなっている。「鉄道やバスで都心部へ気軽に行き来できる利便性が図られている」では、南区（41.5%）と江南区（40.4%）の割合が高く、約4割となっている。

② 性別

「自動車で安全・快適に走行できる道路が整備されている」と「道路交通の渋滞対策が図られている」では、いずれも男性（それぞれ 23.4%、23.0%）が女性（いずれも 15.5%）を上回っている。一方、「生活バス路線の充実や乗合タクシーの運行が図られている」と「段差や天候を気にせずに駅やバス停留所を利用できる」では、女性（それぞれ 28.7%、19.6%）が男性（それぞれ 23.7%、13.1%）を上回っている。

③ 年齢別

「自動車で安全・快適に走行できる道路が整備されている」「まちなかや商業施設などに、駐車場が十分にある」「都心部で利用しやすい公共交通が整っている」は 18～29 歳（それぞれ 22.5%、28.2%、17.6%）が、「道路に自転車が通行する空間が連続的に整備されている」「道路交通の渋滞対策が図られている」は 30 代（それぞれ 42.2%、29.9%）が、「鉄道やバスで都心部へ気軽に行き来している利便性が図られている」は 40 代（39.6%）が、「魅力的で楽しめる、まち歩きコースが設定・整備されている」「鉄道やバスに乗り継ぐための駐車場が十分にある」は 50 代（それぞれ 16.4%、13.6%）が、「バリアフリー化された歩道が整備されている」「生活バス路線の充実や乗合タクシーの運行が図られている」は 65～69 歳（それぞれ 34.7%、30.2%）が、それぞれ高くなっている。

図4-5 「移動しやすいまち」を実感するために必要なこと（地区別／性別／年齢別） 2/3

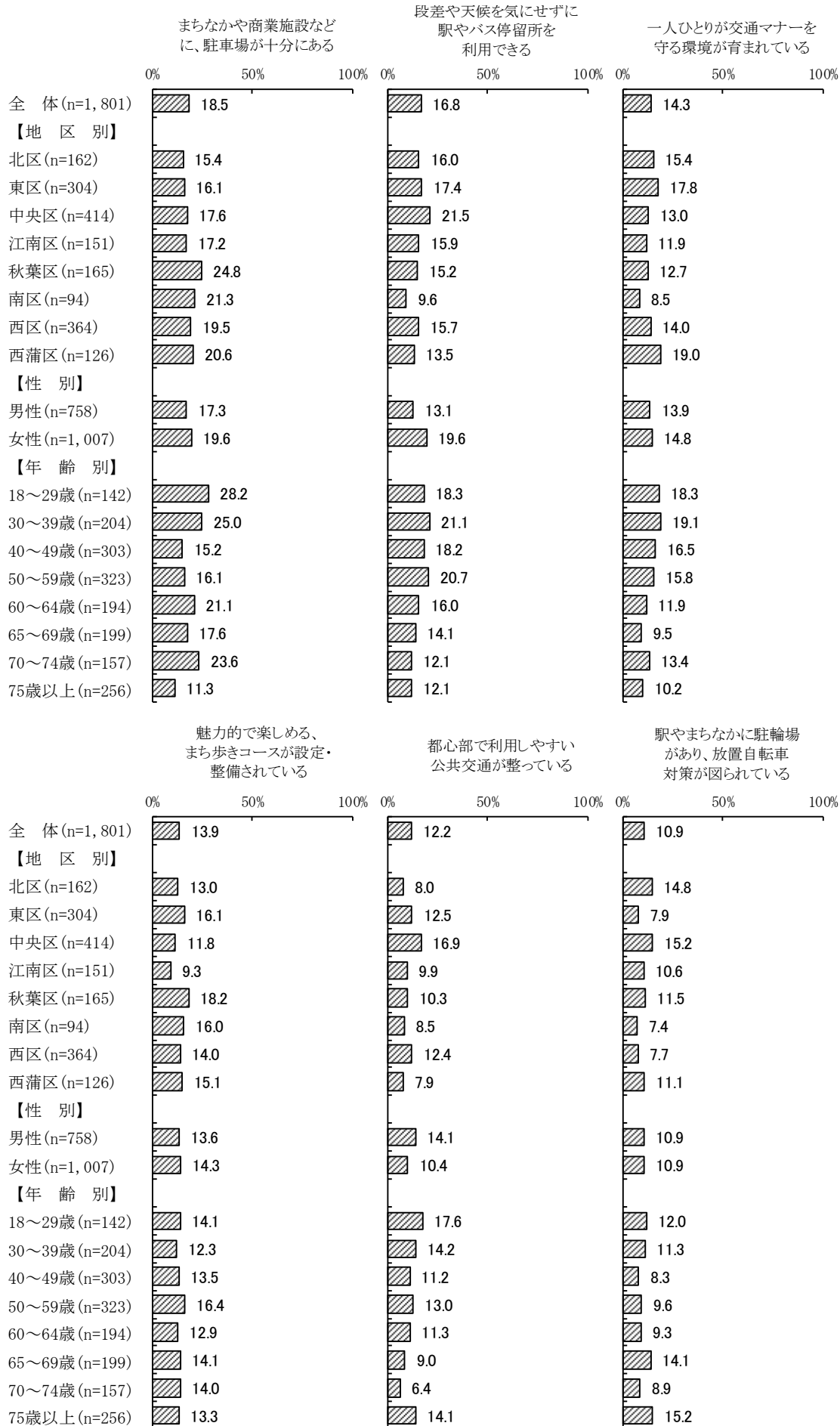
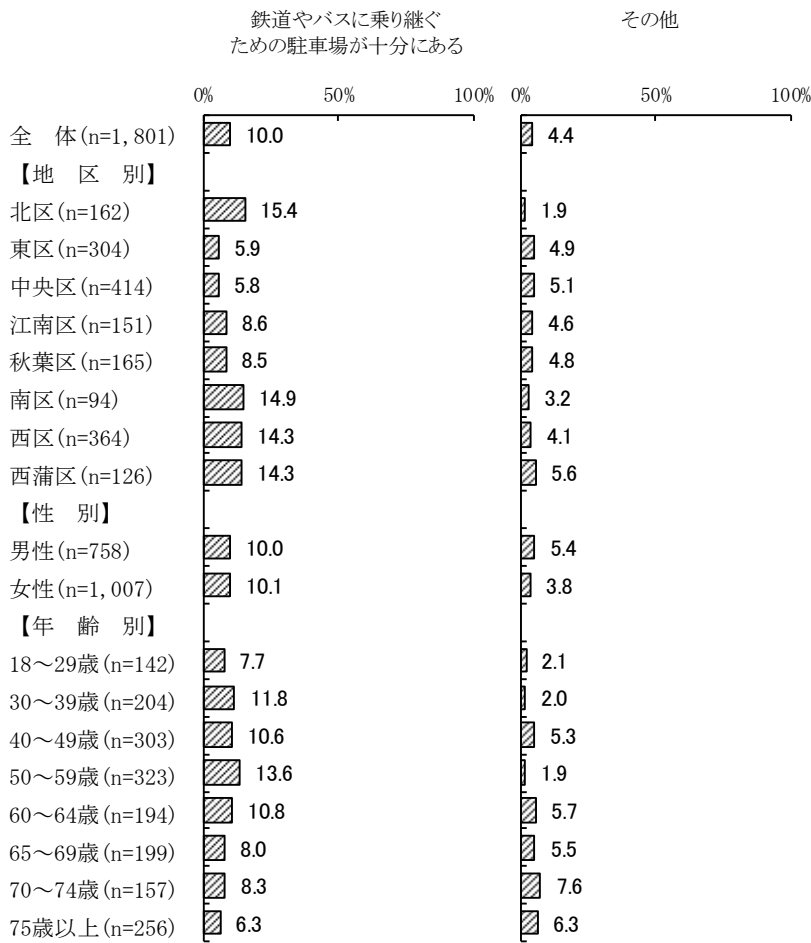
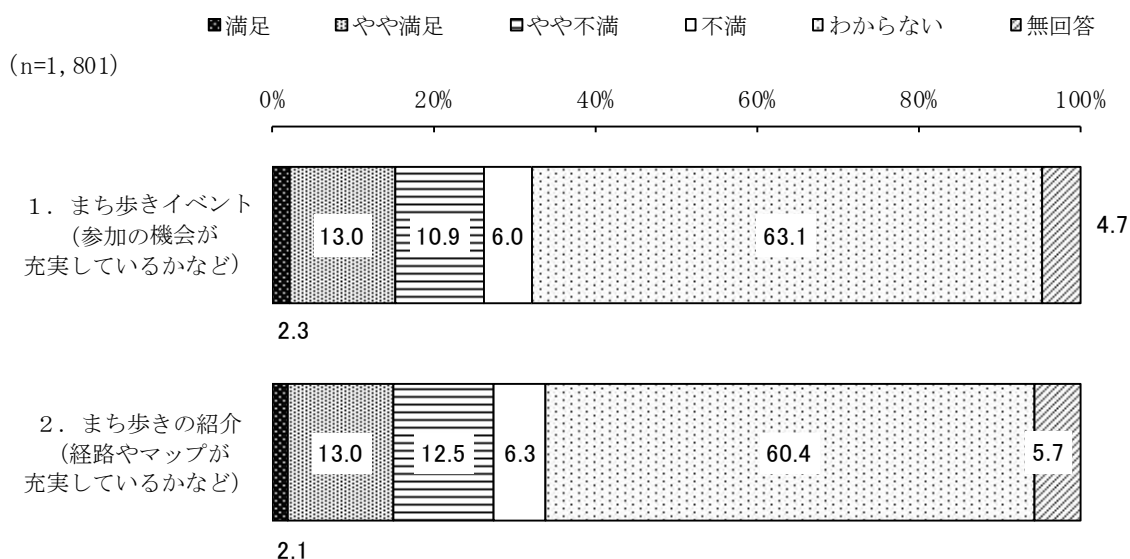


図4-5 「移動しやすいまち」を実感するために必要なこと（地区別／性別／年齢別） 3/3



(6) 「まち歩き」に関する現状の満足度

問27 近年、健康意識の高まりや街の持つ魅力が再認識され、まちなかの散策を楽しむ「まち歩き」が広がりをみせています。そこで、「まち歩き」に関する現状についてお聞かせください。
(〇はそれぞれ1つずつ)



『まち歩き』に関する現状は「わからない」と回答が6割台

【全体結果】

『まち歩き』に関する現状の満足度をみると、『満足』（「満足」と「やや満足」の合計）の割合は、【1. まち歩きイベント（参加の機会が充実しているかなど）】（15.3%）、【2. まち歩きの紹介（経路やマップが充実しているかなど）】（15.1%）は、いずれも1割台にとどまっている。

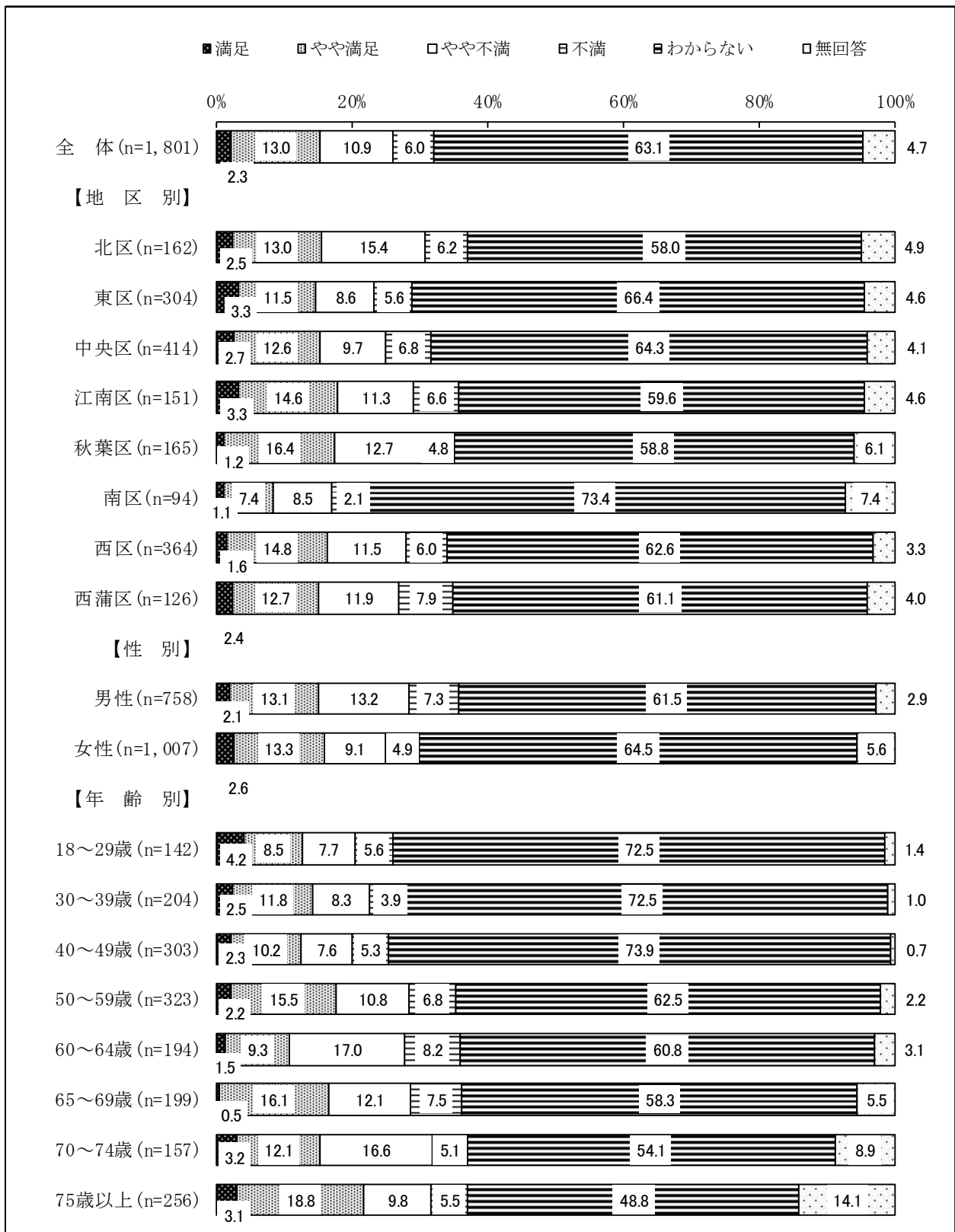
一方で、「わからない」の割合が高く、【1. まち歩きイベント（参加の機会が充実しているかなど）】（63.1%）、【2. まち歩きの紹介（経路やマップが充実しているかなど）】（60.4%）は、いずれも6割台となっている。

【属性別結果】

次ページ以降に地区別・性別・年齢別の集計結果をまとめた。

図4-6 「まち歩き」に関する現状の満足度（地区別／性別／年齢別）

1. まち歩きイベント（参加の機会が充実しているかなど）

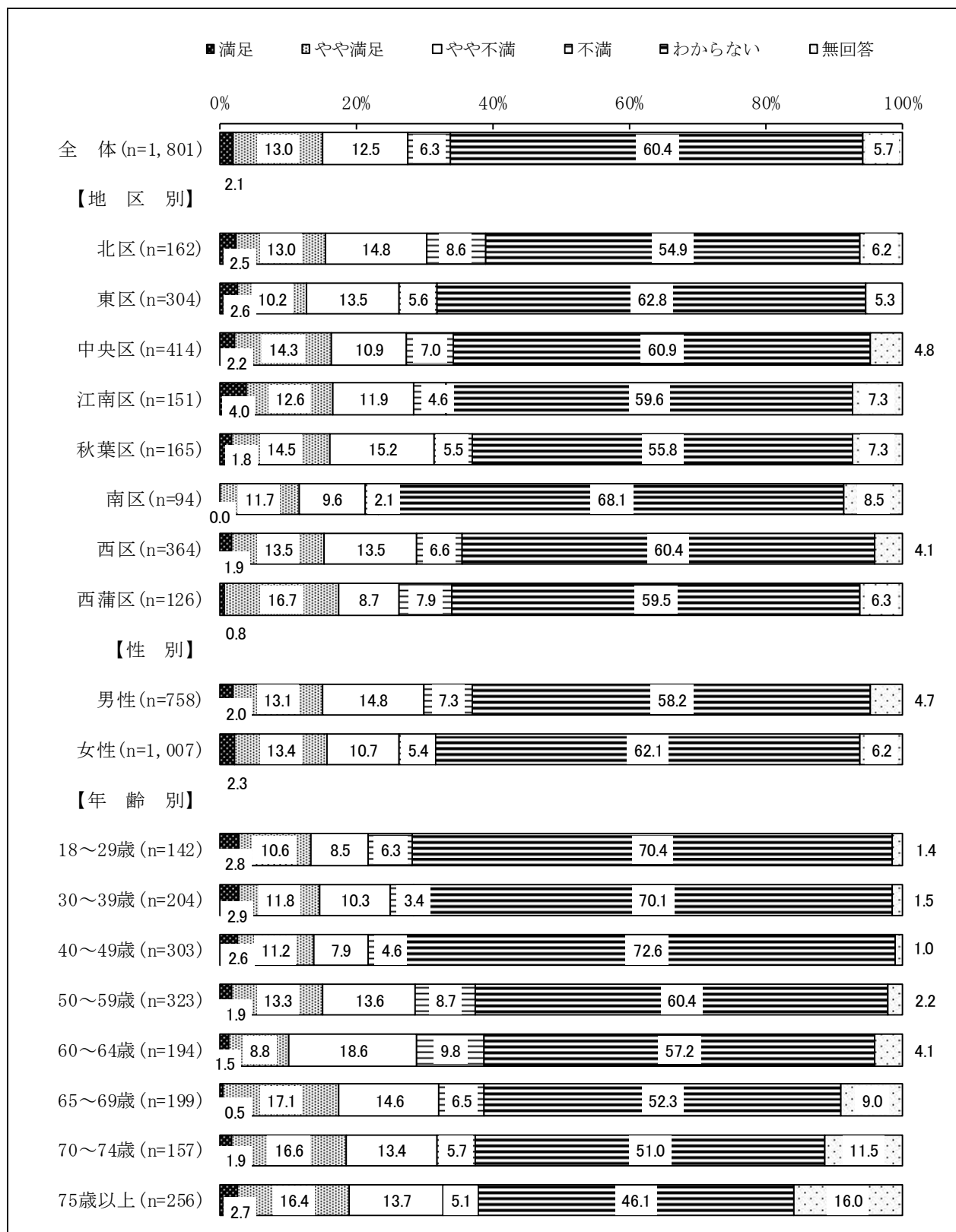


地区別では、『満足』計の割合は、江南区（17.9%）と秋葉区（17.6%）が高くなっている。一方、『不満』計の割合は、北区（21.6%）が最も高く、2割を超えている。

性別では、『不満』計の割合は、男性（20.5%）が女性（14.0%）を上回っている。

年齢別では、『満足』計の割合は、75歳以上（21.9%）が最も高くなっている。一方、『不満』計の割合は、60～64歳（25.2%）が高く、全体の4分の1を占めている。

2. まち歩きの紹介（経路やマップが充実しているかなど）



地区別では、『満足』計の割合は、西蒲区（17.5%）が最も高くなっている。一方、『不満』計の割合は、北区（23.4%）が最も高くなっている。

性別では、『不満』計の割合は、男性（22.1%）が女性（16.1%）を上回っている。

年齢別では、『満足』計の割合は、70～74歳（18.5%）と75歳以上（19.1%）が高く、2割未満となっている。一方、『不満』計の割合は、60～64歳（28.4%）が最も高くなっている。

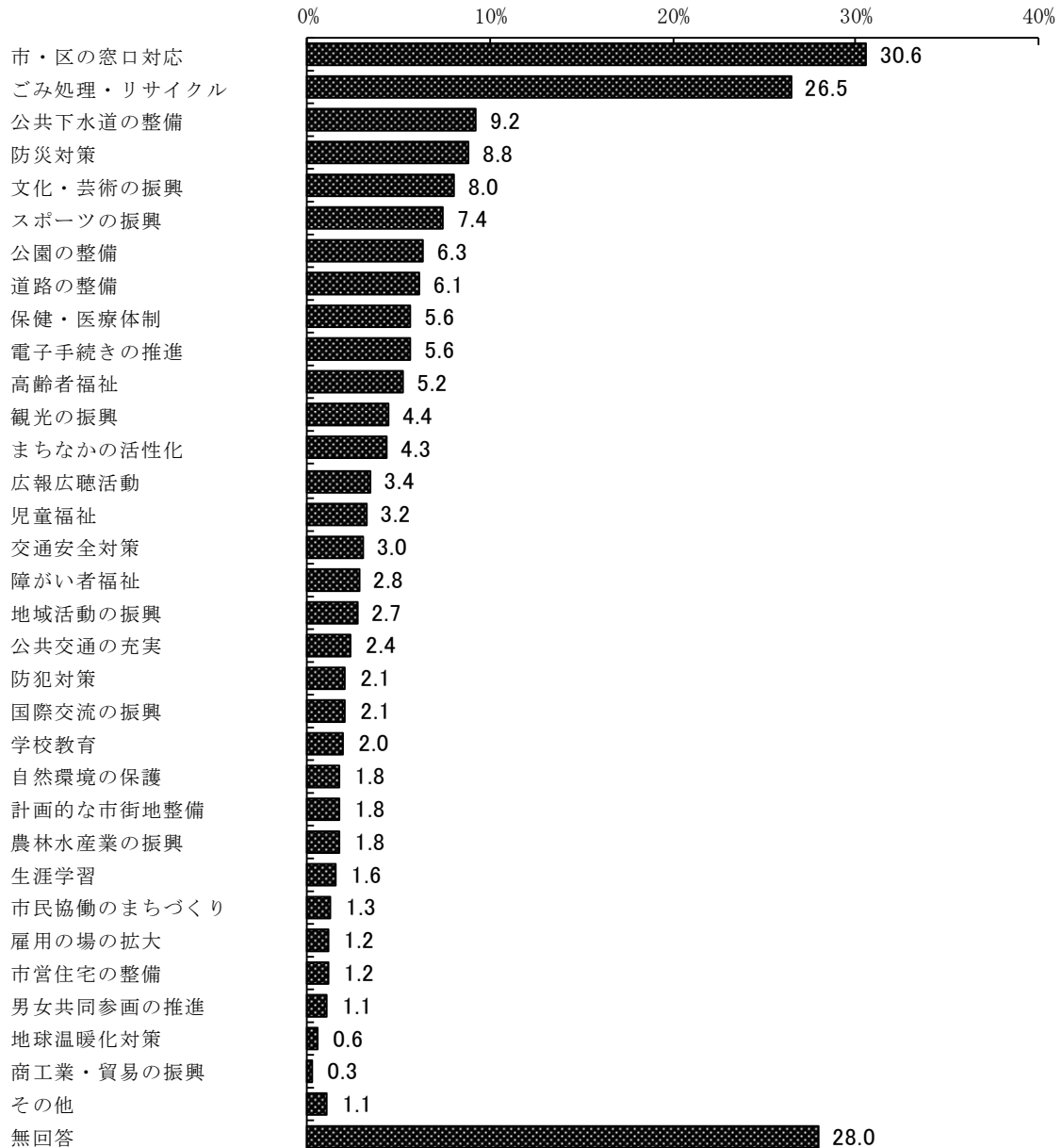
5. 市政全般と区政について

(1) 新潟市として良くなっているもの

問29 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて

①「新潟市として良くなっているもの」を次の中からそれぞれ3つまでを選んで、
下の回答欄に番号（1～33）をご記入ください。

(n=1,801)



新潟市として良くなっているものは「市・区の窓口対応」

【全体結果】

新潟市として良くなっているもの割合は、「市・区の窓口対応」(30.6%)が最も高い。以下、「ごみ処理・リサイクル」(26.5%)、「公共下水道の整備」(9.2%)と続いている。

【属性別結果】（図 5-1 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「市・区の窓口対応」については、西区（38.2%）の割合が最も高くなっている。

② 性別

「市・区の窓口対応」と「防災対策」では男女差がみられ、いずれも男性が女性を上回っている。

③ 年齢別

「防災対策」「スポーツの振興」は18～29歳（それぞれ12.7%、13.4%）が、「公園の整備」「電子手続きの推進」「まちなかの活性化」は30代（それぞれ11.8%、11.8%、10.8%）が、「市・区の窓口対応」「ゴミ処理・リサイクル」「公共下水道の整備」は70～74歳（それぞれ42.7%、35.7%、17.2%）が、それぞれ最も高くなっている。

図5-1 新潟市として良くなっているもの（地区別／性別／年齢別） 1/6

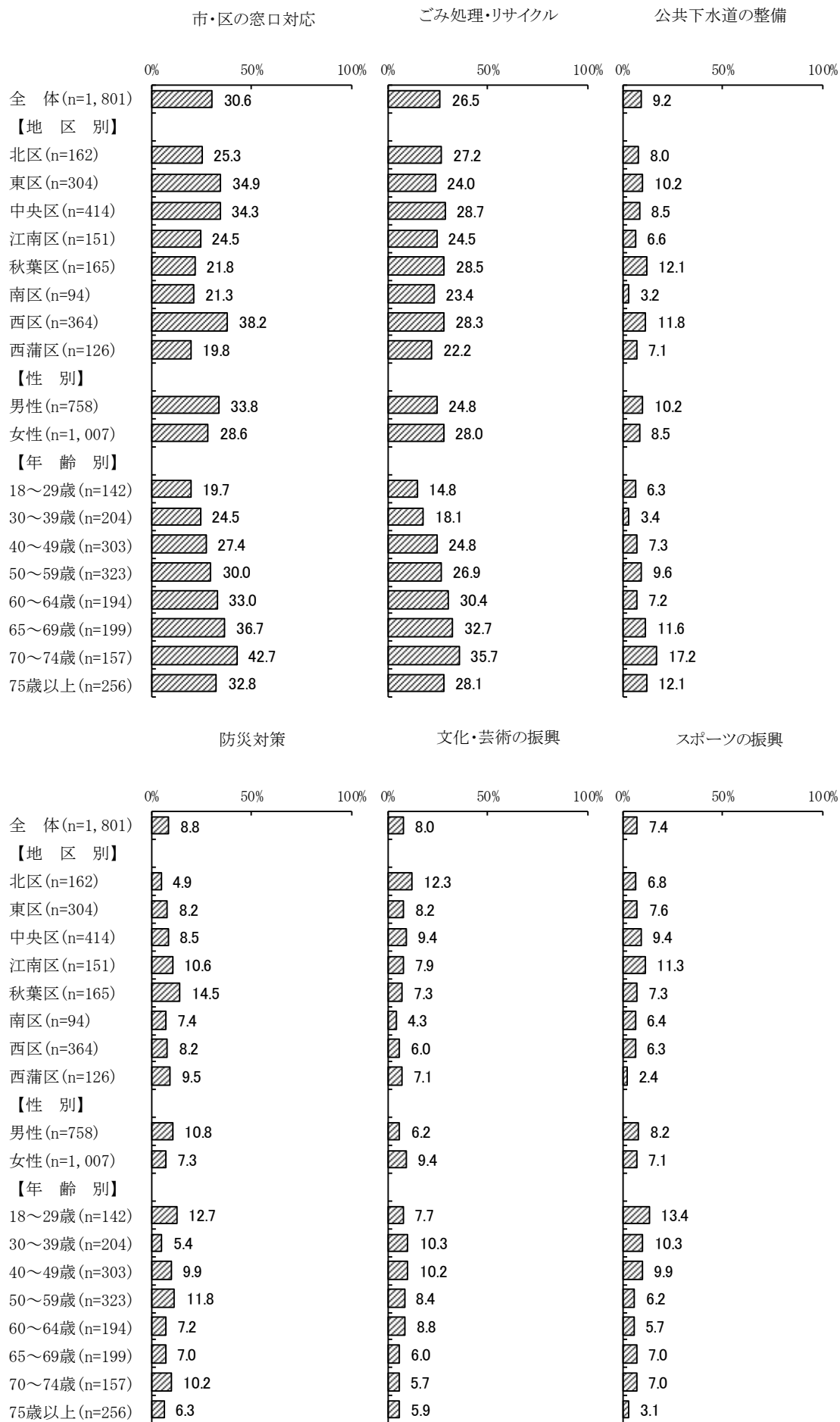


図5-1 新潟市として良くなっているもの（地区別／性別／年齢別） 2/6

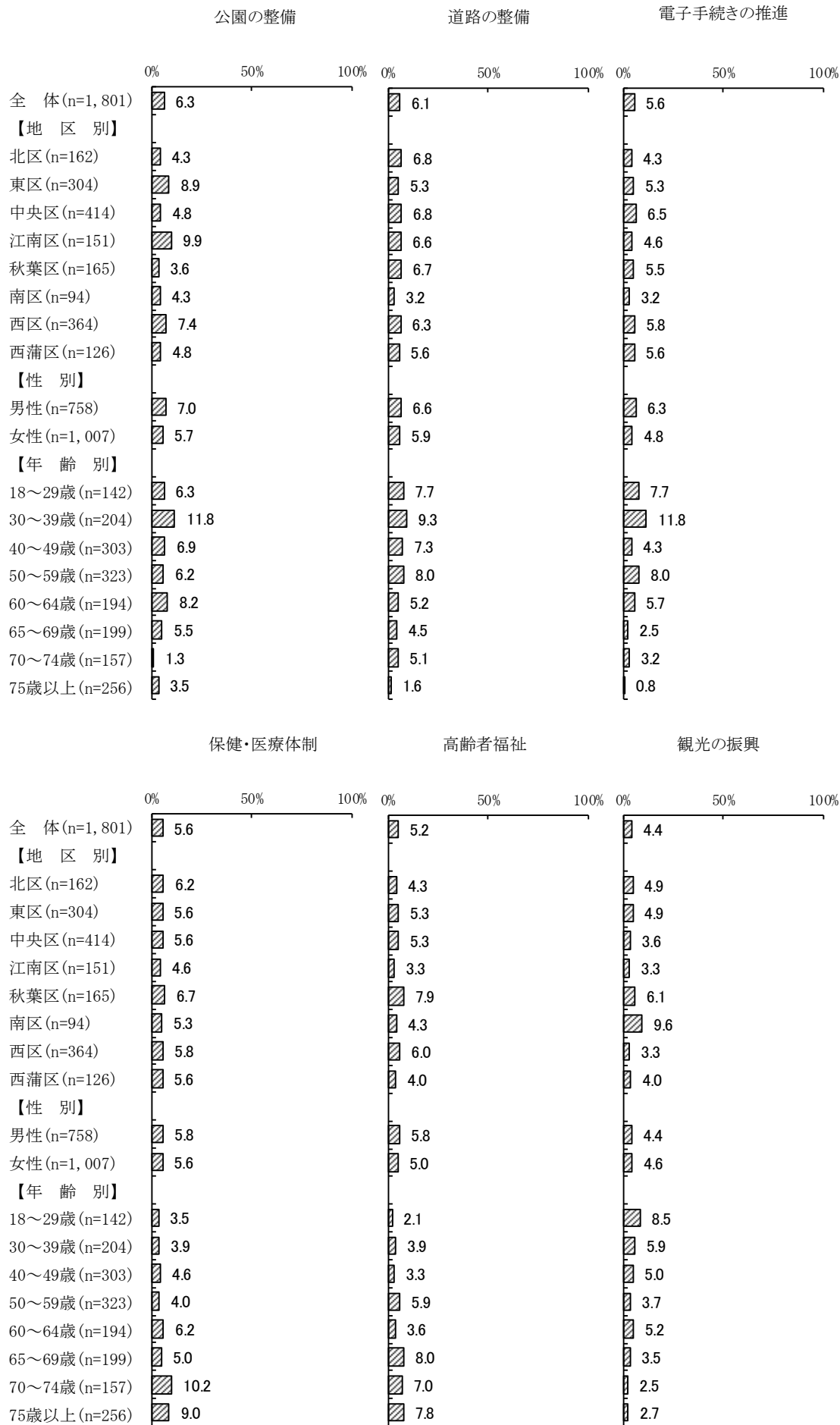


図5-1 新潟市として良くなっているもの（地区別／性別／年齢別） 3/6

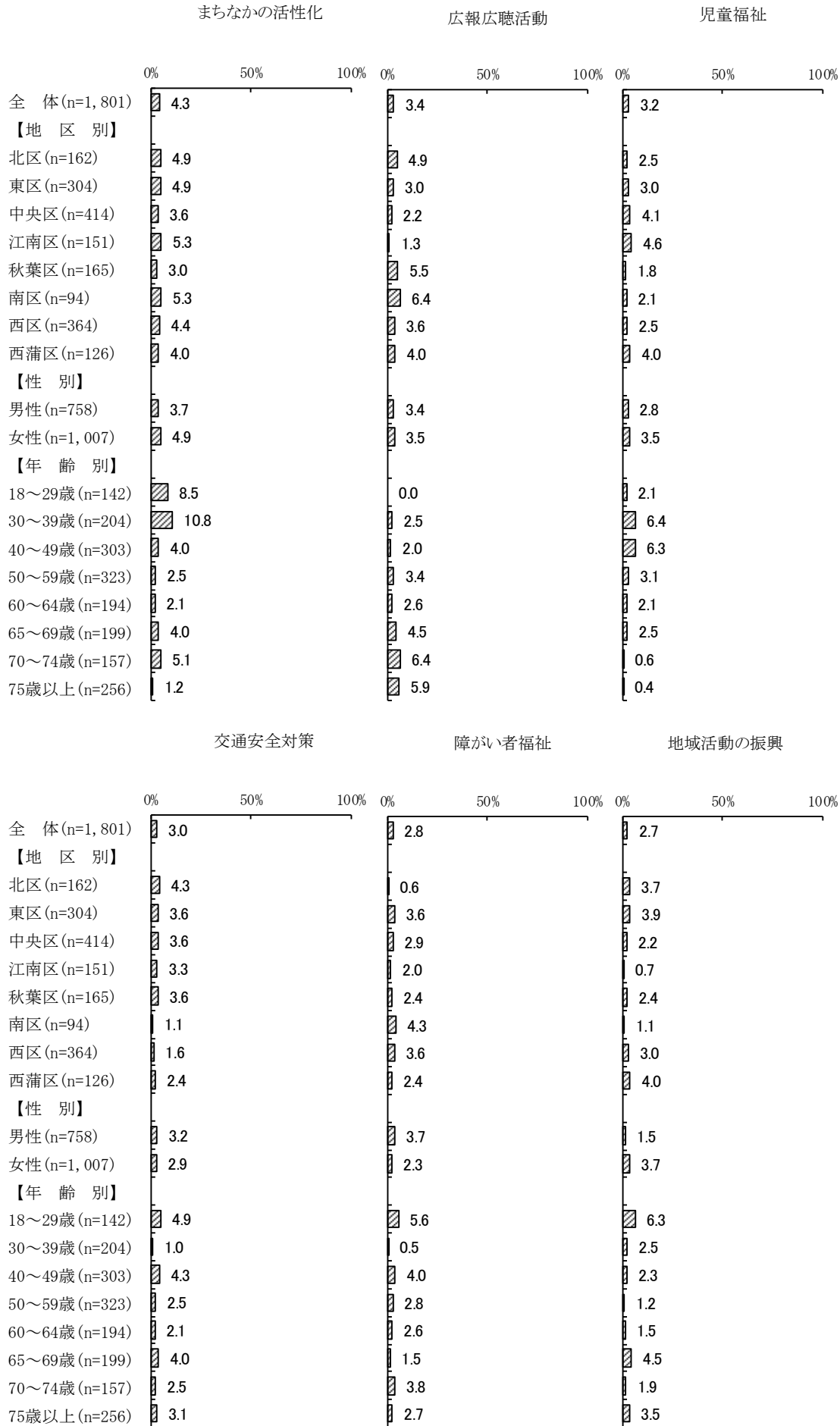


図5-1 新潟市として良くなっているもの（地区別／性別／年齢別） 5/6

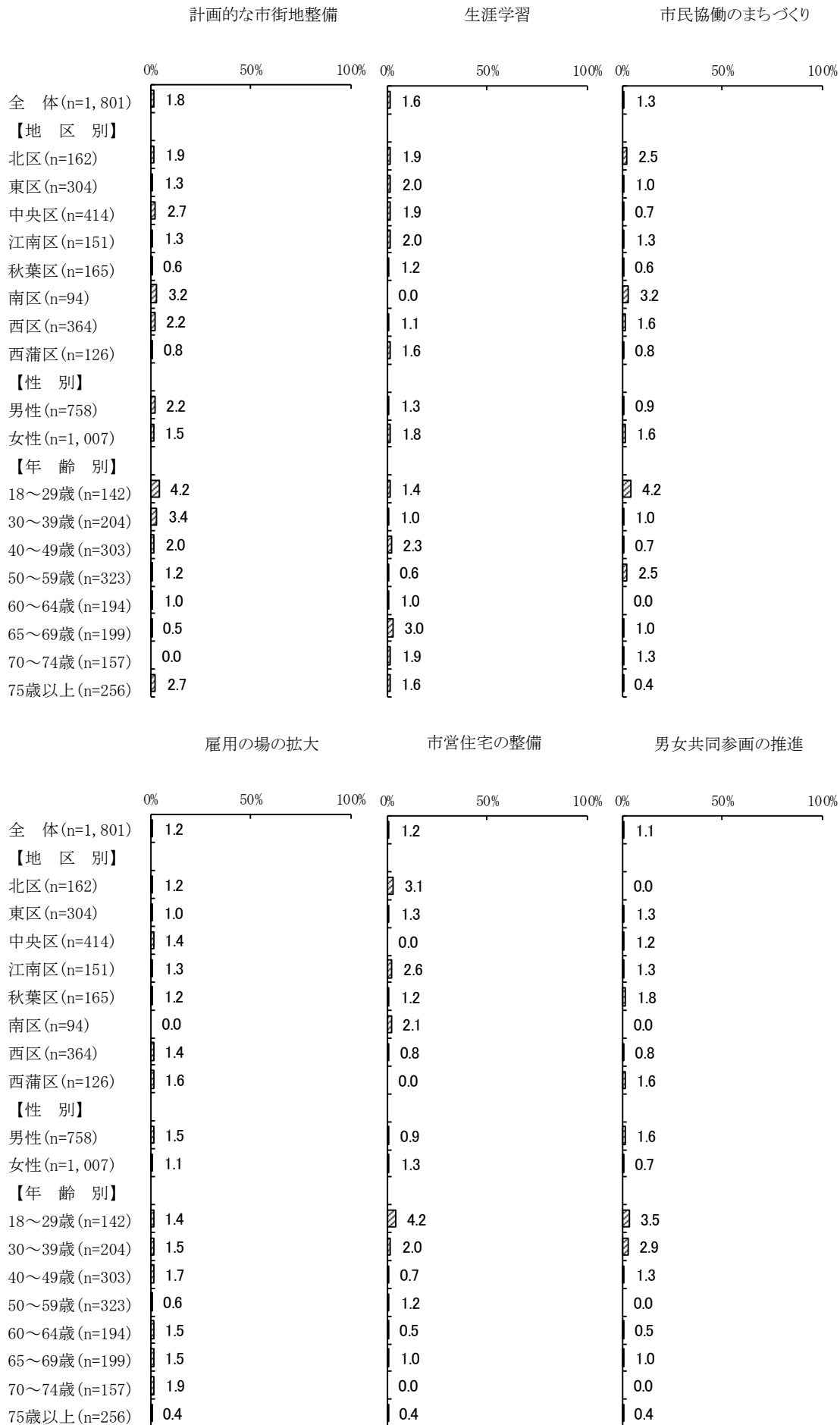
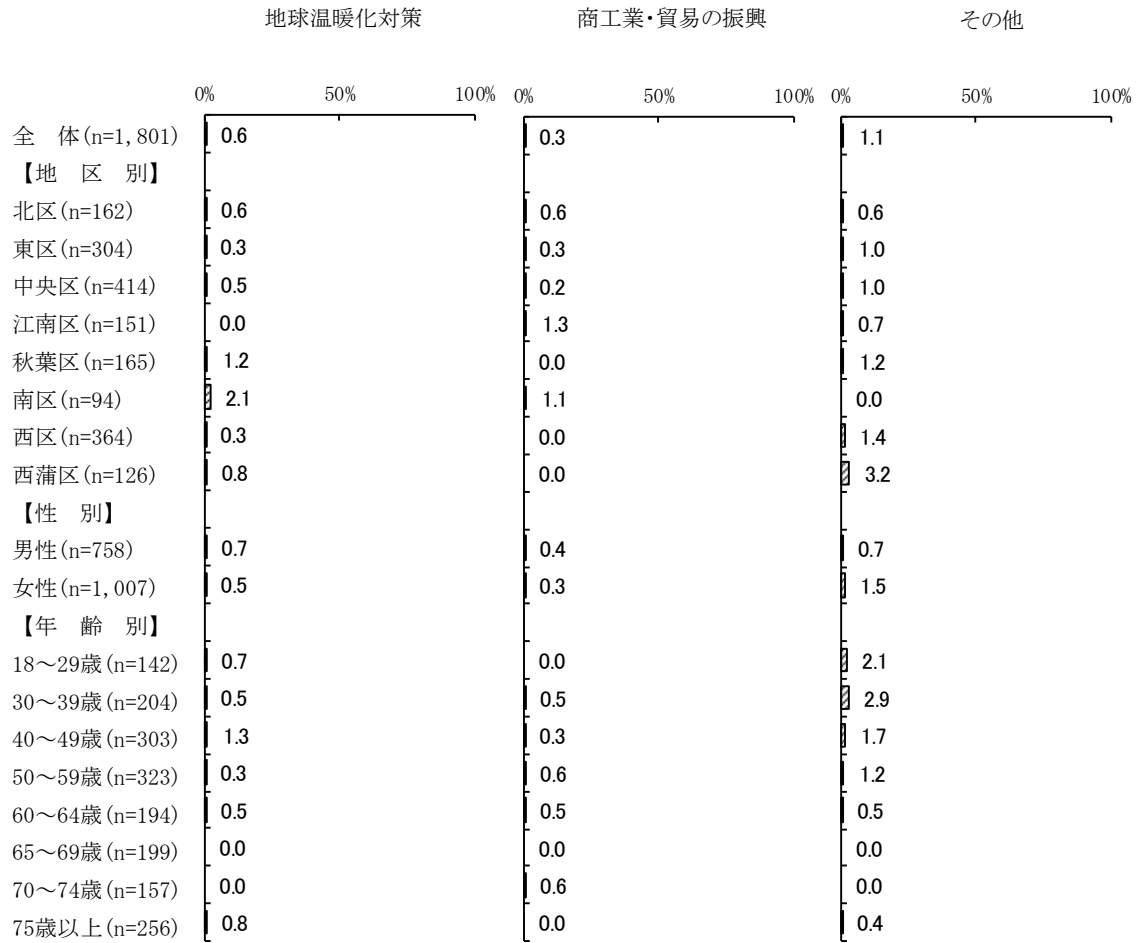


図5-1 新潟市として良くなっているもの（地区別／性別／年齢別） 6/6

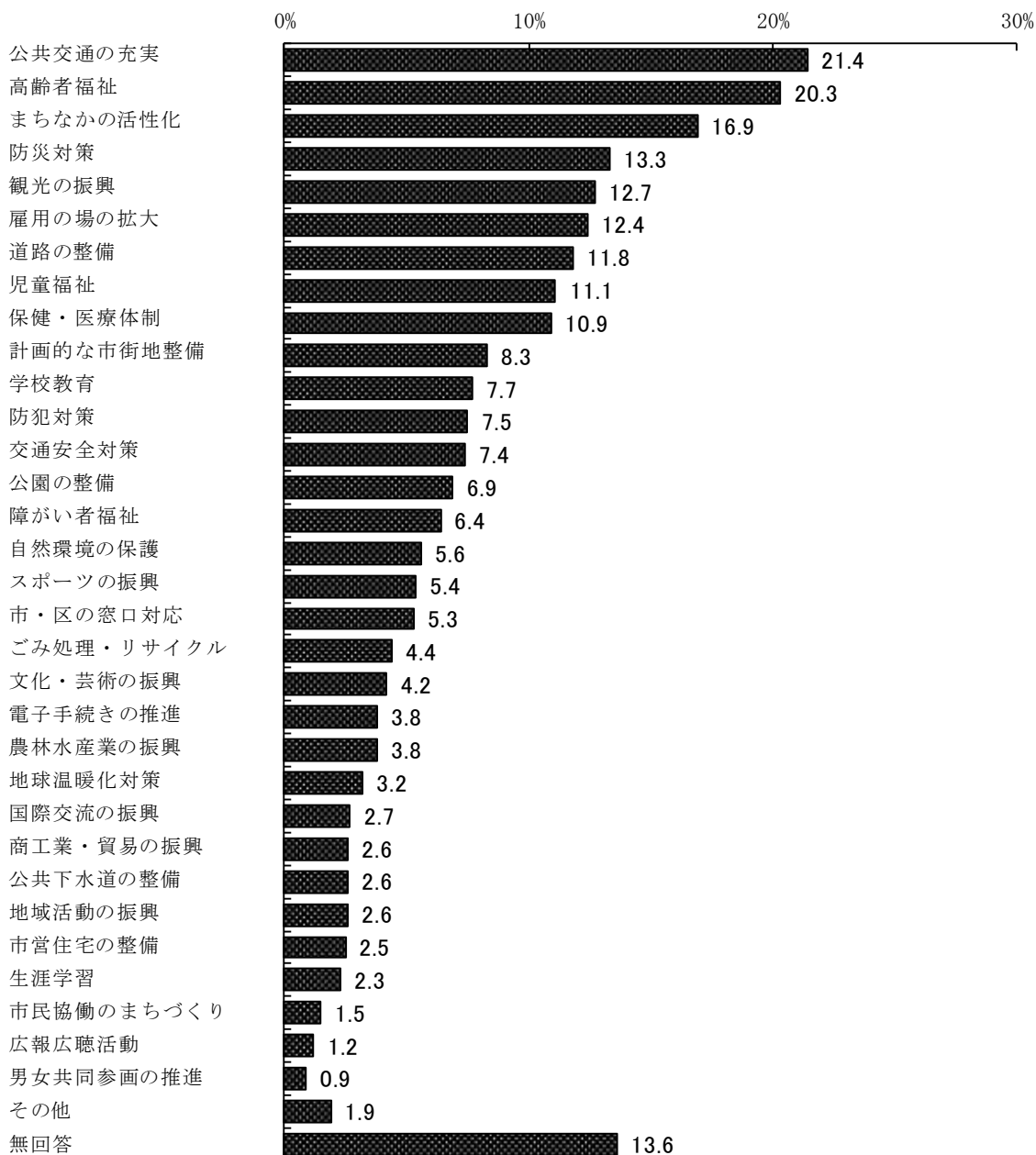


(2) 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの

問29 市役所とあなたが住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて

②「新潟市として今後、もっと力を入れてほしいもの」を次の中からそれぞれ3つまでを選んで、下の回答欄に番号(1~33)をご記入ください。

(n=1,801)



————— 要望が最も高い施策・事業は「公共交通の充実」 —————

【全体結果】

新潟市として今後もっと力を入れてほしいものの割合は、「公共交通の充実」(21.4%)が最も高い。以下、「高齢者福祉」(20.3%)、「まちなかの活性化」(16.9%)、「防災対策」(13.3%)、「観光の振興」(12.7%)と続いている。

【属性別結果】（図 5-2 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「公共交通の充実」については、中央区（25.4%）と南区（25.5%）の割合が高くなっている。

② 性別

「高齢者福祉」、「まちなかの活性化」、「児童福祉」では、いずれも女性が男性を上回り、「防災対策」「交通安全対策」「スポーツの振興」「商工業・貿易の振興」で男性が女性を上回っている。

③ 年齢別

「観光の振興」「スポーツの振興」は18～29歳（それぞれ21.8%、13.4%）が、「雇用の場の拡大」は18～29歳（15.5%）、40代（14.9%）、60～64歳（14.4%）と65～69歳（15.1%）が、「児童福祉」「公園の整備」は30代（それぞれ30.4%、10.8%）が、「学校教育」「防犯対策」は40代（それぞれ15.5%、11.6%）が、「公共交通の充実」は50代（26.3%）が、「高齢者福祉」は50代以上が2割台、「道路の整備」は50代（16.1%）と60～64歳（16.0%）が、「まちなかの活性化」「防災対策」は65～69歳（それぞれ22.1%、18.6%）が、「保健・医療体制」は70～74歳（25.5%）が、それぞれ高くなっている。

図5-2 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別／性別／年齢別） 1/6

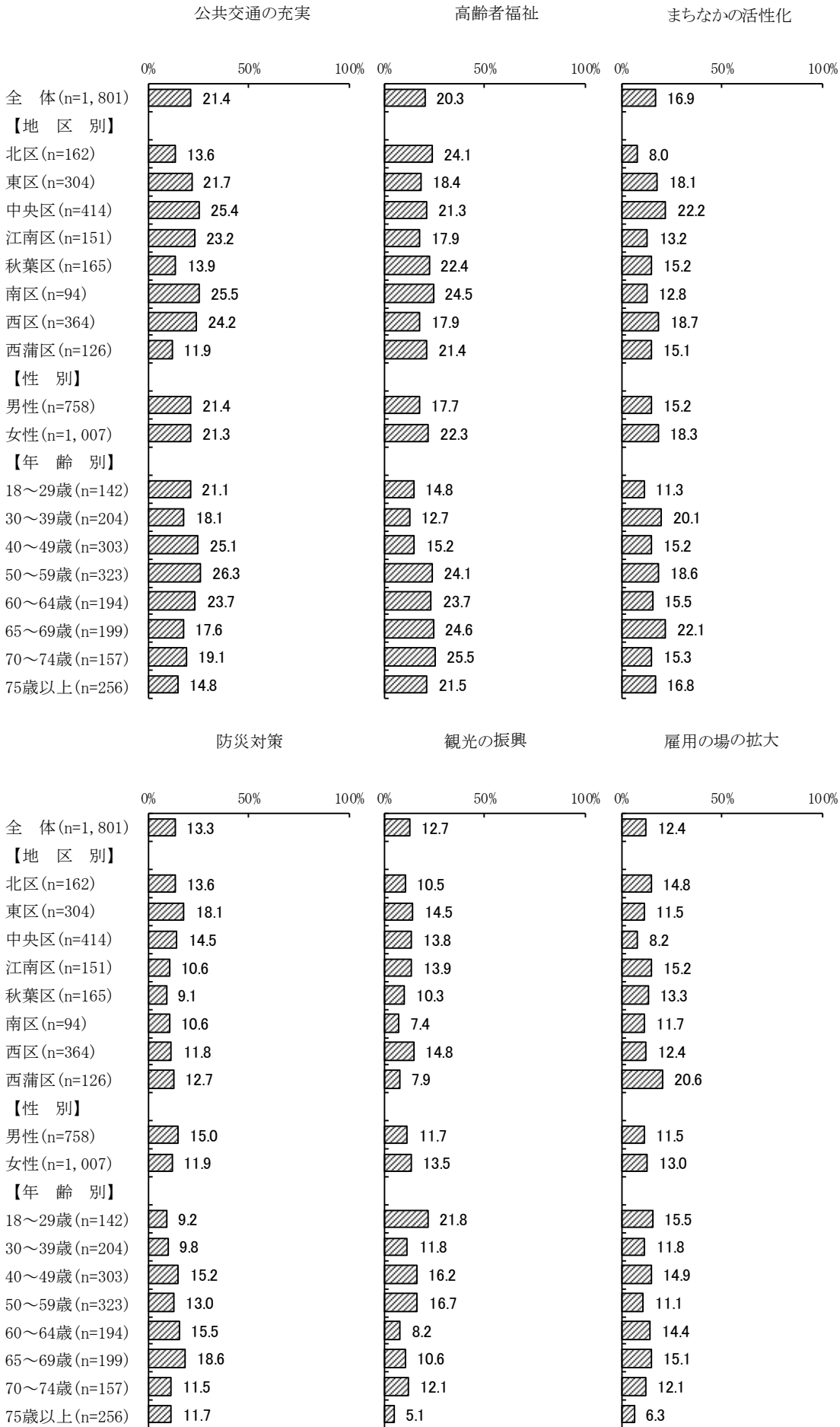


図5-2 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別／性別／年齢別） 2/6

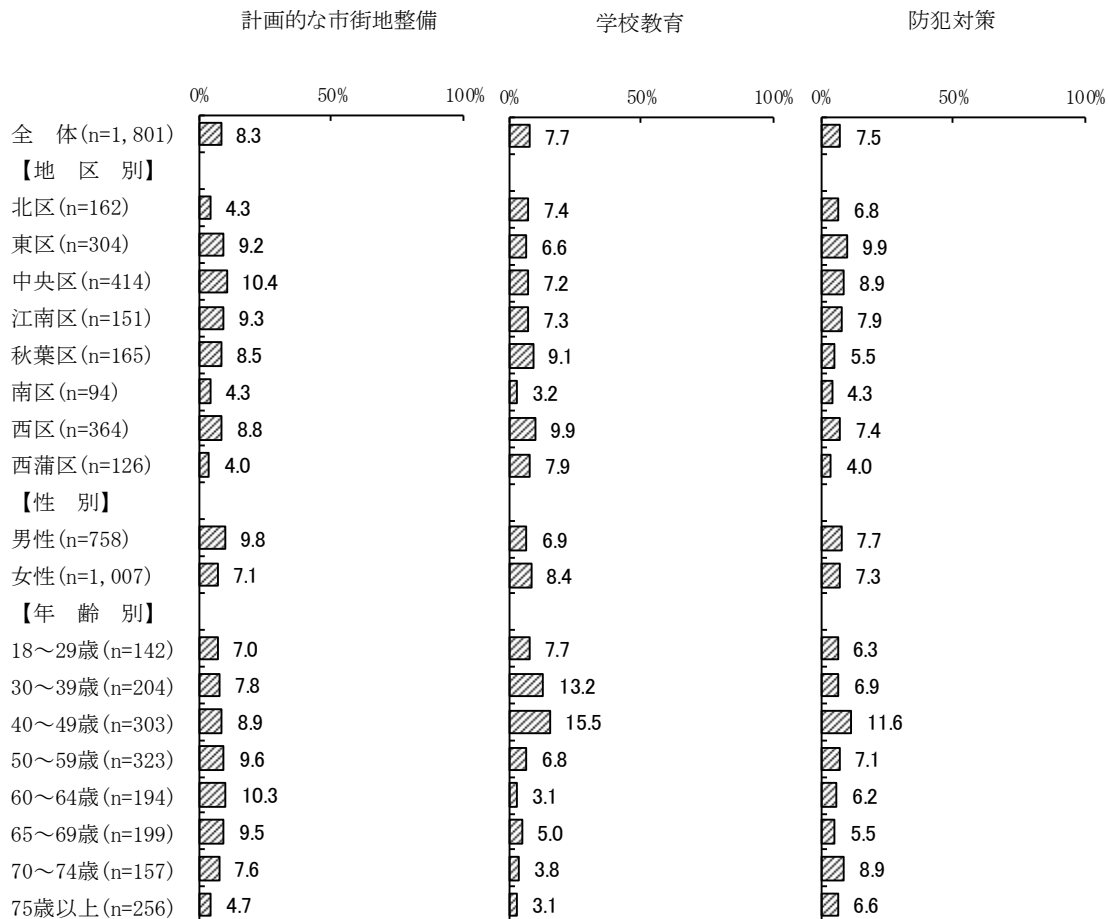
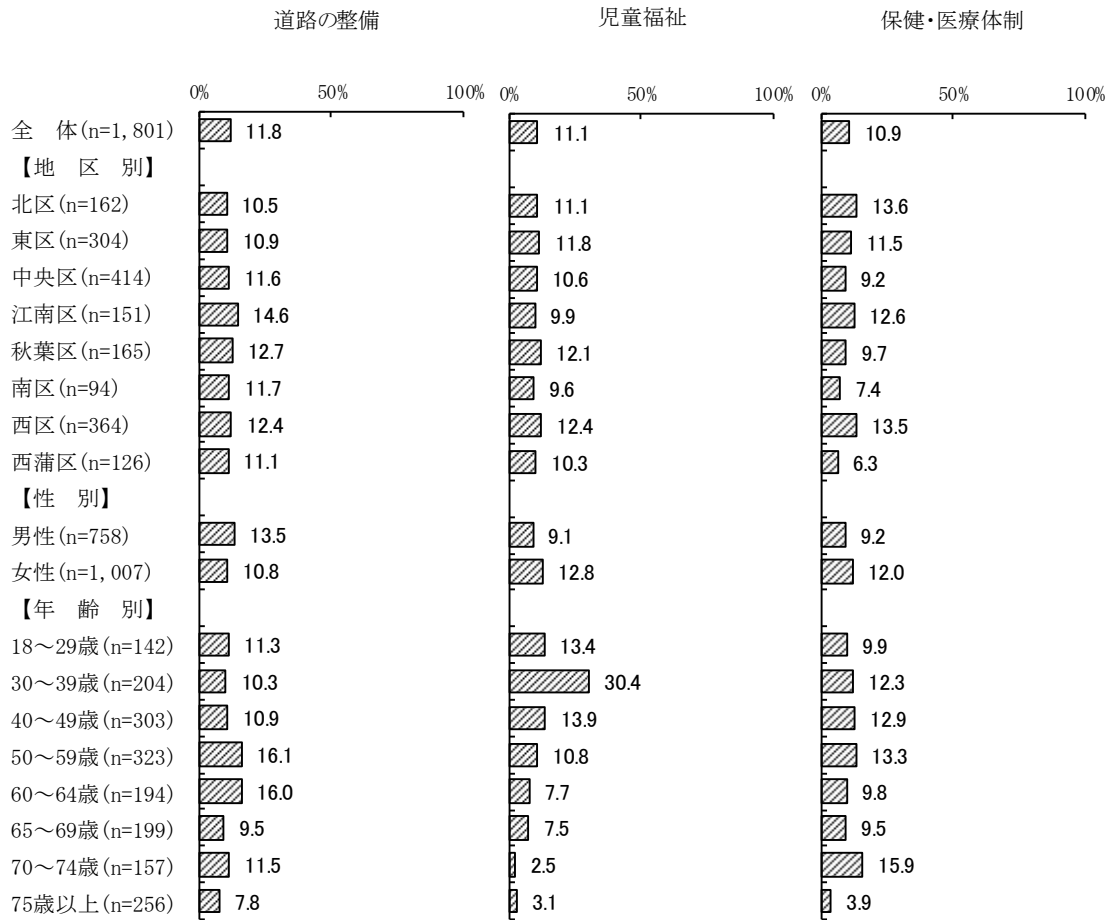


図5-2 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別／性別／年齢別） 3/6

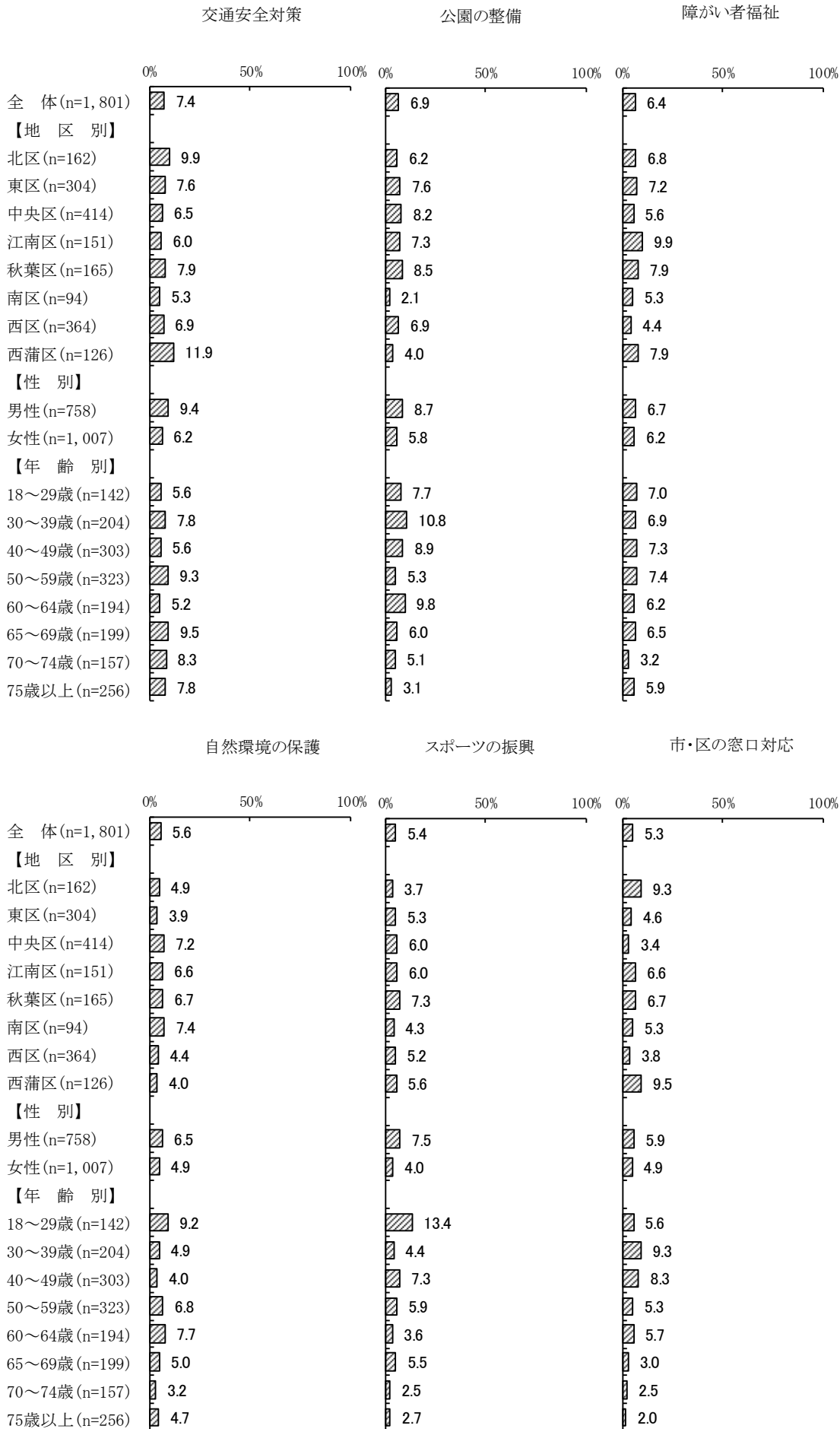


図5-2 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別／性別／年齢別） 4/6

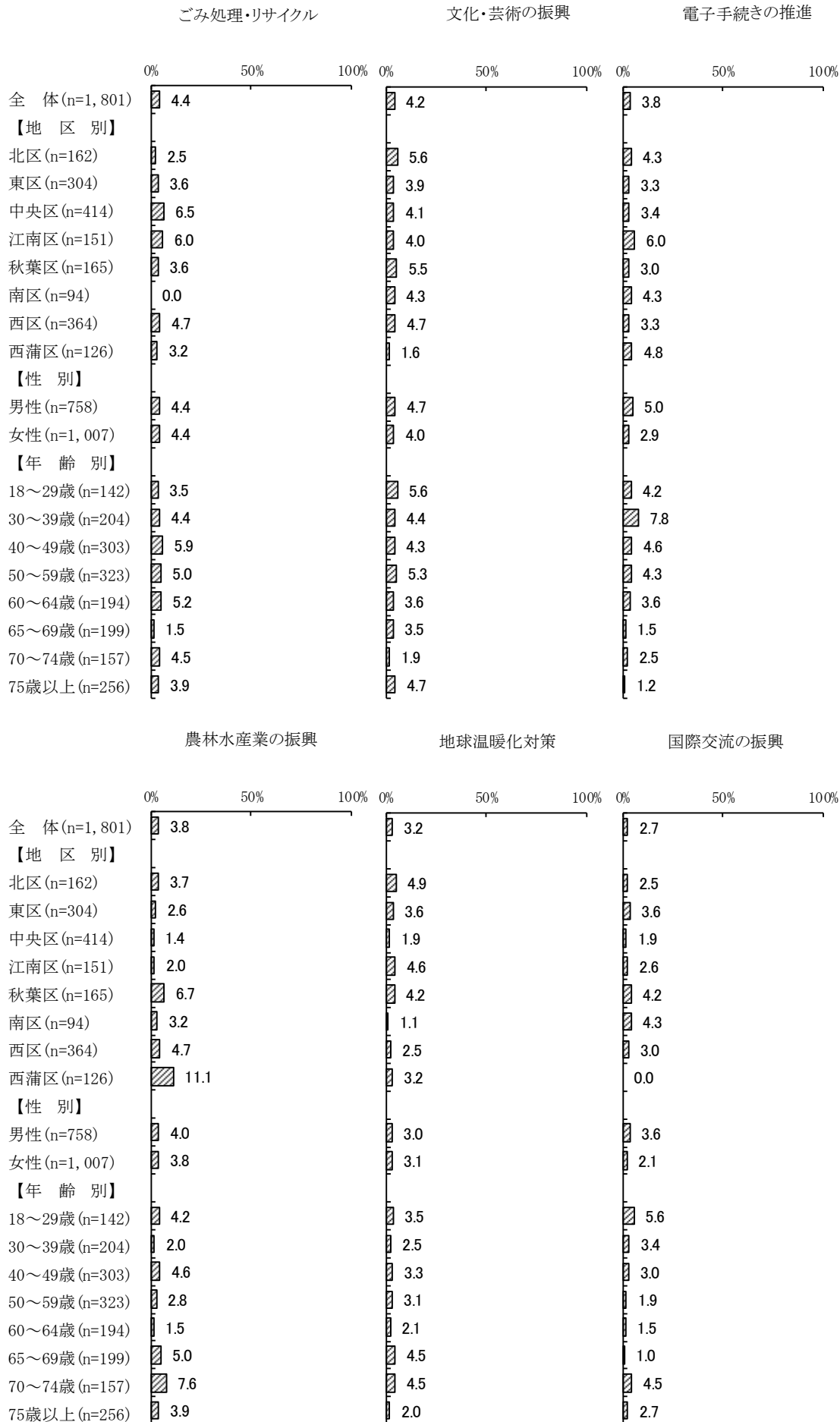
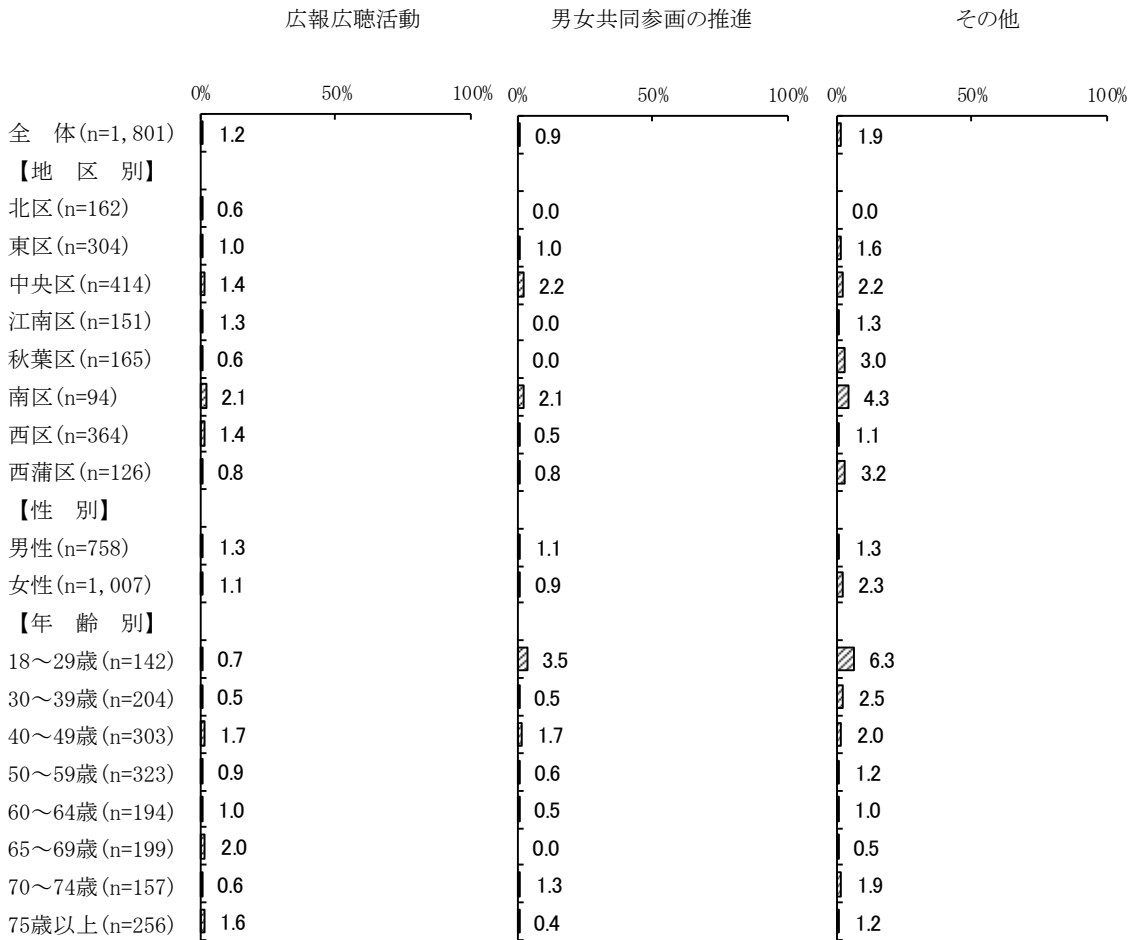


図5-2 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別／性別／年齢別） 6/6

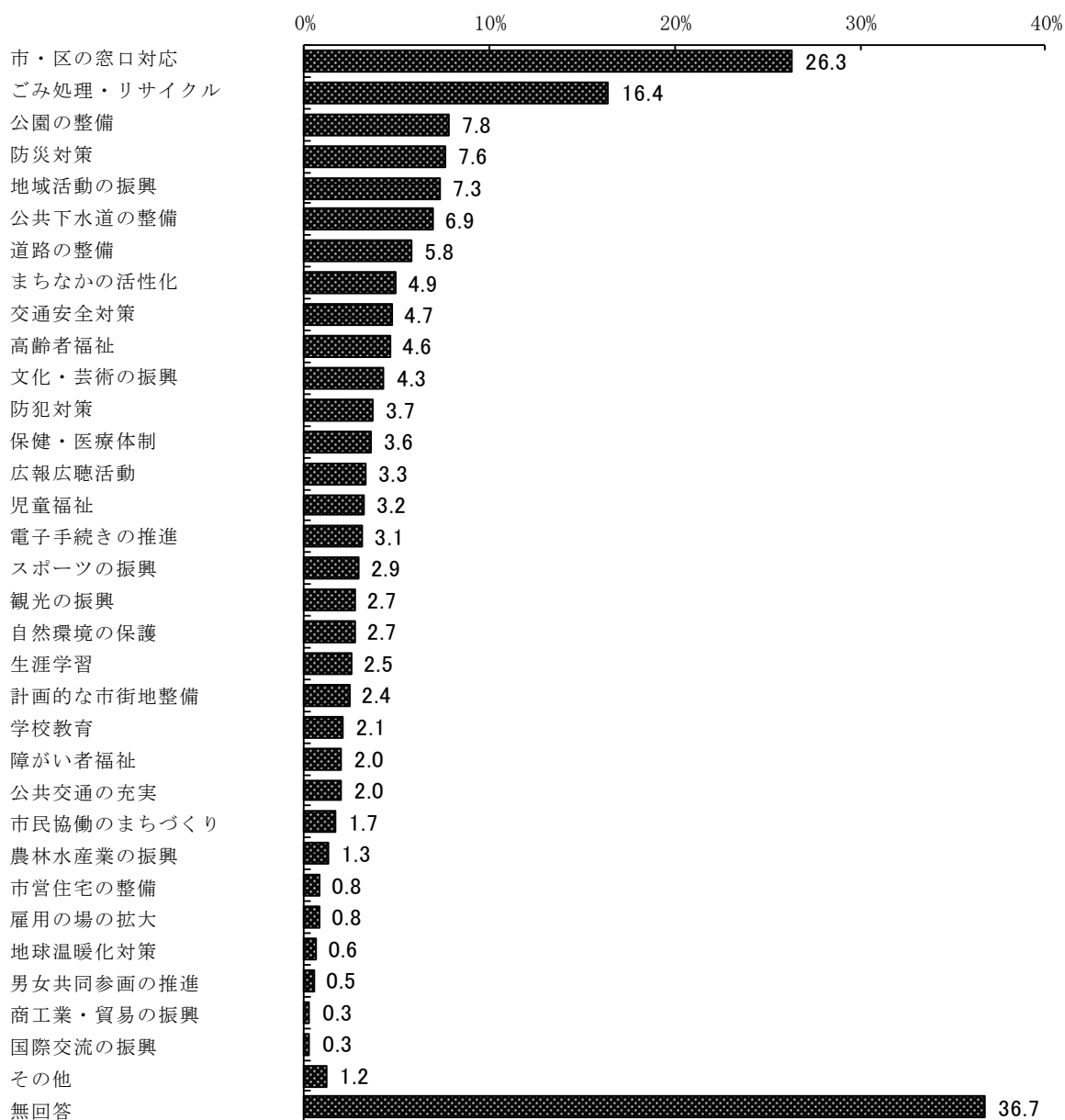


(3) 区として良くなっているもの

問29 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて

③「区として良くなっているもの」を次の中からそれぞれ3つまでを選んで、
下の回答欄に番号(1~33)をご記入ください。

(n=1,801)



「市・区の窓口対応」への評価が高い

【全体結果】

区として良くなっているものの割合は、「市・区の窓口対応」(26.3%)が最も高い。以下、「ごみ処理・リサイクル」(16.4%)、「公園の整備」(7.8%)、「防災対策」(7.6%)、「地域活動の振興」(7.3%)と続いている。

【属性別結果】（図 5-3 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「市・区の窓口対応」については、東区（33.2%）と西区（30.5%）の割合が高く、3割を超えている。

② 性別

性別では、「ごみ処理・リサイクル」では、女性（17.7%）が男性（14.6%）を上回っている。

③ 年齢別

「道路の整備」は 18～29 歳（15.5%）が、「公園の整備」は 30 代（13.2%）が、「ごみ処理・リサイクル」は 65～69 歳（22.1%）が、「市・区の窓口対応」「地域活動の振興」は 70～74 歳（それぞれ 34.4%、11.5%）が、それぞれ最も高くなっている。

図5-3 区として良くなっているもの（地区別／性別／年齢別） 2/6

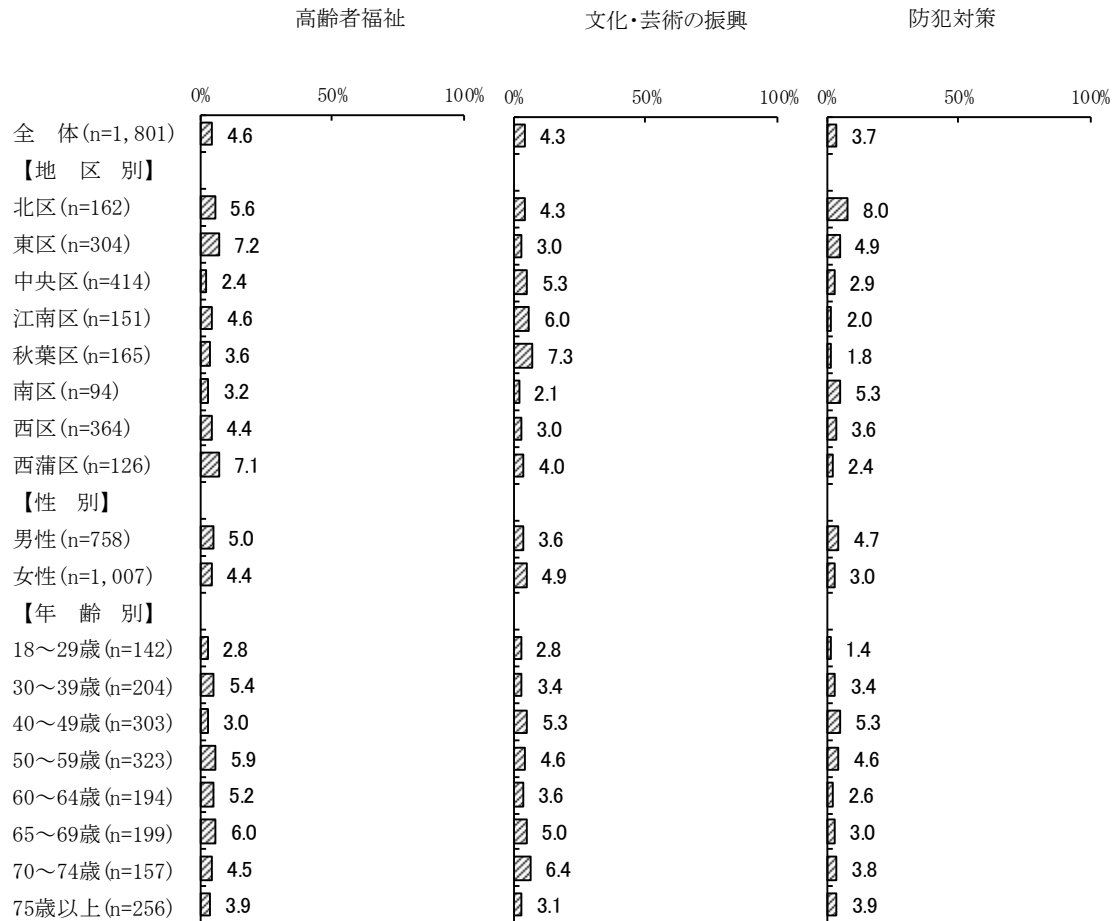
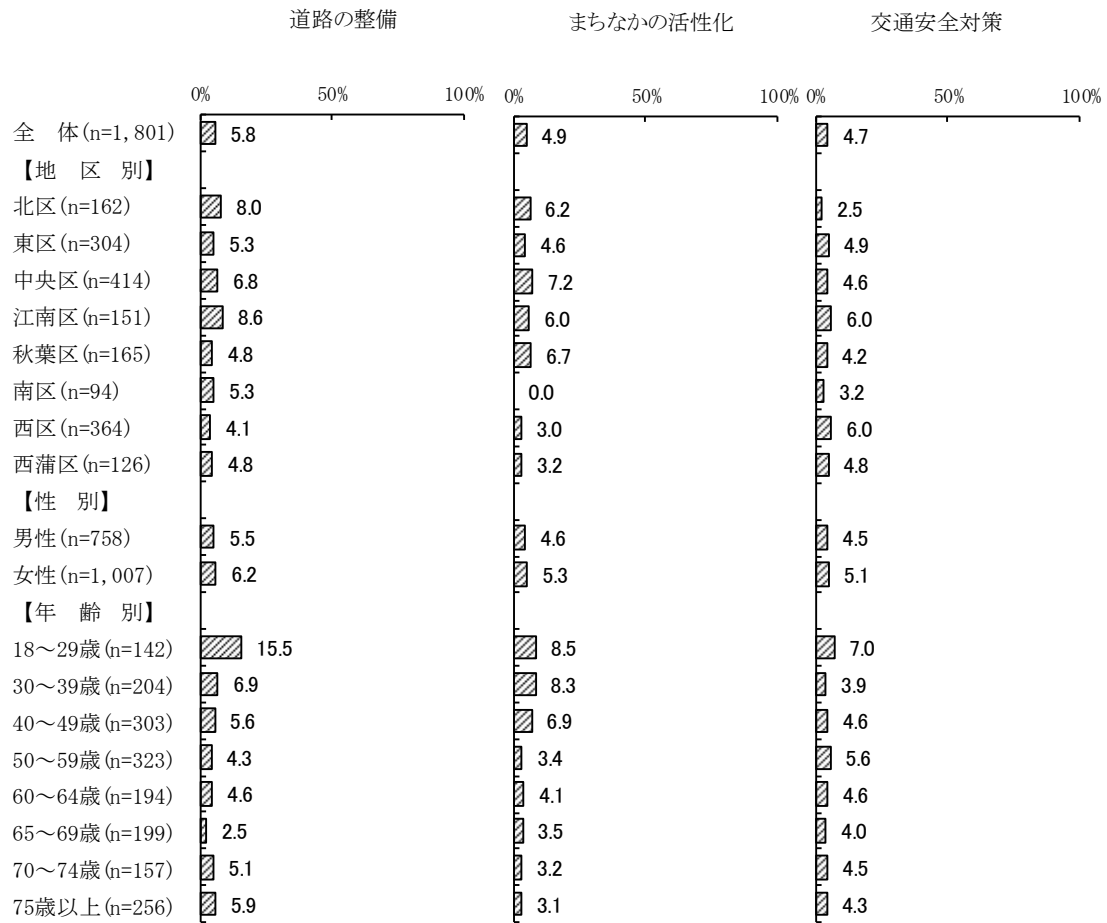


図5-3 区として良くなっているもの（地区別／性別／年齢別） 3/6

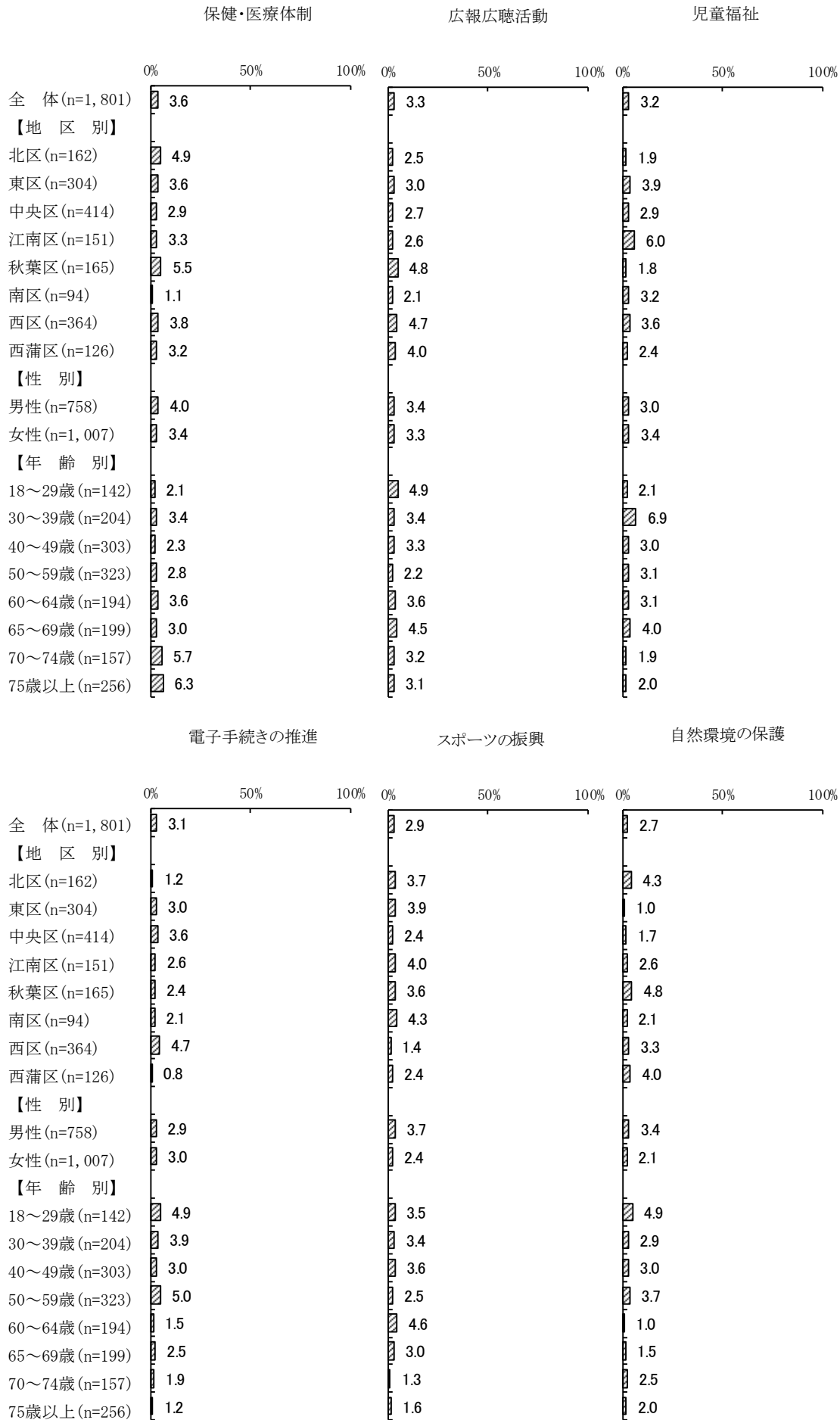


図5-3 区として良くなっているもの（地区別／性別／年齢別） 4/6

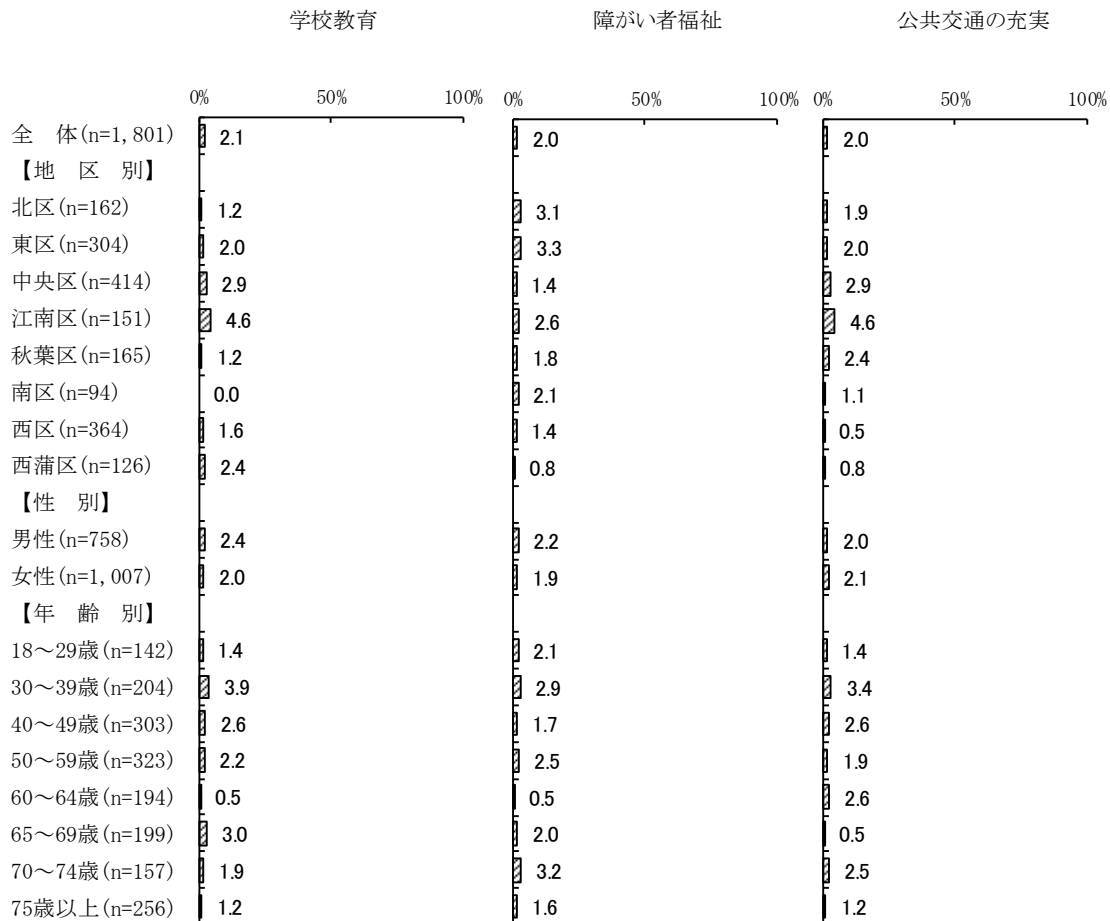
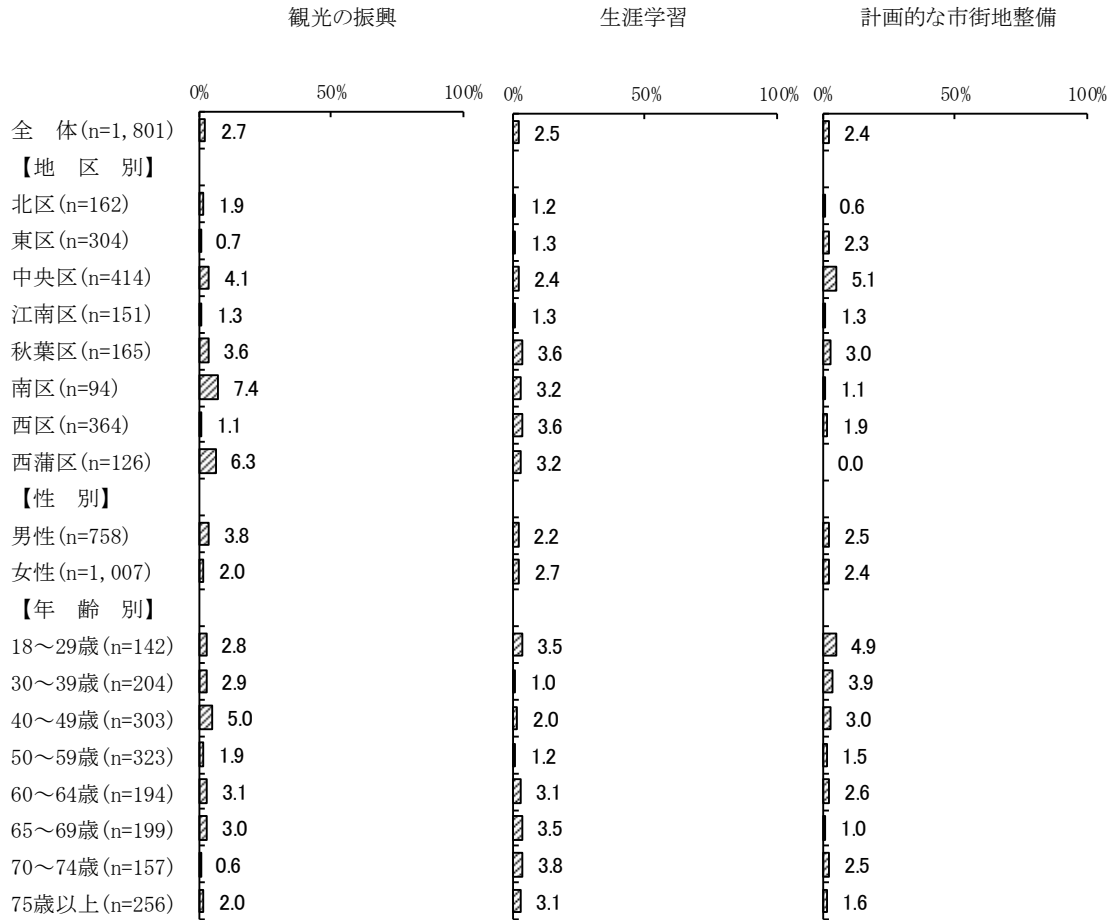


図5-3 区として良くなっているもの（地区別／性別／年齢別） 5/6

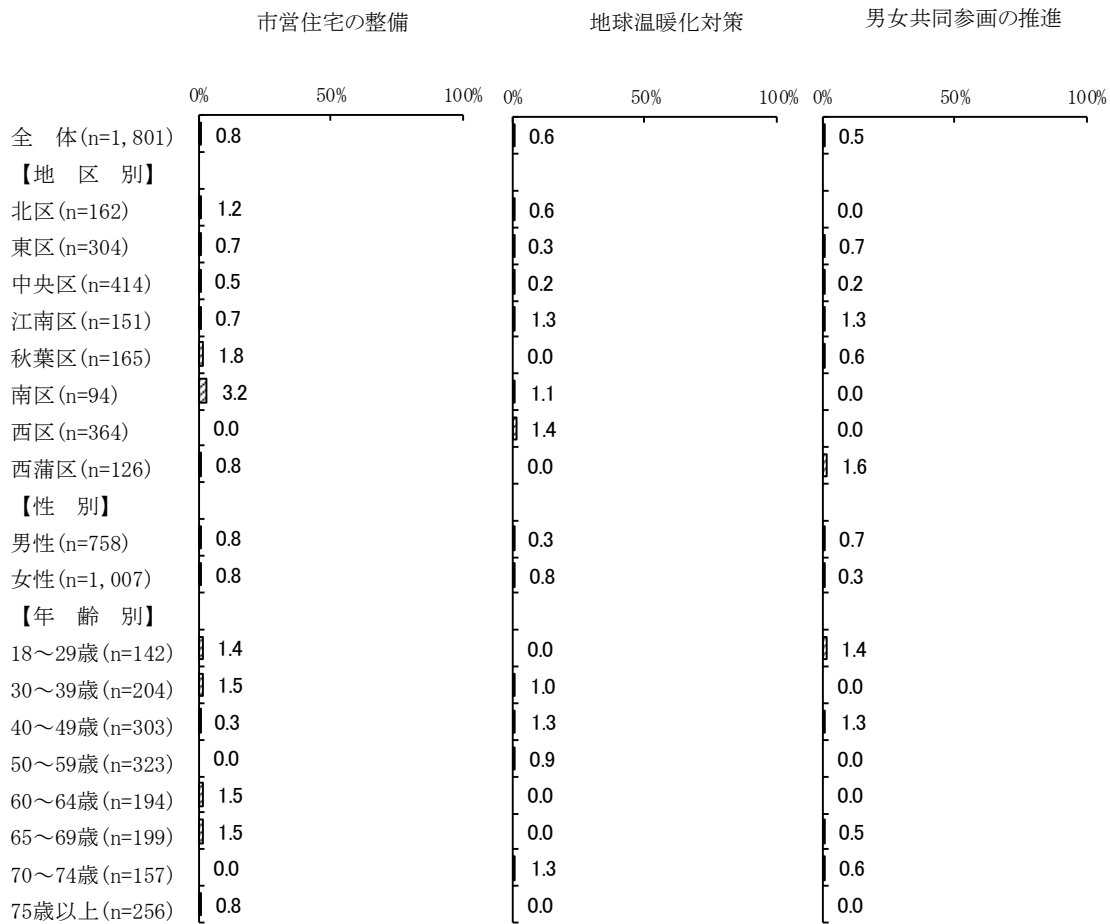
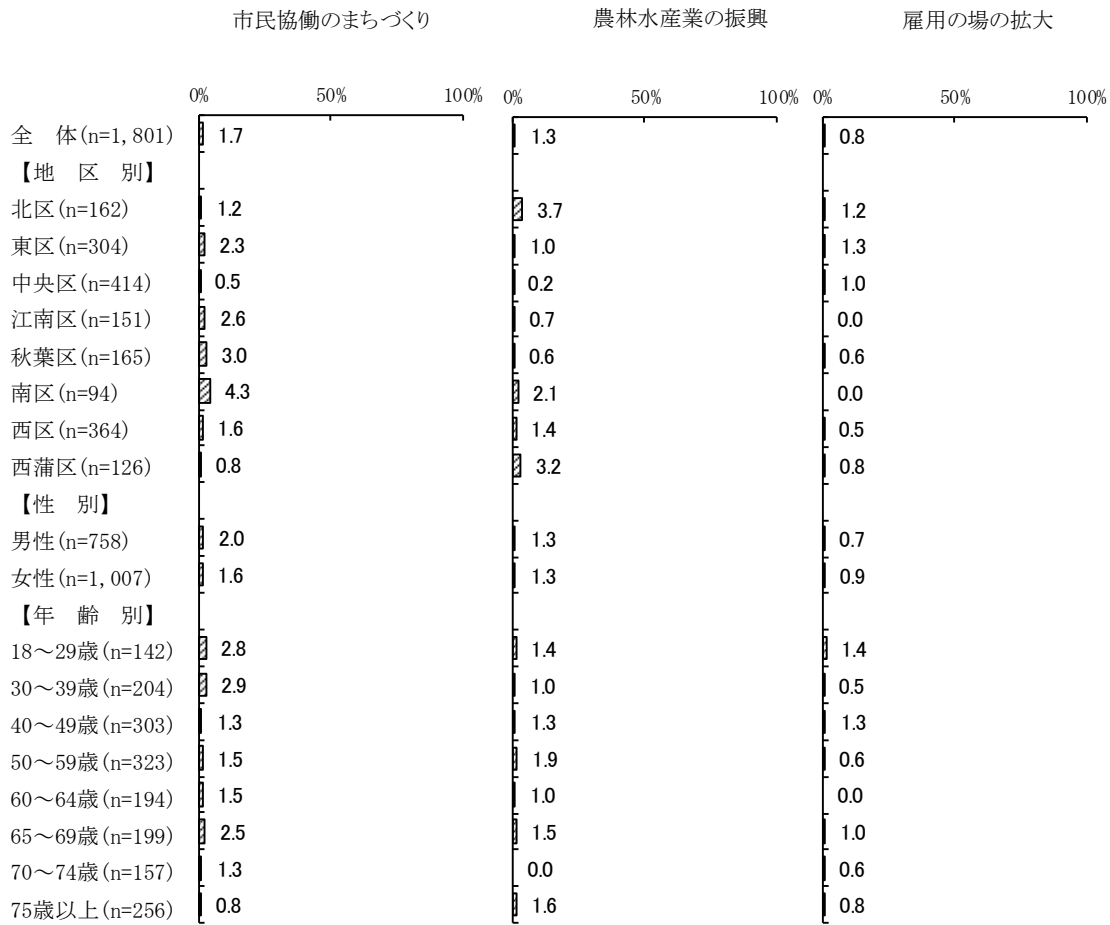
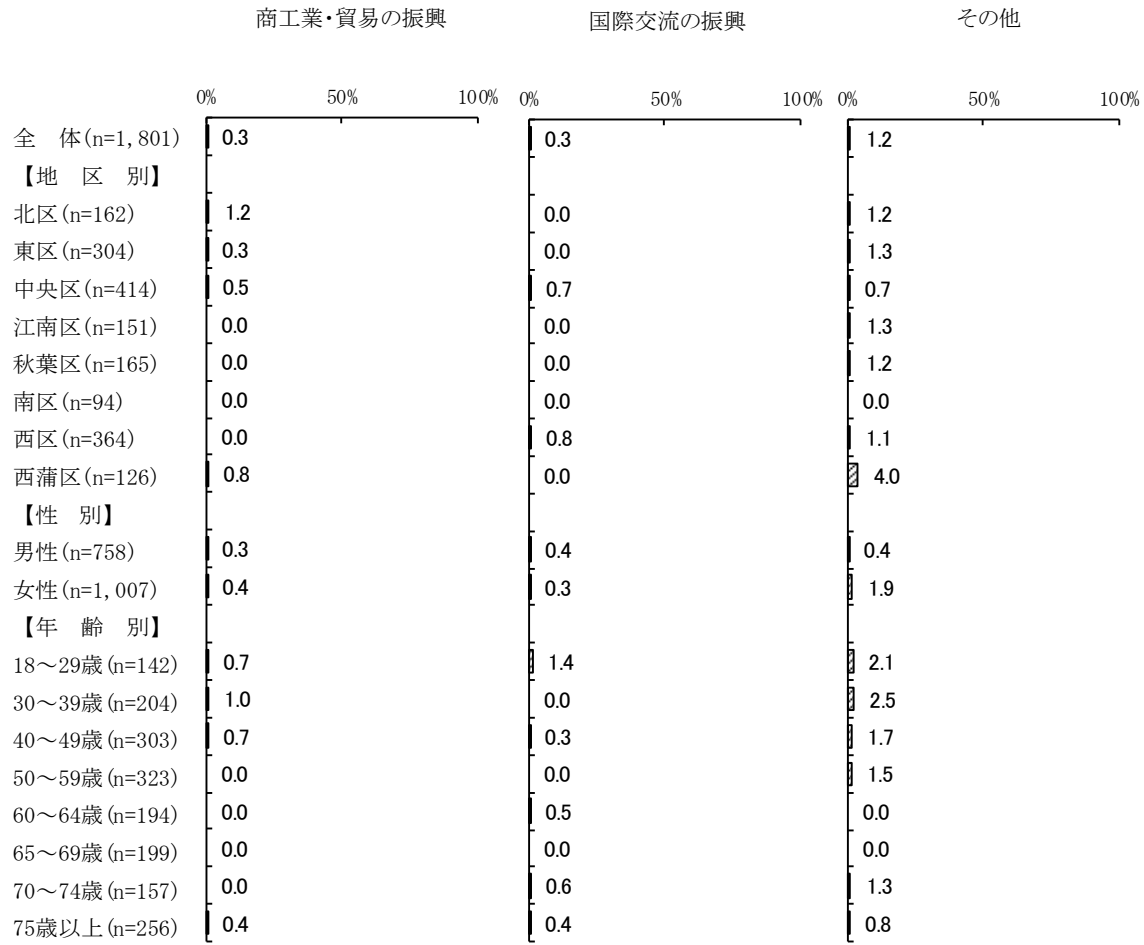


図5-3 区として良くなっているもの（地区別／性別／年齢別） 6/6

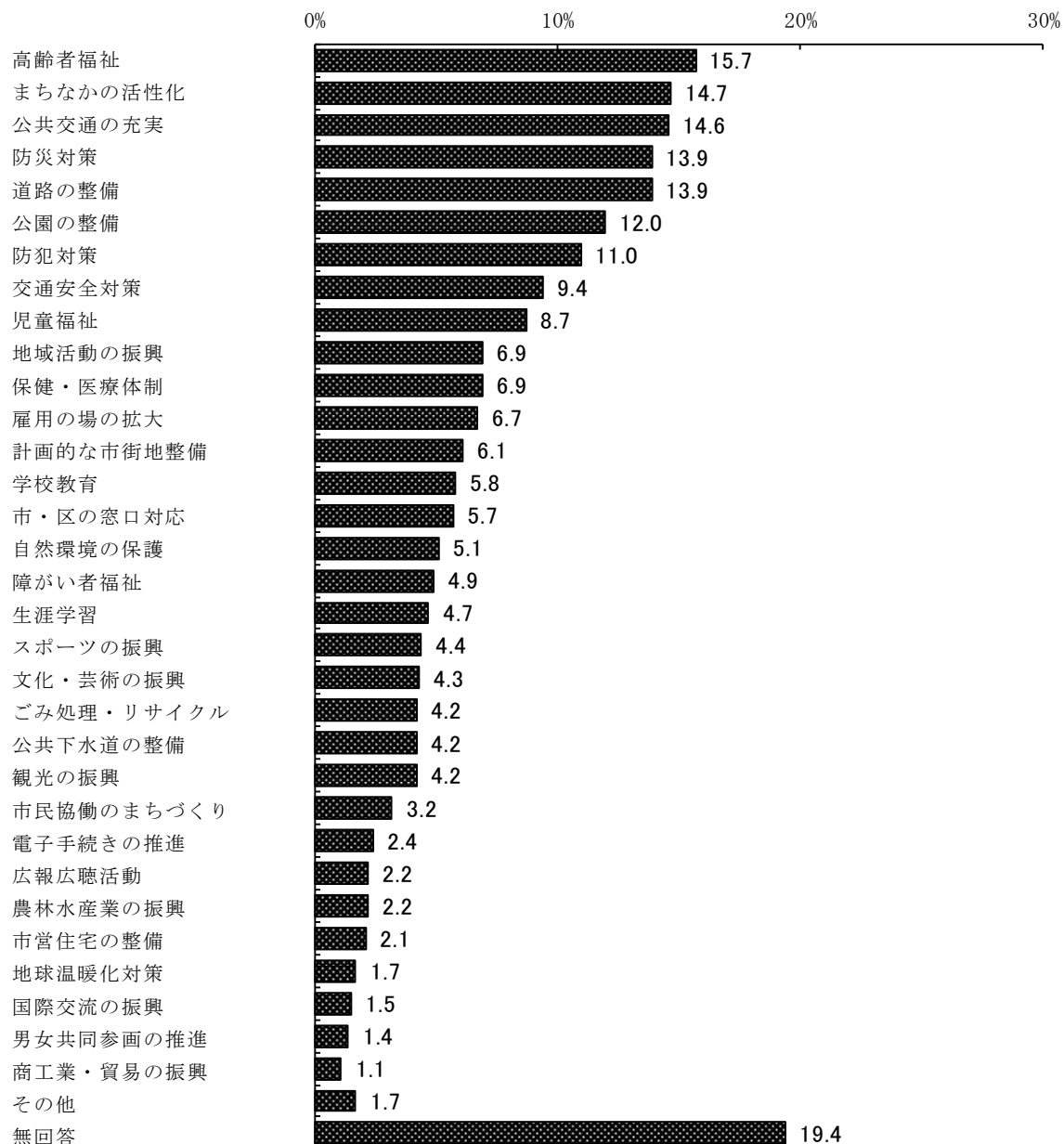


(4) 区として今後もっと力を入れてほしいもの

問29 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて

④「区として今後もっと力を入れてほしいもの」を次の中からそれぞれ3つまでを選んで、下の回答欄に番号(1~33)をご記入ください。

(n=1,801)



要望が最も高い施策・事業は「高齢者福祉」

【全体結果】

区として今後もっと力を入れてほしいもの割合は、「高齢者福祉」(15.7%)が最も高い。以下、「まちなかの活性化」(14.7%)、「公共交通の充実」(14.6%)、「防災対策」「道路の整備」(各13.9%)、「公園の整備」(12.0%)と続いている。

【属性別結果】（図 5-3 参照）

① 地区別

全体結果で最も割合の高かった「高齢者福祉」については、江南区（17.9%）と西蒲区（18.3%）の割合が高くなっている。

② 性別

性別では、「児童福祉」は女性（10.4%）が男性（6.6%）を上回り、「スポーツの振興」は男性（6.6%）が女性（2.8%）を上回っている。

③ 年齢別

「公共交通の充実」「雇用の場の拡大」は18～29歳（それぞれ21.8%、10.6%）が、「公園の整備」「児童福祉」「市・区の窓口対応」は30代（それぞれ20.6%、25.0%、10.3%）が、「学校教育」は30代（11.8%）と40代（11.9%）が、「まちなかの活性化」「防災対策」は50代（それぞれ19.8%、18.3%）が、「地域活動の振興」は65～69歳（10.6%）が、「高齢者福祉」は70～74歳（19.1%）が、それぞれ高くなっている。

図5-4 区として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別／性別／年齢別） 2/6

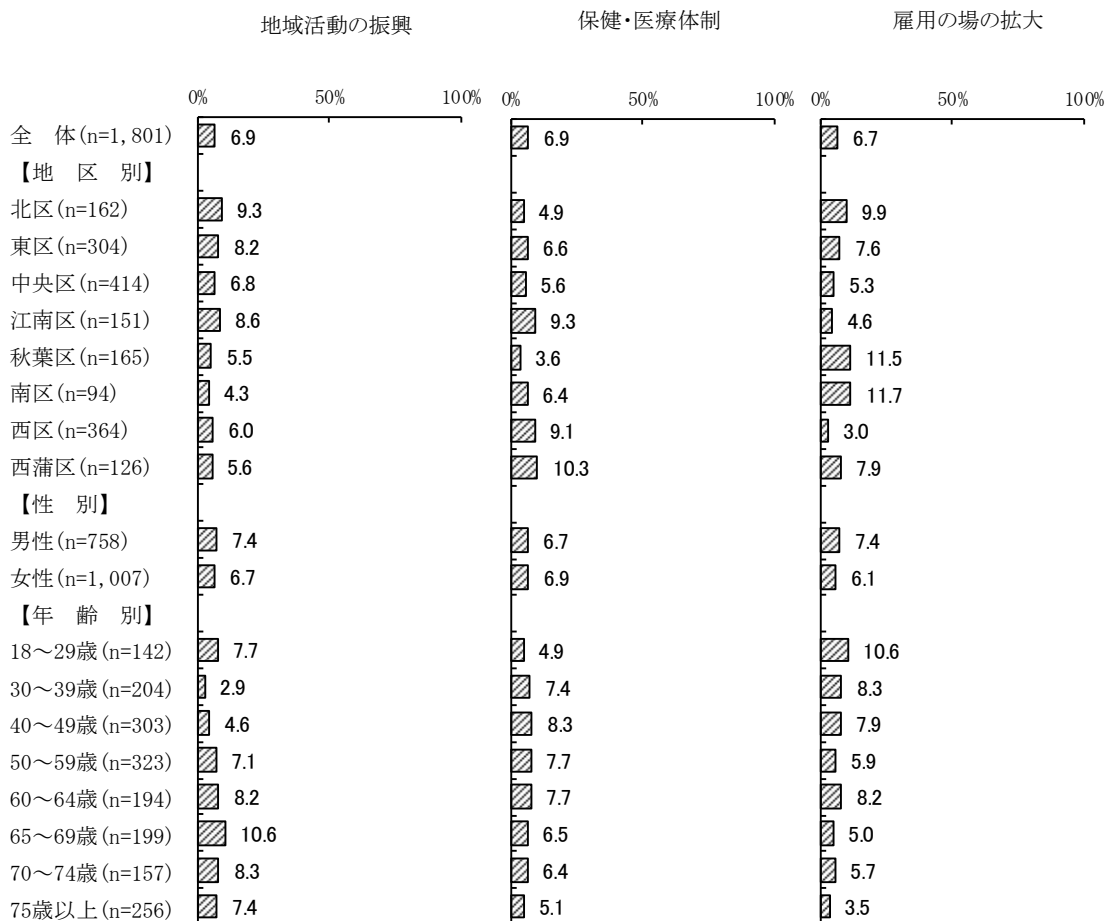
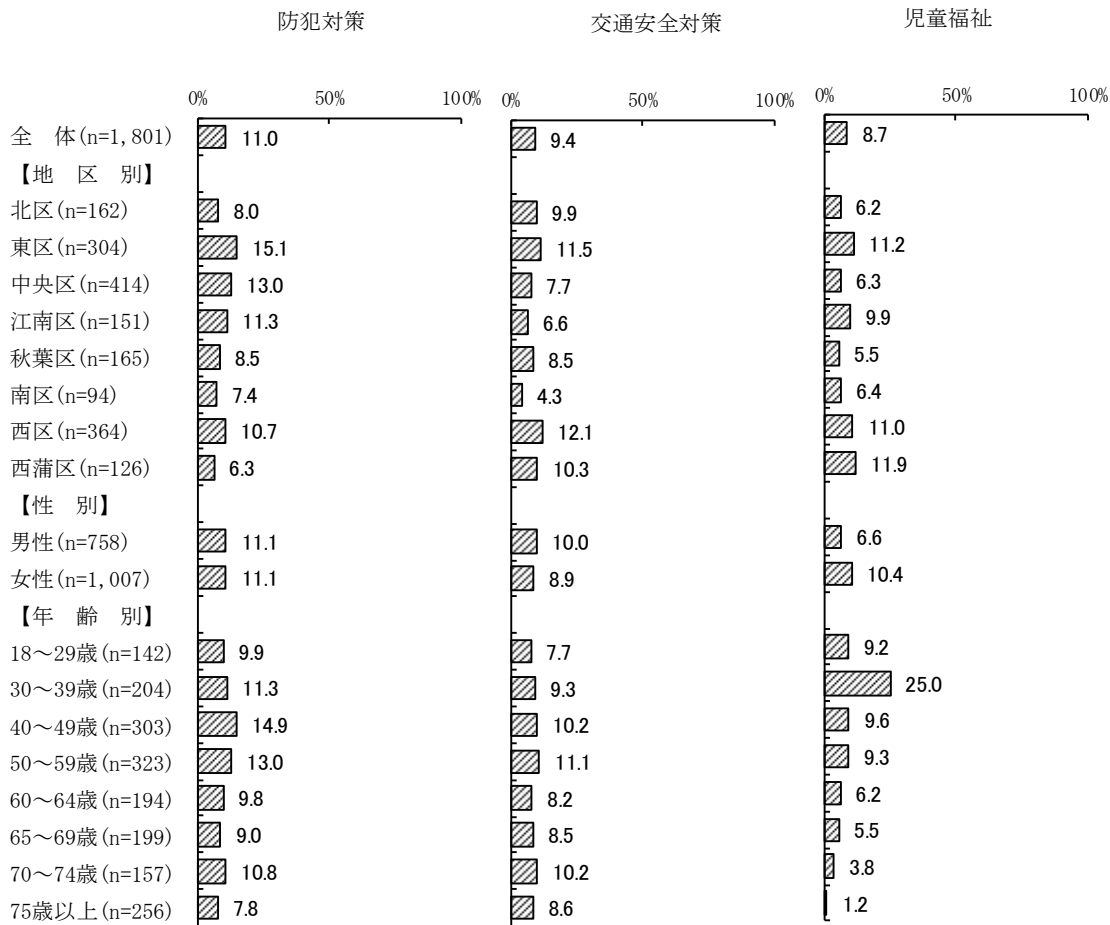


図5-4 区として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別／性別／年齢別） 3/6

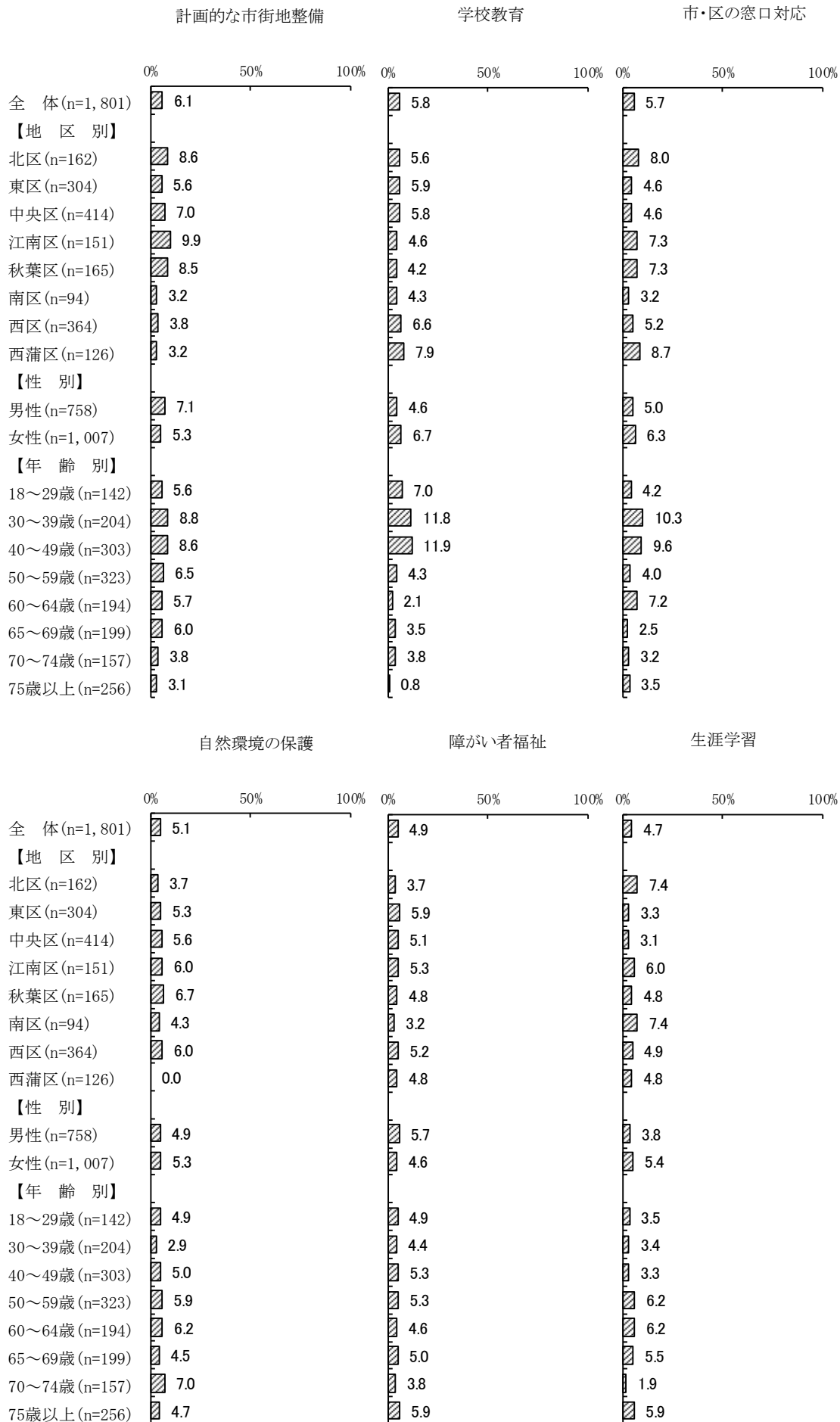


図5-4 区として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別／性別／年齢別） 5/6

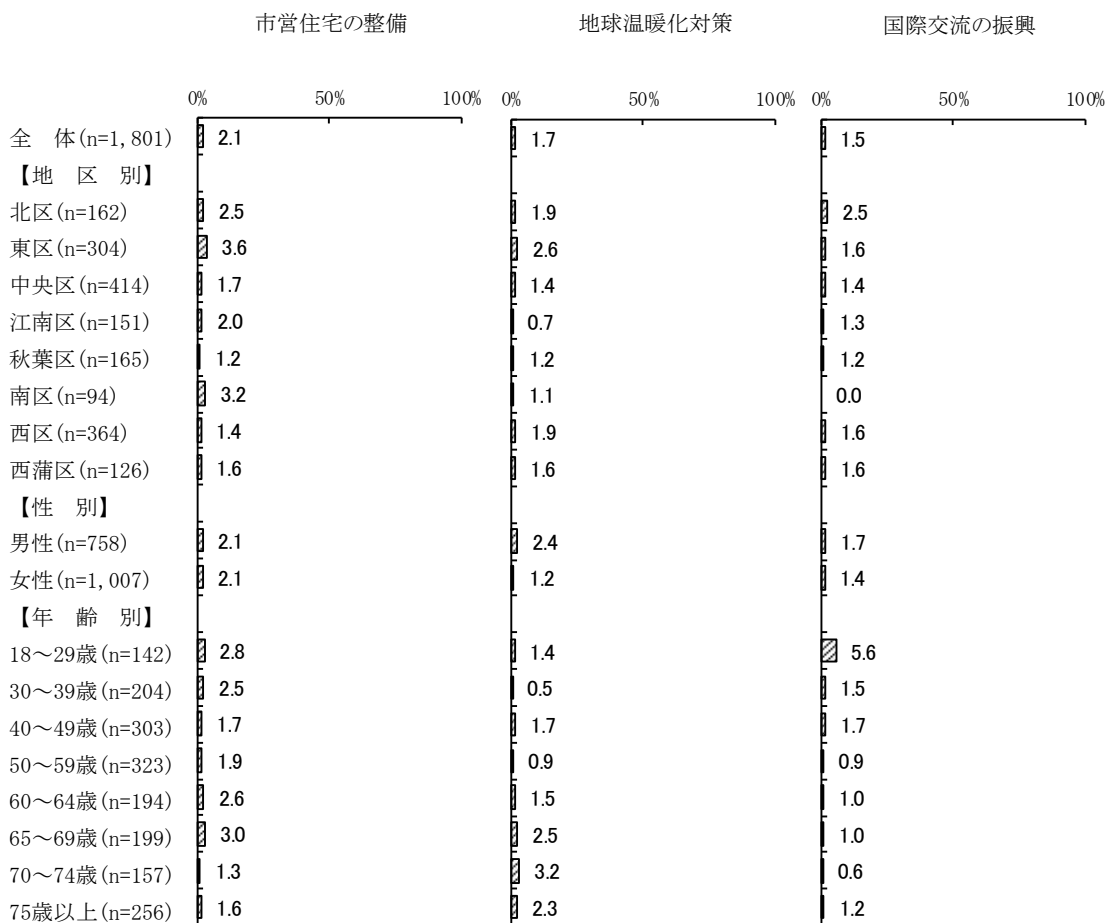
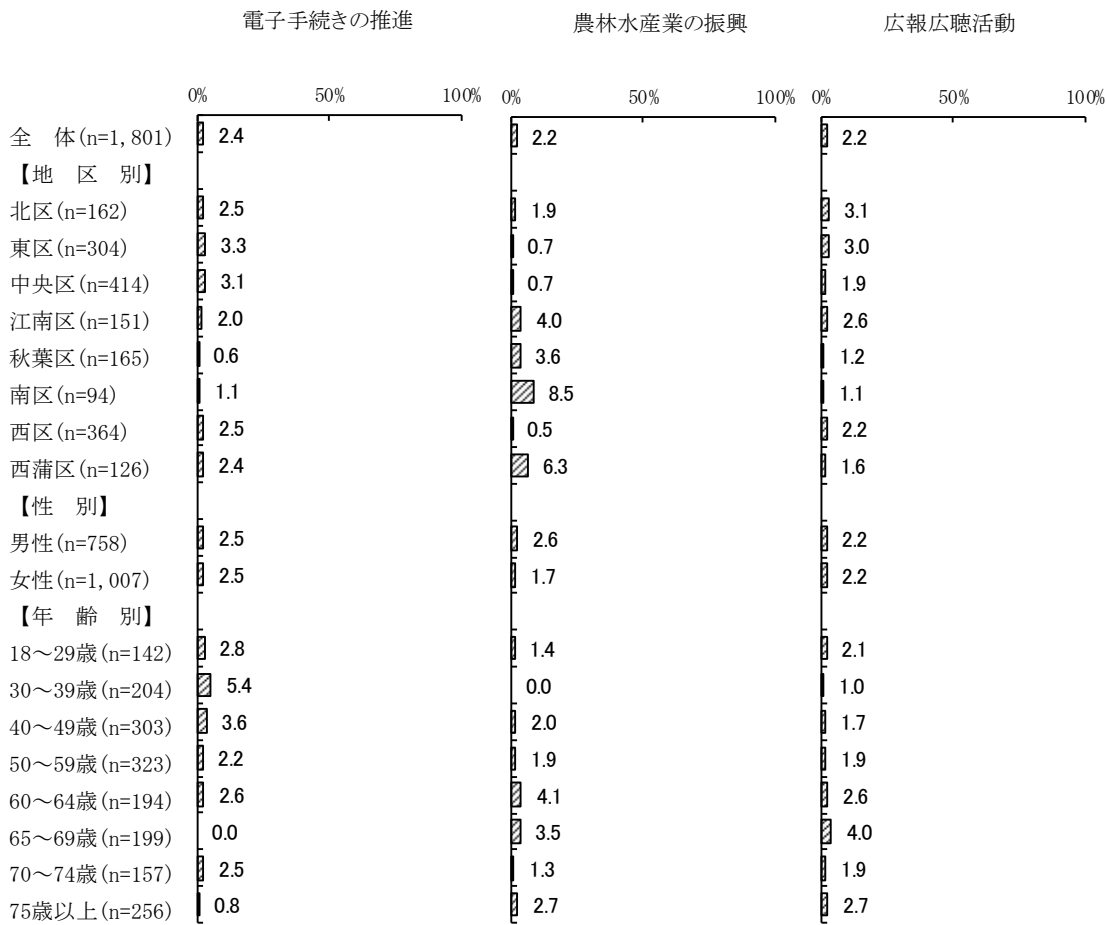
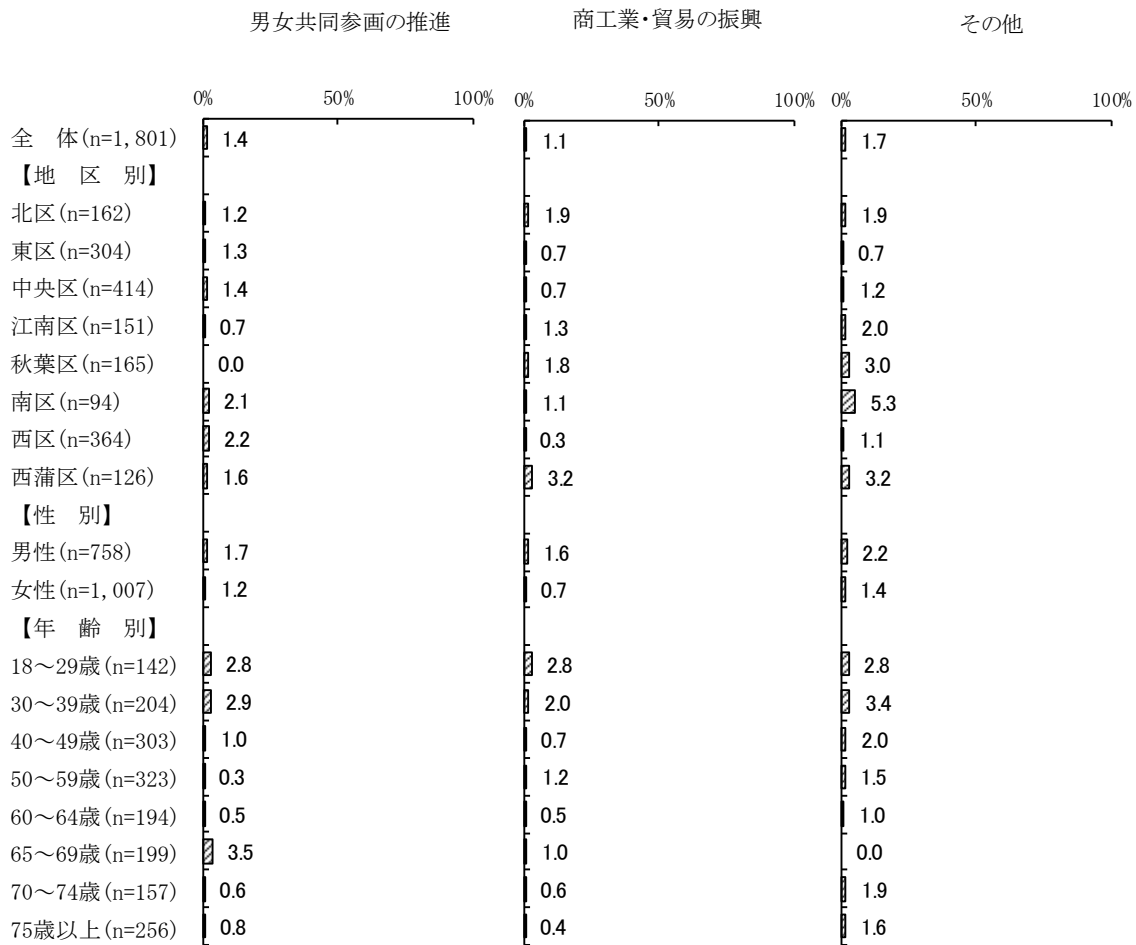


図5-4 区として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別／性別／年齢別） 6/6



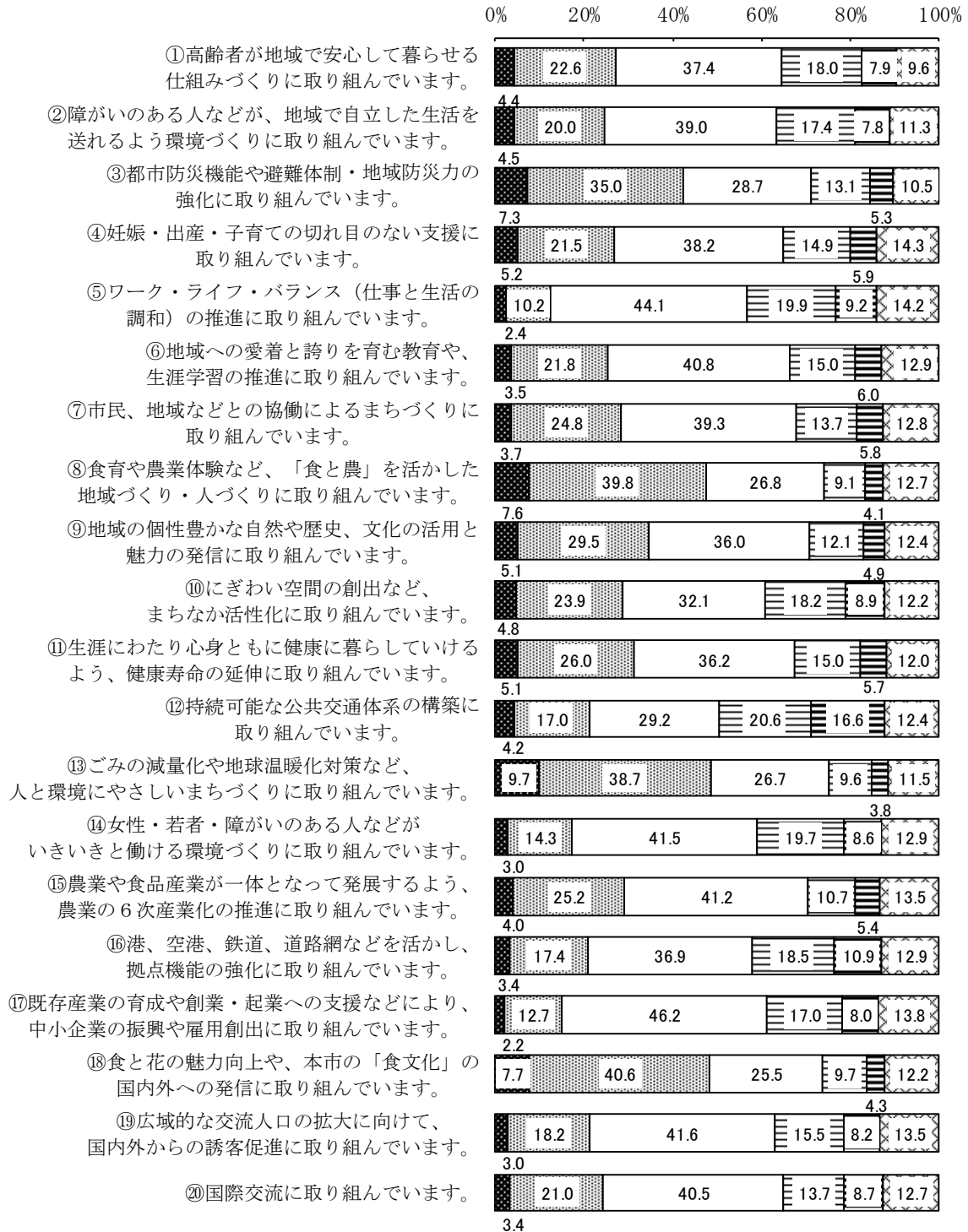
6. 市の取り組みに対する感想・満足度

(1) 市の取り組みに対する感想

問30 平成27年度からスタートした新潟市総合計画「にいがた未来ビジョン」に基づき進めている主な取り組みについて、あなたの感想をお聞かせください。
それぞれの項目ごとに番号と記号を1つずつ選んで、○をつけてください。

■ そう思う □ ある程度思う □ 普通 □ あまり思わない □ そう思わない □ 無回答

(n=1, 801)



「環境にやさしいまちづくり」が高い評価を得ている

【全体結果】

『市の取り組み状況』への評価（感想）について、「そう思う」の割合は、「⑬ごみの減量化や地球温暖化対策など、人と環境にやさしいまちづくりに取り組んでいます。」（9.7%）が最も高い。以下、「そう思う」の割合は、「⑱食と花の魅力向上や、本市の「食文化」の国内外への発信に取り組んでいます。」（7.7%）、「⑧食育や農業体験など、「食と農」を活かした地域づくり・人づくりに取り組んでいます。」（7.6%）の順で高くなっている。

一方、「そう思わない」の割合は、「⑫持続可能な公共交通体系の構築に取り組んでいます。」（16.6%）が最も高い。以下、「⑯港、空港、鉄道、道路網などを活かし、拠点機能の強化に取り組んでいます。」（10.9%）、「⑤ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進に取り組んでいます。」（9.2%）の順で高くなっている。

また、評価（感想）について、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合、及び、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合の結果は次のとおりである。

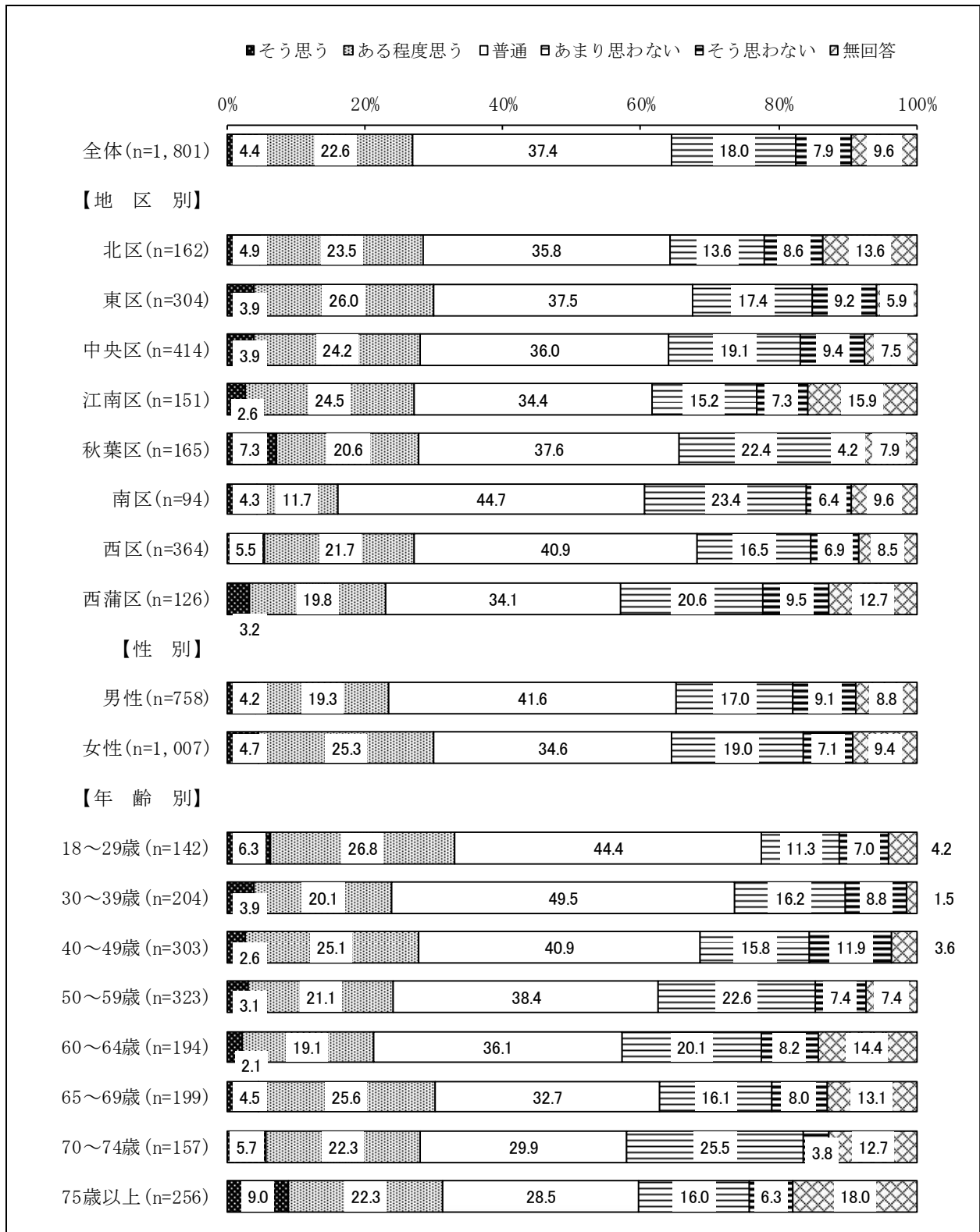
「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、「⑬ごみの減量化や地球温暖化対策など、人と環境にやさしいまちづくりに取り組んでいます。」（48.4%）、「⑱食と花の魅力向上や、本市の「食文化」の国内外への発信に取り組んでいます。」（48.3%）の割合が高い。以下、「⑧食育や農業体験など、「食と農」を活かした地域づくり・人づくりに取り組んでいます。」（47.4%）、「③都市防災機能や避難体制・地域防災力の強化に取り組んでいます。」（42.3%）が4割台、「⑨地域の個性豊かな自然や歴史、文化の活用と魅力の発信に取り組んでいます。」（34.6%）、「⑪生涯にわたり心身ともに健康に暮らしていけるよう、健康寿命の延伸に取り組んでいます。」（31.1%）が3割台で続いている。

一方で、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、「⑫持続可能な公共交通体系の構築に取り組んでいます。」（37.2%）が最も高い。以下、「⑯港、空港、鉄道、道路網などを活かし、拠点機能の強化に取り組んでいます。」（29.4%）、「⑤ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進に取り組んでいます。」（29.1%）、「⑩にぎわい空間の創出など、まちなか活性化に取り組んでいます。」（27.1%）が2割台で続いている。

【属性別結果】

次ページ以降に取り組みごとの地区別・性別・年齢別の集計結果をまとめた。

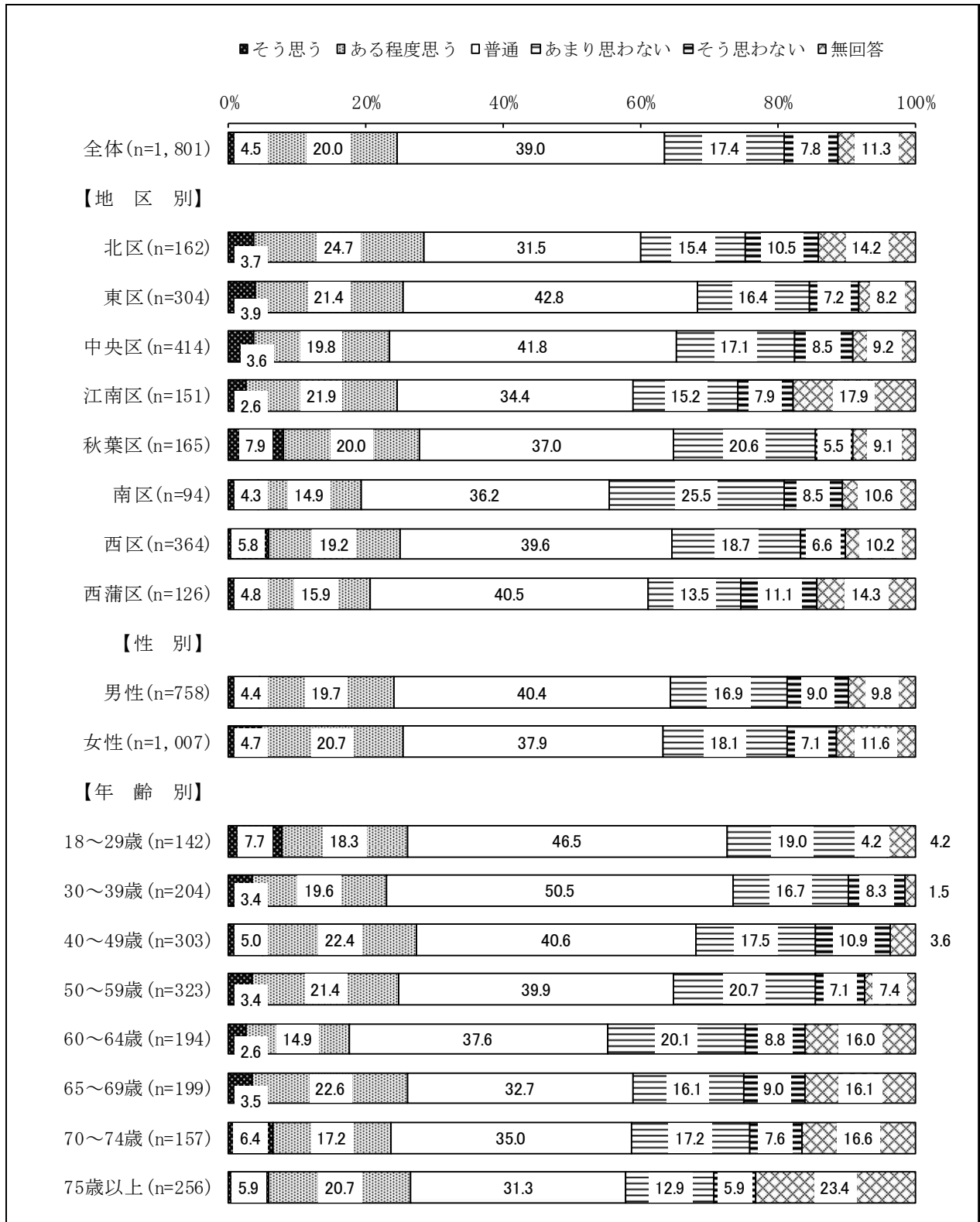
① 高齢者が地域で安心して暮らせる仕組みづくりに取り組んでいます。



「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、東区（29.9%）が最も高くなっている。性別は、女性（30.0%）の方が男性（23.5%）よりも高くなっている。年齢別は、18～29歳（33.1%）が高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、西蒲区（30.1%）が最も高くなっている。性別は男女差がみられない。年齢別は、50代（30.0%）が高くなっている。

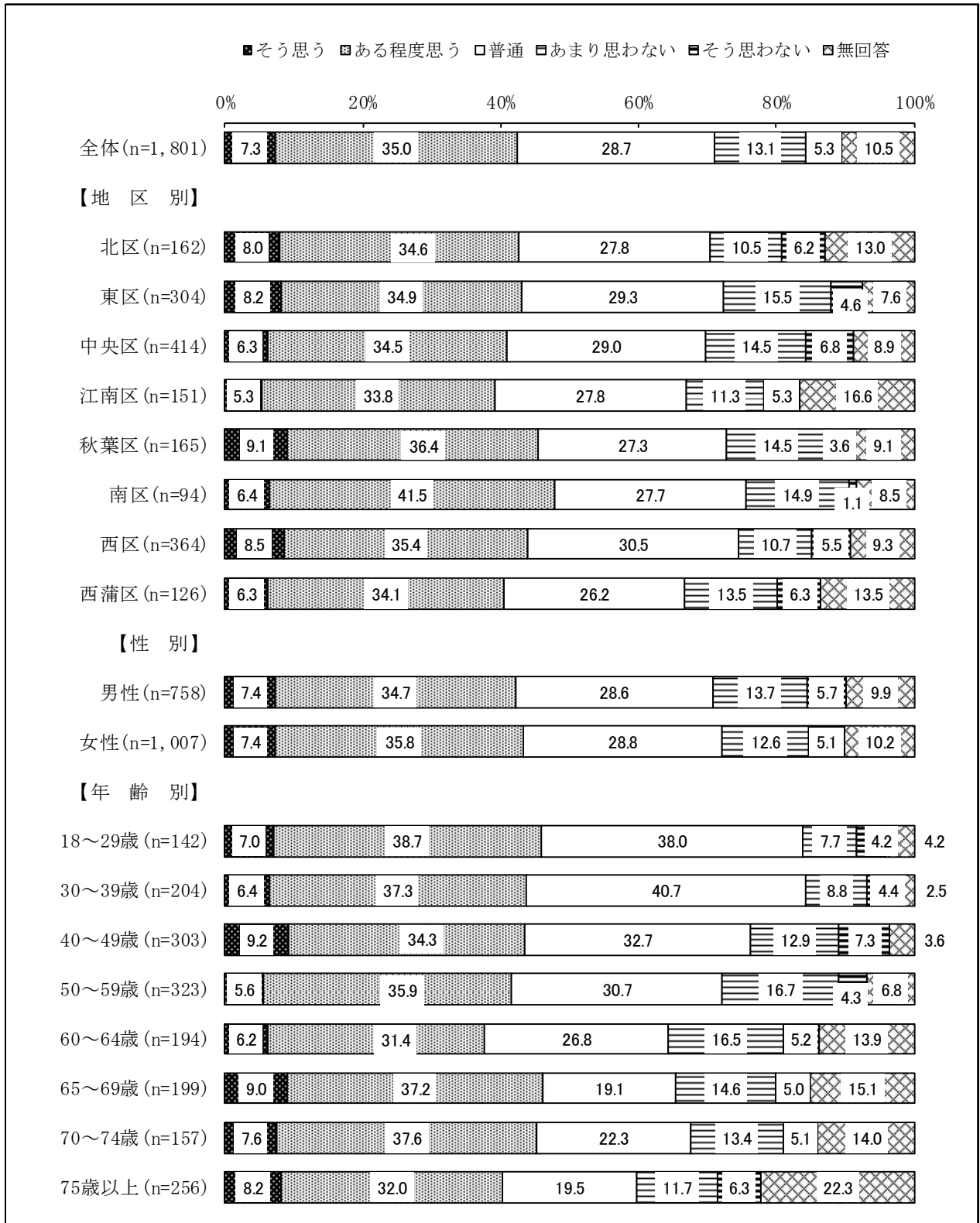
② 障がいのある人などが、地域で自立した生活を送れるよう環境づくりに取り組んでいます。



「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、北区（28.4%）が最も高くなっている。性別は男女差がみられない。年齢別は、40代（27.4%）が高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、南区（34.0%）が最も高くなっている。性別は男女差がみられない。年齢別は、60～64歳（28.9%）が最も高くなっている。

③ 都市防災機能や避難体制・地域防災力の強化に取り組んでいます。

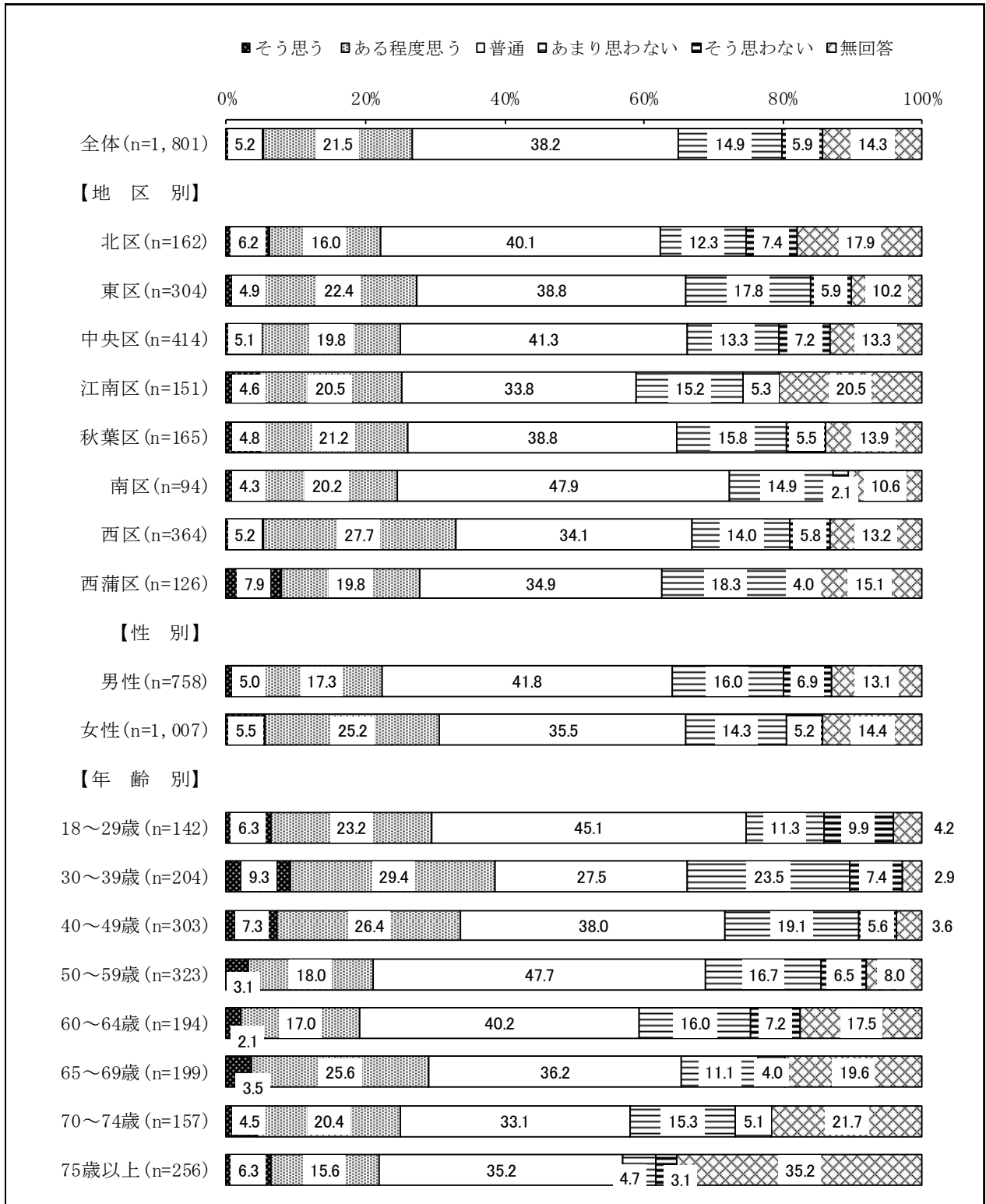


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、南区（47.9%）が高くなっている。性別は男女差がみられない。年齢別は、65～69歳（46.2%）が最も高くなっている。

一方、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合については、40代（20.2%）、50代（21.0%）と60～64歳（21.7%）が高く、2割を超えている。

④ 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に取り組んでいます。

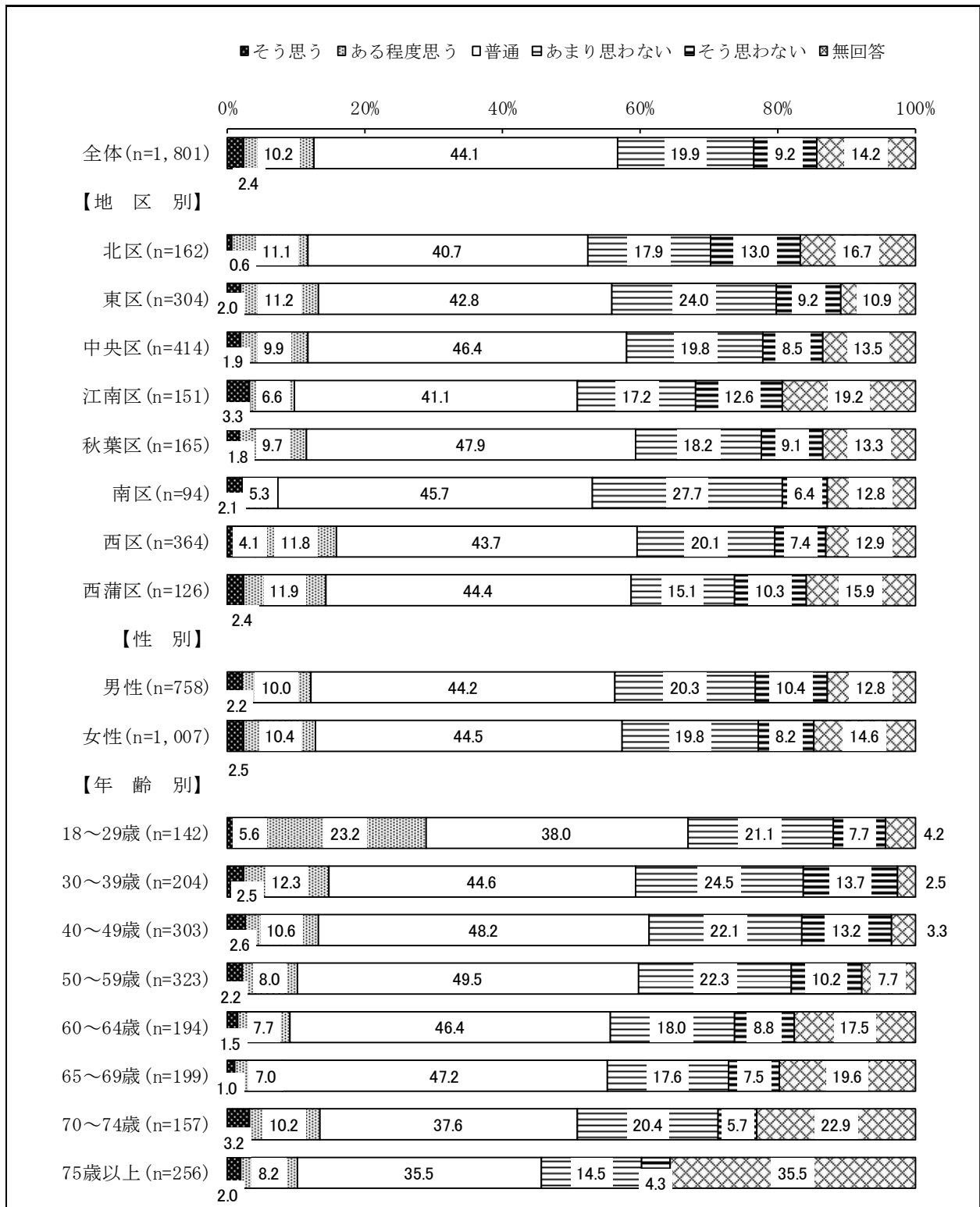


性別では男性、年齢別では50代、60～64歳を除く属性において、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、西区（32.9%）が最も高くなっている。性別は、女性（30.7%）の方が男性（22.3%）よりも高くなっている。年齢別は、30代（38.7%）が最も高くなっている。

一方、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合については、30代（30.9%）が高くなっている。

⑤ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進に取り組んでいます。

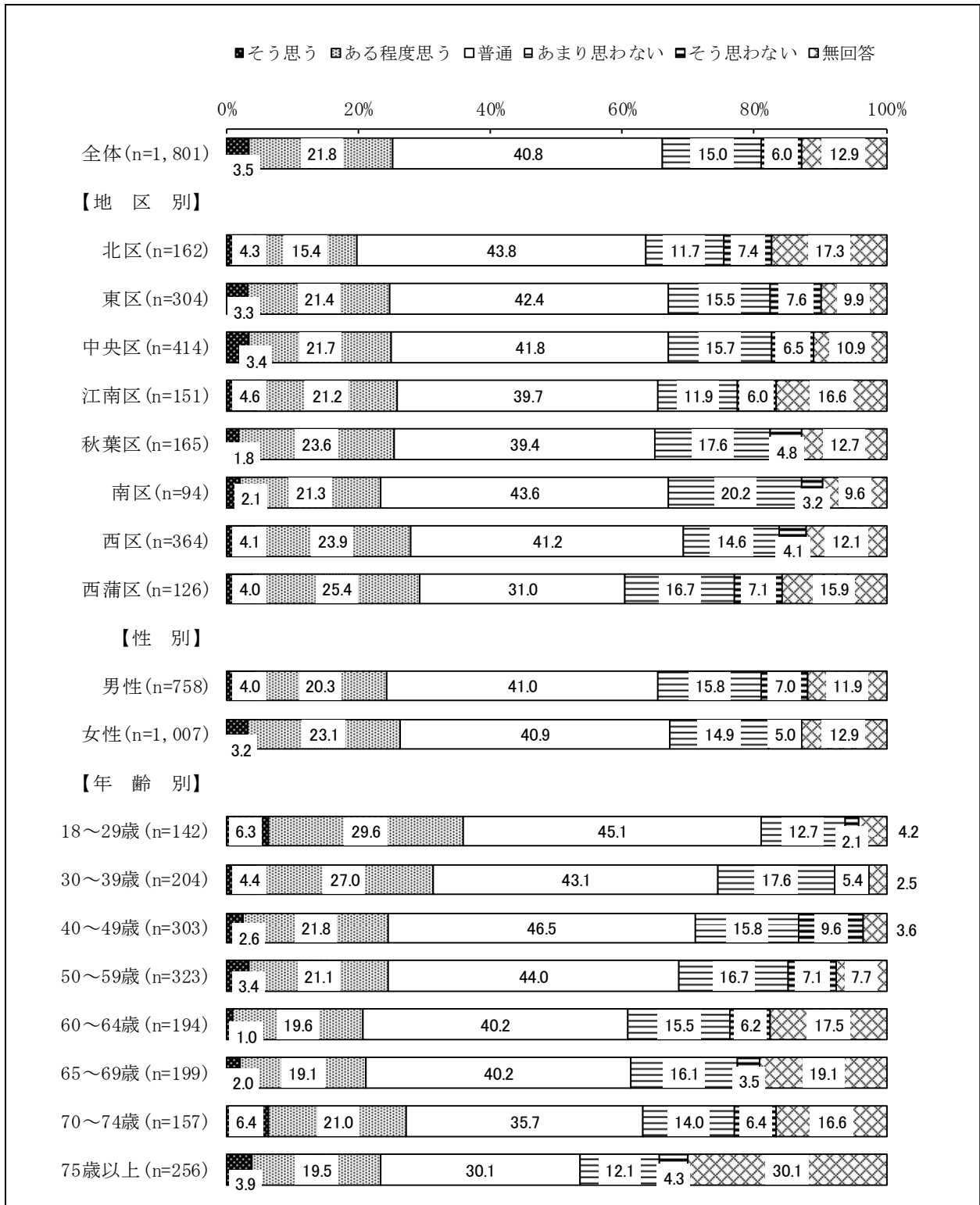


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、南区（34.1%）が最も高くなっている。性別は、男性（30.7%）の方が女性（28.0%）よりも高くなっている。年齢別は、30代（38.2%）が最も高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合については、18～29歳（28.8%）で最も高くなっている。

⑥ 地域への愛着と誇りを育む教育や、生涯学習の推進に取り組んでいます。

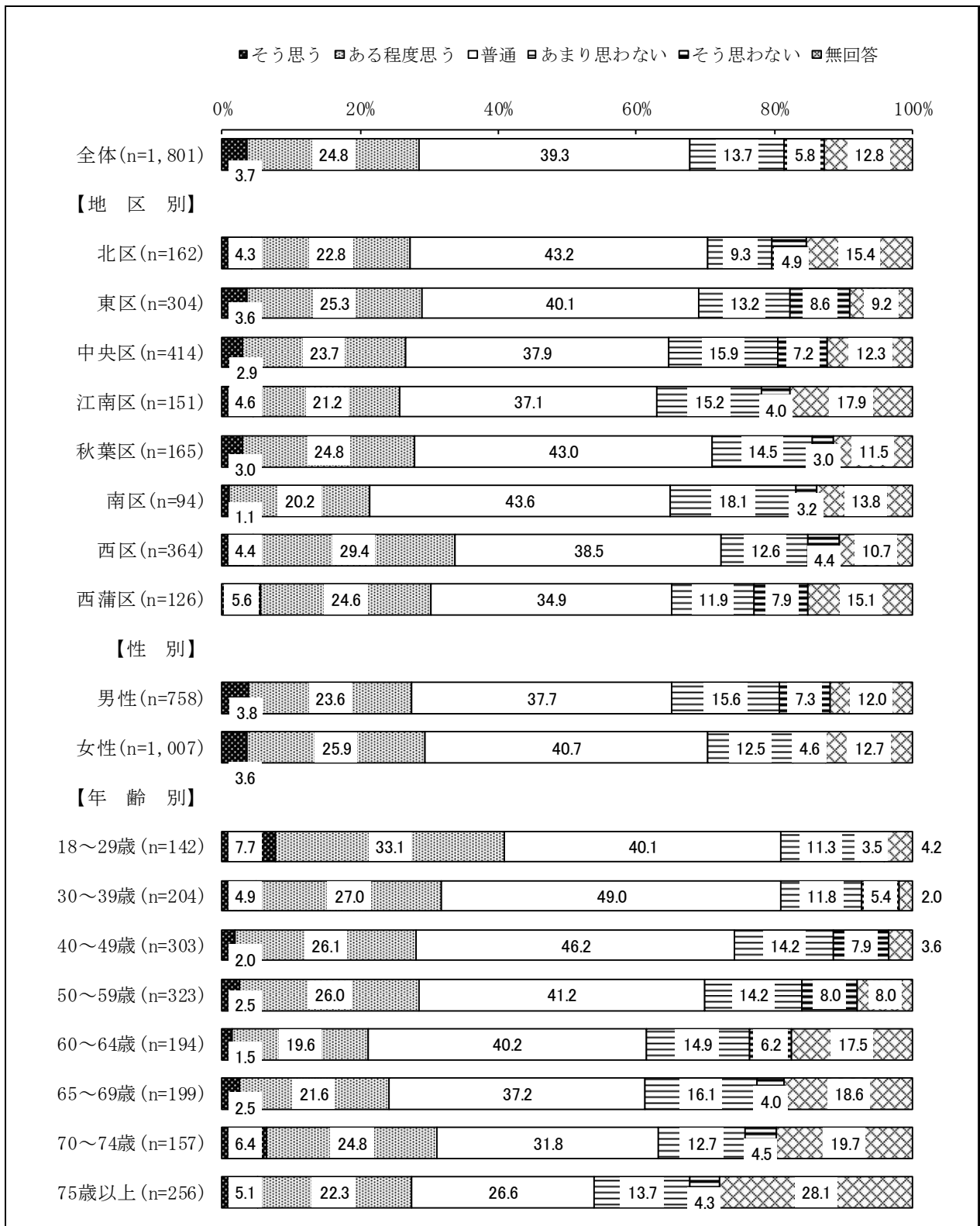


地区別では南区、年齢別では40代、60～64歳を除く属性において、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、西蒲区（29.4%）が最も高くなっている。性別は男女差がみられない。年齢別は、18～29歳（35.9%）が最も高くなっている。

一方、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合については、40代（25.4%）が高くなっている。

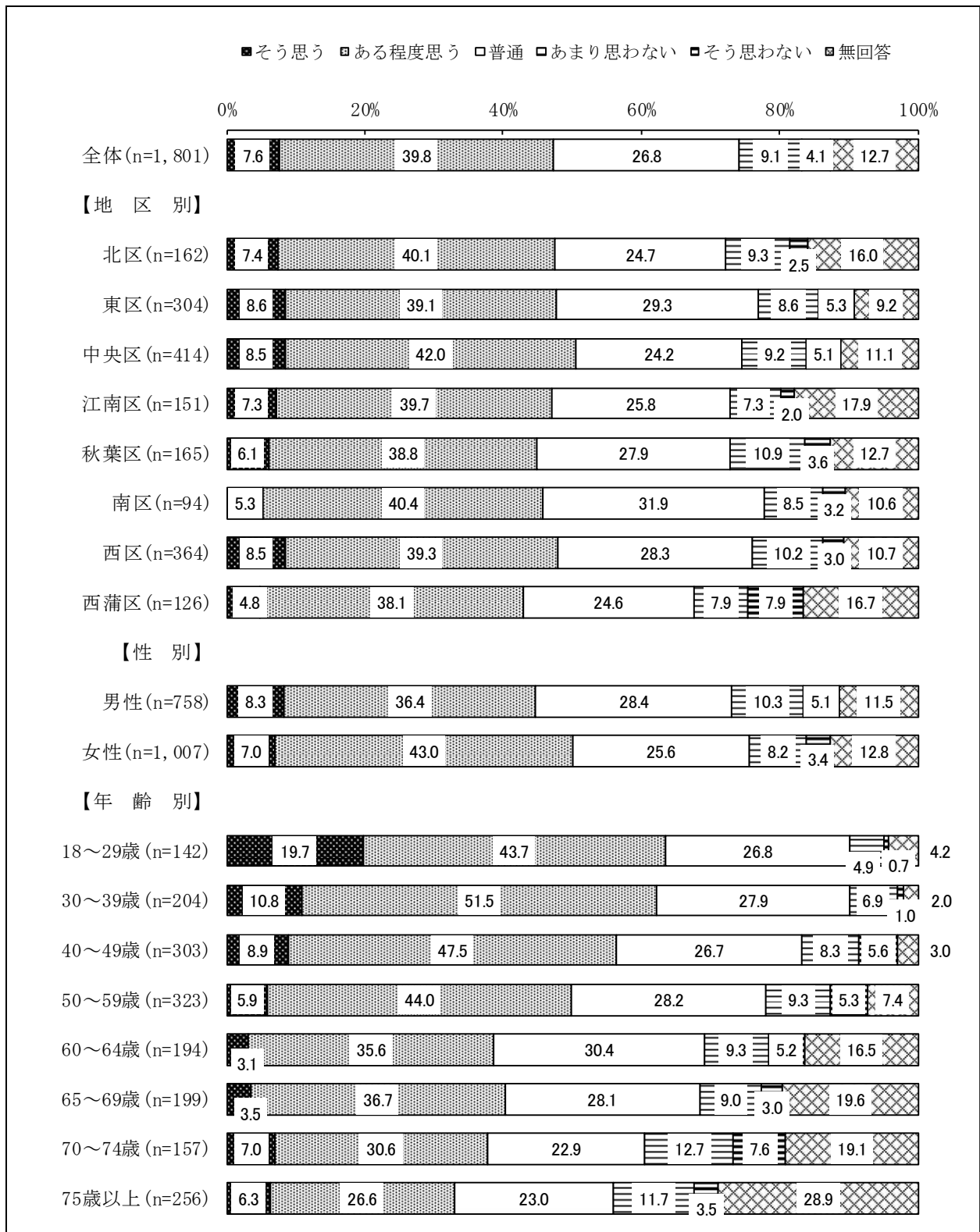
⑦ 市民、地域などとの協働によるまちづくりに取り組んでいます。



地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、西区（33.8%）が最も高くなっている。性別は男女差がみられない。年齢別は、18～29歳（40.8%）が最も高くなっている。一方、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合については、中央区（23.1%）が最も高くなっている。

⑧ 食育や農業体験など、「食と農」を活かした地域づくり・人づくりに取り組んでいます。

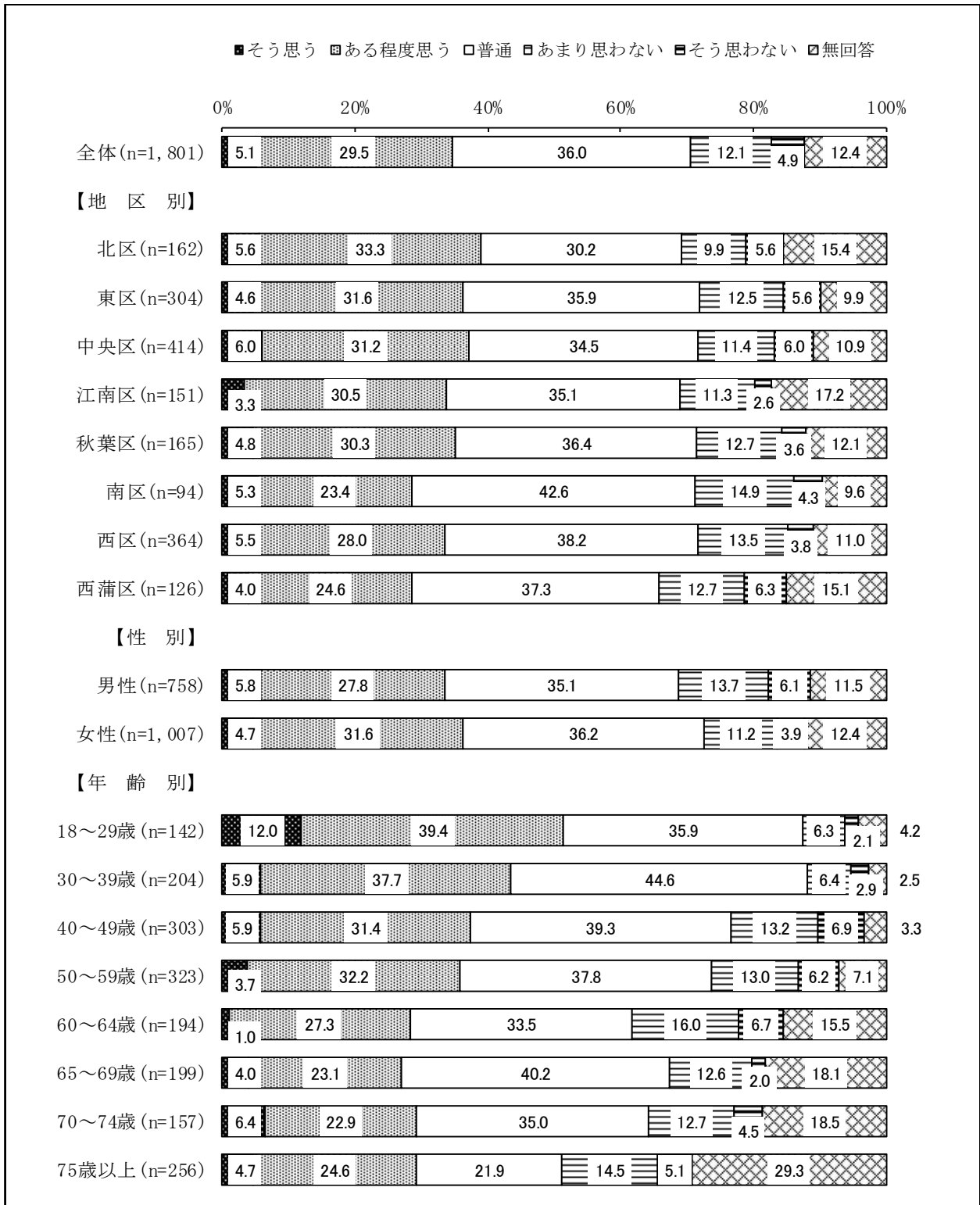


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、中央区（50.5%）が最も高くなっている。性別は、女性（50.0%）の方が男性（44.7%）よりも高くなっている。年齢別は、18～29歳（63.4%）と30代（62.3%）が高く、6割を超えている。

一方、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合については、70～74歳で最も高く、約2割となっている。

⑨ 地域の個性豊かな自然や歴史、文化の活用と魅力の発信に取り組んでいます。

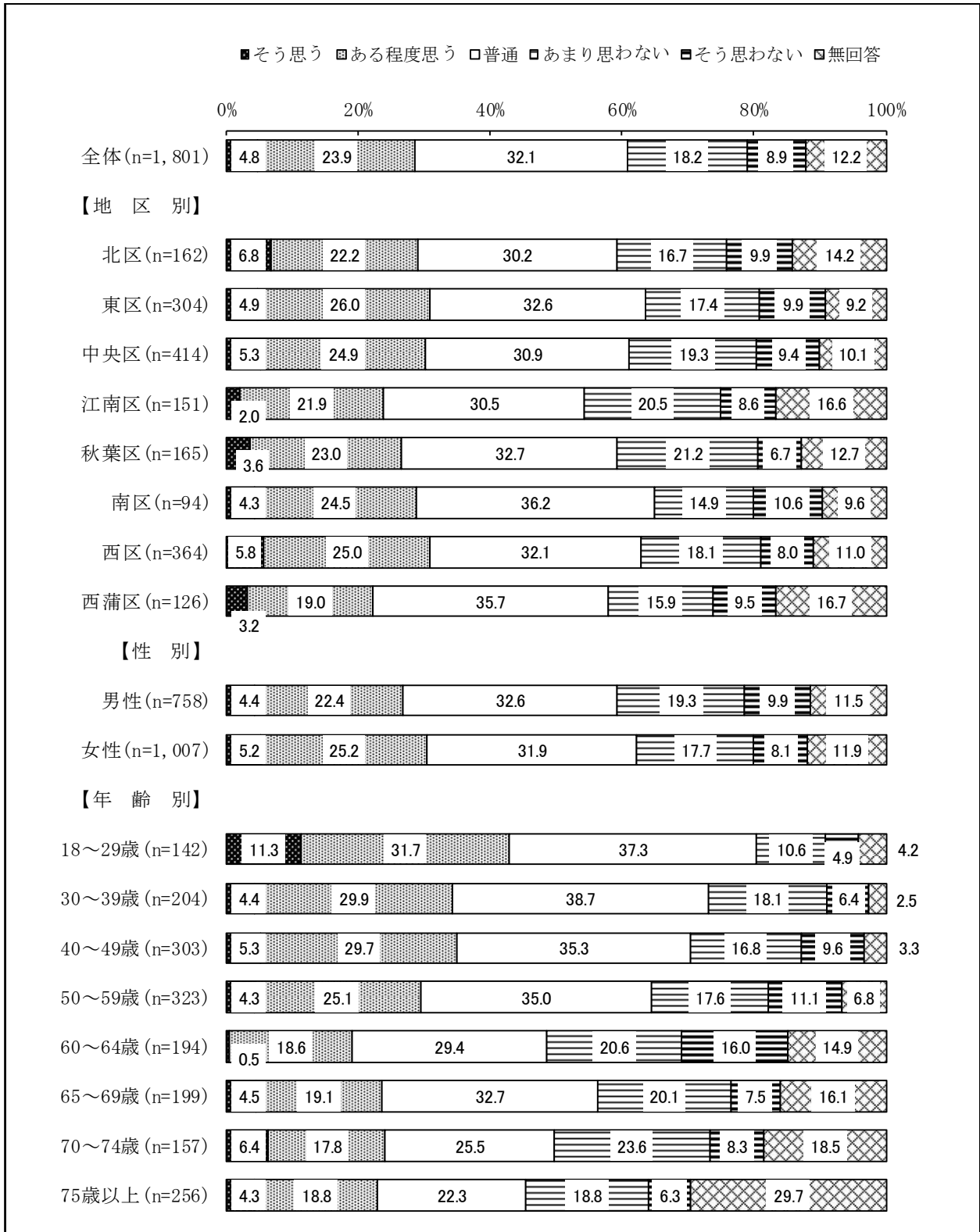


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、北区（38.9%）が最も高くなっている。性別は、女性（36.3%）の方が男性（33.6%）よりもやや高くなっている。年齢別は、18～29歳（51.4%）が最も高く、半数以上となっている。

一方、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合については、60～64歳（22.7%）が高くなっている。

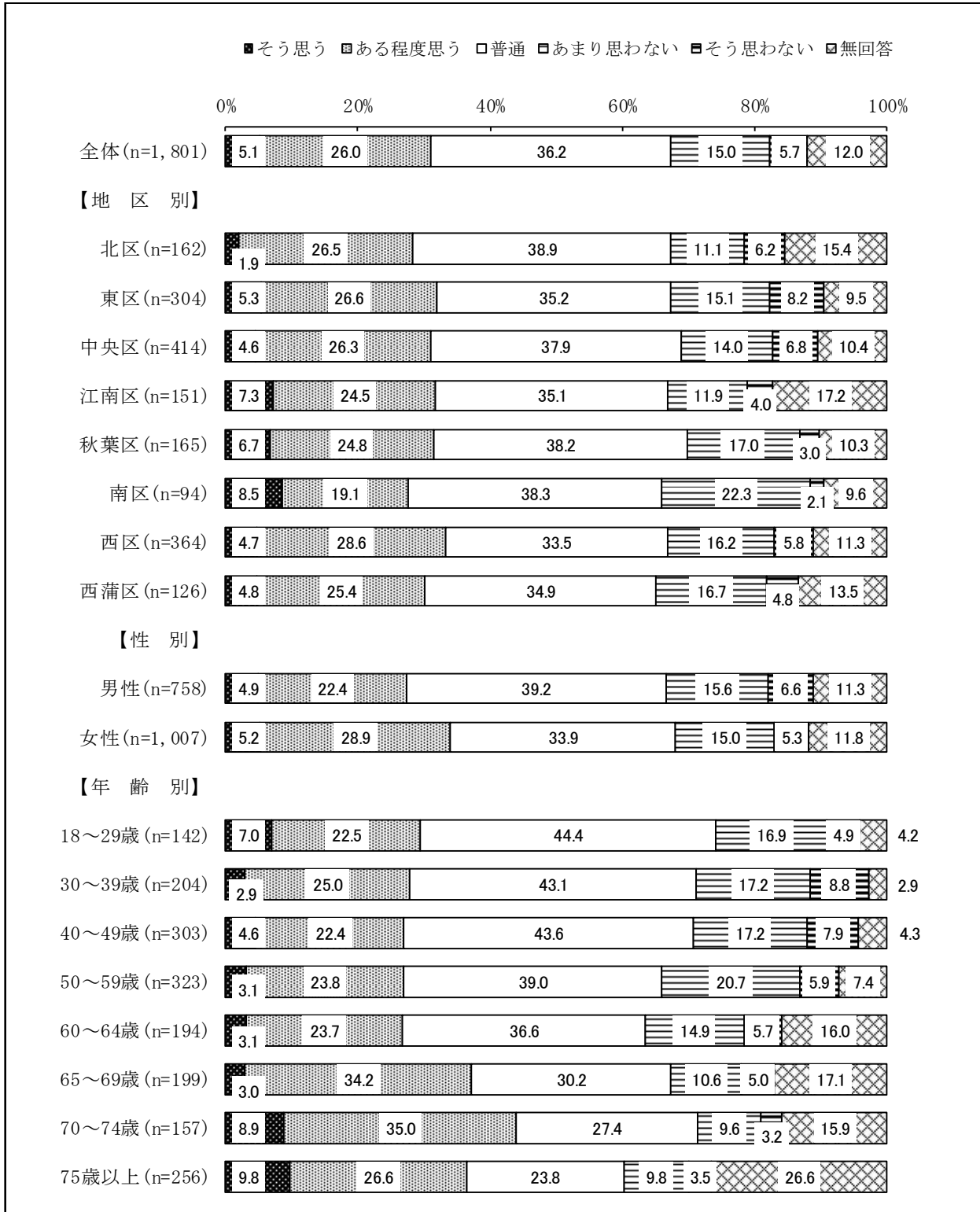
⑩ にぎわい空間の創出など、まちなか活性化に取り組んでいます。



「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、東区（30.9%）、中央区（30.2%）と西区（30.8%）が高くなっている。性別は、女性（30.4%）の方が男性（26.8%）よりも高くなっている。年齢別は、18～29歳（43.0%）が最も高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、中央区（28.7%）と江南区（29.1%）が高くなっている。性別は、男性（29.2%）の方が女性（25.8%）よりも高くなっている。年齢別は、60～64歳（36.6%）が高くなっている。

⑪ 生涯にわたり心身ともに健康に暮らしていけるよう、健康寿命の延伸に取り組んでいます。

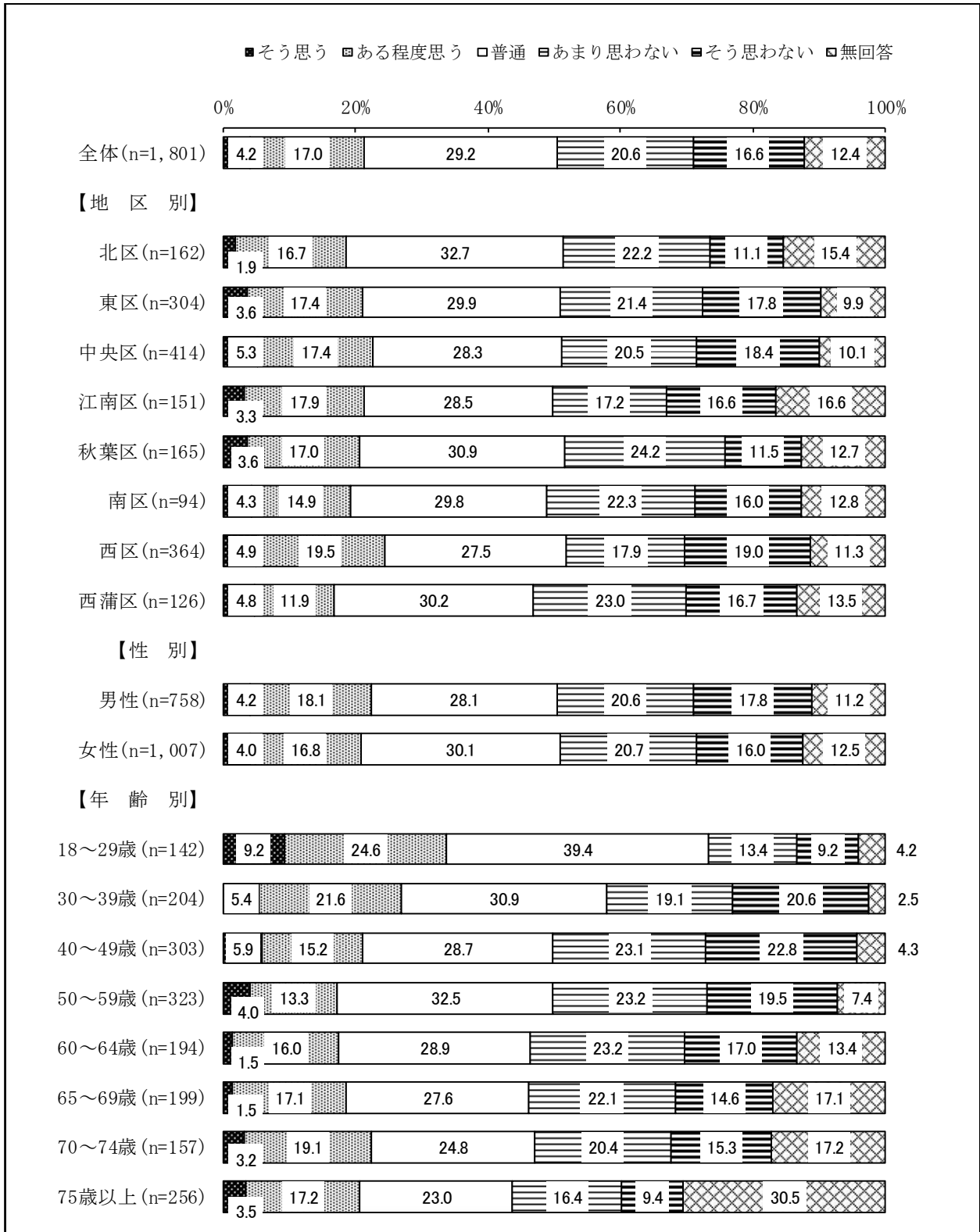


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、西区（33.3%）が高くなっている。性別は、女性（34.1%）の方が男性（27.3%）よりも高くなっている。年齢別は、70～74歳（43.9%）が最も高く、4割を超えている。

一方、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、30代（26.0%）と50代（26.6%）が高くなっている。

⑫ 持続可能な公共交通体系の構築に取り組んでいます。

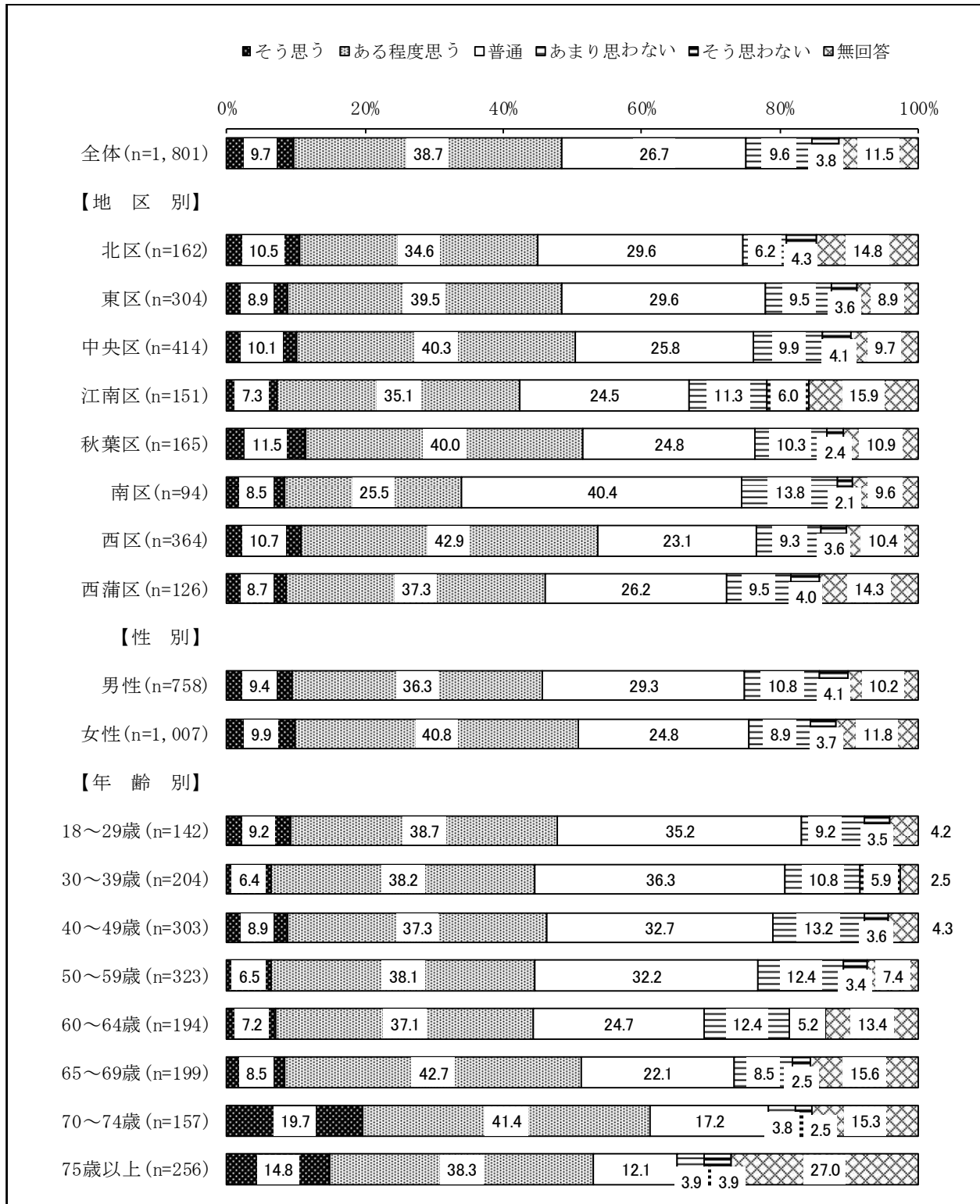


年齢別では18～29歳を除く属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、東区（39.2%）と西蒲区（39.7%）が高く、約4割となっている。性別は男女差が見られない。年齢別は、40代（45.9%）が最も高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、18～29歳（33.8%）が高くなっている。

⑬ ごみの減量化や地球温暖化対策など、人と環境にやさしいまちづくりに取り組んでいます。

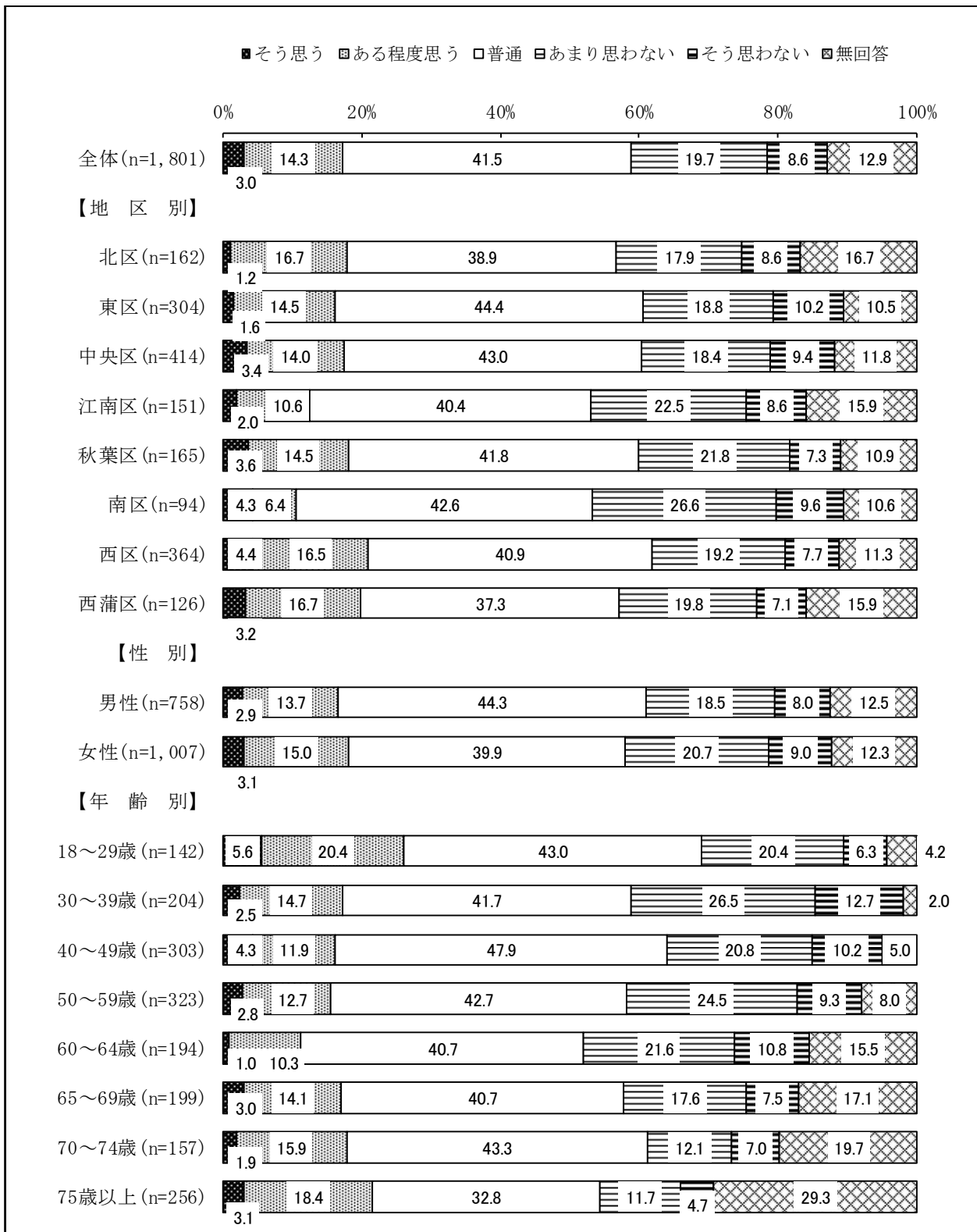


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、中央区（50.4%）、秋葉区（51.5%）と西区（53.6%）が高く、5割台になっている。性別は、女性（50.7%）の方が男性（45.7%）よりも高くなっている。年齢別は、70～74歳（61.1%）が最も高く、6割を超えている。

一方、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合については、すべての属性において2割未満となっている。

⑭ 女性・若者・障がいのある人などがいきいきと働ける環境づくりに取り組んでいます。

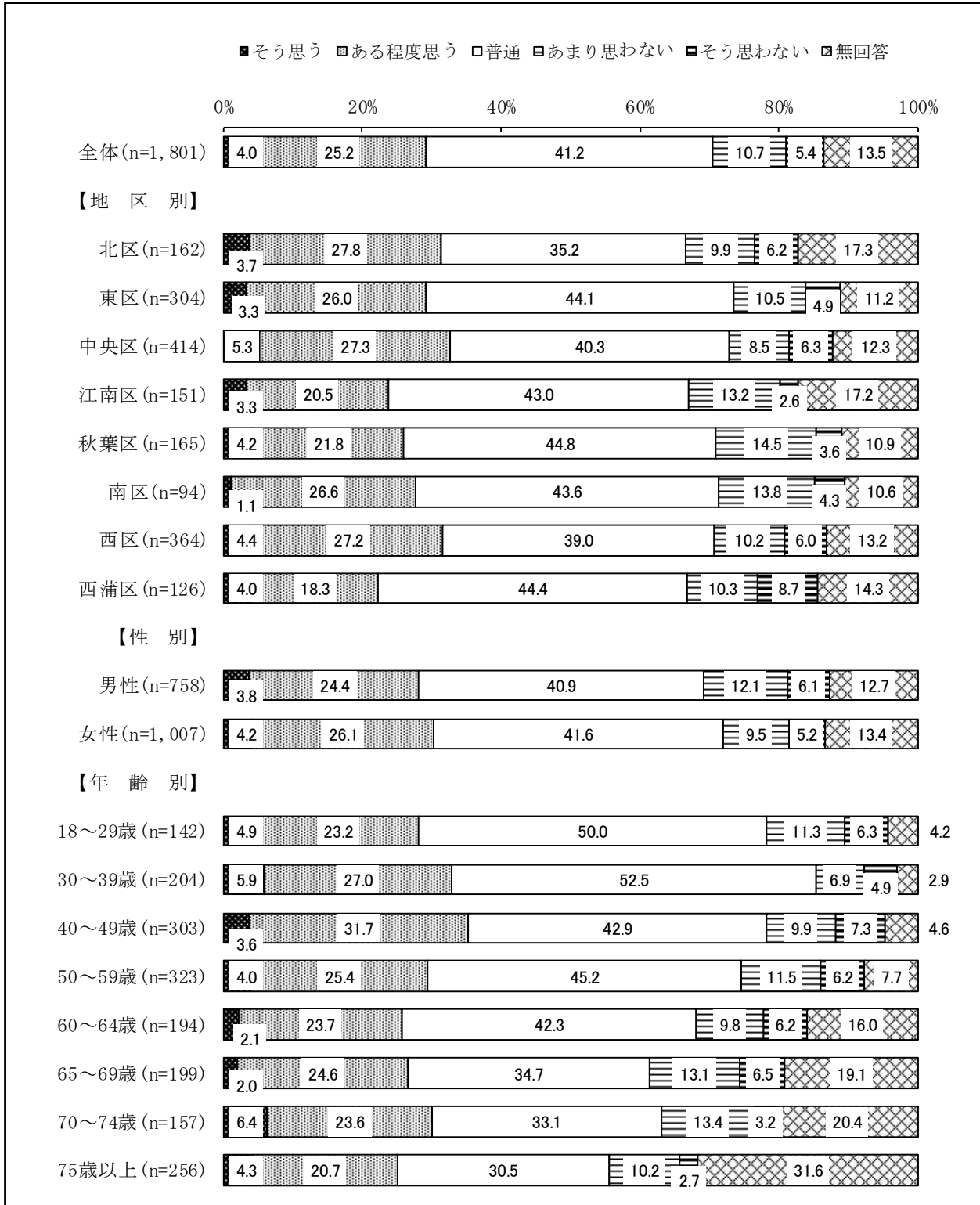


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、南区（36.2%）が最も高くなっている。性別は、女性（29.7%）の方が男性（26.5%）よりも高くなっている。年齢別は、30代（39.2%）が最も高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合については、18～29歳（26.0%）が高くなっている。

⑮ 農業や食品産業が一体となって発展するよう、農業の6次産業化の推進に取り組んでいます。

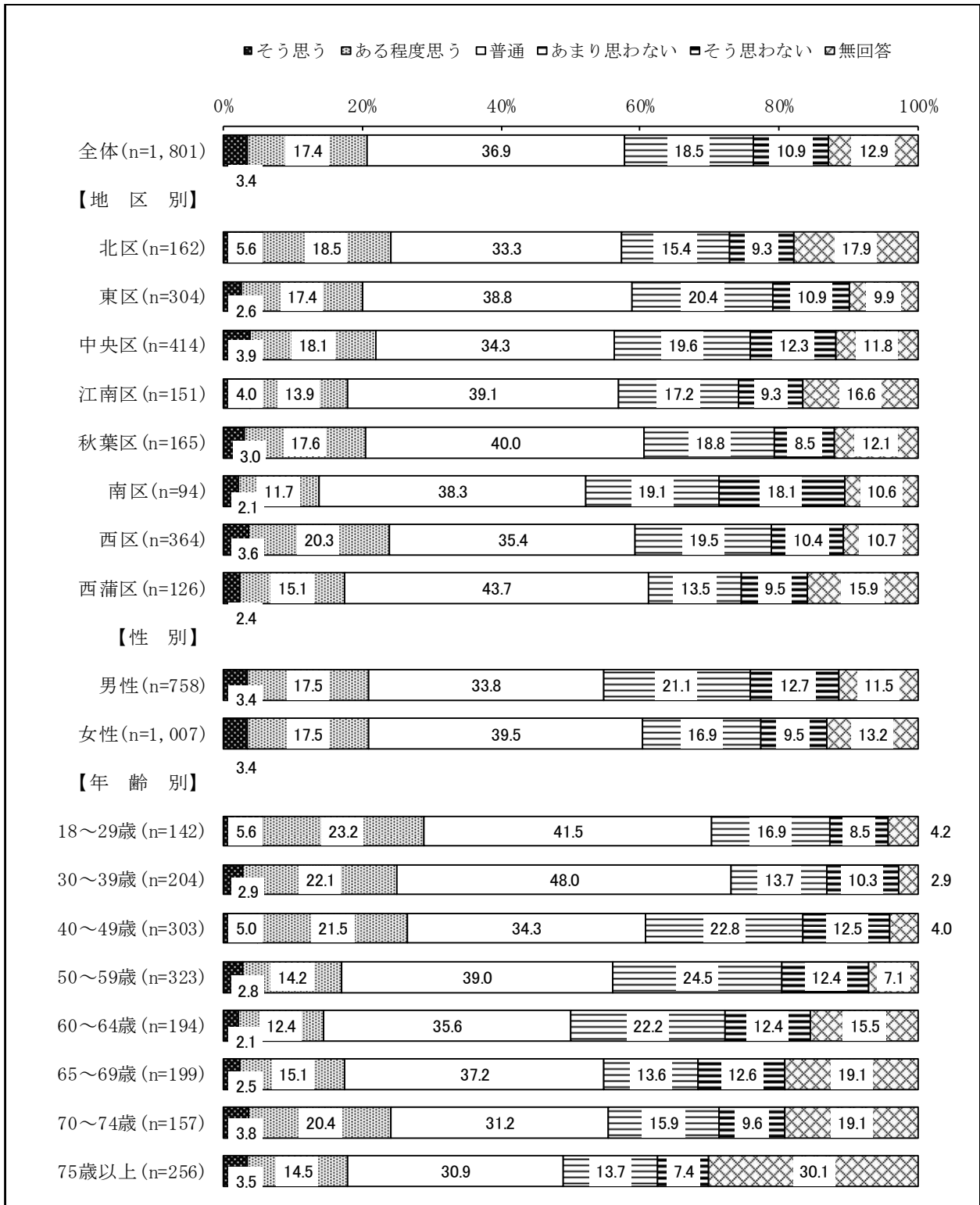


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、北区 (31.5%)、中央区 (32.6%) と西区 (31.6%) が高くなっている。性別は男女差が見られない。年齢別は、30代 (32.9%) と40代 (35.3%) が高くなっている。

一方、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合については、すべての属性において2割未満となっている。

⑩ 港、空港、鉄道、道路網などを活かし、拠点機能の強化に取り組んでいます。

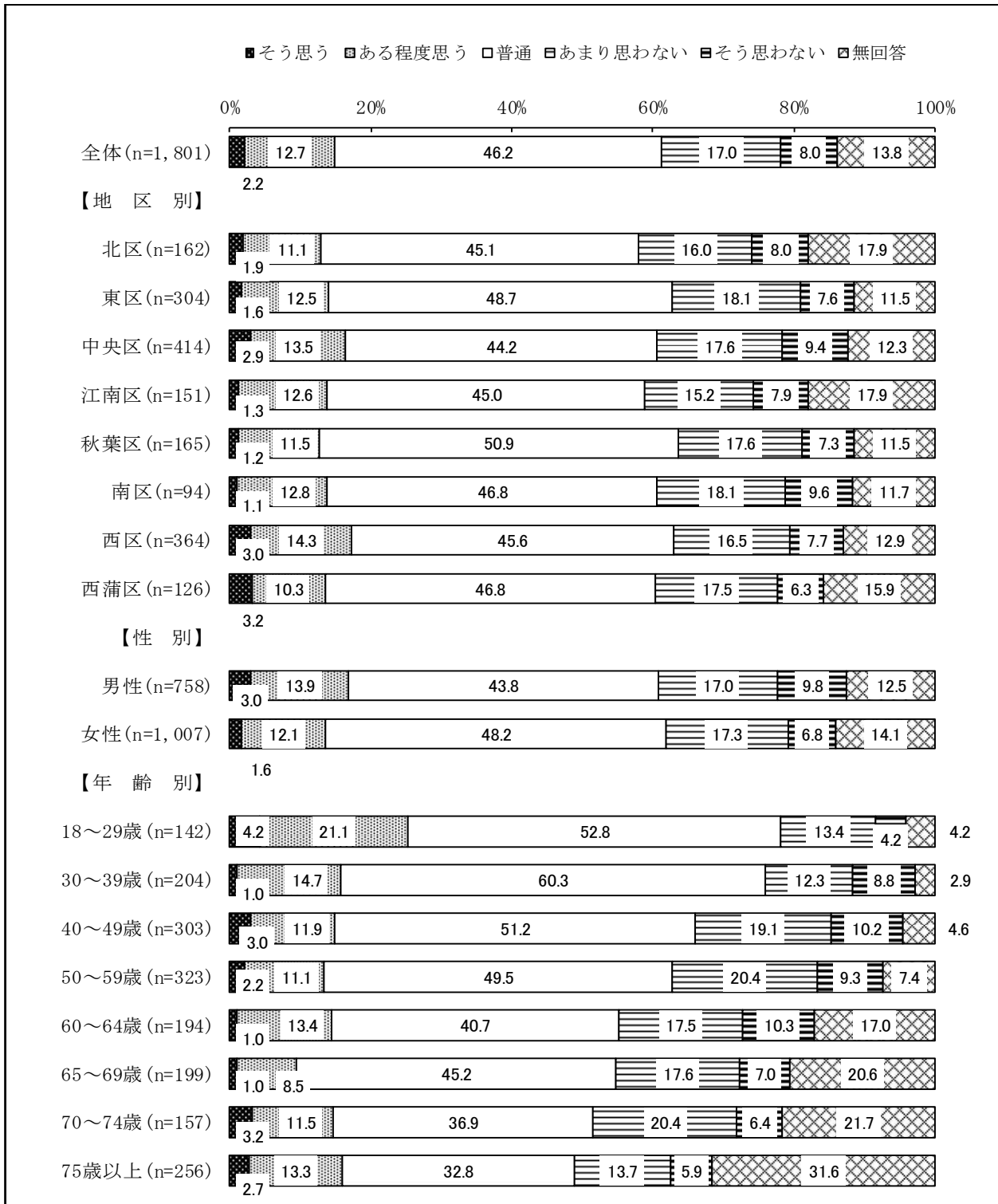


年齢別では18～29歳、30代を除く属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別では南区（37.2%）が最も高くなっている。性別は、男性（33.8%）の方が女性（26.4%）よりも高くなっている。年齢別は、40代（35.3%）、50代（36.9%）と60～64歳（34.6%）が高く、3割台となっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合については、18～29歳（28.8%）が最も高くなっている。

⑰ 既存産業の育成や創業・起業への支援などにより、中小企業の振興や雇用創出に取り組んでいます。

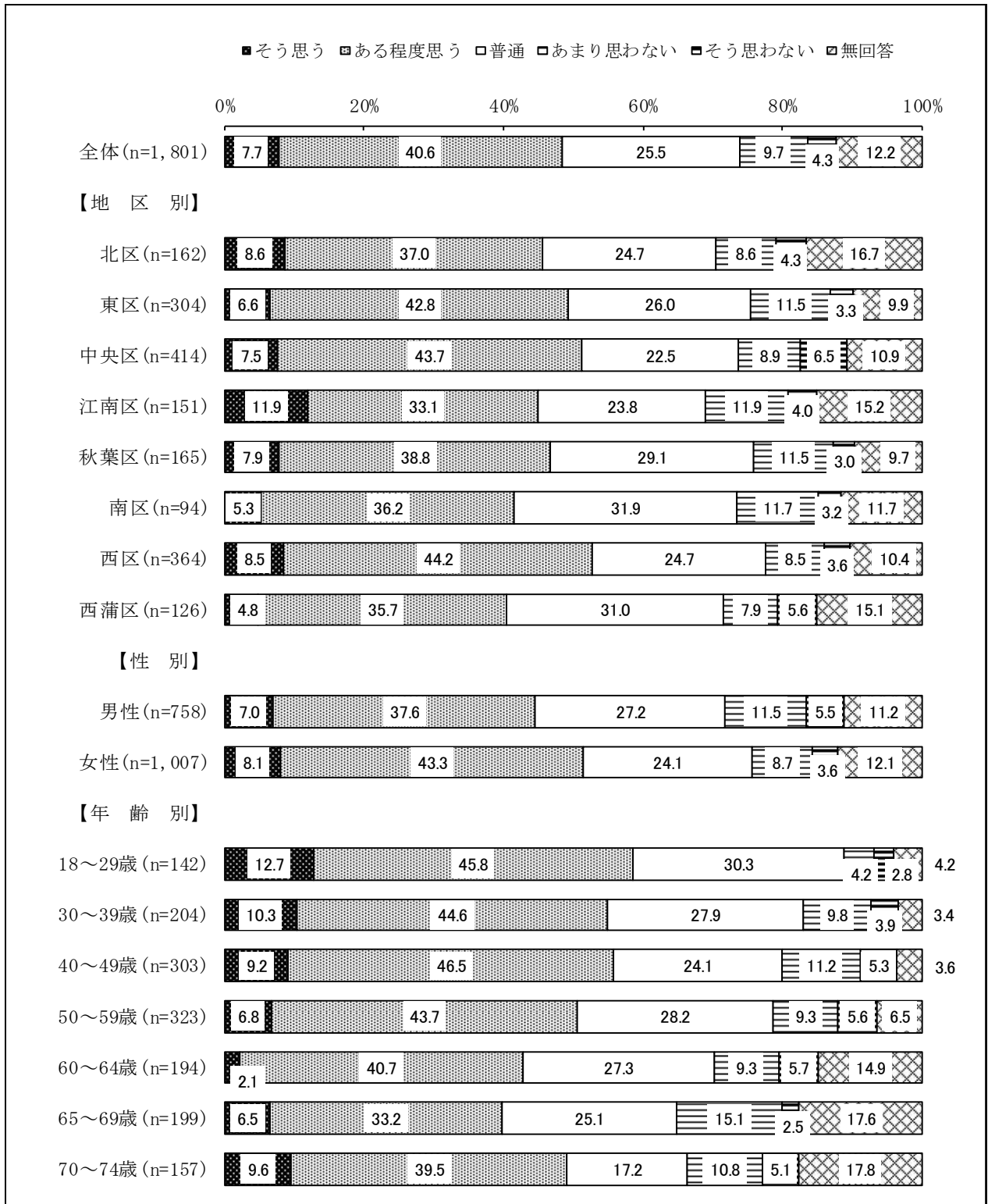


年齢別では18～29歳を除く属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、中央区(27.0%)と南区(27.7%)が高くなっている。性別は、男性(26.8%)の方が女性(24.1%)よりもやや高くなっている。年齢別は、40代(29.3%)と50代(29.7%)が高くなっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合については、18～29歳(25.3%)が最も高くなっている。

⑩ 食と花の魅力向上や、本市の「食文化」の国内外への発信に取り組んでいます。

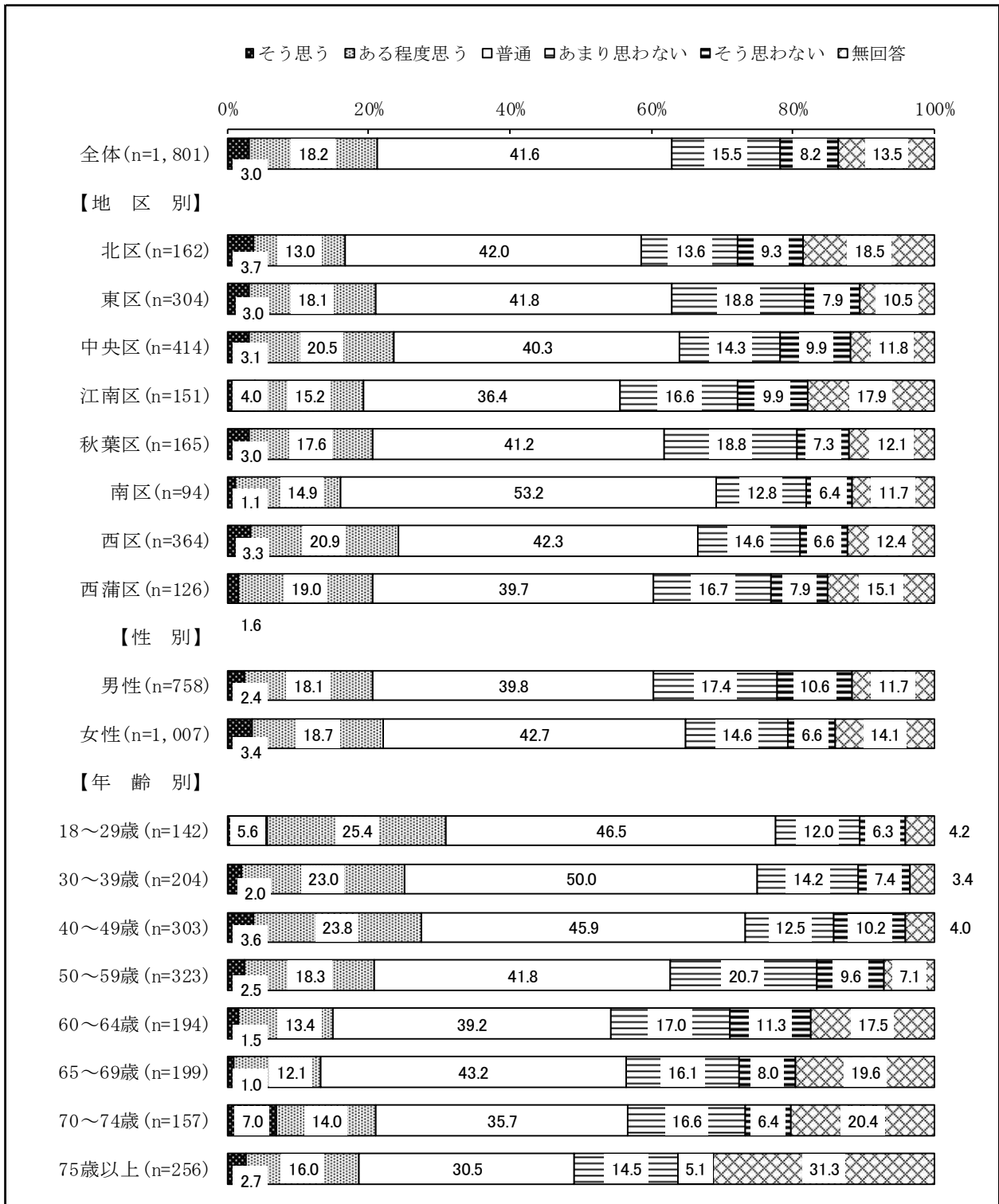


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は中央区（51.2%）と西区（52.7%）が高く、半数以上を占めている。性別は、女性（51.4%）の方が男性（44.6%）よりも高くなっている。年齢別は18～29歳（58.5%）が最も高くなっている。

一方、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合については、すべての属性において2割未満となっている。

⑱ 広域的な交流人口の拡大に向けて、国内外からの誘客促進に取り組んでいます。

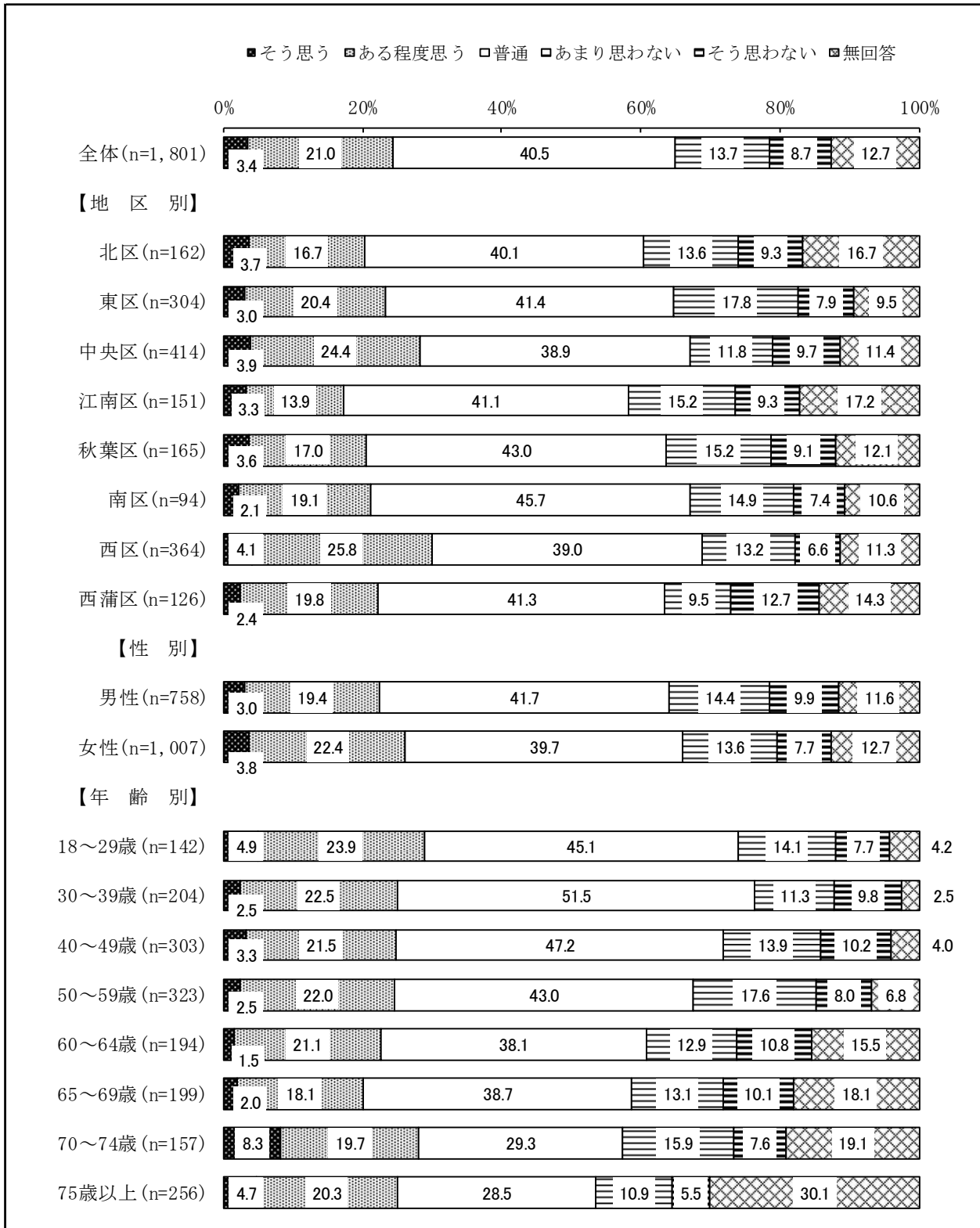


地区別では西区、性別では女性、年齢別では18～29歳、30代と40代を除く属性において、「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合が、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は江南区（26.5%）と秋葉区（26.1%）が高くなっている。性別は、男性（28.0%）の方が女性（21.2%）よりも高くなっている。年齢別は50代（30.3%）が最も高く、約3割となっている。

一方、「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は中央区（23.6%）と西区（24.2%）が高くなっている。年齢別は18～29歳（31.0%）が最も高くなっている。

⑳ 国際交流に取り組んでいます。



「そう思う」と「ある程度思う」を合わせた割合についてみると、地区別は、西区（29.9%）が最も高くなっている。性別は、女性（26.2%）の方が男性（22.4%）よりも高くなっている。年齢別は、18～29歳（28.8%）と70～74歳（28.0%）が高くなっている。

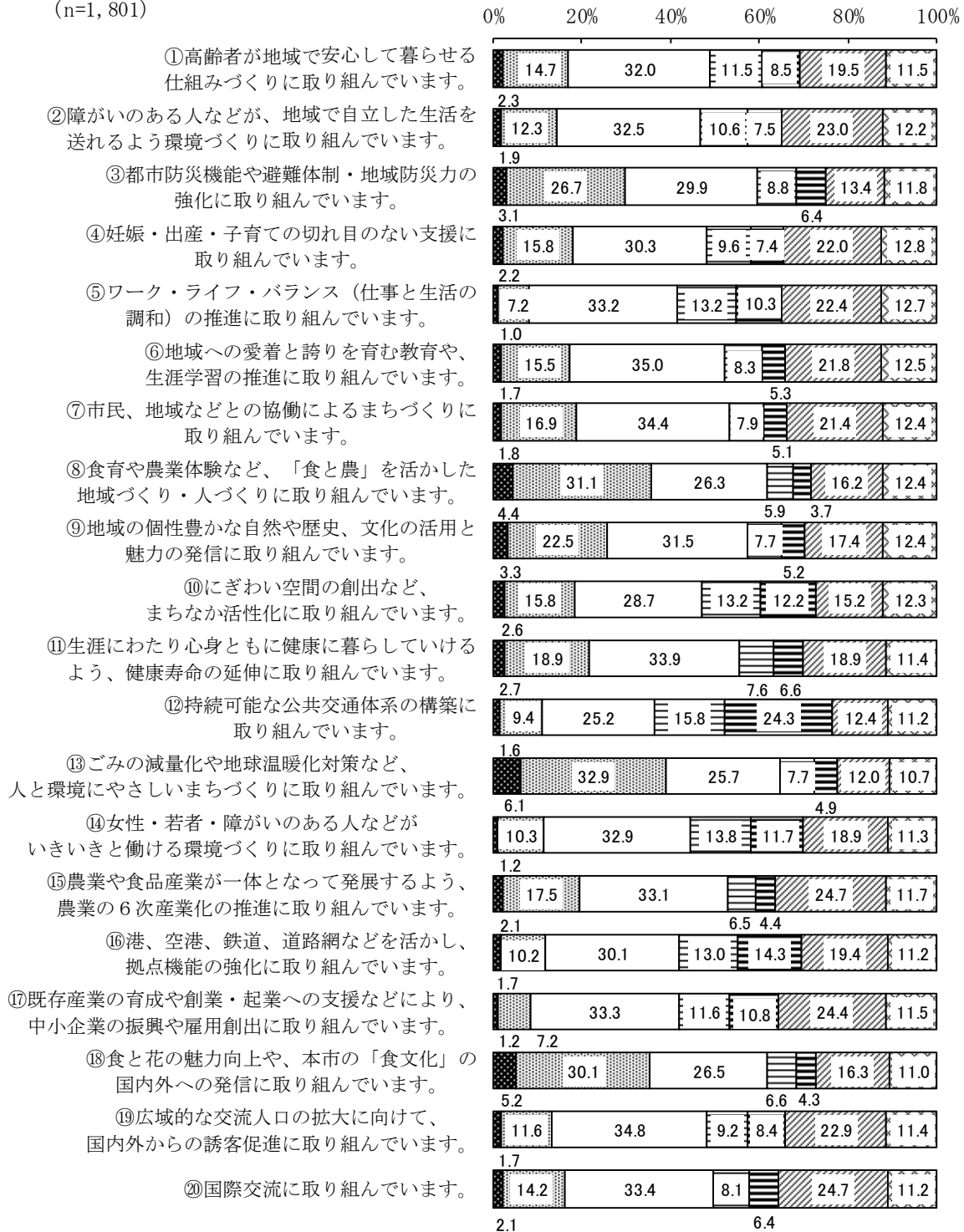
「そう思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合についてみると、地区別は、東区（25.7%）が最も高くなっている。性別は、男性（24.3%）の方が女性（21.3%）よりも高くなっている。年齢別は、50代（25.6%）が高くなっている。

(2) 市の取り組みに対する満足度

問30 平成27年度からスタートした新潟市総合計画「にいがた未来ビジョン」に基づき進めている主な取り組みについて、あなたの満足度をお聞かせください。それぞれの項目ごとに番号と記号を1つずつ選んで、○をつけてください。

- 満足している
- ある程度満足している
- どちらともいえない
- やや不満
- 不満
- わからない
- 無回答

(n=1, 801)



「環境にやさしいまちづくり」が高い満足度を得ている

【全体結果】

『市の取り組み状況』への満足度について、「満足している」の割合は、「⑬ごみの減量化や地球温暖化対策など、人と環境にやさしいまちづくりに取り組んでいます。」(6.1%)が最も高く、次いで「⑱食と花の魅力向上や、本市の「食文化」の国内外への発信に取り組んでいます。」(5.2%)、「⑧食育や農業体験など、「食と農」を活かした地域づくり・人づくりに取り組んでいます。」(4.4%)が続く。

一方、「不満」の割合は、「⑫持続可能な公共交通体系の構築に取り組んでいます。」(24.3%)が最も高い。以下、「⑯港、空港、鉄道、道路網などを活かし、拠点機能の強化に取り組んでいます。」(14.3%)、「⑩にぎわい空間の創出など、まちなか活性化に取り組んでいます。」(12.2%)、「⑭女性・若者・障がいのある人などがいきいきと働ける環境づくりに取り組んでいます。」(11.7%)の順で高くなっている。

また、満足度について、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合、及び、「やや不満」と「不満」を合わせた割合の結果は次のとおりである。

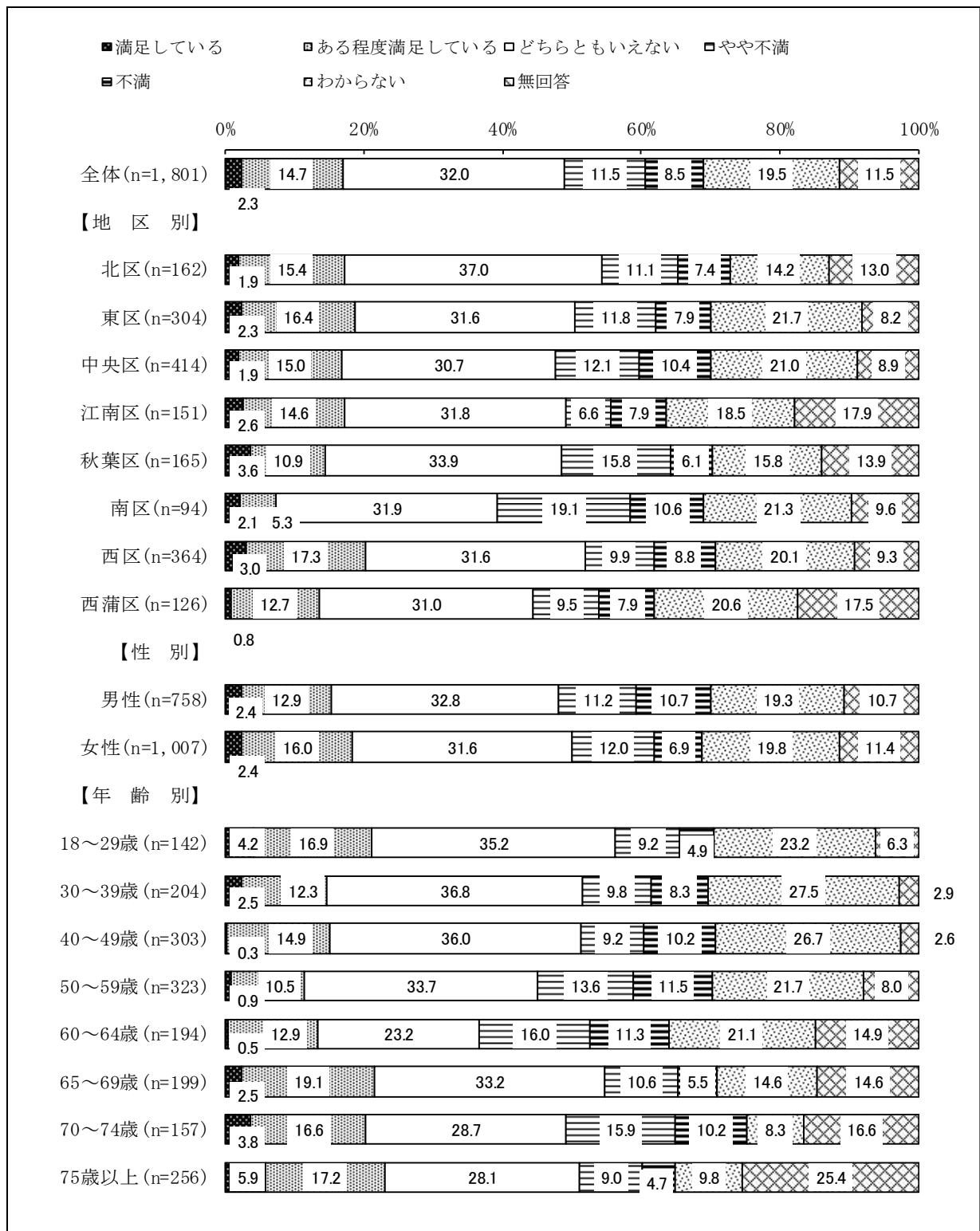
「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合についてみると、「⑬ごみの減量化や地球温暖化対策など、人と環境にやさしいまちづくりに取り組んでいます。」(39.0%)が最も高く、次いで「⑧食育や農業体験など、「食と農」を活かした地域づくり・人づくりに取り組んでいます。」(35.5%)、「⑱食と花の魅力向上や、本市の「食文化」の国内外への発信に取り組んでいます。」(35.3%)が3割台で続く。以下、「③都市防災機能や避難体制・地域防災力の強化に取り組んでいます。」(29.8%)、「⑨地域の個性豊かな自然や歴史、文化の活用と魅力の発信に取り組んでいます。」(25.8%)、「⑪生涯にわたり心身ともに健康に暮らしていけるよう、健康寿命の延伸に取り組んでいます。」(21.6%)が2割台で続いている。

一方で、「やや不満」と「不満」を合わせた割合についてみると、「⑫持続可能な公共交通体系の構築に取り組んでいます。」(40.1%)が最も高い。以下、「⑯港、空港、鉄道、道路網などを活かし、拠点機能の強化に取り組んでいます。」(27.3%)、「⑭女性・若者・障がいのある人などがいきいきと働ける環境づくりに取り組んでいます。」(25.5%)、「⑩にぎわい空間の創出など、まちなか活性化に取り組んでいます。」(25.4%)、「⑤ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進に取り組んでいます。」(23.5%)の順で高くなっている。

【属性別結果】

次ページ以降に取り組みごとの地区別・性別・年齢別の集計結果をまとめた。

① 高齢者が地域で安心して暮らせる仕組みづくりに取り組んでいます。

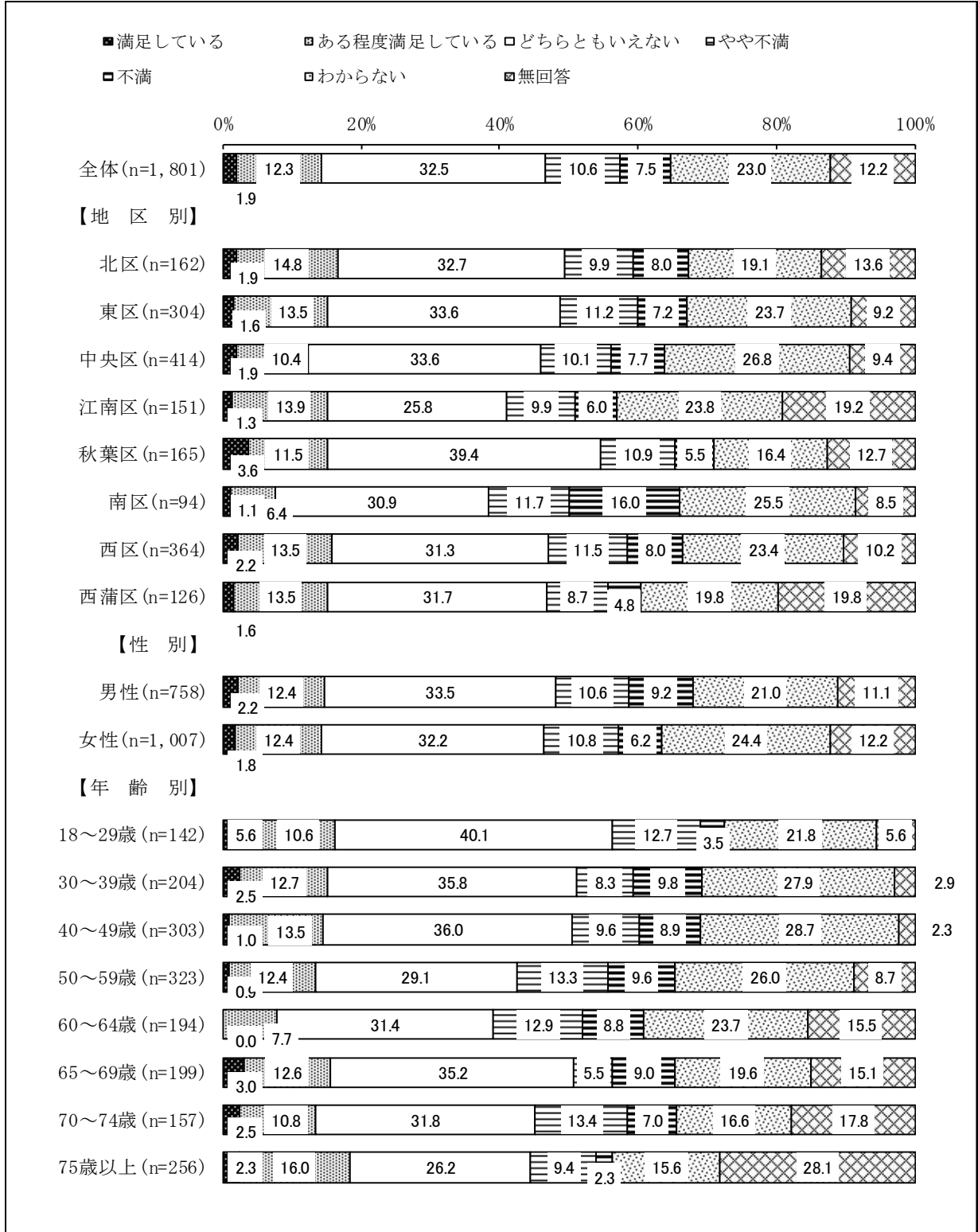


地区別では江南区、西区、年齢別では18～29歳、65～69歳と75歳以上を除く属性において、「不満」と「やや不満」を合わせた割合が、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合よりも高くなっている。

「不満」と「やや不満」を合わせた割合についてみると、地区別は南区（29.7%）が最も高く、約3割となっている。性別は男性（21.9%）の方が女性（18.9%）よりも高くなっている。年齢別は60～64歳（27.3%）が最も高くなっている。

一方、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合については、75歳以上（23.1%）が高く、2割を超えている。

② 障がいのある人などが、地域で自立した生活を送れるよう環境づくりに取り組んでいます。

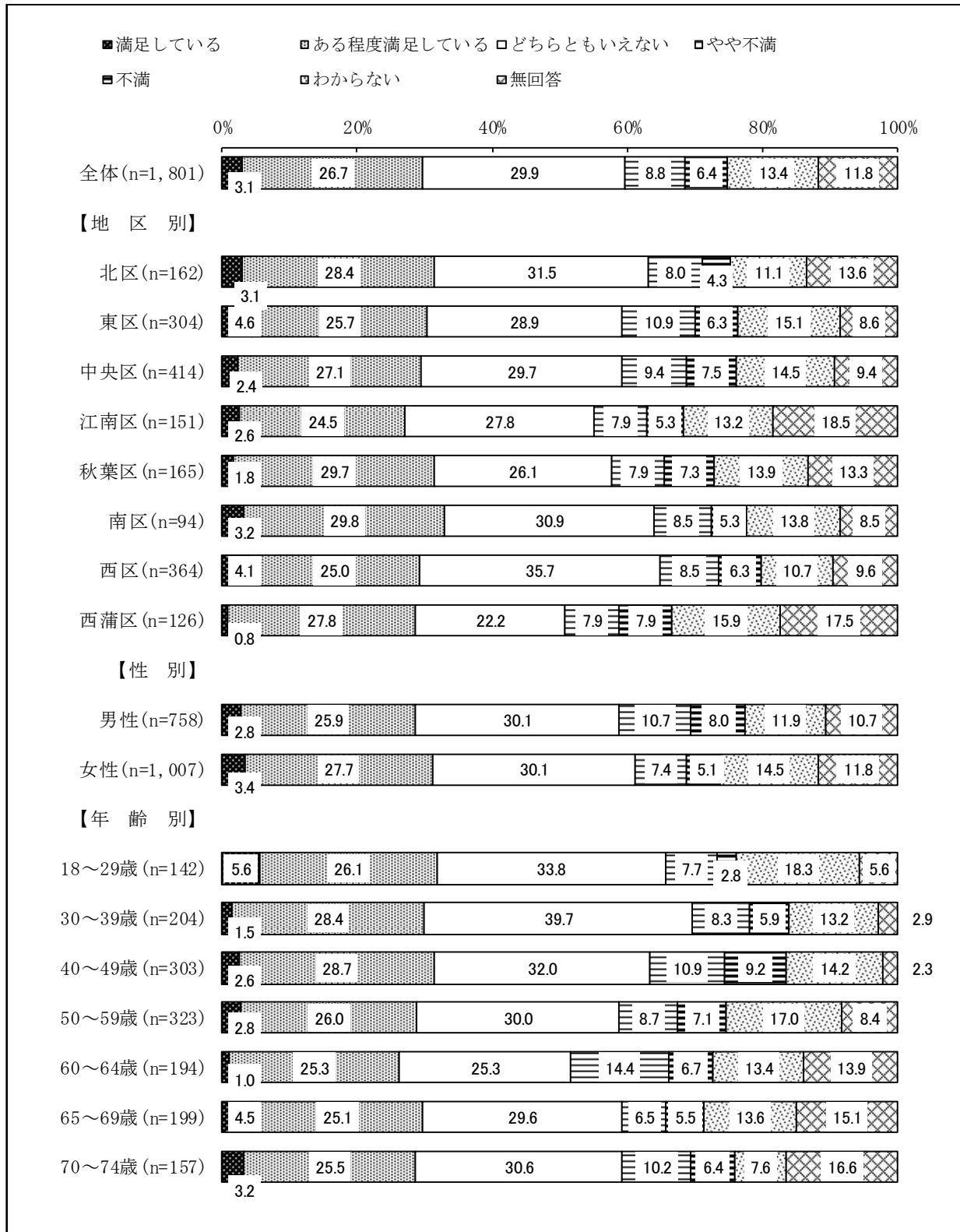


地区別では西蒲区、性別では男性、年齢別では18～29歳、65～69歳と75歳以上を除く属性において、「不満」と「やや不満」を合わせた割合が、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合よりも高くなっている。

「不満」と「やや不満」を合わせた割合についてみると、地区別は南区（27.7%）が最も高くなっている。性別は男女差が見られない。年齢別は50代（22.9%）が最も高くなっている。

一方、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合については、すべての属性において2割未満となっている。

③ 都市防災機能や避難体制・地域防災力の強化に取り組んでいます。

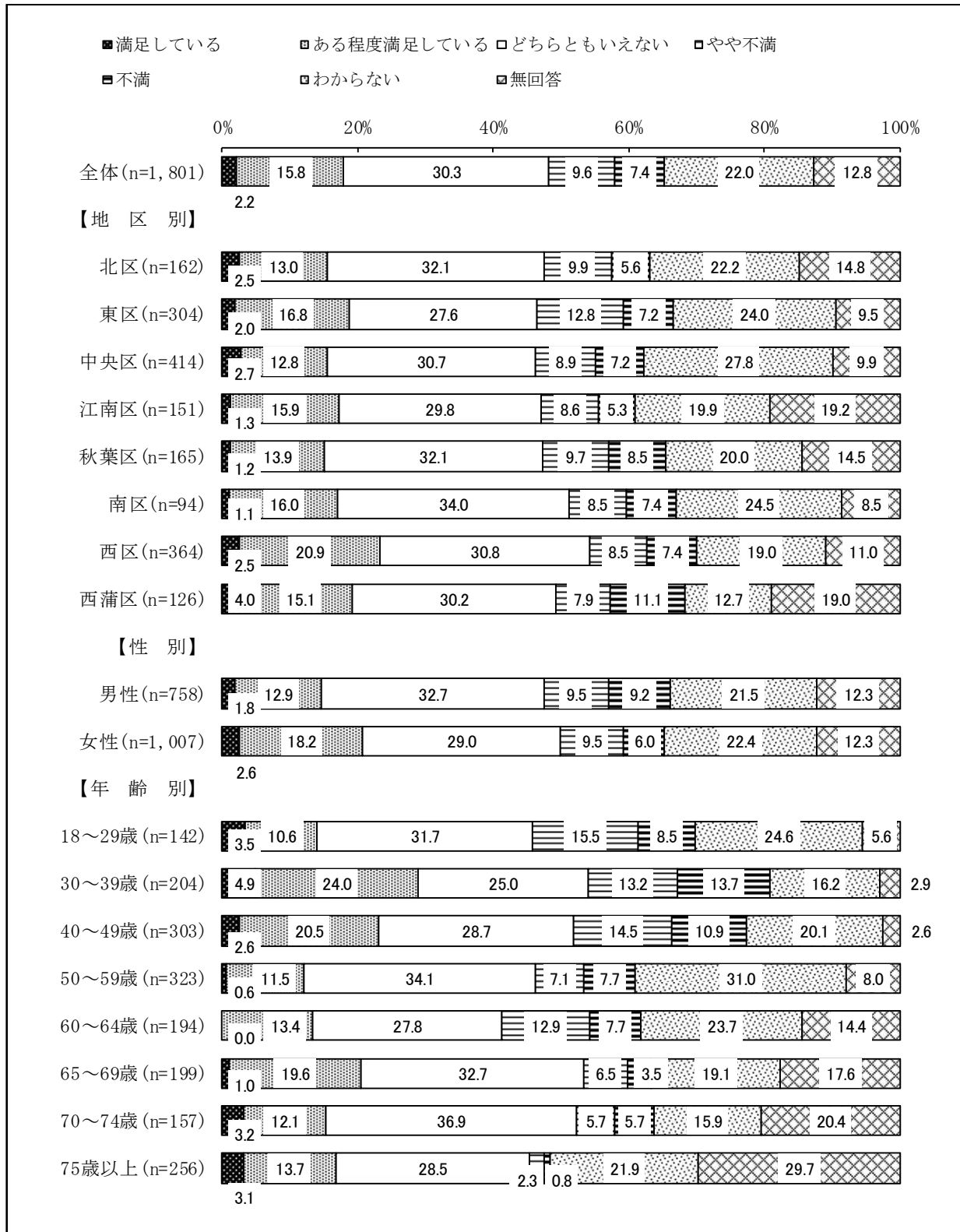


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合が、「不満」と「やや不満」を合わせた割合よりも高くなっている。

「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合についてみると、地区別は南区 (33.0%) が最も高くなっている。性別は男女差が見られない。年齢別は18～29歳 (31.7%)、40代 (31.3%) と75歳以上 (32.0%) が高く、3割を超えている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた割合については、性別では男性 (18.7%) の方が女性 (12.5%) よりも高くなっている。年齢別は40代 (20.1%)、60～64歳 (21.1%) が高くなっている。

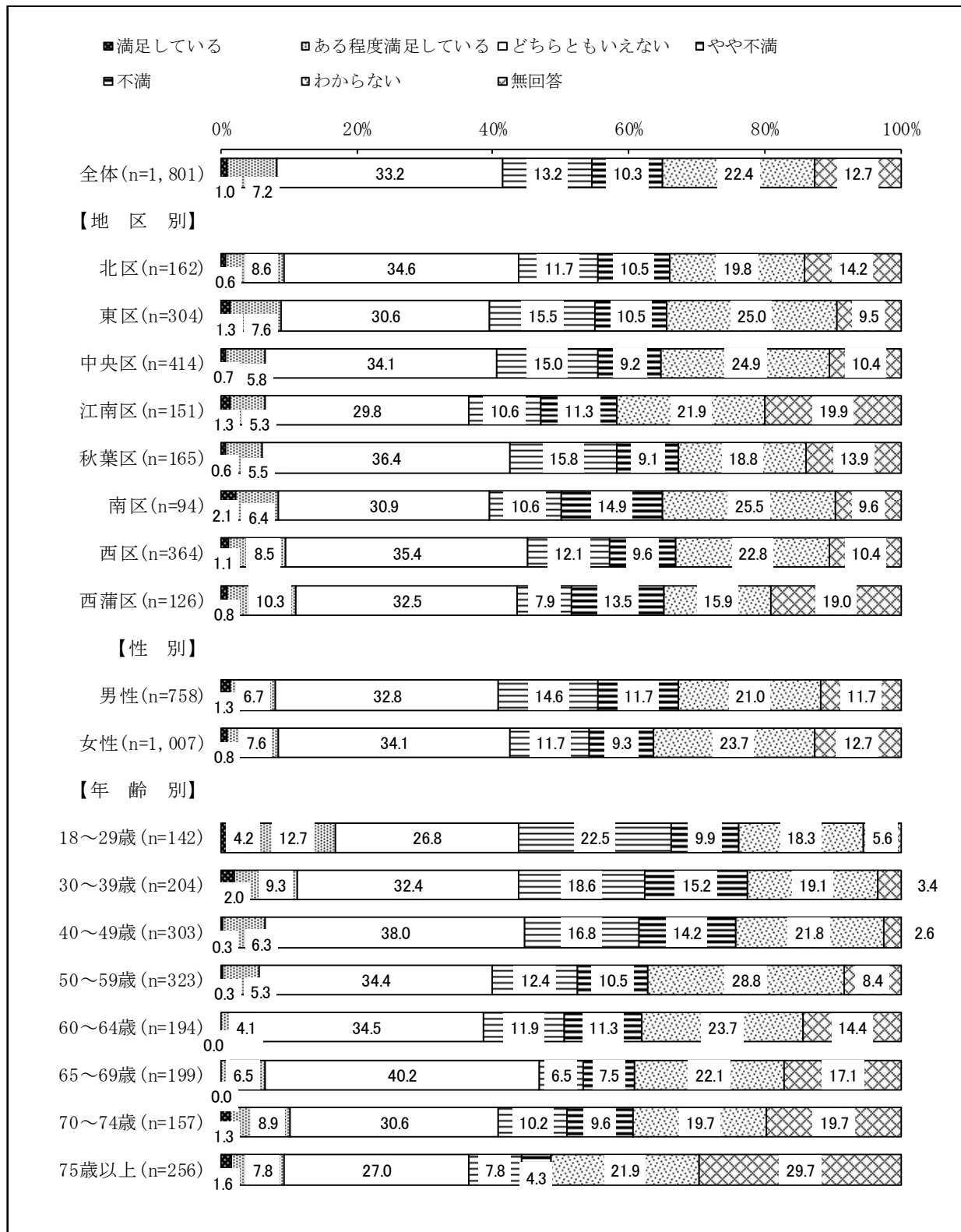
④ 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に取り組んでいます。



「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合についてみると、地区別は、西区 (23.4%) が最も高くなっている。性別は、女性 (20.8%) の方が男性 (14.7%) よりも高くなっている。年齢別は、30代 (28.9%) が最も高くなっている。

「不満」と「やや不満」を合わせた割合についてみると、地区別は東区 (20.0%) が最も高くなっている。性別は男性 (18.7%) の方が女性 (15.5%) よりも高くなっている。年齢別は 30代 (26.9%) が最も高くなっている。

⑤ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進に取り組んでいます。

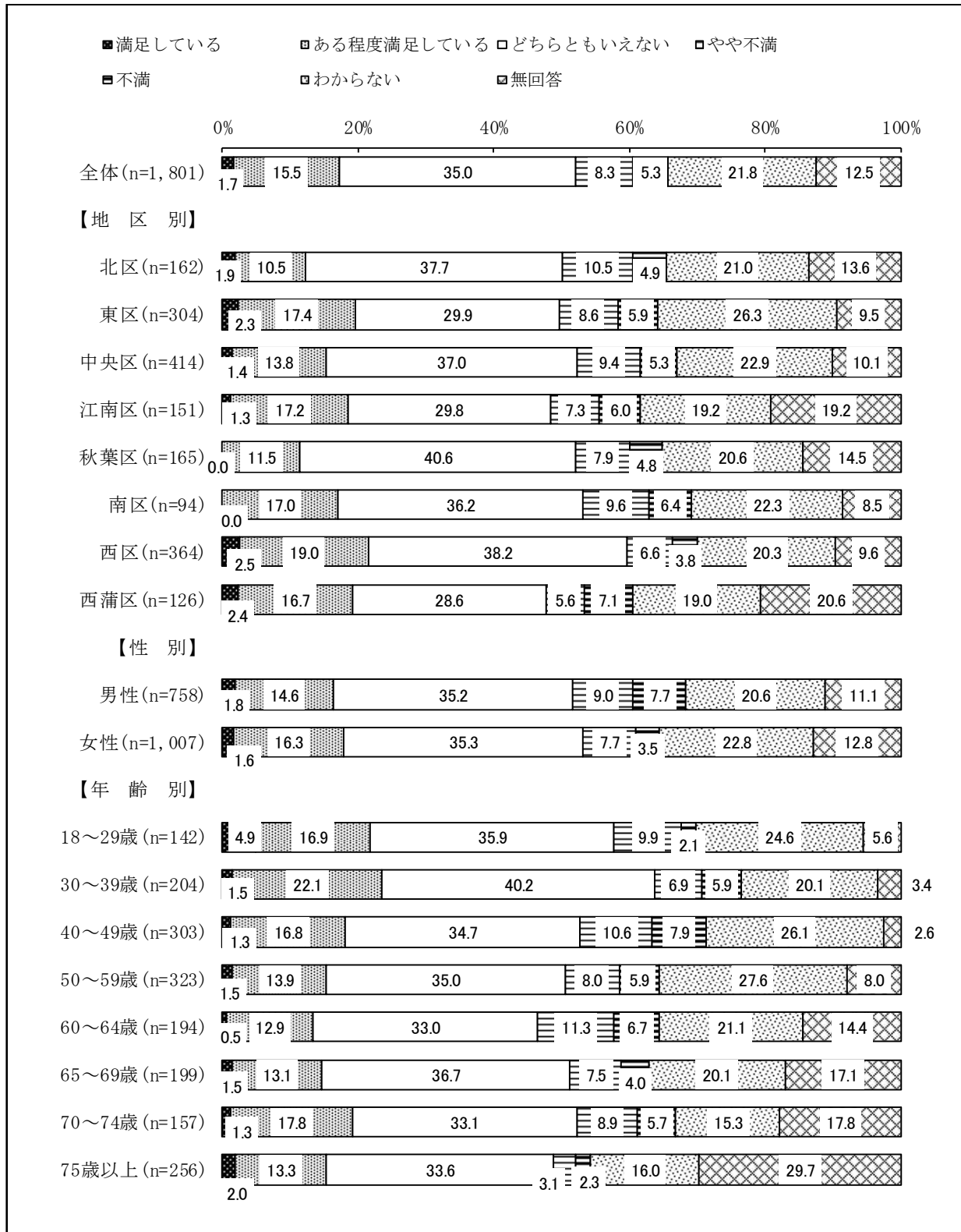


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「不満」と「やや不満」を合わせた割合が、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合よりも高くなっている。

「不満」と「やや不満」を合わせた割合についてみると、地区別は、東区（26.0%）と南区（25.5%）が高くなっている。性別は、男性（26.3%）の方が女性（21.0%）よりも高くなっている。年齢別は、18～29歳（32.4%）と30代（33.8%）が高くなっている。

一方、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合については、すべての属性において1割前後となっている。

⑥ 地域への愛着と誇りを育む教育や、生涯学習の推進に取り組んでいます。

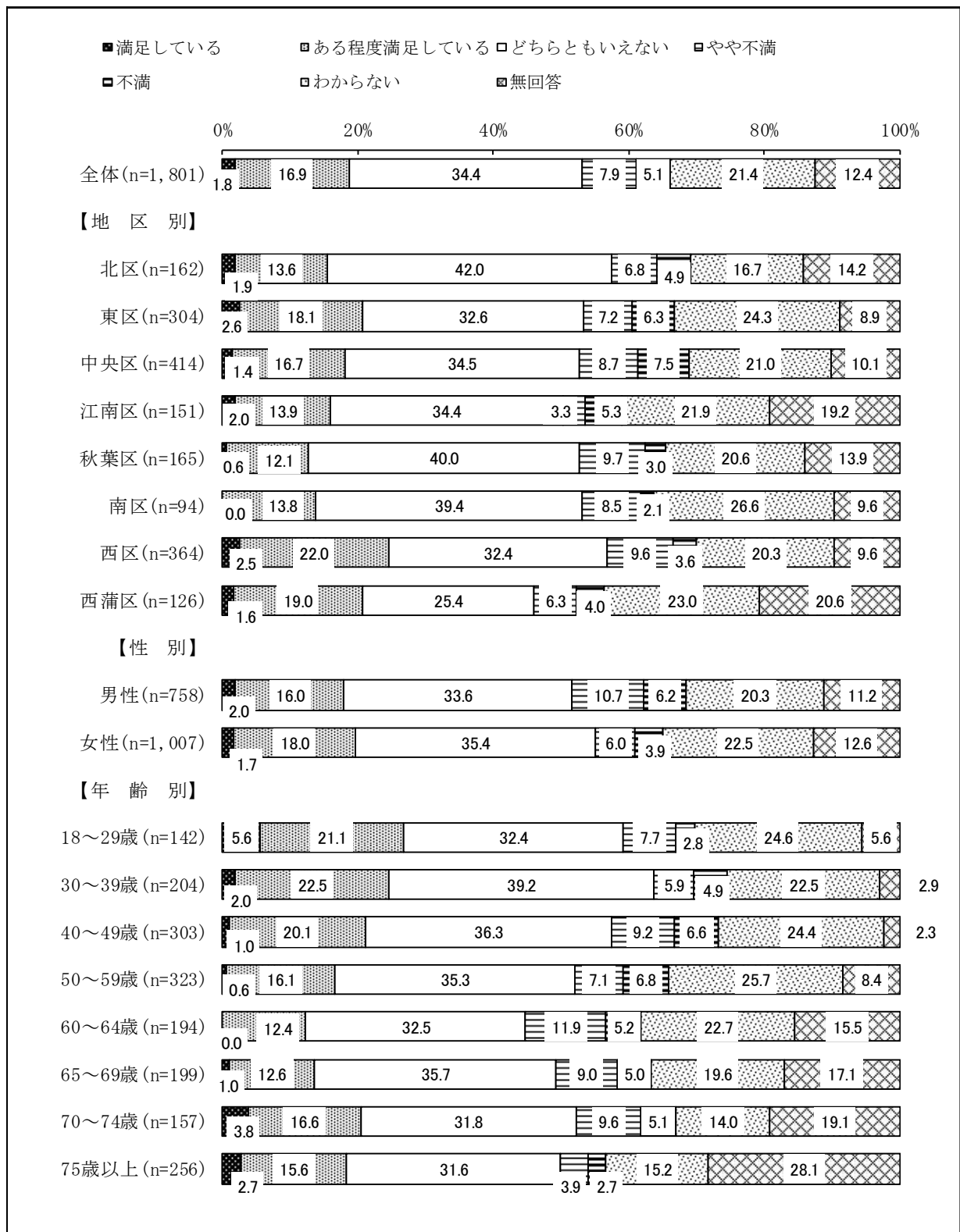


地区別では北区、秋葉区、性別では男性、年齢別では40代と60～64歳を除く属性において、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合が、「不満」と「やや不満」を合わせた割合よりも高くなっている。

「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合についてみると、地区別は西区(21.5%)が最も高くなっている。性別は男女差が見られない。年齢別は30代(23.6%)が最も高くなっている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた割合については、すべての属性において2割未満となっている。

⑦ 市民、地域などとの協働によるまちづくりに取り組んでいます。

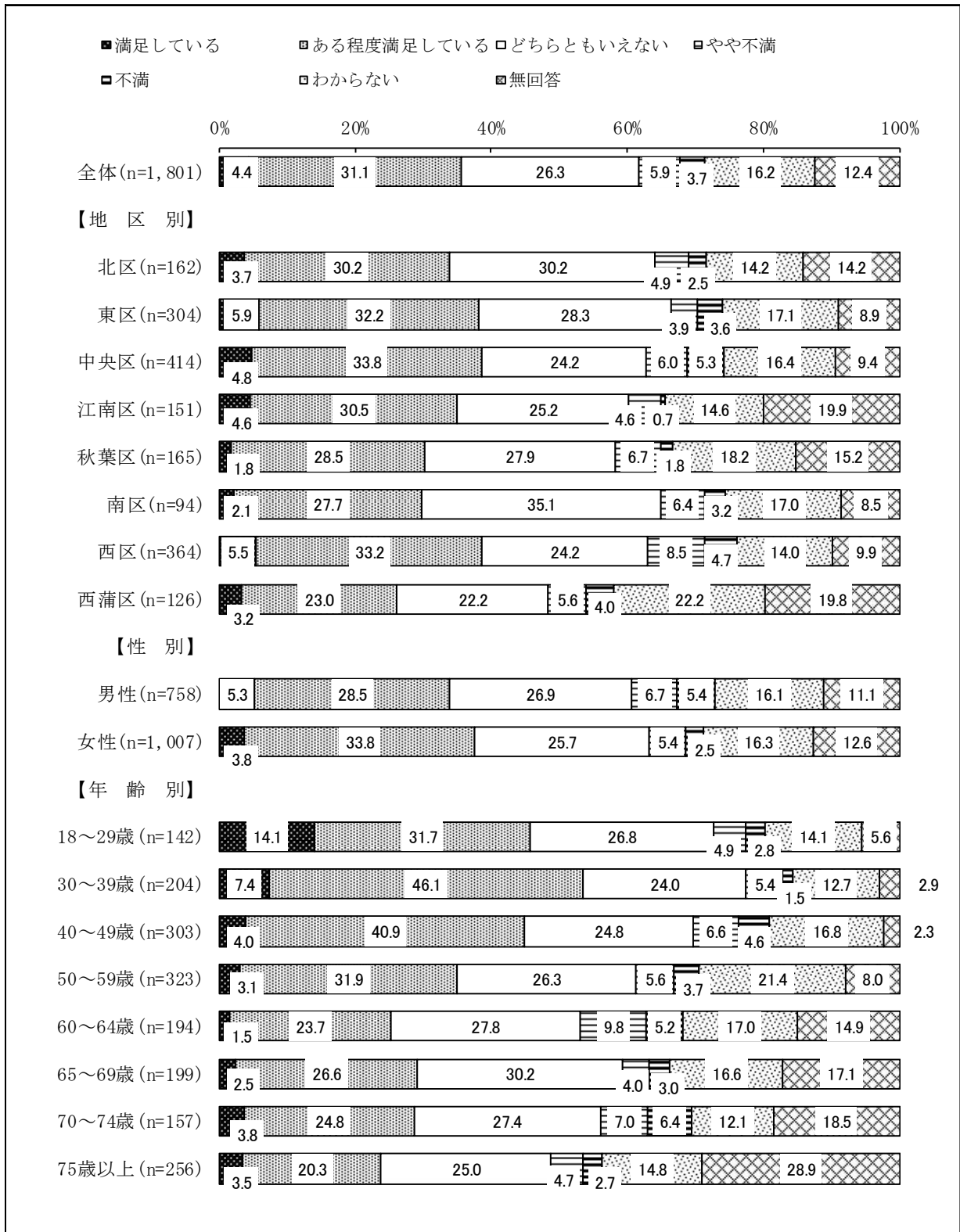


地区別では秋葉区、年齢別では60～64歳と65～69歳を除く属性において、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合が、「不満」と「やや不満」を合わせた割合よりも高くなっている。

「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合についてみると、地区別は西区(24.5%)が最も高くなっている。性別は男女差が見られない。年齢別は18～29歳(26.7%)が高くなっている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた割合については、すべての属性において2割未満となっている。

⑧ 食育や農業体験など、「食と農」を活かした地域づくり・人づくりに取り組んでいます。

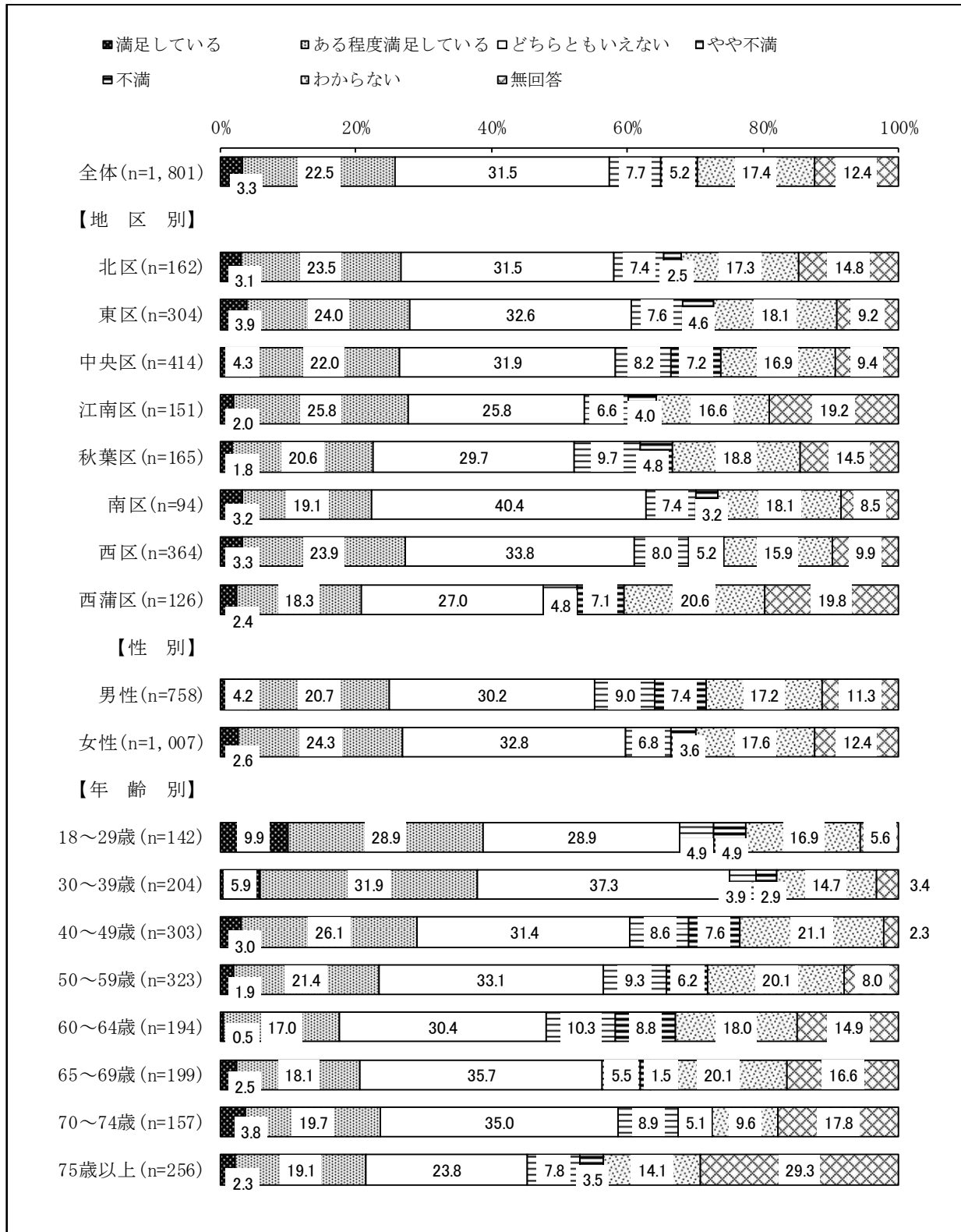


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合が、「不満」と「やや不満」を合わせた割合よりも高くなっている。

「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合についてみると、地区別は東区(38.1%)、中央区(38.6%)と西区(38.7%)が高くなっている。性別は女性(37.6%)が男性(33.8%)よりも高くなっている。年齢別は30代(53.5%)が最も高く、半数以上となっている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた割合については、すべての属性において1割前後となっている。

⑨ 地域の個性豊かな自然や歴史、文化の活用と魅力の発信に取り組んでいます。

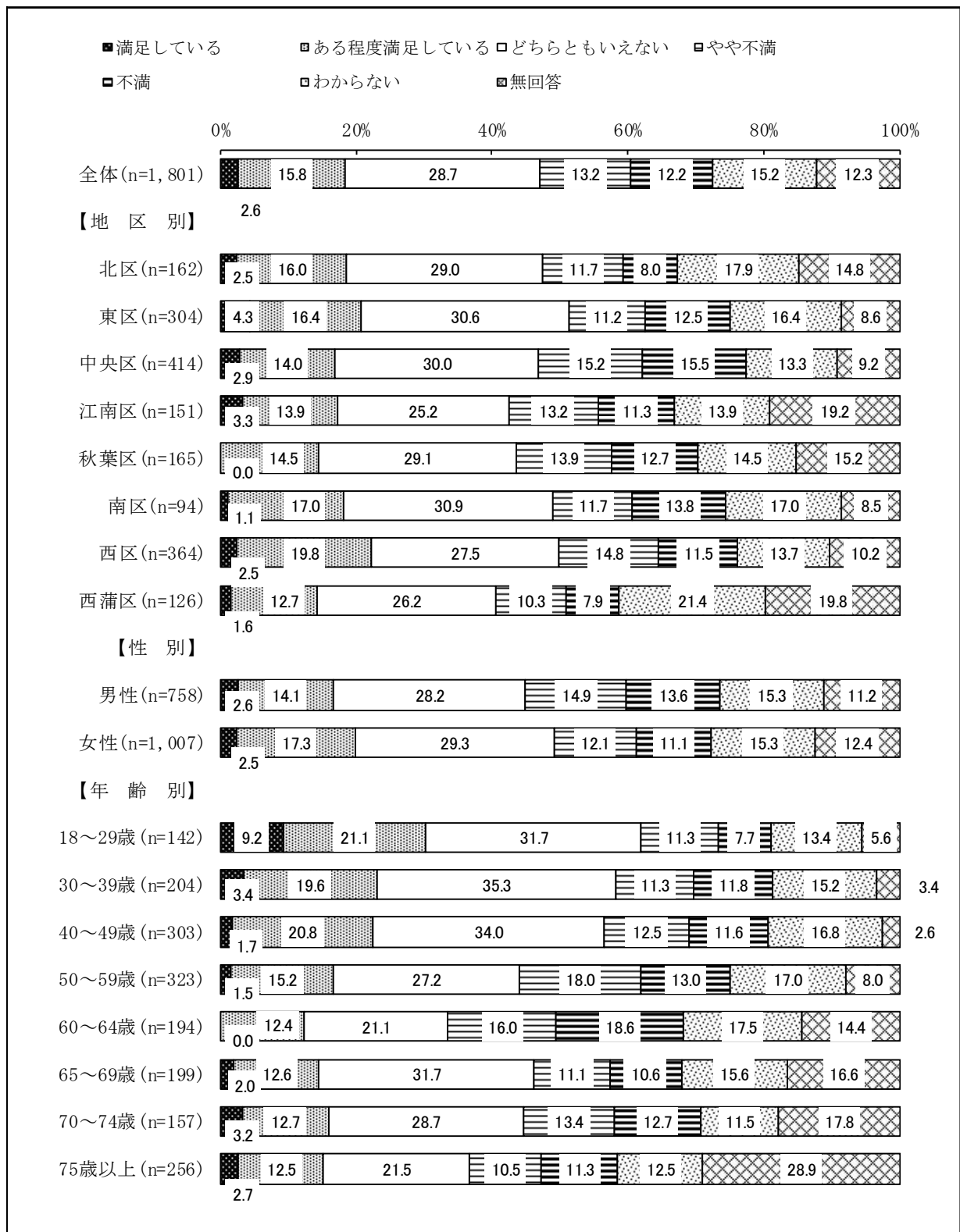


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合が、「不満」と「やや不満」を合わせた割合よりも高くなっている。

「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合についてみると、地区別は東区 (27.9%) と江南区 (27.8%) が高くなっている。性別は男女差が見られない。年齢別は 18～29 歳 (38.8%) と 30 代 (37.8%) が高くなっている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた割合については、すべての属性において 2 割未満となっている。

⑩ にぎわい空間の創出など、まちなか活性化に取り組んでいます。

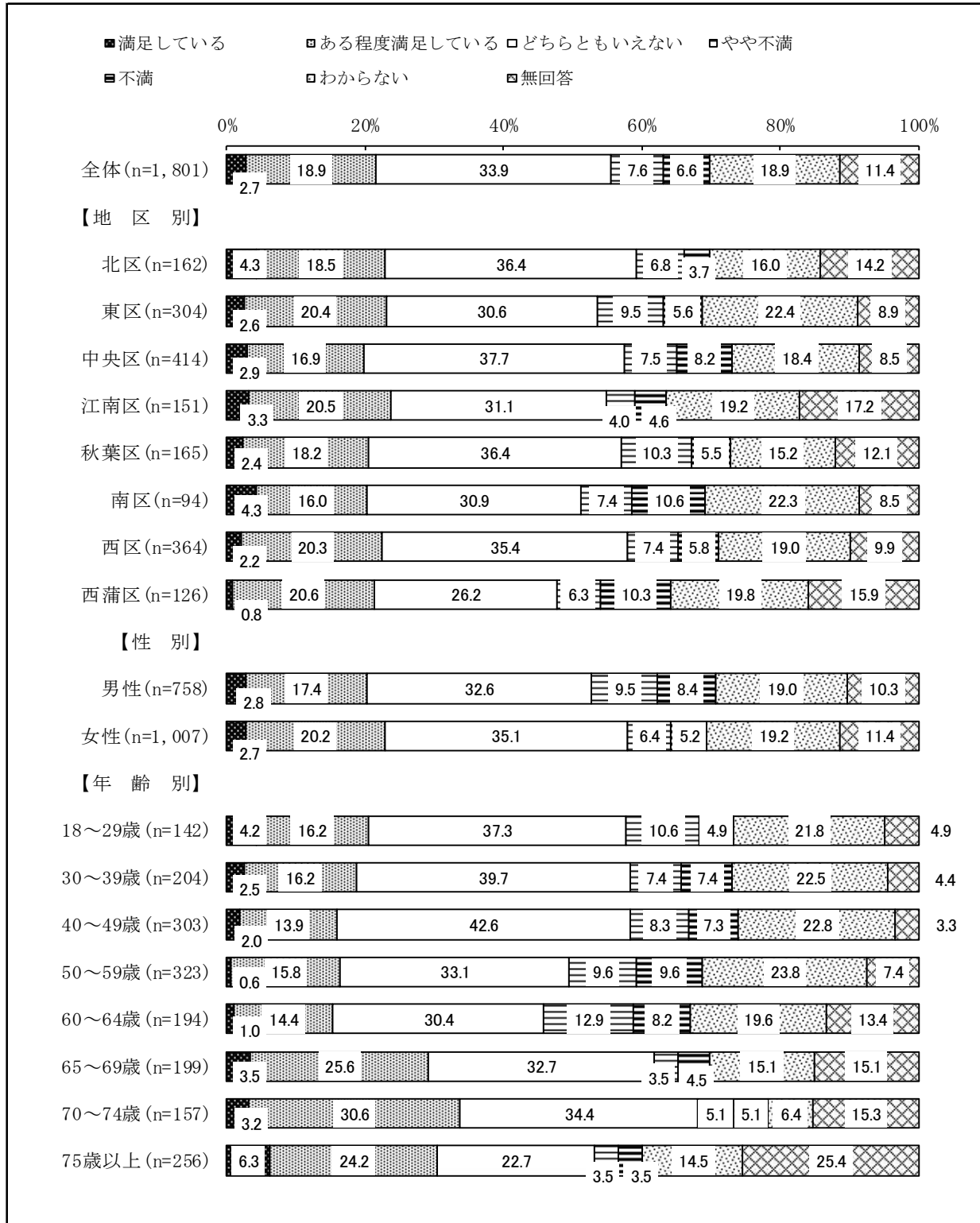


年齢別では18～29歳を除く属性において、「不満」と「やや不満」を合わせた割合が、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合よりも高くなっている。

「不満」と「やや不満」を合わせた割合についてみると、地区別は中央区（30.7%）が最も高く、約3割になっている。性別は男性（28.5%）の方が女性（23.2%）よりも高くなっている。年齢別は60～64歳（34.6%）が最も高くなっている。

一方、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合については、18～29歳（30.3%）が最も高くなっている。

⑪ 生涯にわたり心身ともに健康に暮らしていけるよう、健康寿命の延伸に取り組んでいます。

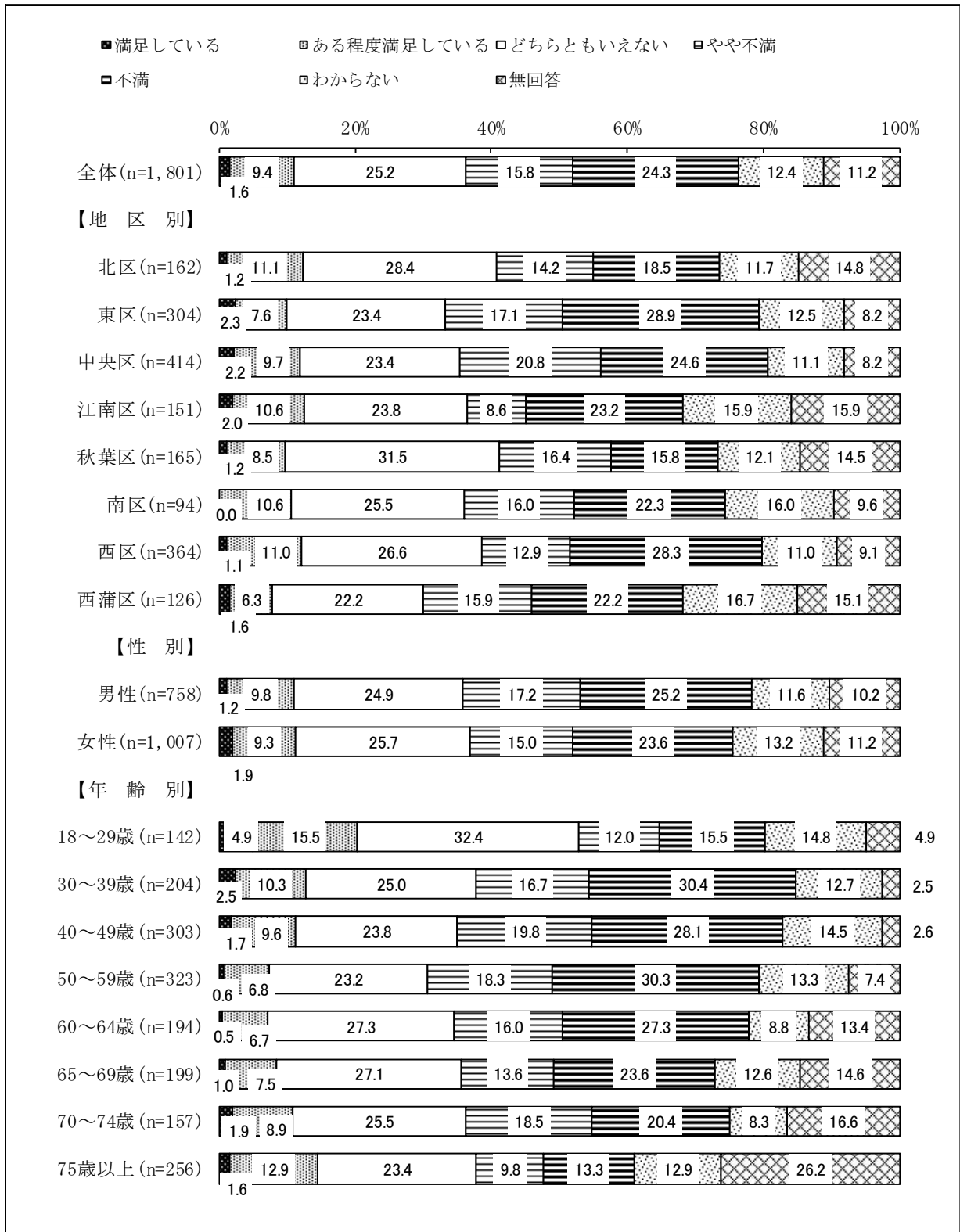


年齢別では50代と60～64歳を除く属性において、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合が、「不満」と「やや不満」を合わせた割合よりも高くなっている。

「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合についてみると、地区別は東区(23.0%)と江南区(23.8%)が高くなっている。性別は男女差が見られない。年齢別は70～74歳(33.8%)が高くなっている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた割合についてみると、60～64歳(21.1%)が最も高くなっている。

⑫ 持続可能な公共交通体系の構築に取り組んでいます。

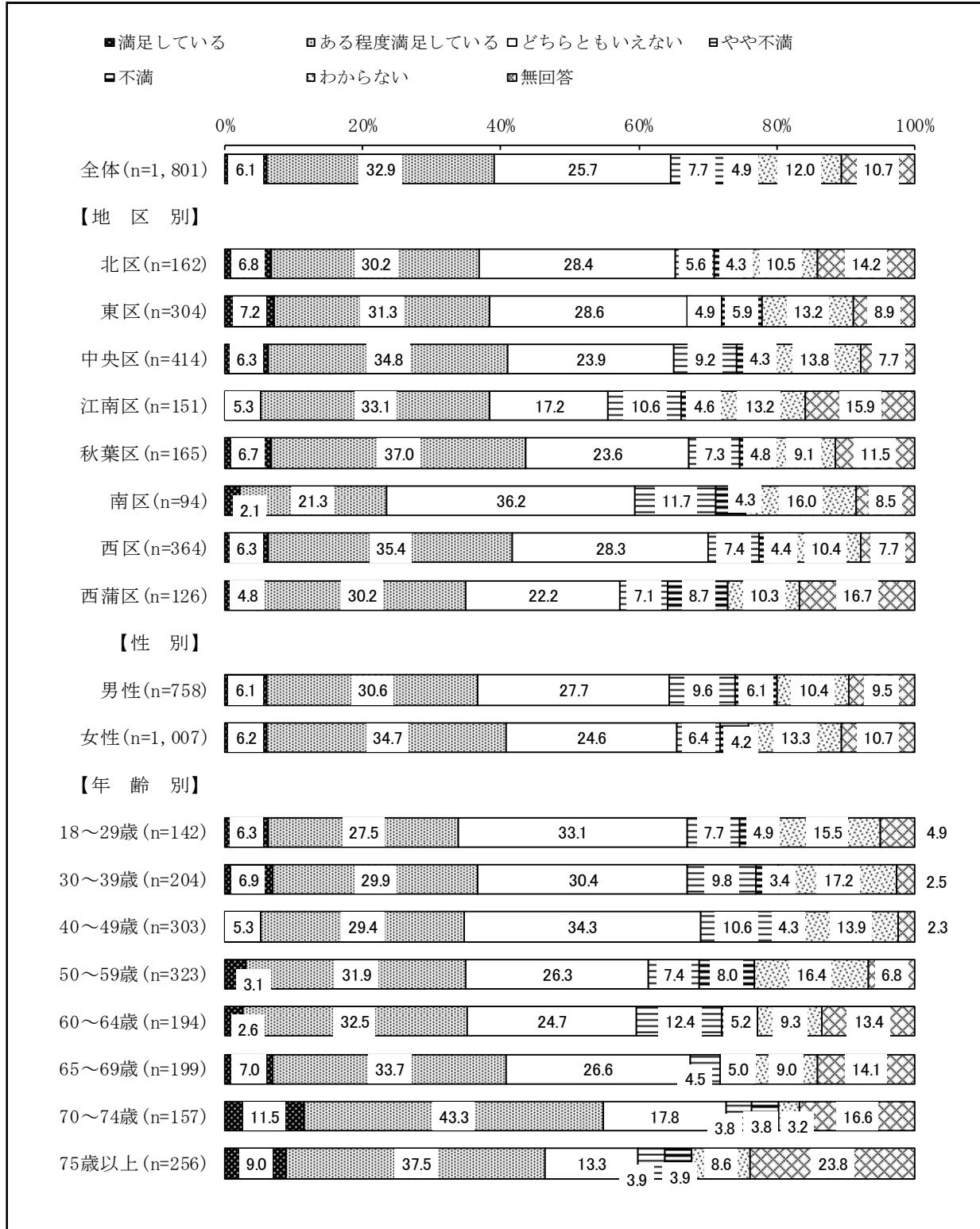


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「不満」と「やや不満」を合わせた割合が、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合よりも高くなっている。

「不満」と「やや不満」を合わせた割合についてみると、地区別は東区（46.0%）と中央区（45.4%）の割合が高くなっている。性別は男性（42.4%）の方が女性（38.6%）よりも高くなっている。年齢別は30代（47.1%）、40代（47.9%）と50代（48.6%）が高く、半数未満となっている。

一方、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合についてみると、18～29歳（20.4%）で最も高くなっている。

⑬ ごみの減量化や地球温暖化対策など、人と環境にやさしいまちづくりに取り組んでいます。

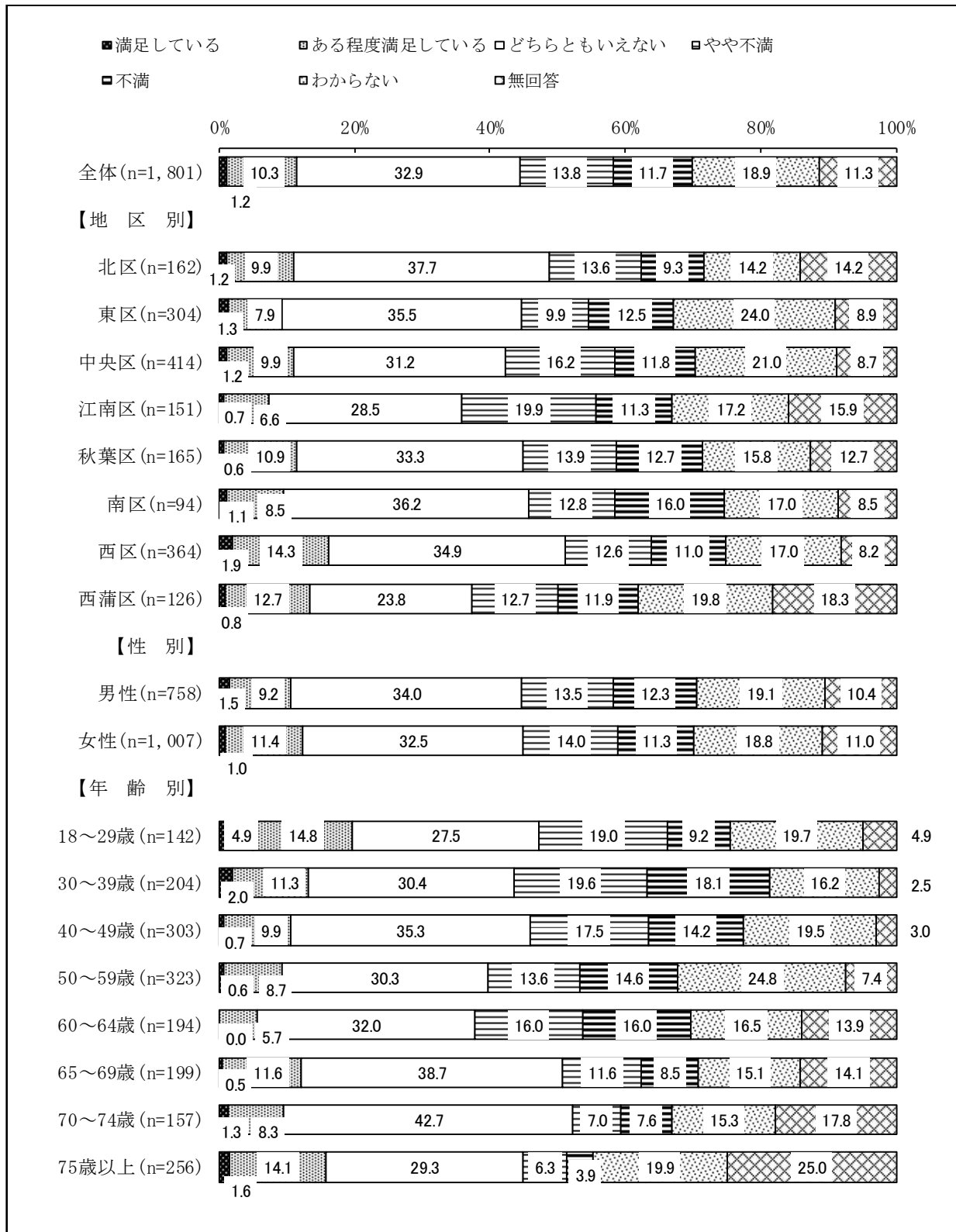


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合が、「不満」と「やや不満」を合わせた割合よりも高くなっている。

「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合についてみると、地区別は秋葉区(43.7%)が最も高くなっている。性別は女性(40.9%)の方が男性(36.7%)よりも高くなっている。年齢別は70～74歳(54.8%)が最も高く、半数以上となっている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた割合については、すべての属性において2割未満となっている。

⑭ 女性・若者・障がいのある人などがいきいきと働ける環境づくりに取り組んでいます。

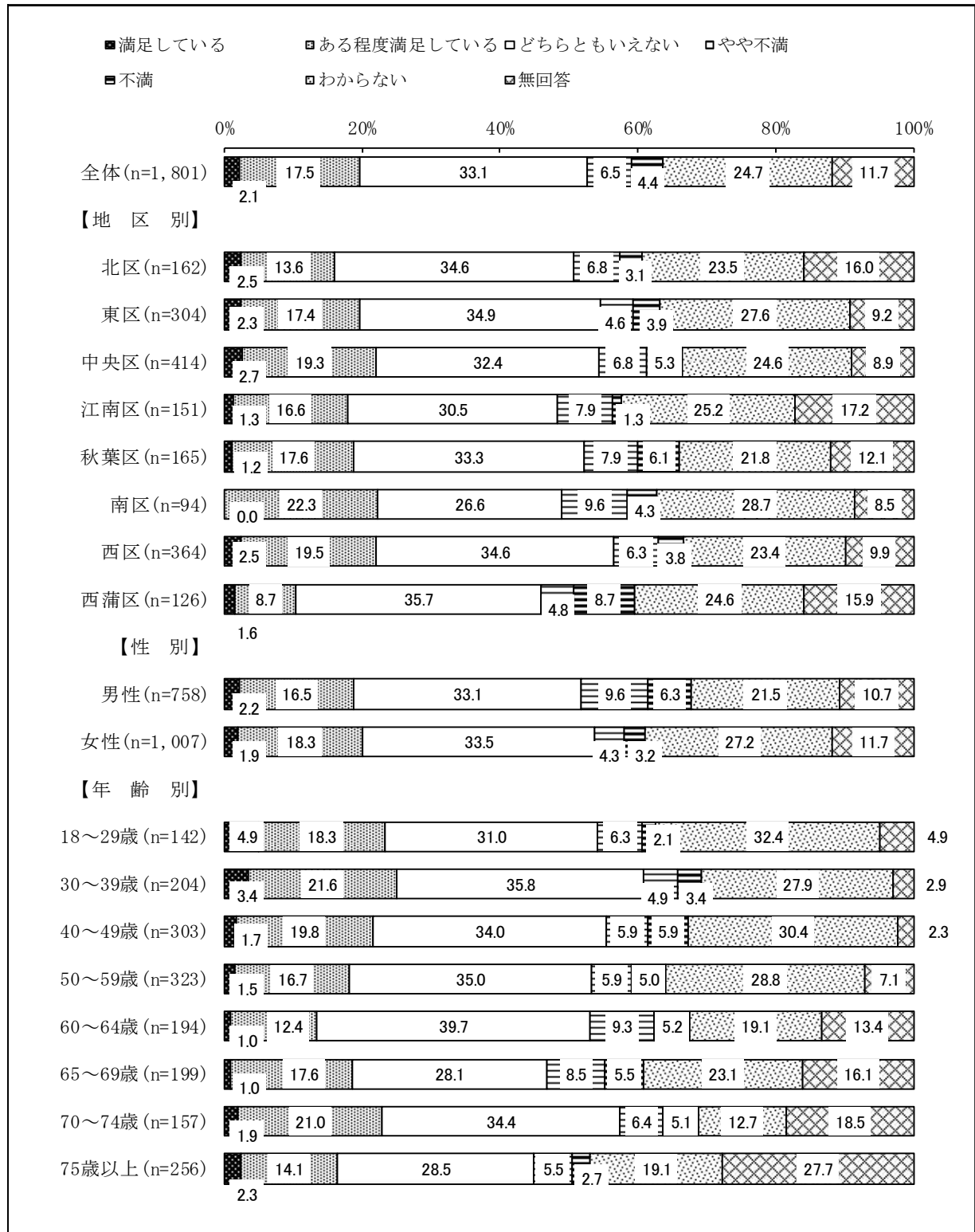


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「不満」と「やや不満」を合わせた割合が、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合よりも高くなっている。

「不満」と「やや不満」を合わせた割合についてみると、地区別は、江南区（31.2%）が最も高くなっている。性別は男女差がみられない。年齢別は、30代（37.7%）が最も高くなっている。

一方、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合については、すべての属性において2割未満となっている。

⑮ 農業や食品産業が一体となって発展するよう、農業の6次産業化の推進に取り組んでいます。

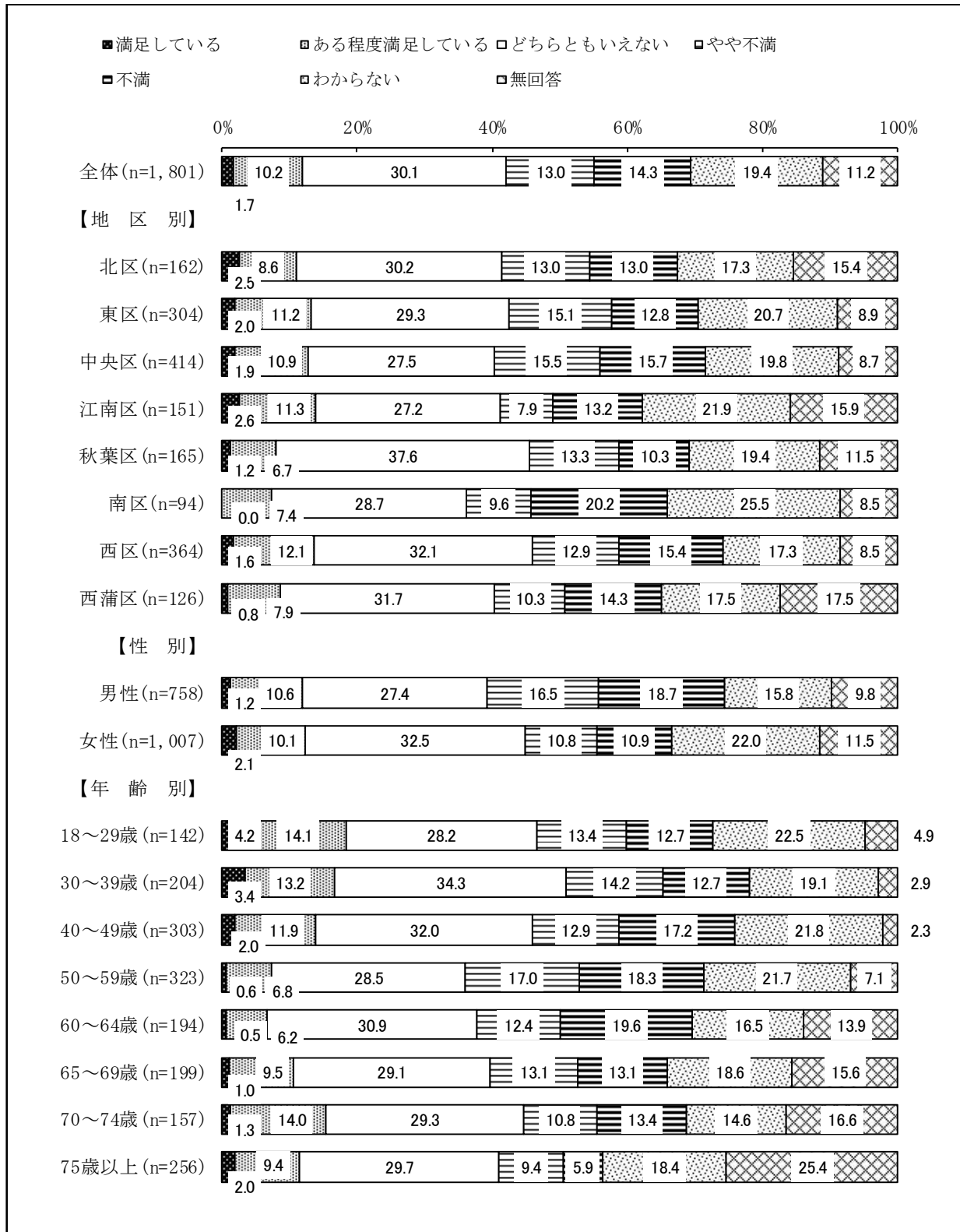


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合が、「不満」と「やや不満」を合わせた割合よりも高くなっている。

「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合についてみると、地区別は中央区(22.0%)、南区(22.3%)と西区(22.0%)が高くなっている。性別は男女差が見られない。年齢別は30代(25.0%)が最も高くなっている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた割合については、すべての属性において1割前後となっている。

⑩ 港、空港、鉄道、道路網などを活かし、拠点機能の強化に取り組んでいます。

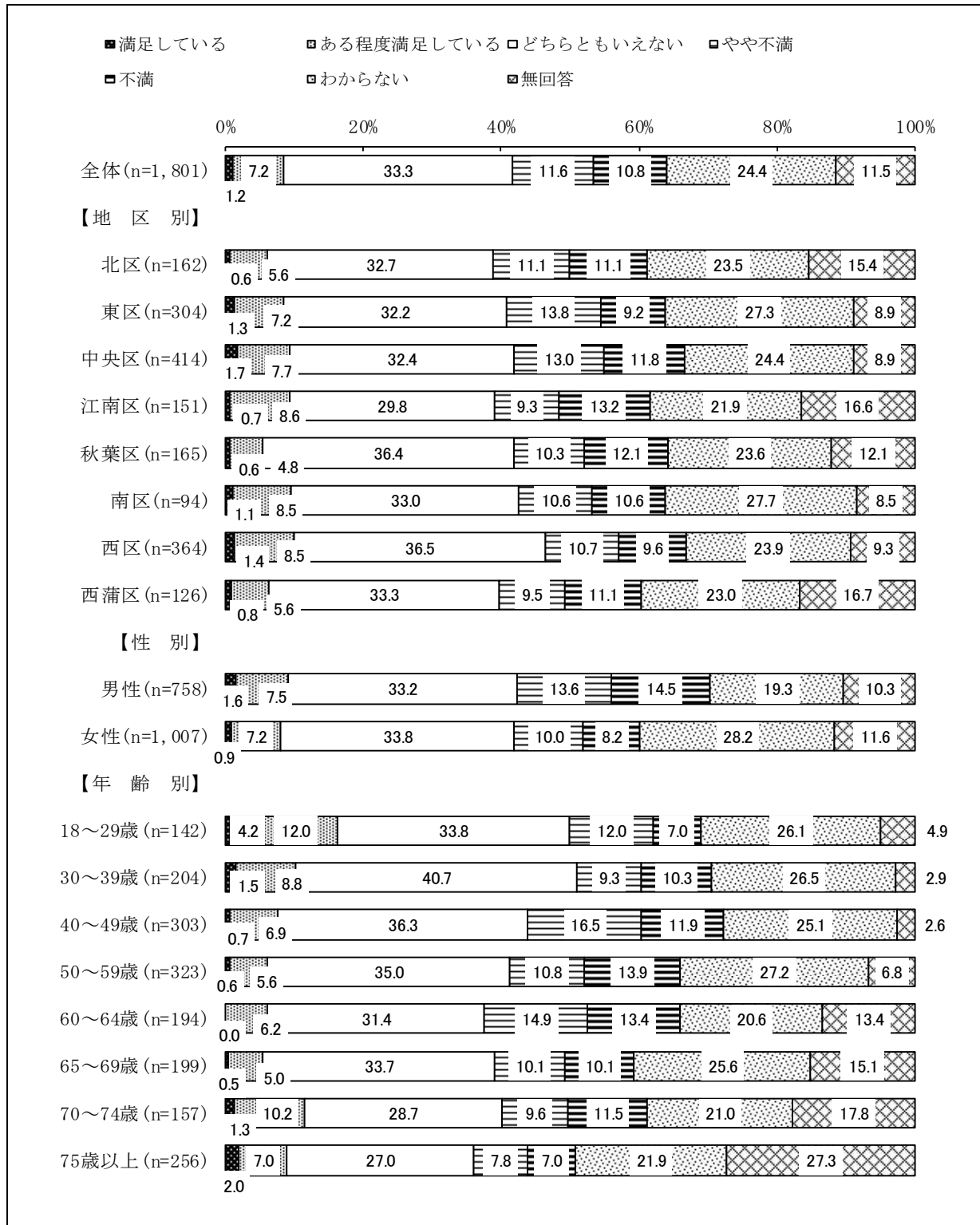


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「不満」と「やや不満」を合わせた割合が、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合よりも高くなっている。

「不満」と「やや不満」を合わせた割合についてみると、地区別は中央区（31.2%）が最も高くなっている。性別は男性（35.2%）の方が女性（21.7%）より高くなっている。年齢別は50代（35.3%）が最も高くなっている。

一方、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合については、すべての属性において2割未満となっている。

⑰ 既存産業の育成や創業・起業への支援などにより、中小企業の振興や雇用創出に取り組んでいます。

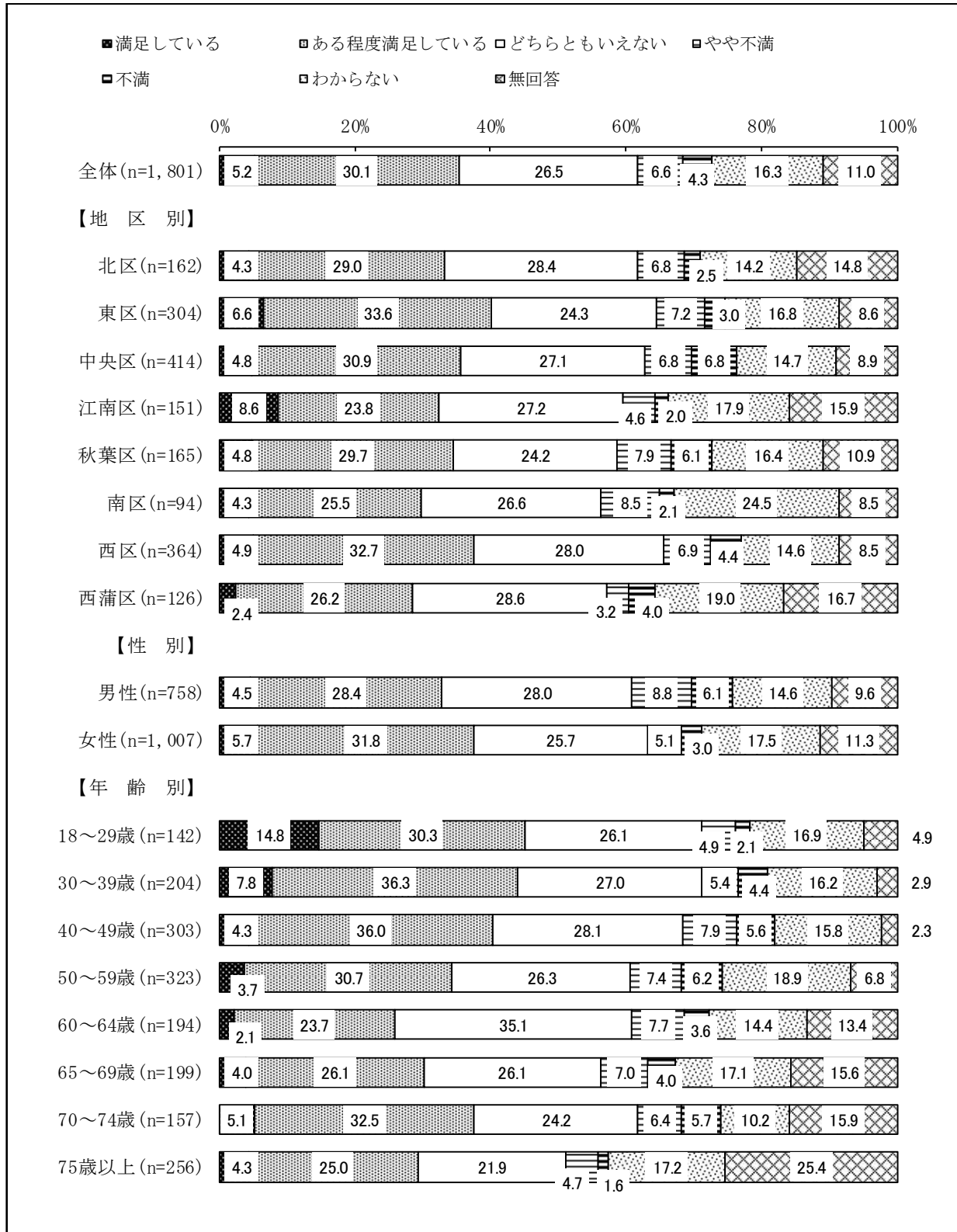


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「不満」と「やや不満」を合わせた割合が、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合よりも高くなっている。

「不満」と「やや不満」を合わせた割合についてみると、地区別は中央区（24.8%）が最も高くなっている。性別は男性（28.1%）の方が女性（18.2%）より高くなっている。年齢別は40代（28.4%）と60～64歳（28.3%）が高くなっている。

一方、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合については、すべての属性において1割前後となっている。

⑱ 食と花の魅力向上や、本市の「食文化」の国内外への発信に取り組んでいます。

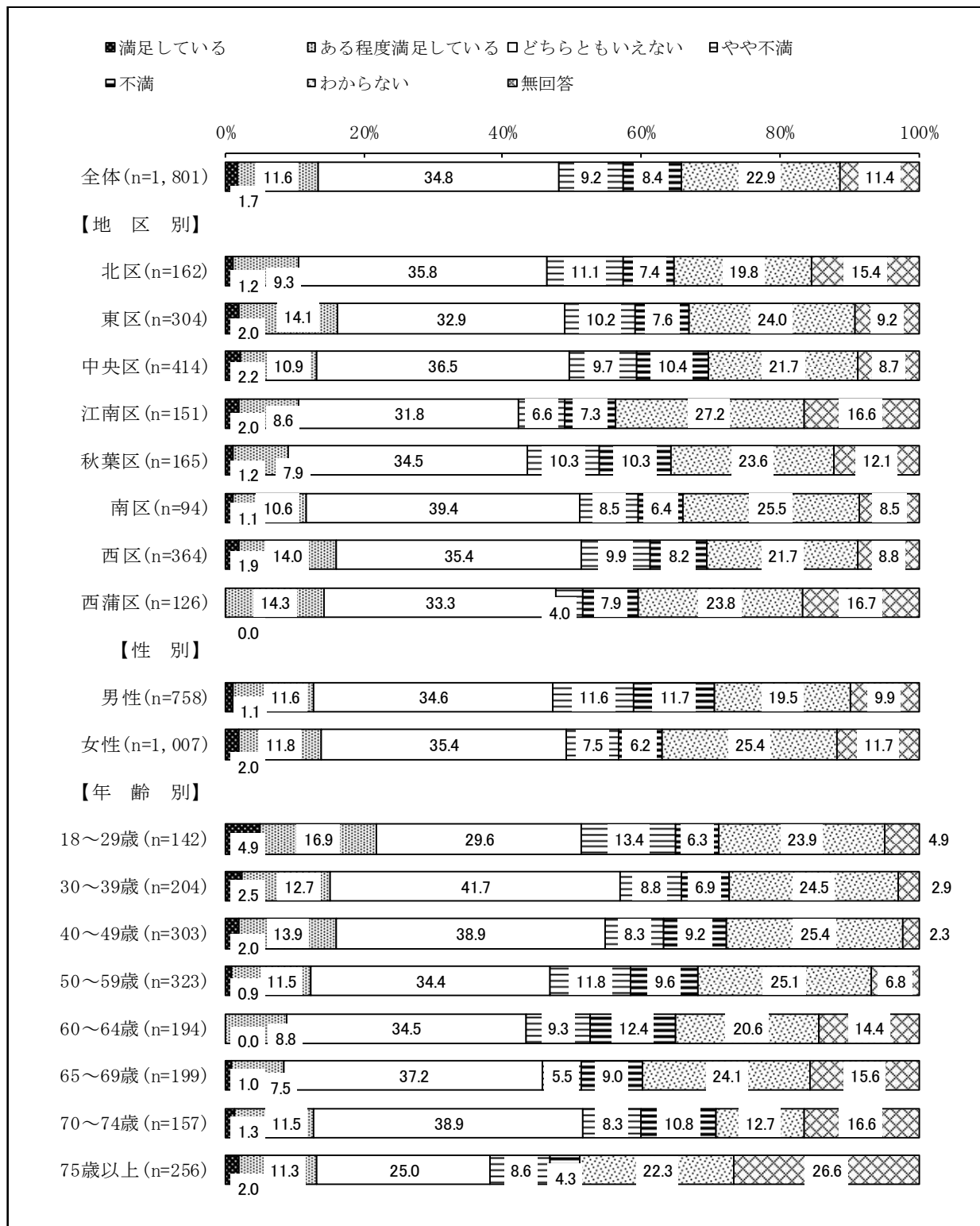


地区別・性別・年齢別のすべての属性において、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合が、「不満」と「やや不満」を合わせた割合よりも高くなっている。

「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合についてみると、地区別は中央区(40.2%)が最も高くなっている。性別は女性(37.5%)の方が男性(32.9%)より高くなっている。年齢別は18～29歳(45.1%)と30代(44.1%)が高くなっている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた割合については、すべての属性において1割前後となっている。

⑱ 広域的な交流人口の拡大に向けて、国内外からの誘客促進に取り組んでいます。

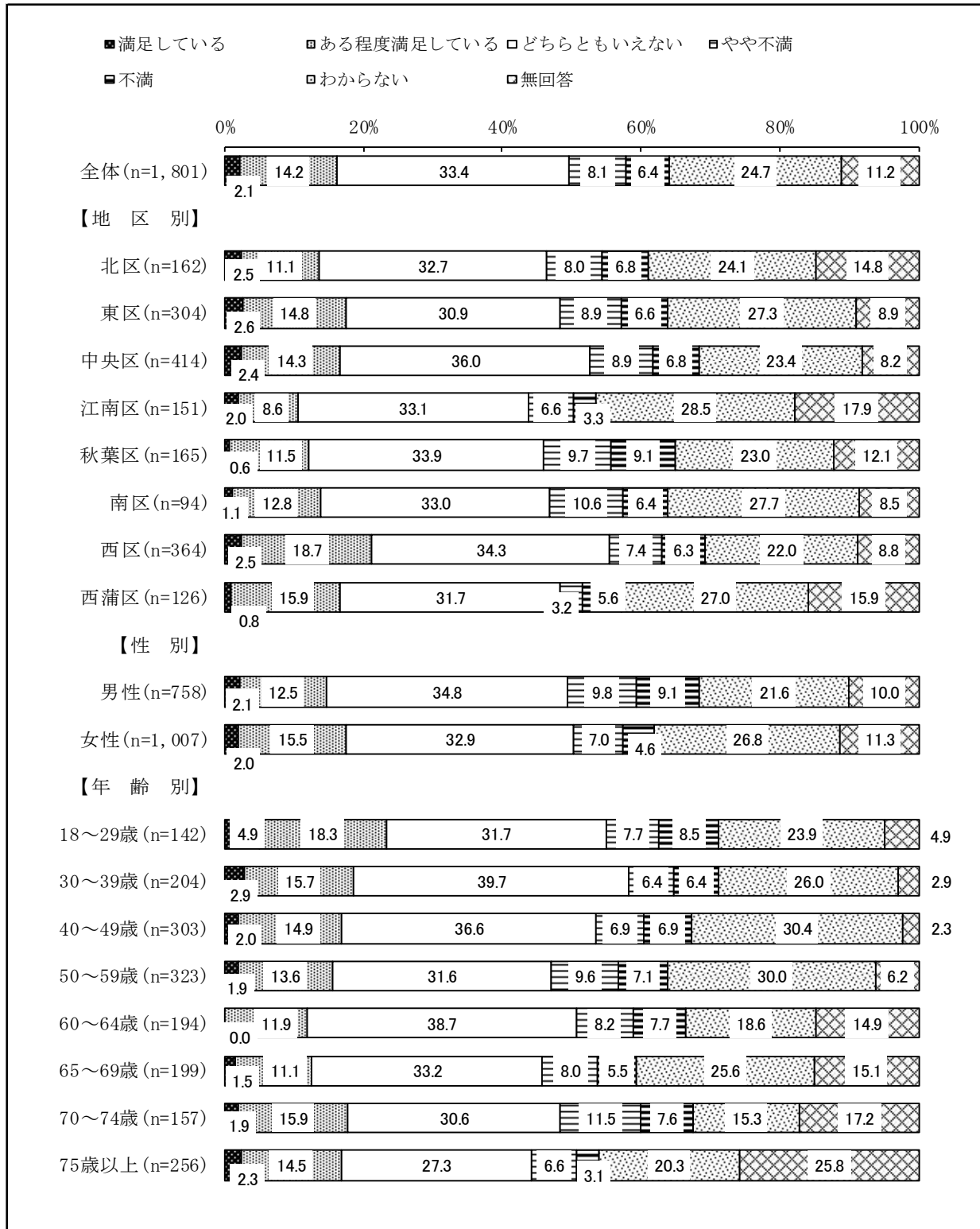


地区別では西蒲区、性別では女性、年齢別では18～29歳と75歳以上を除く属性において、「不満」と「やや不満」を合わせた割合が、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合よりも高くなっている。

「不満」と「やや不満」を合わせた割合についてみると、地区別は中央区(20.1%)と秋葉区(20.6%)が高くなっている。性別は男性(23.3%)の方が女性(13.7%)より高くなっている。年齢別は50代(21.4%)と60～64歳(21.7%)が高く、2割を超えている。

一方、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合についてみると、18～29歳(21.8%)が最も高くなっている。

⑳ 国際交流に取り組んでいます。



地区別では北区、秋葉区と南区、性別では男性、年齢別では60～64歳、65～69歳と70～74歳を除く属性において、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合が、「不満」と「やや不満」を合わせた割合よりも高くなっている。

「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合についてみると、地区別は西区(21.2%)が最も高くなっている。性別は女性(17.5%)の方が男性(14.6%)よりやや高くなっている。年齢別は18～29歳(23.2%)が最も高く、2割を超えている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた割合については、すべての属性において2割未満となっている。

Ⅲ 調査票様式

平成29年度 第44回市政世論調査

「新潟市政に関する世論調査」ご協力をお願い

市民の皆さまには、日頃より市政に対してのご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

新潟市では、市民の皆さまが日常生活の中で市政に対しどのようなお考えやご要望をお持ちになっているかを伺い、市政の参考としていくために「市政世論調査」を実施しております。

この調査は、新潟市内にお住まいの満18歳以上の方の中から無作為に4,000人の方をお選びし、実施するもので、このたびあなた様をお願いすることになりました。

お伺いした内容はプライバシーに配慮し、コンピューターで統計的に処理しますので、個人のお名前、ご住所などが公表されることはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、この調査票にご記入のうえ、返信用封筒で **平成29年8月7日（月）まで** にご投函いただきますよう、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

平成29年7月21日

新潟市長 篠田 昭

ご記入にあたってのお願い

1. 回答は、**あて名のご本人**がご記入ください。
(無記名式ですので、氏名・住所の記入の必要はありません。)
2. 特にことわりのない限り、全ての質問にお答えください。
該当者にだけお答えいただく質問もあります。その場合は、案内が示してありますので、それに従ってお答えください。
3. 回答は、あてはまる項目の**番号に○**をつけてください。
「その他」を選んだ場合には具体的な内容をご記入ください。
4. 質問文の後に**(○は1つだけ)** **(○は3つまで)** などのことわり書きがあります。これはお答えいただく数を意味します。
5. この調査は、回答者を無作為で抽出しているため、あて名のご本人の様子がわかりません。万一、ご病気などでお答えいただけない場合は、回答の必要はございません。
6. 調査内容で不明な点などがございましたら、以下にお問い合わせください。
新潟市 市民生活部 広聴相談課 電話025-226-2094 (直通)

ご記入がおわりましたら…



◎ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて **平成29年8月7日（月）まで** ご投函ください。切手は不要です。また、お名前を記入する必要もありません。

【1 都市緑化、身近な公園についてお聞きします。】

新潟市は緑と水にめぐまれた政令市ですが、この貴重な環境を守り育て、豊かな暮らしが続けられるよう「新潟しみどりの基本計画」を策定しています。このたび、まちなかの緑化推進に対する満足度と、日常生活において身近な公園の活用状況や利用者ニーズを把握するため、以下についてお聞きします。

問1 身近にある緑において今後、増やしたり、守ったりすべき緑は何でしょうか。
(〇は3つまで)

1. 公園の緑
2. 街路樹などの道路沿線の緑
3. 川など水辺の緑
4. 学校などの公共施設の緑
5. 生垣、庭木などの個人の家の緑
6. 農地
7. 都市部のオフィスビルなどの緑
8. 雑木林などの緑
9. 斜面や山麓の緑
10. 空き地の緑

問2 あなたは、新潟市の「市街地内（まとまった農地がない場所）」での緑の量について次のうちどのよう感じていますか。
ここでの緑とは、問1の回答項目のような緑について伺っております。
(〇は1つだけ)

- | | | |
|-----------|---------|--------------|
| 1. 満足している | 2. やや満足 | 3. どちらとも言えない |
| 4. やや不満 | 5. 不満 | |

問3 身近な公園（徒歩で行ける程度）の利用はどの程度でしょうか。
(〇は1つだけ)

1. ほとんど毎日
2. 週に2、3回
3. 週に1回
4. 月に2、3回
5. 年に数回
6. ほとんど利用したことがない

問4 身近な公園の利用の内容はどのようなことでしょうか。

(〇はいくつでも)

1. 散歩
2. 軽い運動やジョギング
3. スポーツ活動
4. 動物の散歩や運動
5. 子どもの付き添い
6. 休憩
7. 自然観察やふれあい
8. イベントへの参加
9. 仲間との活動
10. その他 ()

問5 今後、身近な公園で必要な機能は何でしょうか。

(〇は3つまで)

1. 高齢者等が健康づくりに利用できる
2. 幼児を含む子どもが、遊具で安心して遊べる
3. 樹木の緑が豊かで、安らげる
4. 災害時の避難など、安全・安心に活用できる
5. キャッチボール、サッカー等ができる
6. 地域のコミュニティ活動に使える
7. 犬などのペットと遊べる
8. その他 ()



問 11 健診を受けたきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 自分の健康が気になるから
2. 受診券が届いたから
3. 家族や友人など周囲から勧められたから
4. 医師に勧められたから
5. 市の広報誌等で健診を実施していることを知ったから
6. その他 ()

問 12 (問9で「受けていない」と答えた方のみ) どのような理由で健診を受けなかったのですか。

(〇はいくつでも)

1. 知らなかったから
2. 時間が取れなかったから
3. 場所が遠いから
4. 費用がかかるから
5. 検査等(採血、胃カメラ等)に不安があるから
6. その時、医療機関に入通院していたから(平成28年度中)
7. 毎年受ける必要性を感じないから
8. 健康状態に自信があり、必要性を感じないから
9. 必要な時はいつでも医療機関を受診できるから
10. 結果が不安なため、受けたくないから
11. めんどうだから
12. その他 ()

問 13 (問9で「受けていない」と答えた方のみ) これまで何年間健診を受けていませんか。

1. 1～2年
2. 3～4年
3. 5年以上

年1回の健診が大切です!

新潟市は、「健康寿命を延ばす」ことを重要課題とし、以下の3つに取り組んでいます。

- ①生活習慣病の予防と重症化を防ぐために、特定健診の受診率を向上
- ②減塩と野菜摂取量を増加し、血管の老化や胃がんの危険性を下げる
- ③年代に合わせた適度な運動習慣を推進

健康維持・増進のため、年1回は健康状態を知るための健診を受けることが重要です。自分だけの健康ではありません。家族のため、そして幸せな生活をおくる未来のため、是非健診を受けていただきたいと思います。



【3 生涯を通じた学習についてお聞きします。】

問14 あなたが行っている生涯学習活動は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 趣味などを楽しんだり、技能を深めたりするもの(音楽、手芸、茶道、書道など)
2. スポーツ・レクリエーション(球技、ダンス、ハイキング、格技など)
3. 健康の維持や管理に関するもの(医療、健康法、ヨガ、看護や介護法など)
4. 文化・教養的なもの(歴史、文学、演劇、文芸、語学など)
5. 職業上必要な知識、技術に関するもの(資格取得に関する学習、パソコン操作など)
6. 社会問題や社会の変化に対応するもの(経済、人権、男女共同参画など)
7. 最先端の技術、学問、研究領域に関するもの(人工知能(AI)、プログラミング、再生医療など)
8. 地域社会の理解や振興に関するもの(まちづくり、伝統芸能、自然環境など)
9. 子育てや教育に関するもの(家庭教育、幼児教育、教育問題など)
10. 家庭生活に関するもの(料理、編み物、園芸、日曜大工、消費生活など)
11. その他(
12. 生涯学習活動を行っていない

(問14で「12」(生涯学習活動を行っていない)と答えた方は問20へ)

問15 あなたが、生涯学習活動を行う目的や動機は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 仕事や職業に役立てるため
2. 資格をとるため
3. 知識・教養を高めるため
4. 体力づくりや健康管理のため
5. 子育てや教育に関する知識を深めるため
6. 日常生活に関する知識や技術を高めるため
7. 趣味、芸能、芸術などを楽しんだり、技能を高めたりするため
8. ボランティア活動などに必要な知識や技能を習得するため
9. 生きがいをもつため
10. 自由時間を有効に生かすため
11. 他の人との親睦を深め友人を得るため
12. 地域との関わりが深められるため
13. その他()
14. 特に目的や動機はない

問 18 あなたは、生涯学習活動で身につけた知識や技能をどのように生かしていますか。
(〇はいくつでも)

1. 自分の趣味の活動
2. 自分の健康づくり
3. 家庭や日常の生活
4. 仕事や就職
5. 学習やスポーツ、文化活動などの指導
6. ボランティア活動
7. 学校支援活動
8. 地域での活動
9. その他 ()
10. 生かしていない

問 19 市は、学習成果を生かす循環型生涯学習を推進しており、学習したことや技能を生かす生涯学習ボランティアに関心がある方を対象に、入門講座等を開催しています。あなたがこれまで学んだ知識や技能をボランティア活動・学校支援や地域活動に生かすために、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(〇はいくつでも)

1. 公民館等の公共施設で知識や技能の活用に関する講座を増やす
2. 同じ活動をしている友達・仲間づくりを支援する
3. 活動の機会や事例などの情報提供を充実させる
4. 知識や技能を生かした活躍の場を増やす
5. 地域のリーダーを育成する
6. NPOやボランティア団体や地域活動への支援
7. その他 ()
8. 知識や技能を生かしたいとは思わない



【4 移動しやすいまちづくりについてお聞きします。】

新潟市では、過度な自動車利用から転換し、公共交通や自転車で移動しやすく快適に歩ける社会を実現するため、「移動しやすいまちづくり基本計画」を策定しています。交通手段や歩行空間についての満足度を把握するため、以下についてお聞きします。

問 22 あなたにとって、新潟市は自動車に頼らなくても移動しやすいまちだと思いますか。
(○は1つだけ)

- | |
|----------------------|
| 1. 移動しやすいまちだと思う |
| 2. 少しは移動しやすいまちだと思う |
| 3. あまり移動しやすいまちだと思わない |
| 4. 移動しやすいまちだと思わない |
| 5. わからない |

問 23 あなたが次の交通手段で市内を移動する際の満足度を教えてください。
(○はそれぞれ1つずつ)

- | | | | | | |
|----------------------|----|------|------|----|-------|
| 1. 自動車（走りやすい道路かなど） | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 | 利用しない |
| 2. 自転車（自転車で走りやすいかなど） | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 | 利用しない |
| 3. バス（利用しやすいかなど） | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 | 利用しない |
| 4. タクシー（利用しやすいかなど） | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 | 利用しない |
| 5. 電車（利用しやすいかなど） | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 | 利用しない |

問 24 あなたの歩行空間（歩道や幅広の路肩）に対する満足度を教えてください。
(○はそれぞれ1つずつ)

- | | | | | | |
|-------------------------|----|------|------|----|-------|
| 1. 安全性（安心して歩けるか） | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 | わからない |
| 2. 快適性（段差がないか、十分な幅はあるか） | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 | わからない |
| 3. 景観性（歩きたくなるか、景観がよいか） | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 | わからない |

問 27 近年、健康意識の高まりや街の持つ魅力が再認識され、まちなかの散策を楽しむ「まち歩き」が広がりを見せています。

そこで、「まち歩き」に関する現状についてお聞かせください。

(○はそれぞれ1つずつ)

- | |
|-----------------------------------|
| 1. まち歩きイベント（参加の機会が充実しているかなど） |
| 満足 やや満足 やや不満 不満 わからない |
| 2. まち歩きの紹介（経路やマップが充実しているかなど） |
| 満足 やや満足 やや不満 不満 わからない |

問 28 あなたのお勧めの「まち歩きコース」がありましたら教えてください。

- | |
|-------------------------------------|
| 1. お勧めのまち歩きコース※具体的な場所や地名など
(記載欄) |
|-------------------------------------|

- | |
|---|
| 2. お勧めの理由 (例) 街並みがよい、風情が良い、道路がきれい
(記載欄) |
|---|



【5 市政全般と区政についてお聞きします。】

問 29 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて

- ①「新潟市として良くなっているもの」
- ②「新潟市として今後、もっと力を入れてほしいもの」
- ③「区として良くなっているもの」
- ④「区として今後もっと力を入れてほしいもの」を

次の中からそれぞれ3つまでを選んで、下の回答欄に番号（1～33）をご記入ください。

1. 市・区の窓口対応	13. スポーツの振興	25. 交通安全対策
2. 電子手続きの推進	14. 文化・芸術の振興	26. 学校教育
3. 地域活動の振興	15. 農林水産業の振興	27. 生涯学習
4. 防災対策	16. 商工業・貿易の振興	28. 市営住宅の整備
5. 防犯対策	17. 雇用の場の拡大	29. 広報広聴活動
6. 児童福祉	18. 観光の振興	30. 国際交流の振興
7. 高齢者福祉	19. まちなかの活性化	31. 市民協働のまちづくり
8. 障がい者福祉	20. 公共交通の充実	32. 男女共同参画の推進
9. 保健・医療体制	21. 計画的な市街地整備	33. その他
10. ごみ処理・リサイクル	22. 公園の整備	()
11. 地球温暖化対策	23. 道路の整備	
12. 自然環境の保護	24. 公共下水道の整備	

回答欄 （1～33までの番号を記入してください）

① 新潟市として良くなっているもの			
② 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの			
③ 区として良くなっているもの			
④ 区として今後もっと力を入れてほしいもの			



【6 市の取り組みについてお聞きします。】

- 問 30 平成 27 年度からスタートした新潟市総合計画「にいがた未来ビジョン」に基づき進めている主な取り組みについて、あなたの感想をお聞かせください。
また、これらの取り組みについての満足度をお聞かせください。
それぞれの項目ごとに番号と記号を1つずつ選んで、○をつけてください。

(○は①～⑩の市の取り組みへの感想1～5と満足度A～Fにそれぞれ1つずつ)

	取り組みへの感想					取り組みへの満足度					
	1 そう 思う	2 ある 程度 思う	3 どちら とも いえ ない	4 あま り思 わな い	5 そう 思わ ない	A 満足 して いる	B ある 程度 満足 して いる	C どちら とも いえ ない	D やや 不満	E 不満	F わか らな い
① 高齢者が地域で安心して暮らせる仕組みづくりに取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
② 障がいのある人などが、地域で自立した生活を送れるよう環境づくりに取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
③ 都市防災機能や避難体制・地域防災力の強化に取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
④ 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
⑤ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進に取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
⑥ 地域への愛着と誇りを育む教育や、生涯学習の推進に取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
⑦ 市民、地域などとの協働によるまちづくりに取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
⑧ 食育や農業体験など、「食と農」を活かした地域づくり・人づくりに取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
⑨ 地域の個性豊かな自然や歴史、文化の活用と魅力の発信に取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
⑩ にぎわい空間の創出など、まちなか活性化に取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F

(次のページへつづく)

(〇は ①～⑳ の市の取り組みへの感想 1～5 と満足度 A～F にそれぞれ1つずつ)

	取り組みへの感想					取り組みへの満足度					
	1 そう思う	2 ある程度思う	3 どちらともいえない	4 あまり思わない	5 そう思わない	A 満足している	B ある程度満足している	C どちらともいえない	D やや不満	E 不満	F わからない
⑪ 生涯にわたり心身ともに健康に暮らしていけるよう、健康寿命の延伸に取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
⑫ 持続可能な公共交通体系の構築に取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
⑬ ごみの減量化や地球温暖化対策など、人と環境にやさしいまちづくりに取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
⑭ 女性・若者・障がいのある人などがいきいきと働ける環境づくりに取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
⑮ 農業や食品産業が一体となって発展するよう、農業の6次産業化の推進に取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
⑯ 港、空港、鉄道、道路網などを活かし、拠点機能の強化に取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
⑰ 既存産業の育成や創業・起業への支援などにより、中小企業の振興や雇用創出に取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
⑱ 食と花の魅力向上や、本市の「食文化」の国内外への発信に取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
⑲ 広域的な交流人口の拡大に向けて、国内外からの誘客促進に取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F
⑳ 国際交流に取り組んでいます。	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F

<最後にご自身のことについてお聞かせください>

調査結果を統計的に分析するために必要なことをお伺いします。

問1 あなたのお住まいは何区ですか。

1. 北区	2. 東区	3. 中央区	4. 江南区
5. 秋葉区	6. 南区	7. 西区	8. 西蒲区

問2 あなたの性別を教えてください。

1. 男	2. 女
------	------

問3 あなたの年齢を教えてください。

1. 18～29歳	2. 30～39歳	3. 40～49歳
4. 50～59歳	5. 60～64歳	6. 65～69歳
7. 70～74歳	8. 75歳以上	

問4 あなたのご職業を教えてください。

※複数の職業をお持ちの方は、主なもの一つだけお選びください。

1. 勤め人（パートも含む）	2. 自営業
3. 農林水産業	4. 学生
5. 専業主婦（夫）	6. 無職（学生、専業主婦（夫）を除く）
7. その他（ ）	

問5 あなたの世帯の家族構成は、次のうちどれにあたりますか。

1. 単身	2. 夫婦のみ	3. 2世代世帯（親と子）
4. 3世代世帯（親と子と孫）	5. その他（ ）	



調査は以上で終了です
ご協力ありがとうございました



◎ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて 平成29年8月7日（月）まで
ご投函ください。切手は不要です。また、お名前を記入する必要もありません。

平成 29 年度 第 44 回市政世論調査

発 行 平成 29 年 10 月

調査主体 新潟市市民生活部広聴相談課
新潟市中央区学校町通一番町 602 番地 1
電話 025-228-1000 (代表)

調査実施 株式会社 I T スクエア IT サービス部
新潟市中央区万代 3 丁目 1 番 1 号
メディアシップ 13F
電話 025-242-0633 (IT サービス部直通)